2022年度

学　修　要　項

福岡大学医学部医学科

2022年度

学　修　要　項

授業時間表		
全学部	1時限	9：00～10：30
	2時限	10：40～12：10
	3時限	13：00～14：30
	4時限	14：40～16：10
	5時限	16：20～17：50
	6時限	18：00～19：30

福　岡　大　学

目　　次

学生便覧（規程集） …… 1
授業時間割 …… 17
2022年度学費等納入金表 …… 22
オフィス・アワー …… 23

第１学年講義要目
解剖学Ⅰ …… 27
医学概論 …… 32
医学概論（研究室配属・研究室紹介） …… 35
生化学Ⅰ …… 38
医学入門 …… 48
医学生のための生命科学 …… 51
行動科学Ⅰ …… 54
行動科学Ⅰ（看護実習・C･C体験） …… 56
行動科学Ⅰ（心肺蘇生実習） …… 58
行動科学Ⅰ（研究室配属・研究室紹介） …… 60

第２学年講義要目
組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学 …… 65
免疫学 …… 71
生理学Ⅰ …… 75
グローバル人材演習 …… 81
生化学Ⅱ …… 84
解剖学Ⅱ …… 88
微生物学 …… 94
生理学Ⅱ …… 101
寄生虫学 …… 108
薬理学Ⅰ …… 111
組織細胞生物学各論 …… 115
臨床医学入門Ⅰ …… 120
研究室配属 …… 123

第３学年講義要目
薬理学Ⅱ …… 129
病理学総論 …… 135
公衆衛生学 …… 140
内分泌・代謝病学 …… 147
消化器病学 …… 151
病理学各論 …… 157
行動科学Ⅱ …… 165
呼吸器病学 …… 168
眼科学 …… 171
感染症学 …… 174
放射線科学 …… 179
腎・泌尿器・膠原病学 …… 182
法医学 …… 188
腫瘍・血液学 …… 192
皮膚・形成外科学 …… 198
臨床医学入門Ⅱ …… 202

第４学年講義要目
脳神経病学 …… 207
精神医学 …… 213
頭頸部病学 …… 221
麻酔科学 …… 225
CBT演習 …… 227
医療情報社会学 …… 231
小児医学 …… 234
循環器病学 …… 238
症候・病態学演習 …… 241
検査診断学 …… 245
再生・移植医学 …… 248
産科婦人科学 …… 250
整形外科学 …… 256
救命救急医学 …… 262
臨床修練入門(診断学実習・ｽｷﾙｽﾗﾎﾞ演習・病棟実習) …… 265
行動科学Ⅲ …… 267
臨床修練入門（クリニカルクラークシップ) …… 269

第５学年講義要目
臨床修練Ⅰ …… 273
統合講義 …… 275

第６学年講義要目
臨床修練Ⅱ …… 281
領域別集中講義Ⅰ …… 287
領域別集中講義Ⅱ …… 302

研究室配属集合場所
講義予定表

福岡大学医学部学生の行動指針

福岡大学医学部生は、日常においても高い倫理感、医療人としてのプロフェッショナリズムを身につけ、以下の行動指針に則り行動します。

1） 社会人として法規を遵守し行動する。

2） 他者の基本的人権と人格を尊重し、不当な差別や暴力的言動を行わない。

3） 医学部、病院敷地内では医療者として相応しい身なり、態度で行動する。

4） 病院敷地内では、患者さんの安全を第一に優先して行動する。

病院玄関前周辺の自転車走行や移動中のイヤホン装着、スマートフォンの使用、飲食しながらの通行は禁止する。

5） 医学部、病院とその周辺および公共の場での禁煙を遵守する。

6） 学内でのマナー遵守

①医学部、病院内では名札を装着する。

②大学内のルールに則り行動する。

③大学からの通知は各自で必ず確認し、書類などの提出期限は厳守する。

④大学の設備、備品は大切に使用し美化に務める。

⑤やむを得ない理由以外での遅刻、欠席、授業中の入退室はしない。

⑥講義・実習中は、許可なく携帯電話、通信機器を使用しない。

⑦講義中および学内移動中の飲食はしない。（必要がある場合は、診断書を提出する。）

⑧貴重品の管理は自己の責任のもと行い、ロッカーは施錠、盗難防止に務める。

⑨教室、学習室、ゼミ室、図書館など、公共の場に私物を放置しない。

⑩学内での出前は禁止する。

7） ネットリテラシーを身に付け、自他を傷つける言動は慎む。

8） 病院実習、学外実習 、研究室配属では、現場のルールを守り行動する。

指定された服装で名札を装着する。（爪は短く切り、頭髪、髭は清潔に整える。茶髪、派手な化粧、付け睫毛、マニュキア・ネイル、アクセサリー、強い香水類は厳禁とする。）

9） 個人情報の守秘義務

個人情報の記載された診療録・カンファレンス資料等は持ち出さない。

他者の個人情報についての守秘義務を遂行する。

医学部生として

医学部長　小　玉　正　太

コロナ禍の対応により学部講義・実習の様式も変容を余儀なくされ、その見直しや新たな改善計画による対応が行われました。本年度この草稿中（2021/12/1 第5波ピークアウト後）もコロナ感染症収束の見通しには、未だ予断を許さない状況です。オンライン授業には利点と欠点があり、講義室に居ずして授業を受けることが出来ますが、オンデマンド発信によるオンタイムでの受講の必要性がないことにより、日常生活のリズムが乱れがちとなります。さらに対人関係の希薄化によりコミュニケーション能力を育むことが難しいことは言うまでもありません。本年度の授業形式は感染対策のもとに対面形式授業・実習を基本とします。ただそれが適わぬ時は迅速にリアルタイム型発信を継続し、修学目標へ到達することを指針とします。ただし、すでに配信を行なったオンデマンド型資料も復習等の修学効果を鑑み、本年度も並行して利用してもらいたいと考えています。

諸君らは医学部生として高い道徳意識をもって、感染防御や感染拡大の防止に努めてください。無責任な行動により感染し学内で感染拡大を招いた場合、自覚や注意が足りなかったでは済まない状況であるため、学校罰をもって処遇する厳しい大学もあります。そのため、各人の対応によることが大きいことをいつも心に留めておいて下さい。勿論、感染防御に努めても止むなく感染する場合があります。その様な場合は、出来るだけ早い学内復帰をサポートし、修学の機会を担保したいと考えています。３度目のワクチン接種による対応が年始には始まり、いずれは感染の収束が訪れるでしょうが、それは今ではありません。昨年度が忍耐の年であったなら、今年度は飛躍の年となることを願っています。

さて各学年の終わりには、各科試験、M4での共用試験［Computer Based Testing: CBT、客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination: OSCE）］、M5からの診療参加型実習（Clinical Clerkship）、M6では卒業のための領域別集中講義、卒業時（Post Clinical Clerkship）OSCE、総合試験、模擬試験等があります。しかし、そのストレスをはねのける力を養ってください。緊張感ある態度で学問に臨んでください。私たち教員も、臨場感のある生命や医学の実践的教育を目指します。医学部と病院を一体化した取り組み、ロールプレイによる全体の底上げ、クリニカルクラークシップの充実など、常に改革しています。医学教育カリキュラムは、教員と学生、お互いのコミュニケーションが重要です。また、グループ学習や多職種連携を通してヒトと交わることによって得られる多くのものを医学生に要求しています。一人での知識や勉学では得られない総合力が求められていることを理解してください。医学科のカリキュラムは、医学教育ワークショップ、カリキュラム検討委員会、医師国家試験対策、学生班別会議、医学教育検討委員会、教務委員会および全体会議を通して話し合われ、良医の育成に向け、体系的かつ段階的な教育カリキュラムの編成を行っています。アウトカム基盤型教育を取り入れ、「FU-RIGHT」プロジェクトがスタートしています。［FU-RIGHT: Relationship, Intelligence, Gentleness, Health, Teaching を学修成果として、頭文字をとって FU（福岡大学）-RIGHT とニックネームをつけています］。カリキュラム実施方針の適切性は、毎回の教務委員会および医学科教授会議で確認し、卒業評価判定に関しても様々な検証をしています。

福岡大学医学部の学生諸君には、命の大切さを学ぶ精神を基軸に、礼節をもって、努力することを望んでいます。医師になる君たちへは医学生としての今後の成長を期待しています。最後になりますが、学生部委員時代から「失格事由」について何度も警鐘を鳴らしてきました。昨年度紹介しました「誠子書」には、志かなわず歳月が流れると「最後にみすぼらしい境遇を悲しんだところで取り返しがつこうか。」と結ばれています。節度ある行動をいつも心がけて下さい。

福岡大学の医学教育理念と
カリキュラム

教務委員　川　浪　大　治

福岡大学医学部は、人間性豊かな臨床医の育成、地域社会への医療奉仕、重点的総合研究体系の確立という理念のもと1972年に設立されました。福岡大学医学部医学科の使命（ミッション）は、医療のプロフェッショナルとしての誇りと広い視野を持ち、患者に寄り添い、地域社会に貢献する医師を育成することです。卒業時までに以下の学修成果（アウトカム）を達成することを目指します。

①　自尊心と高い倫理観を有し、他者と信頼関係を築くことができる。
②　確かな知識と技能に基づいた、人にやさしい医療を実践できる。
③　グローバルな視野で地域の健康増進と疾病予防に貢献できる。
④　科学的探究心、論理的思考を身に付け、教育的指導ができる。

これらの学修成果を達成するためには、まず基礎医学、臨床医学等の知識を習得する必要があります。そのために、第１学年から基礎医学科目として解剖学と生化学の講義が始まります。第２学年以降は免疫学、微生物学、生理学、細胞生物学、薬理学、病理学などの基礎医学、および内科学、外科学、小児科学、産婦人科学などの臨床医学を学びます。基礎医学と臨床医学は深く関連しており、基礎医学の知識のないところに臨床医学を積み上げることは出来ません。カリキュラムは基礎医学科目と臨床医学科目とを有機的に統合し、臓器・機能別に配置するなど効率よく学習できるように作成されています。「学修要項」の該当する項目やキーワードに予め目を通し、授業時間内に集中して理解するように努めてください。

次に適切な診療を実践できる診療技術を身に付ける必要があります。第１学年から心肺蘇生実習や看護実習を体験し、第２学年では日常診療で遭遇する代表的な症候について学びます。第３学年では医療面接や診断学などの臨床技能を学び、実際に地域医療機関に出向いて体験実習を行います。そして第４学年の後半からは、福岡大学病院ならびに関連医療機関での臨床実習が始まります。医師ではない医学生が医行為を行うことは医師法に抵触しますので、医学生の知識・技能・態度が一定水準以上あることを社会・国民に対して担保することを目的に、臨床実習開始前に全国共用試験を受験します。コンピュータ画面に提示される問題を回答する形式で医学・医療に関する知識の修得状況を確認するCBT（Computer Based Testing)、および模擬患者やシミュレーターを利用して患者への面接態度や基本的な身体診察の技能等の修得状況を確認するOSCE（Objective Structured Clinical Examination）の２試験があり、この両試験に合格した学生には「ステューデント・ドクター認定証」が交付され、臨床実習で一定の医行為を実施することが許可されます。第４学年の後半から第６学年前半までのクリニカルクラークシップ（診療参加型臨床実習）では、診療チームの一員として病棟、外来で実際の患者診療の一部を担うことにより、基本的診療技能・患者中心の視点に立脚した医療態度・問題解決能力・コミュニケーション能力を習得します。

患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践する能力を修得します。そのために、第１学年よりコミュニケーション能力の向上や生命倫理、医療情報などに関する基本

事項を学び、看護実習や地域医療体験で他職種、他医療機関との連携を体験します。第４学年から始まるクリニカルクラークシップでは、実際の診療を通じて患者中心のチーム医療を学びます。

医療制度を理解して、国際的、社会的な医療問題に関心を持つ必要があります。公衆衛生、法医学の講義で医療制度や医療問題について学び、第２学年のグローバル人材演習では医学英語の基礎を e-learning により学び、医師に求められる英語力を身に付けます。またグローバル化に対応できる能力の養成を目指して、韓国の啓明大学医学部、タイのコンケン大学医学部と臨床実習の相互乗り入れを実施しています。(新型コロナウイルス感染症の影響により今年度は中止)

科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる能力を身に付けることも重要です。第２学年では、基礎医学科目の PBL テュートリアルで、自ら問題を発見し、自己学習とグループ討論により問題を解決する能力を学びます。また約１ヶ月間基礎教室もしくは臨床教室の研究室に配属され、研究の楽しさを学ぶことによりリサーチマインドを養成します。

医学部医学科で学ぶべき最も大切なことは、医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できるプロフェッショナリズムを修得することです。第１学年の医学入門では、医学を学ぶにあたって必要な基本姿勢、将来医師になった場合の心構えや医療現場での様々の課題について理解し、将来医療人になるための使命感を醸成していきます。第３学年の地域医療体験では、第一線の地域医療機関で指導医と行動をともにしながら、医師のプロフェッショナリズムを理解し、同時に患者の心理や立場を学びます。そして臨床実習で、生命倫理に基づいて医療を行う態度、患者と家族、同僚、多職種医療者を尊重し利他的な態度を学び、ステューデント・ドクターとしての自尊心と向上心を身に付けます。

これらの学修成果を達成するためには、第１学年の時から病める人と共にある医師像について常に考え、医師になるという明確な目的意識を持って６年間の学生生活を送る事が大切です。医師には医学知識はもとより、万人の信頼に値する人間性、品格と教養が望まれます。教員との豊かなふれあいや友人との絆を通して、人間愛に裏付けられた医学的素養を培い、日進月歩の医学をたゆまず研鑽し続ける事の出来る生涯学習の基本を身に付けて、希望に満ちた将来への道を着実に歩んで欲しいと願っています。

学修要項について

学修要項は福岡大学医学部医学科における６年間の学部教育の基本を示したものです。

最初に医学部長からのメッセージ、医学教育理念とともに、大学学則・履修規程・成績考査規程のうちから医学科に関連した部分の抜粋が記載されています。引き続き、全学年の年間を通じた授業科目の配置が表示されています。更に学年毎に履修する総ての科目について、担当教員、到達目標、コンピテンシー、学習方略・事前事後学習の方法、成績評価および方法、教科書及び参考書が示されています。

Ⅰ　担当教員名

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome)

到達目標は、その科目を学ぶにあたり、期待される成果や到達すべき目標を概念的に示したものです。これにより学年全体のカリキュラムの中で、どのような位置を占める科目であるかが判るでしょう。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

コンピテンシーは到達目標を達成するために修得すべき具体的な内容、つまりその科目を修得することで学習者は「何が出来るようになるか」を記載したものです。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies)

学習方略は授業がどのような形態、あるいはメディアを使用してなされるかを示したもので、学習者が授業の準備や予習、復習をする際に有用です。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

科目の修得状況をどのように評価するか、到達目標に達しているか否かを判定する方法と基準が示されており、到達度に従って進級判定がなされます。

Ⅵ．教科書

教科書は原則として購入する事が望ましいものをあげています。

Ⅶ．参考書・文献

参考書は図書館などに備えてあるので、判らない点がある場合や、更に詳しく知りたい時に参照して下さい。

科目毎にこれらを確認し、また各講義時間の講義項目やキーワード表を、講義の目次として利用すると授業内容がよく把握できます。

信頼される医師として医学、医療に携わるには、終生にわたる研鑽が必要で、卒前教育はその第一歩です。６年間で、知識・技能・態度を確実に学習出来るように学修要項を有効に使ってください。学修要項の内容はインターネットで医学科ホームページの中の教育・カリキュラムにアクセスすれば見ることができますので活用してください。

FU-RIGHT
卒業時学修成果について

福岡大学医学部医学科では、医学生が卒業時に達成しなければならない学修成果を定めました。これは、福岡大学医学部医学科の教育プログラムを学修成果基盤型医学教育（Outcome-Based Education: OBE）に移行するにあたって設定されたものです。OBE は、医学教育のグローバルスタンダードであり、福岡大学の医学部医学科も、この医学教育の国際基準に合致したプログラムづくりを目指しています。福岡大学医学部医学科の使命は、医療のプロフェッショナルとしての誇りと広い視野を持ち、患者に寄り添い地域社会に貢献する医師の育成です。

卒業時学修成果は、６つのコンピテンス領域から構成されます。

Ⅰ. プロフェッショナリズム
Ⅱ. 医学的知識
Ⅲ. 診療技術・患者ケア
Ⅳ. コミュニケーションとチーム医療
Ⅴ. グローバルな視野と地域医療
Ⅵ. 科学的探究心と自律学習能力

このⅠ～Ⅵの領域にそれぞれに到達すべきコンピテンシーの細目が挙げられています。（次ページ参照のこと）

OBE は学習者中心の学修プログラムであり、これらのコンピテンスの獲得のため、各科目の到達目標、学習方略が計画され、コンピテンシー到達度の評価法が明記されます。福岡大学医学部医学科の学生が、卒業時の学修成果を達成するためには、学生の能動的な学習への取り組みが必須であり、教員はファシリテーターとして皆さんの学習を支援します。

これからの社会が求める医師は、グローバルな視野を持ち、安全で適切な患者中心の医療を提供できる総合臨床実践能力を持つ必要があります。そのために今後も、教員のみならず医学生、社会からの多くの意見を取り入れ、さらに福岡大学の医学部医学科教育カリキュラムの改善、学習環境の整備を図っていきます。

学生の皆さんが、この学修プログラムに積極的に参加し、学修成果に到達できるよう、より一層の努力をすることを期待しています。

福岡大学医学部医学科の使命（ミッション）

医療のプロフェッショナルとしての誇りと広い視野を持ち、患者に寄り添い、地域社会に貢献する医師の育成

福岡大学医学部医学科の学修成果（アウトカム）

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に

❶ 自尊心と高い倫理観を有し、他者と信頼関係を築くことができる。
❷ 確かな知識と技能に基づいた、人にやさしい医療を実践できる。
❸ グローバルな視野で地域の健康増進と疾病予防に貢献できる。
❹ 科学的探究心、論理的思考を身に付け、教育的指導ができる。

上記の学修アウトカムは以下のコンピテンスの領域（Ⅰ～Ⅵ）ごとのコンピテンシー（43項目）により達成されます。

Ⅰ プロフェッショナリズム

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。

1. 医療者として法的責任、規則を遵守できる。
2. 生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。
3. 他者を尊重し、利他的な態度で行動できる。
4. 患者の個人情報保護を遵守できる。
5. 多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。
6. 患者、社会、医療者に対して説明責任を果たすことができる。
7. 医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。
8. 患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。

Ⅱ 医学的知識

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。

1. 正常構造と機能
2. 発達、成長、加齢、死
3. 心理、行動
4. 病因、構造と機能の異常
5. 診断、治療
6. 医療安全
7. 疫学、予防、公衆衛生
8. 保健・医療・福祉制度
9. 医療経済

Ⅲ 診療技術・患者ケア

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。

1. 患者から病歴を的確に聴取できる。
2. 成人、小児の基本的な身体診察と基本的臨床手技を実践できる。
3. 患者の病歴、診察所見から臨床推論ができる。
4. 診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。
5. 頻度の高い疾患について、EBM（Evidence-Based Medicine)に基づいた診断、治療方針について説明できる。
6. 患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。
7. POS (Problem-Oriented System)を用いて診療録を記載し、適切にプレゼンテーションができる。
8. 患者に必要な病状説明・意思決定の場に参加できる。

Ⅳ コミュニケーションとチーム医療

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。

1. 患者とその家族の個人的背景、文化、社会的背景を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。
2. 多職種の医療チーム内で信頼関係を築き、患者中心の医療のために情報を共有し、説明伝達ができる。
3. 他の医療者に、手順を守り適切にコンサルテーションできる。
4. 患者の医学情報を診療録に的確に記載し、医療チーム内で情報を共有できる。
5. 医療の国際化を認識し、英語で医療面接ができる。

Ⅴ グローバルな視野と地域医療

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。

1. 医療制度、社会福祉制度を正しく理解した診療を実践できる。
2. 地域の医療機関、保健、福祉、行政等の関連機関と適切な連携がとれる。
3. 行政への届け出や社会福祉制度の必要書類を適切に作成できる。
4. 地域医療に参加し、プライマリケアが実践できる。
5. 海外からの患者の診療、医療者との交流が行える。
6. 国際保健や医療の社会的問題の情報を収集できる。

Ⅵ 科学的探究心と自律学習能力

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。

1. 基礎研究、臨床研究の理論と方法を理解することができる。
2. 最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。
3. ICTを適切に利用し情報セキュリティ管理ができる。
4. 未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。
5. 自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。
6. 診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。
7. 学生、後輩、同僚に対し教育者として貢献できる。

（2017.5.10）

2022年度　医学部医学科　専門科目水準コード一覧

コード	水準	対象科目
1	入門	専門科目（主に１年次生を対象とした科目または入門的・導入的科目） 共通教育科目
2	初級	専門科目（主に２年次生を対象とした科目）
3	中級	専門科目（主に３年次生を対象とした
4	上級	専門科目（主に４年次生以上を対象とした科目）

（「令和３年度　シラバス（授業計画書）作成のためのガイドライン」より）

開講年次	コード	水準	対象科目
1	1	入門	解剖学Ⅰ
1	1	入門	医学概論
1	1	入門	生化学Ⅰ
1	1	入門	医学入門
1	1	入門	医学生のための生命科学
1	1	入門	行動科学Ⅰ
2	2	初級	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学
2	2	初級	免疫学
2	2	初級	生理学Ⅰ
2	2	初級	グローバル人材演習
2	2	初級	生化学Ⅱ
2	2	初級	解剖学Ⅱ
2	2	初級	微生物学
2	2	初級	生理学Ⅱ
2	2	初級	寄生虫学
2	2	初級	薬理学Ⅰ
2	2	初級	組織細胞生物学各論
2	2	初級	臨床医学入門Ⅰ
2	2	初級	研究室配属
3	2	初級	薬理学Ⅱ
3	2	初級	病理学総論
3	2	初級	公衆衛生学
3	3	中級	内分泌・代謝病学
3	3	中級	消化器病学
3	2	初級	病理学各論
3	3	中級	行動科学Ⅱ
3	3	中級	呼吸器病学
3	3	中級	眼科学
3	3	中級	感染症学
3	3	中級	放射線科学
3	3	中級	腎・泌尿器・膠原病学
3	3	中級	法医学
3	3	中級	腫瘍・血液学
3	3	中級	皮膚・形成外科学
3	3	中級	臨床医学入門Ⅱ
4	3	中級	脳神経病学
4	3	中級	精神医学
4	3	中級	頭頸部病学
4	3	中級	麻酔科学
4	4	上級	CBT 演習
4	3	中級	医療情報社会学
4	3	中級	小児医学
4	3	中級	循環器病学
4	4	上級	症候・病態学演習
4	3	中級	検査診断学
4	3	中級	再生・移植医学
4	3	中級	産科婦人科学
4	3	中級	整形外科学
4	3	中級	救命救急医学
4	4	上級	行動科学Ⅲ
4	4	上級	臨床修練入門
5	4	上級	臨床修練Ⅰ
5	4	上級	統合講義
6	4	上級	臨床修練Ⅱ
6	4	上級	領域別集中講義Ⅰ
6	4	上級	領域別集中講義Ⅱ

○ 学位（教育）プログラム（医学）のディプロマ・ポリシー

【知識・理解】

A-1　基礎（正常構造と機能、発達、成長、加齢、死、心理、行動）、臨床（病因、構造と機能の異常、診断、治療）、社会医学（医療安全、疫学、予防、保健･医療･福祉制度、医療経済）等の知識を習得し、診療に応用できる。

A-2　最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。

A-3　未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。

A-4　自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。

A-5　診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。

【技能】

B-1　患者から病歴を的確に聴取でき、基本的な身体診察と臨床手技を実践できる。

B-2　患者の病歴、診察所見から臨床推論ができ、診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。

B-3　頻度の高い疾患について、EBM（Evidence-Based Medicine）に基づいた診断、治療方針について説明できる。

B-4　患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。

B-5　POS（Problem-Oriented System）を用いて診療録を記載し、カンファランスで適切にプレゼンテーションができる。

【態度・志向性】

C-1　生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。

C-2　他者を尊重し、利他的な態度で行動でき、患者の個人情報保護を遵守できる。

C-3　多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。

C-4　医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。

C-5　患者と家族、後輩、同僚 、多職種医療者を尊重できる。

○ 人材の養成に関する目的

医学科は、生命の尊厳に基づいた全人教育を基盤として、人間性豊かな臨床医の育成、地域社会への医療奉仕、重点的総合研究体系の確立を教育研究の理念とする。この理念に沿って、豊かな人間性と指導力・協調性を備え、総合的臨床能力を発揮して広く社会の医療と福祉に貢献できる医師及び高度な知識と国際的・学際的視野を持ち医学の発展に貢献できる医学研究者を養成することを目的とする。

※　各診療科の定める「到達目標（Learning Outcome）」に記載された括弧書き［例:（A-4）］はディプロマ・ポリシーの表記を意味する。

学生便覧（規程集）

【健康診断】
※2022.3/29（火）午前：新５年生男子　午後：新５年生女子
※2022.3/30（水）午前：新４年生男子　午後：新４年生女子
※2022.3/31（木）午前：新６年生男子　午後：新６年生女子

※2022.3/30（水）新６年生　第１回特別講義（予定）

2022年度　学　　年　　暦

日	曜	4　　月
1	金	学年始め　入学式・新入生歓迎会
2	土	1年　ガイダンス（教務・学生部関係）
3	日	1年 制限科目登録
4	月	1年　履修登録（WEB） 2～4年　前期授業・試験開始 6年 臨床修練Ⅱ（Ⅰ期）開始
5	火	1年　履修登録（WEB）
6	水	
7	木	1年　フレッシュマンスタートアップミーティング
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	1年　前期授業開始
12	火	
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	
20	水	
21	木	
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	昭和の日 1年　休日授業日
30	土	

日	曜	5　　月
1	日	
2	月	
3	火	憲法記念日
4	水	みどりの日
5	木	こどもの日
6	金	5年　中間試験Ⅰ 6年　第２回特別講義（予定）
7	土	
8	日	
9	月	6年　臨床修練Ⅱ（Ⅱ期）開始
10	火	
11	水	
12	木	2・3年　男子定期健康診断（予定）
13	金	2・3年　女子定期健康診断（予定）
14	土	
15	日	
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	
21	土	創立記念日
22	日	
23	月	
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	

日	曜	6　　月
1	水	
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	6年　臨床修練Ⅱ（Ⅲ期）開始
7	火	
8	水	
9	木	6年　第１回模擬試験
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	6年　父母懇談会
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	

日	曜	7　　月
1	金	
2	土	
3	日	
4	月	
5	火	6年　Post-CC OSCE
6	水	
7	木	6年　領域別集中講義Ⅰ開始
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	
12	火	
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	地方父母懇談会（広島）
17	日	
18	月	海の日
19	火	
20	水	
21	木	
22	金	1年　前期試験開始 3年　前期授業・試験終了
23	土	3年　夏季休業開始
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	4年　CBT対策講義 4年　前期授業・試験終了
29	金	4年　夏季休業開始
30	土	1年　前期試験終了 2年　前期授業・試験終了 5年　夏季休業開始
31	日	

日	曜	8　　月
1	月	1年　前期集中講義開始 2年　夏季休業開始
2	火	6年　領域別集中講義Ⅰ終了
3	水	1年　前期集中講義終了
4	木	1年　夏季休業開始
5	金	6年　総合試験Ⅰa
6	土	オープンキャンパス
7	日	
8	月	6年　Post-CC OSCE再試験
9	火	6年　夏季休業開始
10	水	
11	木	山の日
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	
16	火	
17	水	4年　夏季休業終了
18	木	4年　CBTネット模試
19	金	6年　夏季休業終了
20	土	
21	日	2.3.5年　夏季休業終了
22	月	2.3.4年　後期授業・試験開始 5年　臨床修練Ⅰ再開
23	火	
24	水	6年　第２回模擬試験
25	木	
26	金	5年　中間試験Ⅱ
27	土	
28	日	
29	月	5年　統合講義Ⅰ 6年　領域別集中講義Ⅱ開始
30	火	
31	水	

日	曜	9　　月
1	木	1年　前期成績発表開始（WEB）
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	1年 行動科学Ⅰ（看護実習・C・C体験）開始
6	火	
7	水	
8	木	
9	金	1年 行動科学Ⅰ（看護実習・C・C体験）終了 6年　第3回特別講義（予定）
10	土	
11	日	
12	月	5年　統合講義Ⅱ
13	火	1年　夏季休業終了
14	水	
15	木	
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	敬老の日 1年　休日授業日、後期授業開始
20	火	
21	水	
22	木	
23	金	秋分の日
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	5年　統合講義Ⅲ
28	水	6年　領域別集中講義Ⅱ終了
29	木	4年　CBT直前対策講義
30	金	

2022年度　学　　年　　暦

日	曜	10　　月
1	土	
2	日	
3	月	5年　模擬試験（予定）
4	火	6年　総合試験Ⅰb
5	水	
6	木	
7	金	6年　第4回特別講義（予定）
8	土	
9	日	
10	月	スポーツの日
11	火	
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	
16	日	
17	月	
18	火	
19	水	6年　総合試験Ⅰ再試験
20	木	
21	金	
22	土	第49回慰霊祭
23	日	
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	

日	曜	11　　月
1	火	4年　CBT
2	水	
3	木	文化の日
4	金	5年　中間試験Ⅲ 第42回医学祭（6日まで）
5	土	
6	日	
7	月	4年　成績発表1
8	火	4年　追・再試験開始 6年　第3回模擬試験
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	父母後援会総会
13	日	
14	月	6年　総合試験Ⅱ
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	6年　第5回特別講義（予定）
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	
23	水	勤労感謝の日
24	木	4年　CBT成績発表
25	金	4年　追・再試験終了
26	土	
27	日	入学試験（A方式・地域枠推薦）（面接）
28	月	
29	火	
30	水	

日	曜	12　　月
1	木	6年　成績発表1
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	6年　総合試験Ⅱ再試験
6	火	
7	水	
8	木	
9	金	4年　CBT再試験
10	土	
11	日	
12	月	6年　第6回特別講義（予定）
13	火	
14	水	
15	木	4年　OSCE / 2年 体験
16	金	4年　冬季休業開始
17	土	
18	日	
19	月	
20	火	
21	水	
22	木	6年　成績発表2
23	金	2年　冬季休業前授業終了 5年　冬季休業前臨床修練Ⅰ終了 6年　第7回特別講義（予定）
24	土	2.5.6年　冬季休業開始
25	日	
26	月	1.3年　冬季休業前授業終了
27	火	1.3年　冬季休業開始
28	水	
29	木	
30	金	
31	土	

日	曜	1　　月
1	日	元旦
2	月	
3	火	4年　冬季休業終了
4	水	1.2年 冬季休業終了 4年　後期授業・試験開始
5	木	1.2年　後期授業・試験開始
6	金	4年　OSCE再試験
7	土	
8	日	
9	月	成人の日 3.5.6年　冬季休業終了
10	火	3年　後期授業・試験開始 5年　進級判定試験
11	水	5年　臨床修練Ⅰ再開 6年　第4回模擬試験
12	木	1年　後期授業終了
13	金	2年　成績発表Ⅰ 4年　成績発表2
14	土	
15	日	
16	月	2年　追・再試験開始 6年　第8回特別講義（予定）
17	火	1年　後期試験開始
18	水	
19	木	
20	金	
21	土	
22	日	
23	月	
24	火	
25	水	
26	木	1年　後期試験終了
27	金	2年　追・再試験終了
28	土	
29	日	
30	月	2年　研究室配属開始
31	火	

日	曜	2　　月
1	水	入学試験（系統別）一次
2	木	
3	金	Student Doctor・白衣授与式
4	土	第117回医師国家試験（予定）
5	日	
6	月	4年　クリニカルクラークシップ開始
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	建国記念の日
12	日	
13	月	1年　後期成績発表1 3年　成績発表1
14	火	入学試験（系統別）二次 1年　追・再試験開始 （・2/14～22　医学科専門教育科目 ・2/24～3/1　共通教育科目） 3年　追・再試験開始
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	天皇誕生日
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	5年　進級判定試験再試験
28	火	2年　研究室配属終了 3年　追・再試験終了

日	曜	3　　月
1	水	1年　追・再試験終了
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	1年　後期成績発表2（WEB） 2.3.5年　成績発表2
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	卒業式・謝恩会
20	月	
21	火	春分の日
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	次年度ガイダンス（予定）
30	木	
31	金	学年終了

福岡大学学則（抜粋）

第１章　総　　則

第１節　目　　的

第１条　本学は、学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条の規定に基づき、人文、法律、経済、商学、理学、工学、医学、薬学及びスポーツ科学に関する専門的研究及び教授を行い、学識深く教養高き人材を養成することを目的とする。

２　第２条第１項に定める各学部及び学科の人材の養成に関する目的及びその他教育研究上の目的は、次のとおりとする。

⑻　医学部は、人間性に富み高度な知識と技能を備えた人材を育成し、地域社会の多様なニーズに応え、医療・看護を通して人類の福祉に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、医療専門職としての豊かな教養と高い倫理観を有し、生命の尊厳に基づいた患者中心の医療・看護を実践できる医療人及び高度な専門的知識により広く医学・看護学の発展に貢献できる研究者を養成することを目的とする。

医学科は、生命の尊厳に基づいた全人教育を基盤として、人間性豊かな臨床医の育成、地域社会への医療奉仕、重点的総合研究体系の確立を教育研究の理念とする。この理念に沿って、豊かな人間性と指導力・協調性を備え、総合的臨床能力を発揮して広く社会の医療と福祉に貢献できる医師及び高度な知識と国際的・学際的視野を持ち医学の発展に貢献できる医学研究者を養成することを目的とする。

第２節　組 織 等

第２条　本学に人文学部、法学部、経済学部、商学部、商学部第二部、理学部、工学部、医学部、薬学部及びスポーツ科学部を置く。

２　人文学部に文化学科、歴史学科、日本語日本文学科、教育・臨床心理学科、英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科、法学部に法律学科及び経営法学科、経済学部に経済学科及び産業経済学科、商学部に商学科、経営学科及び貿易学科、商学部第二部に商学科、理学部に応用数学科、物理科学科、化学科及び地球圏科学科、工学部に機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学科、社会デザイン工学科及び建築学科、医学部に医学科及び看護学科、薬学部に薬学科、スポーツ科学部にスポーツ科学科及び健康運動科学科を置く。

第10条　本学の医学部に附属病院を置く。

２　附属病院に関する規程は、別にこれを定める。

第２章　履　　修

第１節　修業年限、学年、学期及び休業日

第12条　修業年限は、４年とする。ただし、医学部医学科及び薬学部については、６年とする。

２　学生は、８年を超えて在学することができない。ただし、医学部医学科及び薬学部については、12年を超えて在学することができない。

３　前項の規定のほか、医学部医学科及び薬学部にあっては、同一学年に在学できる年数は２年を限度とする。ただし、医学部医学科にあって、同一学年に２年在学した後に退学し又は除籍された者が、退学し又は除籍された学年への再入学を許可された場合には、再入学を許可された学年に限り、さらに１年を限度として在学することができる。

第13条　学年は４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

第14条　学年を２期に分け、学年の始めから９月13日までを前期とし、９月14日から学年の終わりまでを後期とする。

第15条　休業日は、次のとおりとする。

⑴　日　曜　日

⑵　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

⑶　春 季 休 業　４月１日から４月７日まで

⑷　夏 季 休 業　８月４日から９月13日まで

⑸　冬 季 休 業　12月27日から翌年１月４日まで

２　学長は、教授会の議を経て前項に定める休業日を変更することができる。

３　第１項に定めるほか、学長は特に必要があると認めるときは、臨時の休業日を定めることができる。

４　第１項に定める休業日であっても、教授会が教育上必要と認める場合には、学長は、教務委員会の議を経て、授業を行うことを決定することができる。

第２節　定員、入学、転入学、編入学、転部・転科、留学、休学、退学、除籍、復学及び再入学

第16条　入学を許可する時期は、学年の始めとする。

第25条　学生が病気その他のやむを得ない理由で長期にわたり欠席しようとするときは、保証人連署をもって、所定の期日までに学長に届け出て、休学することができる。ただし、入学年度の前期については、原則として休学することができない。

２　休学の１期間は、当該年度内の前期、後期又は１年間とする。ただし、医学部医学科及び薬学部は、原則として当該年度１年間とする。

３　休学の開始の時期は、前期又は後期の始めとする。

４　休学は、通算して４年を超えることができない。

５　休学期間は、在学期間に算入しない。

第26条　学生が結核性その他感染性の疾患により療養の必要ありと認められるときは、学長は、教授会の議を経て、これに休学を命ずることがある。

第27条　休学している者は、休学期間満了までに復学、休学又は退学のいずれかの所定の手続をしなければならない。

第27条の２　休学している者が復学をしようとするときは、保証人連署をもって、所定の期日までに学長に届け出て、復学することができる。

２　復学の時期は、学期の始めとする。

第28条　学生が退学しようとするときは、その理由を具し、保証人連署をもって、学長に届け出るものとする。ただし、疾病による場合は、医師の診断書を添付しなければならない。

第29条　学長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して除籍を行う。

⑴　授業料等納入金を納入しない者

⑵　成績不振等で成業の見込みがないと認められる者

⑶　正当の理由がなく、出席が常でない者

⑷　死亡した者

⑸　休学期間満了時に、正当な理由がなく復学、休学又は退学のいずれの手続きも行わない者

第30条　退学した者が再入学を願い出たときは、学長は、教授会の議を経て、これを許可することができる。

２　再入学を願い出た者には、必要に応じて学力検査、面接を行う。

３　前２項の規定は、除籍された者が再入学を願い出た場合に、これを準用する。

４　前３項に基づく再入学の取扱いについては、別にこれを定める。

第３節　教　育　課　程

第31条　学部・学科の授業科目及び単位・時間数は、次の表に掲げるとおりとする。

（※印は必修科目、△印は選択必修科目とする。）

医学部医学科

分野	科目		授業科目（単位）
共通教育科目	総合教養科目（119単位）	人文科学	哲学A(2)　哲学B(2)　論理学A(2)　論理学B(2) 倫理学A(2)　倫理学B(2)　宗教学A(2)　宗教学B(2) 日本史A(2)　日本史B(2)　東洋史A(2)　東洋史B(2) 西洋史A(2)　西洋史B(2)　日本文学A(2)　日本文学B(2) アジアの文学A(2)　アジアの文学B(2)　西洋文学A(2)　西洋文学B(2)
		社会科学	法学A(2)　法学B(2)　日本国憲法(2) 政治学B(2)　経済学A(2)　経済学B(2)　政治学A(2) 商学B(2)　社会学A(2)　社会学B(2)　商学A(2) 教育論B(2)　地理学A(2)　地理学B(2)　教育論A(2) 心理学B(2)　文化人類学A(2)　文化人類学B(2)　心理学A(2)
		自然科学	数学入門(2)　統計入門(2)　化学入門(2)　生体の化学(2) 化学実験(1)　物理科学入門(2)　物理の世界(2)　物理学実験(1) ミクロの生物科学(2)　マクロの生物科学(2)　生物学実験(1)
		総合系列科目	地球環境(2)　生命・健康と医療(2)　国際化と日本(2) 科学・技術・情報と社会(2)　文化と教育(2) 現代を生きる(2)
		学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン(2)　アカデミックスキルズゼミⅠ(2)　アカデミックスキルズゼミⅡ(2)　福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか(2)　データサイエンス・AI 入門(2)
	外国語科目（34単位）	第1	※フレッシュマン・イングリッシュ(4)　海外英語研修(2) ※インターミディエイト・イングリッシュ(4)
		第2	ドイツ語Ⅰ(4)　フランス語Ⅰ(4)　中国語Ⅰ(4) 朝鮮語Ⅰ(4)　スペイン語Ⅰ(4)　ロシア語Ⅰ(4)
	保健体育科目（2単位）		※生涯スポーツ演習(2)
	単位互換科目		他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち医学部教授会が適当と認める科目

分野	科目	授業科目（単位数及び時間数）		
専門教育科目 必修 18単位 4,553時間		医学概論（3単位）	行動科学Ⅰ（3単位）	医学生のための生命科学（2単位）
		医学入門（2単位）	解剖学Ⅰ（4単位）	生化学Ⅰ（4単位）
		組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学（99時間）	組織細胞生物学各論（60時間）	解剖学Ⅱ（120時間）
		生理学Ⅰ（75時間）	生理学Ⅱ（111時間）	生化学Ⅱ（30時間）
		免疫学（48時間）	微生物学（102時間）	寄生虫学（30時間）
		研究室配属（126時間）	薬理学Ⅰ（48時間）	臨床医学入門Ⅰ（33時間）
		グローバル人材演習（30時間）	薬理学Ⅱ（87時間）	呼吸器病学（42時間）
		病理学総論（66時間）	病理学各論（106時間）	公衆衛生学（105時間）
		臨床医学入門Ⅱ（18時間）	行動科学Ⅱ（54時間）	法医学（42時間）
		腎・泌尿器・膠原病学（69時間）	内分泌・代謝病学（42時間）	消化器病学（72時間）
		眼科学（33時間）	皮膚・形成外科学（45時間）	放射線科学（27時間）
		感染症学（18時間）	腫瘍・血液学（45時間）	精神医学（39時間）
		産科婦人科学（54時間）	整形外科学（39時間）	小児医学（54時間）
		脳神経病学（54時間）	循環器病学（42時間）	麻酔科学（18時間）
		救命救急医学（24時間）	検査診断学（24時間）	医療情報社会学（21時間）
		症候・病態学演習（51時間）	再生・移植医学（15時間）	頭頸部病学（49時間）
		臨床修練入門（306時間）	行動科学Ⅲ（30時間）	ＣＢＴ演習（88時間）
		臨床修練Ⅰ（1,320時間）	統合講義（18時間）	臨床修練Ⅱ（360時間）
		領域別集中講義Ⅰ（67時間）	領域別集中講義Ⅱ（97時間）	

2　前項に掲げる授業科目のほかに学部留学生の授業科目として日本語（８単位）を置く。

3　第１項のほかに自由履修単位として換算できる授業科目は、次のうちから学部が指定するものとする。

⑴　共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目のうち卒業に必要な単位数を超えて修得した科目

⑵　関連教育科目

⑶　その他、教授会が適当と認める科目

4　第１項及び第２項に掲げる授業科目のほかに随意科目を設けることができる。随意科目については別に定め、卒業に必要な単位数に算入しない。

第32条　各授業科目の単位は、次の各基準による。

⑴　講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実験、実習及び実技等については、30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑶　授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑷　前３号の規定にかかわらず卒業論文、卒業演習、卒業計画等の授業科目については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

2　医学部医学科の専門教育科目については、前項の規定にかかわらず、修得すべき単位に相当する授業時間の履修をもって単位の修得に代えることができる。

第34条

8　医学部医学科の学生は、次に掲げる要件を満たしていなければ進級し、卒業することができない。

⑴　各学年においては、当該学年の専門教育科目の全授業科目の単位又は時間数を修得していること。

⑵　第４学年及び第６学年においては、前号の要件に加え、全国共用試験において一定以上の成績を修めていること。

9　医学部各学科の学生が修得しなければならない単位数、時間数は次のとおりとする。ただし、単位互換科目については、その修得単位を卒業及び進級に必要な修得単位数に算入しない。

⑴　医学科は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目から６単位以上、自然科学から７単位以上、計13単位以上、外国語科目として第１外国語８単位以上、保健体育科目として２単位、第２外国語を含め合計35単位以上、専門教育科目については18単位と4,553時間を修得しなければならない。

第４節　学習修了の認定及び卒業

第35条　各授業科目の学習修了の認定は、試験等によるものとし、成績の評価は60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

2　60点以上の成績の評価を得た学生には、その授業科目所定の単位を与える。

第36条　試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

第36条の２　定期試験は、各学期末にこれを行う。ただし、医学部医学科の時間制の授業科目について所定の期日に行う場合も同様に取扱う。

第37条　病気その他やむを得ない理由によって定期試験を受けることのできなかった者に対しては、成績考査規程の定めるところにより追試験を行うことがある。

第37条の３　医学部及び薬学部の学生に対しては、成績考査規程の定めるところにより、不合格科目につき再試験を行うことがある。

第38条　学士の学位の授与は、本学の人文学部、法学部、経済学部、商学部、商学部第二部、理学部、工学部、医学部看護学科及びスポーツ科学部にあっては４年以上、医学部医学科及び薬学部にあっては６年以上在学し、所定の授業科目を履修して、所定の課程を修め、卒業と認める者に対し、教授会の議を経て、学長がこれを決定する。

２　前項の学位記の様式は別に定め、卒業証書を兼ねるものとする。

第39条　第36条に定める試験の実施及び成績の評価に関する規程は、別にこれを定める。

第５節　賞　　罰

第40条　学業成績並びに品行の特に優秀な者、その他業績顕著な者は、これを表彰することがある。

第41条　本学の規則に違反し、学内の秩序を乱し、又は学生の本分に反する者は、学長が定める手続に基づき、これを懲戒する。

２　前項の規定による懲戒は、訓告、停学及び退学とする。ただし、退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対してこれを行うことができる。

⑴　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

⑵　大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第６節　授業料その他諸納入金

第42条　学生は、別表Ｉの⑵に定めるところに従い、授業料等納入金を納入しなければならない。

第45条　授業料等納入金は、次のとおり分割して徴収する。ただし、第１期分納入時に全納することを妨げない。

第１期分	毎年５月27日まで（ただし、新入生に限り別に定める。）
第２期分	毎年10月27日まで

第46条　授業料等納入金を定められた期日までに完納しなかった者は、除籍する。

第47条　授業料等納入金及び受講料に関する細部については、別に定める。

附　則

この学則は、令和４年４月１日から施行する。

福岡大学学科履修規程（抜粋）

第１章　総　　則

第１条　卒業資格を得るための履修は、学則第31条から第34条までの規定及びこの履修規程の定めるところによる。

第２章　科目の履修

第２条

８　　医学部医学科の学生は、次の単位・時間、医学部看護学科の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

【医学科】

- ⑴共通教育科目
  - 総合教養科目
    - 人文科学
    - 社会科学
    - 総合系列科目
    - 学修基盤科目
    - …計６単位以上
    - 自然科学……７単位以上
    - 計13単位以上
  - 外国語科目
    - 第１外国語……８単位以上
    - 第２外国語
  - 保健体育科目……２単位
  - 合計35単位以上
- ⑵専門教育科目……18単位及び4,553時間
- 総計53単位以上及び4,553時間

（注）単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件 53 単位以上と 4,553 時間のなかに算入しない。また、進級する場合に必要な修得単位数についても同様とする。

第５条

８　　医学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　医学科の学生は原則として、第１学年において61単位を超えてはならない。

ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。

第５条の２　医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第６条の７　医学部医学科の学生は、第１学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目から６単位以上、自然科学から７単位以上、計13単位以上、必修の外国語科目８単位以上、保健体育科目２単位、合計35単位以上、専門教育科目については18単位、総計53単位以上を修得しなければ、第２学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第２学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

附　則

この規程は、令和４年４月１日から施行する。

福岡大学成績考査規程（抜粋）

第１条　試験の実施及び成績考査については、学則第35条から第39条までの規定及びこの成績考査規程の定めるところによる。

第２条　試験は、次の各号のいずれかの方法によるものとする。

⑴　試験時に筆記により行うもの

⑵　教務委員会が認めた方法により行うもの

第２条の２　各授業科目の成績は、試験により評価する。ただし、平素の学習状況を考慮することができる。

２　前項本文の規定にかかわらず、教授会等において、演習、演習及び論文、実習、実験、実技その他これに準ずるものと認められた授業科目又はその開講期間内に適正な成績評価を行うことが可能であると認められた授業科目の成績については、試験によらず、これを評価することができる。

３　開講期間が通年の授業科目の成績を評価するときは、各学期の成績を考慮する。

４　合格点の成績評価を得た学生には、その授業科目所定の単位を与える。ただし、授業料等納入金又は受講料を納入していない者には、単位を与えない。

第３条　次の各号のいずれかに該当する場合には、試験を受けることができない。

⑴　試験を受けようとする科目をその学年において登録していないとき。

⑵　定められた期日までに授業料等納入金及び受講料を完納していないとき。

⑶　受験中に学生証を所持していないとき。

⑷　試験開始後20分以上遅刻したとき。

２　前項の規定により、試験を受けなかった授業科目は無効とする。

第３条の２　医学部医学科の時間制の授業科目については、出席時間数が授業を行った時間数の３分の２に満たない場合、原則として試験を受けることができない。

第４条　成績の評価は点数をもってするが、成績通知には評点又は秀(A)、優(B)、良(C)、可(D)、不可(F)、放棄(H)の評語をもってする。

２　成績標語は、次の基準によるものとする。

⑴　秀(A)　100点から90点まで　　⑵　優(B)　89点から80点まで

⑶　良(C)　79点から70点まで　　⑷　可(D)　69点から60点まで

⑸　不可(F)　59点以下　　⑹　放棄(H)　試験放棄

３　可(D)以上を合格とし、不可(F)は不合格とする。

４　第２項に規定する成績評価については、合否のみの成績評価を除き、次の各号に掲げるところに従い所定のGP評点を与える。

⑴　100点から90点まで＝4.0　　⑵　89点から80点まで＝3.0

⑶　79点から70点まで＝2.0　　⑷　69点から60点まで＝1.0

⑸　59点以下及び試験放棄＝0.0

５　履修した各授業科目の単位数にそれぞれの前項で規定するGP評点を乗じ、その総和を総履修単位数で除したものを、GPA評価とする。ただし、本学における授業科目の履修とみなして単位を認定した授業科目については、GPA評価の対象としない。

第５条　受験中に不正行為を行った者に対しては、当該期間（前期又は後期）に完結する全授業科目及び通年で実施する全授業科目を放棄とみなす。

２　前項で放棄とみなした科目については、追試験の対象としない。

第５条の２　受験中に答案を持ち出した者に対しては、その受験科目を放棄とみなす。

２　前項で放棄とみなした科目については、追試験の対象としない。

第６条　病気その他やむを得ない理由によって定期試験を受験することができなかった者に対しては、本人の願出により追試験を行うことがある。

２　追試験の願出は、所定の書式により、病気の場合には医師の診断書を、病気以外のやむを得ない理由の場合には証明書を添え、定期試験終了後５日以内に学生課に提出しなければならない。

第７条　追試験は、定期試験終了後本学が定める日に１回だけ行う。

第８条　追試験を受験した者の評価は、80点を限度とする。ただし、情状によりこの制限を免除し、又は緩和することがある。

第９条　合格点の成績評価を得た科目は再履修することができない。

第10条　授業科目の再履修により合格点を得た場合は、その合格点をもって以前の不合格点に代える。

第11条　追試験の受験料は１科目につき2,000円とする。ただし、情状によりこれを減額又は免除することがある。

２　いったん納めた受験料は、これを返還しない。

第12条　次の者に対しては、本人の願出により当該年度に受験した定期試験の科目について、学年末に再試験を行うことがある。(⑴～⑶、⑸、⑹省略)

⑷　医学部医学科の学生にして、不合格の成績評価を得た者。ただし、単位制の科目については、15単位以内とする。第３学年及び第４学年の専門教育科目については、その学年の科目数の60％以内とする。(追試験の結果、不合格点を得た科目を含む。)

第13条　３　医学部医学科学生の再試験の願出は、成績発表後所定の期日までに、願書を医学部事務課に提出しなければならない。

第14条　再試験の得点は、60点を限度とする。

第15条　再試験の受験料は１単位につき1,000円とする。ただし、医学部医学科の時間制の専門教育科目は、１科目につき4,000円とする。

２　いったん納めた受験料は、これを返還しない。

附　則

この規程は、平成29年４月１日から施行する。

成績評価に関する問い合わせ制度の実施について

厳格な成績評価を実施するための取り組みのひとつとして、自分の成績評価に疑問がある場合、学部事務室を窓口として問い合わせる事ができる制度を設けています。

皆さんが所属する学部事務室に申し出れば、皆さんに代わって事務室から科目責任者に問い合わせをおこない、その結果をお知らせします。

なお、この制度は授業担当者との評点の交渉や、成績不振者に対する救済の機会を提供するものではありません。

２学年以降の試験に関する内規および補足

令和４年４月１日　改正

⑴　前期に授業が開始され後期まで続く科目においては前期および後期終了時に試験を行うことがある。前期・後期の中途に終了する科目については、それぞれの科目終了後に試験を行う。上記各試験の再試験はすべて学年末のみに行う。

⑵　進級は学則によって規定された科目についての試験および実習の成績から総合的に判定する。

⑶　福岡大学成績考査規程第３条の２に基づき、次のとおり定める。

①　出席時間数が授業を行った時間数の３分の２に満たない科目でも本試験受験は認めるが、全科目合格が原則である。ただし、出席時間数が授業を行った時間数の３分の２に満たない科目の本試験不合格科目が１科目のみの場合は、再試験受験資格の有無を教授会で審議し決定する。

②　第２学年以降の学生が、医学部医学科の時間制の授業科目を欠席したときは、欠席日より起算して３日以内に所定の届出書に必要書類を添えて医学部長に提出しなければならない。ただし、連続して欠席した場合は、最後に欠席した日より起算する。

⑷　第４学年においては、進級判定を次のとおり行う。

①　前項に定めるもののほか全国共用試験（CBT、OSCE）の成績を加える。
なお、CBTの成績評価は、70％以上（四捨五入なし）を合格とする。但し、70％未満であっても、合格者と同等もしくは同等以上のIRT値の者は合格とする。

②　全国模擬試験を受験すること。

③　特別講義等が実施される場合、対象となった学生は必ず参加すること。

④　CBT演習については、出席時間数が授業を行った時間数の３分の２に満たない場合、原則として全国共用試験（CBT）再試験を受けることができない。

⑤　臨床修練入門（クリニカルクラークシップ）における各科の実習評価は、継続し、第５学年の臨床修練Ⅰで行う。

⑸　第５学年においては、進級判定を次のとおり行う。

①　臨床修練Ⅰを履修し、各科の実習評価において、全科から合格の評価を受けること。第４学年の臨床修練入門（クリニカルクラークシップ）における各科の実習評価は、臨床修練Ⅰで行う。
但し、F判定は不合格としD判定が複数ある場合も教授会で審議のうえ進級を認めない場合がある。

②　全国模擬試験を受験すること。

③　統合講義を履修し、合格の評価を受けていること。合格の要件は、原則全ての講義に出席することとする。

④　年３回実施する中間試験を受験し、合格すること。中間試験は、医師国家試験の過去５年分（第112回～ 116回）の問題もしくは、医師国家試験レベルの問題とする。
合格基準は、中間試験（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）の得点率［総正解数/総問題数］70％以上とする。再試験の得点率については、教授会で審議のうえ決定する。

⑤　進級判定試験を受験し、合格すること。進級判定の基準は、本試験および再試験の得点率［総正解数／総問題数］65 ～ 70％以上とし、教授会で審議のうえ決定する。

⑹　第６学年においては、卒業判定を次のとおり行う。

①　臨床修練Ⅱを履修し、各科の実習評価において、全科から合格の評価を受けること。
但し、Ｆ判定は不合格としD判定が複数ある場合も教授会で審議のうえ修了を認めない場合がある。

② Post−CC OSCEで合格の評価を受けていること。
③ 補習合宿及び特別講義等が実施される場合、対象となった学生は必ず参加すること。
④ 全国模擬試験を受験すること。
⑤ 領域別集中講義Ⅰ、Ⅱは合否科目とし、評価に総合試験Ⅰの結果を用いる。
⑥ 領域別集中講義については、出席時間数が授業を行った時間数の３分の２に満たない場合は、原則として総合試験Ⅰの再試験を受験することができない。
⑦ 総合試験Ⅰ及びⅡの結果で卒業判定する。
⑧ 総合試験Ⅰ及びⅡによる卒業判定の基準は以下の通りとする。

1）総合試験Ⅰは、医師国家試験の問題を参考に各講座で作成した問題とする。
2）総合試験Ⅰ（a、b）の得点率［総正解数／総問題数］70％以上の合格者は、総合試験Ⅱの受験を認める。
3）総合試験Ⅰ（a､b）の得点率［総正解数／総問題数］70％未満は総合試験Ⅰの再試験を受験する。
4）総合試験Ⅰの再試験の得点率［総正解数／総問題数］70％以上を合格とし、総合試験Ⅱの受験を認める。
5）総合試験Ⅰの再試験の得点率［総正解数／総問題数］70％未満を不合格とし、総合試験Ⅱの受験を認めない。
6）総合試験Ⅱは、一般問題：臨床問題＝１：１（点数）で集計する。
7）総合試験Ⅱの得点率［総正解数／総問題数］73 ～ 75％以上を合格とし、一次卒業確定とする。
8）総合試験Ⅱの不合格者は総合試験Ⅱの再試験を受験する。
9）総合試験Ⅱの再試験の得点率［総正解数／総問題数］73 ～ 75％以上を合格とし、二次卒業確定とする。
10）総合試験Ⅰ及びⅡの実施日は別紙のとおりとする。

第４条別表

医学部医学科

学年別授業科目表

※印は必修
△印は選択必修

			第１学年 授業科目	単位	第２学年 授業科目	時間数
共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A	2		
			哲学B	2		
			論理学A	2		
			論理学B	2		
			倫理学A	2		
			倫理学B	2		
			宗教学A	2		
			宗教学B	2		
			日本史A	2		
			日本史B	2		
			東洋史A	2		
			東洋史B	2		
			西洋史A	2		
			西洋史B	2		
			日本文学A	2		
			日本文学B	2		
			アジアの文学A	2		
			アジアの文学B	2		
			西洋文学A	2		
			西洋文学B	2		
		社会科学	法学A	2		
			法学B	2		
			日本国憲法	2		
			政治学A	2		
			政治学B	2		
			経済学A	2		
			経済学B	2		
			商学A	2		
			商学B	2		
			社会学A	2		
			社会学B	2		
			教育論A	2		
			教育論B	2		
			地理学A	2		
			地理学B	2		
			心理学A	2		
			心理学B	2		
			文化人類学A	2		
			文化人類学B	2		
		自然科学	数学入門	2		
			統計入門	2		
			化学入門	2		
			生体の化学	2		
			化学実験	1		
			物理科学入門	2		
			物理の世界	2		
			物理学実験	1		
			ミクロの生物科学	2		
			マクロの生物科学	2		
			生物学実験	1		
		総合系列科目	地球環境	2		
			生命・健康と医療	2		
			国際化と日本	2		
			科学・技術・情報と社会	2		
			文化と教育	2		
			現代を生きる	2		
		学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン	2		
			アカデミックスキルズゼミI	2		
			アカデミックスキルズゼミII	2		
			福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2		
			データサイエンス・AI入門	2		
	外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュI	1		
			※フレッシュマン・イングリッシュII	1		
			※フレッシュマン・イングリッシュIII	1		
			※フレッシュマン・イングリッシュIV	1		
			※インターミディエイト・イングリッシュI	1		
			※インターミディエイト・イングリッシュII	1		
			※インターミディエイト・イングリッシュIII	1		
			※インターミディエイト・イングリッシュIV	1		
			海外英語研修	2		
		第2	ドイツ語IA	2		
			ドイツ語IB	2		
			フランス語IA	2		
			フランス語IB	2		
			中国語IA	2		
			中国語IB	2		
			朝鮮語IA	2		
			朝鮮語IB	2		
			スペイン語IA	2		
			スペイン語IB	2		
			ロシア語IA	2		
			ロシア語IB	2		
	保健体育科目		※生涯スポーツ演習I	1		
			※生涯スポーツ演習II	1		
	単位互換科目		他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち医学部教授会が適当と認める科目			
専門教育科目			※医学概論	3	※組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	99
			※行動科学I	3	※組織細胞生物学各論	60
			※医学生のための生命科学	2	※解剖学II	120
			※医学入門	2	※生理学I	75
			※解剖学I	4	※生理学II	111
			※生化学I	4	※生化学II	30
					※免疫学	48
					※微生物学	102
					※寄生虫学	30
					※研究室配属	126
					※薬理学I	48
					※臨床医学入門I	33
					※グローバル人材演習	30

第４条別表

学年別授業科目表

医学部医学科

	第３学年		第４学年		第５学年		第６学年	
	授業科目	時間	授業科目	時間	授業科目	時間	授業科目	時間
専門教育科目（必修）	薬理学Ⅱ	87	精神医学	39	臨床修練Ⅰ	1,320	臨床修練Ⅱ	360
	病理学総論	66	産科婦人科学	54	統合講義	18	領域別集中講義Ⅰ	67
	病理学各論	106	整形外科学	39			領域別集中講義Ⅱ	97
	公衆衛生学	105	小児医学	54				
	法医学	42	脳神経病学	54				
	臨床医学入門Ⅱ	18	循環器病学	42				
	腎・泌尿器・膠原病学	69	麻酔科学	18				
	内分泌・代謝病学	42	救命救急医学	24				
	消化器病学	72	検査診断学	24				
	眼科学	33	医療情報社会学	21				
	皮膚・形成外科学	45	症候・病態学演習	51				
	放射線科学	27	再生・移植医学	15				
	感染症学	18	頭頸部病学	49				
	呼吸器病学	42	臨床修練入門	306				
	行動科学Ⅱ	54	ＣＢＴ演習	88				
	腫瘍・血液学	45	行動科学Ⅲ	30				
履修すべき時間		871時間		908時間		1,338時間		524時間

（注）授業科目、時間数については変更することがある。

令和４年度より全学年に適用

医学　カリキュラム・ツリー

（改正案）

各学年における修得目標

共通教育科目

（必修）フレッシュマン・イングリッシュⅠ～Ⅳ
インターミディエイト・イングリッシュⅠ～Ⅳ
生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱ

（選択）人文・社会科学科目・総合系列科目・学修基盤科目・自然科学科目・第2外国語A・B

専門教育科目（　　）は科目名、すべて必修科目

M1

基礎医学（解剖学Ⅰ、生化学Ⅰ、医学生のための生命科学）
早期臨床教育（医学概論、行動科学Ⅰ、医学入門）

↓

M2

人格形成、プロフェッショナリズムの涵養
アクティブ・ラーニングの実践
研究マインドの涵養

基礎医学（組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学、組織細胞生物学各論、微生物学、寄生虫学、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、グローバル人材演習、薬理学Ⅰ、免疫学、臨床医学入門Ⅰ、生化学Ⅱ、解剖学Ⅱ、研究室配属）

↓

M3

基礎医学（薬理学Ⅱ、病理学総論、病理学各論、公衆衛生学、法医学）
臨床医学（臨床医学入門Ⅱ、行動科学Ⅱ、内分泌・代謝病学、消化器病学、呼吸器病学、感染症学、放射線科学、腎・泌尿器・膠原病学、皮膚・形成外科学、眼科学、腫瘍・血液学）

↓

M4

臨床医学（脳神経病学、精神医学、救命救急医学、医療情報社会学、麻酔科学、整形外科学、症候・病態学演習、臨床修練入門、行動科学Ⅲ、産科婦人科学、検査診断学、小児医学、循環器病学、再生・移植医学、頭頸部病学、CBT演習）

↓

医学系大学間共用試験 CBT・OSCE

早期臨床体験

基礎医学の修得

臨床医学知識の修得

M5
M6

●プロフェッショナリズム
●生命倫理に基づいた医療
●コミニュケーション能力、臨床知識・臨床技能（診察、検査、診断、治療）の向上
●チーム医療の実践
●グローバルな視野と地域医療
●科学的探求心と自律学修能

ステューデントドクター

M4　2月よりスタート

診療参加型臨床実習

M5（臨床修練Ⅰ）M6（臨床修練Ⅱ）

M5（統合講義）

M6（領域別集中講義Ⅰ～Ⅱ）

→ PCC-OSCEによる
臨床実習評価〈客観評価〉

ディプロマ・ポリシー（卒業時アウトカム）の達成

○福岡大学における再入学の取扱いに関する規程

（平成12年３月１日
制　　定）

改正　平成27年４月１日

（目的）

第１条　学則第30条に定める再入学の取扱いについては、同条に定めるほか、この規程による。

（再入学の許可）

第２条　本学を退学し又は除籍された者については、本条及び第６条の規定するところに従って、その入学時から起算して８年（医学部医学科及び薬学部にあっては12年）を超えない限り、学長は、退学し又は除籍された時点において所属する学部への再入学を許可することができる。ただし、入学時から起算して８年（医学部医学科及び薬学部にあっては12年）を超えない者であっても、再入学後において、学則第12条２項に定める在学年限内に卒業することができない者については、再入学を許可しない。

２　入学辞退者及び科目未登録等により就学の意思がないものとして除籍された者については、再入学を許可しないものとする。

３　学則第41条の規定に基づいて退学の処分を受けた者については、特に反省が顕著であると認められない限り、再入学を許可しないものとする。

４　再入学した者が退学し又は除籍された場合において、再度の再入学は許可しないものとする。

５　２年次以降の学年に編入学又は転入学した者の再入学については、第１項に規定する期間に関し、別にこれを定める。

（再入学の時期）

第３条　再入学の時期は、４月とする。

２　再入学をしようとする者は、所定の期日までに必要な書類を学長に提出するものとする。

（年次・学籍番号等の決定）

第４条　再入学者の年次（又は学年）、在学年数、既修得科目及び単位数等の取扱いについては、教授会の議を経て、学長が決定する。

２　再入学者については、前項により決定された年次（又は学年）において付与される学籍番号を使用する。

（授業料等納入金）

第５条　再入学に必要な授業料等納入金については、別にこれを定める。

（教育課程）

第６条　再入学者に対し、第４条第１項により決定された年次（又は学年）における教育課程を適用する。ただし、既修得科目及び単位数等については、その当該教育課程において必要な授業科目が開設されていない場合、教授会は、他の授業科目の履修をもってその授業科目の履修に替えることができる。

（医学部医学科に関する特則）

第７条　医学部医学科にあって、同一学年に２年在学した者が退学し除籍された場合には、第２条に

定めるほか、その者が退学し又は除籍された時点における学年の全授業科目について学則第53条に定める科目等履修生として履修し単位及び時間を修得したときに限り、学長は、再入学を許可することができる。ただし、科目等履修生として履修することのできる期間は１年を限度とする。

2　前項に規定する再入学の場合において、再入学者の学年については、教授会の議を経て、学長がこれを決定する。

附　則

この規程は、平成27年４月１日から施行する。

医学部医学科開講科目（試験科目）一覧表

	6月	7月	9月	11月	12月	1月
一学年		解剖学Ⅰ 生化学Ⅰ				生化学Ⅰ 医学生のための生命科学 解剖学Ⅰ
二学年		免疫学 生理学1 組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学 （8月） 微生物学	（10月） 寄生虫学		微生物学 生理学Ⅱ 薬理学Ⅰ 組織細胞生物学各論	
三学年	病理学総論 内分泌・代謝病学	薬理学Ⅱ 公衆衛生学	病理学各論 （10月） 感染症学 眼科学 呼吸器病学 消化器病学	放射線科学		法医学 病理学各論 腫瘍・血液学 腎・泌尿器・膠原病学 （2月） 皮膚・形成外科学
四学年	（5月） 麻酔科学 医療情報社会学 脳神経病学 精神医学	検査診断学 小児医学 頭頸部病学 再生・移植医学 循環器病学	（10月） 整形外科学 産科婦人科学 症候・病態学演習 救命救急医学	全国共用試験(CBT)	全国共用試験(OSCE)	
五学年	（5月） 中間試験Ⅰ	（8月） 中間試験Ⅱ		中間試験Ⅲ		進級判定試験
六学年		Post-CC OSCE （8月） 総合試験Ⅰa	（10月） 総合試験Ⅰb	総合試験Ⅱ		

（注）　の１学年は通年科目の前期試験、２、３学年は中間試験を示す。

◎授業時間割（全学年）

◎学費等納入金表

◎オフィス・アワー

M1

曜日	時限	前期 4月	5月	6月	7月	
月	1	解剖学Ⅰ（骨学講義・骨学実習含む）				前期試験
	2					
	3	医学概論				
	4	生化学Ⅰ　※水曜日４限の一部でも実施				
	5					
火	1	フレッシュマン・イングリッシュⅠ				
	2	総合教養科目 / 第２外国語Ａ				
	3	総合教養科目 / 生涯スポーツ演習Ⅱ				
	4	総合教養科目 / 生涯スポーツ演習Ⅰ				
	5	総合教養科目				
水	1	フレッシュマン・イングリッシュⅡ				
	2	総合教養科目 / 生涯スポーツ演習Ⅰ				
	3	医学入門（先端医療　ザ・プロフェッショナル）				
	4	医学概論（研究室配属・研究室紹介）　※一部、生化学Ⅰ				
	5	総合教養科目				
木	1	総合教養科目 / 生涯スポーツ演習Ⅰ				
	2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ				
	3	総合教養科目				
	4	総合教養科目				
	5	総合教養科目				
金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ				
	2	総合教養科目 / 第２外国語Ｂ				
	3	総合教養科目 / 生涯スポーツ演習Ⅰ				
	4	総合教養科目				
	5	総合教養科目				

曜日	時限	後期 9月	10月	11月	12月	1月	
月	1	解剖学Ⅰ（中枢神経解剖学含む）					後期試験
	2						
	3	医学生のための生命科学					
	4	生化学Ⅰ　※水曜日４限の一部でも実施					
	5						
火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ					
	2	総合教養科目 / 第２外国語Ａ					
	3	総合教養科目 / 生涯スポーツ演習Ⅰ					
	4	総合教養科目 / 生涯スポーツ演習Ⅱ					
	5	総合教養科目					
水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ					
	2	総合教養科目 / 生涯スポーツ演習Ⅱ					
	3	行動科学Ⅰ					
	4	行動科学Ⅰ（心肺蘇生 / 研究室配属・研究室紹介）　※一部、生化学Ⅰ					
	5	総合教養科目					
木	1	総合教養科目 / 生涯スポーツ演習Ⅱ					
	2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ					
	3	総合教養科目					
	4	総合教養科目					
	5	総合教養科目					
金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ					
	2	総合教養科目 / 第２外国語Ｂ					
	3	総合教養科目 / 生涯スポーツ演習Ⅰ					
	4	総合教養科目					
	5	総合教養科目					

行動科学Ⅰ（看護実習）

M2

曜日	時限	前期 4月 28	4	11	18	25	5月 2	9	16	23	30	6月 6	13	20	27	7月 4	11	18	25	8月 1	8	15
月	1		組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学															海の日		夏休み		
	2																					
	3																					
	4																					
	5																					
火	1		免疫学				憲法記念日	免疫学				微生物学					組織細胞生物学総論	試験（免疫学）	試験（生理学I）			
	2																					
	3		生理学I					生理学I														
	4																					
	5																					
水	1		生理学I				みどりの日	生理学I														
	2																					
	3		グローバル人材演習					グローバル人材演習								生理学II						
	4																					
	5																					
木	1		免疫学				こどもの日	免疫学				微生物学				解剖学II				山の日		
	2																					
	3		生化学II					生化学II														
	4																					
	5																					
金	1		解剖学II				昭和の日	解剖学II											試験（細胞総論）			
	2																					
	3																					
	4																					
	5																					

曜日	時限	後期 9月 22	29	5	12	19	26	10月 3	10	17	24	31	11月 7	14	21	28	12月 5	12	19	26	1月 2	9	16	23	30	2月 6	13	20	27	3月 6	13	20	27
月	1	中間試験（微生物）	組織細胞生物学各論			敬老の日		組織細胞生物学各論	スポーツの日	組織細胞生物学各論		組織細胞生物学各論								冬休み	振替休日	成人の日	追再試験		研究室配属								
	2																																
	3		生理学II					生理学II		生理学II			生理学II																				
	4																																
	5																																
火	1		微生物学									微生物学						試験（薬理学I）	試験（細胞各論）												成績発表②	春分の日	
	2																																
	3		生理学II									生理学II																					
	4																																
	5																																
水	1	寄生虫学	微生物学									微生物学			勤労感謝の日		試験（微生物学）																
	2																																
	3	薬理学I										薬理学I																					
	4																																
	5																																
木	1	組織細胞生物学各論									試験（寄生虫学）	文化の日	薬理学I					OSCE体験								天皇誕生日							
	2																																
	3	寄生虫学																															
	4																																
	5																																
金	1	生理学II				秋分の日		生理学II				医学祭	生理学II				試験（生理学II）					成績発表①											
	2																																
	3	臨床医学入門I						臨床医学入門I																									
	4																																
	5																																

M3

曜日	時限	前期 4月 28	4月 4	4月 11	4月 18	4月 25	5月 2	5月 9	5月 16	5月 23	5月 30	6月 6	6月 13	6月 20	6月 27	7月 4	7月 11	7月 18	7月 25	8月 1	8月 8	8月 15
月	1		薬理学Ⅱ						内分泌代謝学	消化器病学							行動科学Ⅱ	海の日	夏休み			
	2																					
	3																					
	4																					
	5																					
火	1		病理学総論				憲法記念日	病理学総論	公衆衛生学		病理学各論				試験（病理総論）	試験（薬理Ⅱ）	行動科学Ⅱ（地域医療体験実習）	看護実習前オリエンテーション／看護実習				
	2																					
	3								消化器病学	内分泌代謝学												
	4																					
	5																					
水	1		公衆衛生学				みどりの日	公衆衛生学		公衆衛生学実習（保健所等）			公衆衛生学					看護実習			
	2																					
	3		内分泌代謝学					内分泌代謝学					内分泌代謝学									
	4																					
	5																					
木	1		病理学総論			薬理学Ⅱ	こどもの日	薬理学Ⅱ					薬理学Ⅱ			試験（公衆衛生）		CC体験	山の日			
	2																					
	3		公衆衛生学													試験（内分泌）						
	4																					
	5																					
金	1		病理学総論			昭和の日		病理学総論				病理学各論						まとめ				
	2																					
	3		公衆衛生学					公衆衛生学										発表				
	4																					
	5																					

曜日	時限	後期 9月 22	9月 29	9月 5	9月 12	9月 19	9月 26	10月 3	10月 10	10月 17	10月 24	10月 31	11月 7	11月 14	11月 21	11月 28	12月 5	12月 12	12月 19	12月 26	1月 2	1月 9	1月 16	1月 23	1月 30	2月 6	2月 13	2月 20	2月 27	3月 6	3月 13	3月 20	3月 27
月	1	病理学各論										試験（消化器）	病理学各論								振替休日	成人の日		試験（法医学）	試験（腎・泌尿器）		成績発表①	追再試験					
	2																																
	3	消化器病学				敬老の日		消化器病学	スポーツの日	消化器病学			腎・泌尿器・膠原病学																				
	4																																
	5																																
火	1	病理学各論	消化器病学					放射線科学			試験（眼科）		法医学							冬休み		腫瘍・血液学	臨床医学入門Ⅱ								成績発表②	春分の日	
	2																																
	3		感染症学																														
	4																																
	5																																
水	1	呼吸器病学										試験（放射線）	腫瘍・血液学	勤労感謝の日		腫瘍・血液学							臨床医学入門Ⅱ	試験（病理各論）	試験（皮膚形成）									
	2																																
	3	眼科学		放射線科学									腎・泌尿器・膠原病学			腎・泌尿器・膠原病学							腎・泌尿器・膠原病学										
	4																																
	5																																
木	1	眼科学								試験（感染症）	試験（呼吸器）	文化の日			腎・泌尿器・膠原病学							皮膚・形成外科学						天皇誕生日					
	2																																
	3	病理学各論													皮膚・形成外科学																		
	4																																
	5																																
金	1	病理学各論				秋分の日	中間試験（病理）	病理学各論				医学祭	皮膚・形成外科学		病理学各論							皮膚・形成外科学		試験（腫瘍・血液）									
	2																																
	3	呼吸器病学						呼吸器病学					臨床医学入門Ⅱ		腫瘍・血液学							腫瘍・血液学											
	4																																
	5																																

授業時間割

M4

曜日	時限	前期 4月 28	4月 4	4月 11	4月 18	4月 25	5月 2	5月 9	5月 16	5月 23	5月 30	6月 6	6月 13	6月 20	6月 27	7月 4	7月 11	7月 18	7月 25	8月 1	8月 8	8月 15
月	1		脳神経病学									小児医学					再生・移植医学	海の日	試験（再生）	夏休み		
	2																					
	3		精神医学									循環器病学										
	4																					
	5																					
火	1		頭頸部病学				憲法記念日	頭頸部病学	試験（脳神経）	試験（循環器）		頭頸部病学				循環器病学		試験（小児）				
	2																					
	3		麻酔科学		脳神経病学			脳神経病学	試験（麻酔）			症候病態学演習				頭頸						
	4																					
	5		CBT演習									CBT演習										
水	1		医療情報社会学				みどりの日	医療情報社会学				検査診断学							試験（循環器）			
	2																					
	3		脳神経病学					脳神経病学				小児医学										
	4																					
	5																					
木	1		医療情報社会学		精神医学		こどもの日	精神医学				循環器病学					試験（検査）		CBT対策講義		CBT模試 山の日	
	2																					
	3		麻酔科学									再生・移植医学			検査診断学							
	4																					
	5																					
金	1		脳神経病学			昭和の日		脳神経病学	試験（医情）	試験（精神）		小児医学						試験（頭頸部）			CBT模試	
	2																					
	3		精神医学					精神医学				頭頸部病学										
	4																					
	5																					

曜日	時限	後期 9月 22	9月 29	9月 5	9月 12	9月 19	9月 26	10月 3	10月 10	10月 17	10月 24	10月 31	11月 7	11月 14	11月 21	11月 28	12月 5	12月 12	12月 19	12月 26	1月 2	1月 9	1月 16	1月 23	1月 30	2月 6	2月 13	2月 20	2月 27	3月 6	3月 13	3月 20	3月 27
月	1	産科婦人科学				敬老の日	産婦		スポーツの日	CBT演習	CBT演習	CBT演習	成績発表①	追再試験		臨床修練入門（診断学実習・スキルスラボ演習）			冬休み		振替休日	成人の日			行動科学Ⅲ	臨床修練入門							
	2						症候病態																										
	3	整形外科学																															
	4																																
	5																																
火	1	救命救急医学		産科婦人科学					試験（症候）	CBT演習	CBT演習	CBT本試験													行動科学Ⅲ	臨床修練入門			春分の日		臨床修練入門		
	2																																
	3	症候病態学演習																															
	4																																
	5	CBT演習																															
水	1	救命救急医学						試験（整形）		CBT演習	CBT演習	CBT本試験			勤労感謝の日										行動科学Ⅲ	臨床修練入門							
	2																																
	3	整形外科学																															
	4																																
	5																																
木	1	産科婦人科学					CBT直前対策講義			CBT演習	CBT演習	文化の日			CBT成績発表			OSCE						臨床実習前オリエンテーション	臨床修練入門	天皇誕生日	臨床修練入門						
	2																																
	3	症候病態学演習																															
	4																																
	5																																
金	1	整形外科学				秋分の日		試験（産婦）	試験（救命）	CBT演習	CBT演習	医学祭					CBT再試験				OSCE再試験	成績発表②			白衣授与式	臨床修練入門							
	2																																
	3	産科婦人科学																															
	4																																
	5																																

曜日	時限	前期 4月 28	4月 4	4月 11	4月 18	4月 25	5月 2	5月 9	5月 16	5月 23	5月 30	6月 6	6月 13	6月 20	6月 27	7月 4	7月 11	7月 18	7月 25	8月 1	8月 8	8月 15
月	1		臨床修練Ⅱ クリニカルクラークシップⅠ期				臨床修練Ⅱ クリニカルクラークシップⅡ期					臨床修練Ⅱ クリニカルクラークシップⅢ期					内分泌・代謝病学	海の日	腫瘍・血液・感染症学	脳神経病学	PCC・OSCE再試	夏休み
月	2																					
月	3																					
月	4																					
月	5																					
火	1						憲法記念日									PCC・OSCE		消化器病学				
火	2																					
火	3																					
火	4																					
火	5																					
水	1	第一回特別講義					みどりの日															
水	2																					
水	3																					
水	4																					
水	5																					
木	1						こどもの日					第一回全国模擬試験				循環器病学	腎・泌尿器・膠原病学		呼吸器病学		山の日	
木	2																					
木	3																					
木	4																					
木	5																					
金	1					昭和の日	第二回特別講義											腫瘍・血液・感染症学		総合試験Ⅰa		
金	2																					
金	3																					
金	4																					
金	5																					

曜日	時限	後期 9月 22	9月 29	9月 5	9月 12	9月 19	9月 26	10月 3	10月 10	10月 17	10月 24	10月 31	11月 7	11月 14	11月 21	11月 28	12月 5	12月 12	12月 19	12月 26	1月 2	1月 9	1月 16	1月 23	1月 30	2月 6	2月 13	2月 20	2月 27	3月 6	3月 13	3月 20	3月 27
月	1		産科婦人科学		整形外科学	敬老の日	公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント		スポーツの日					総合試験Ⅱ			総合試験Ⅱ再試験	第六回特別講義			振替休日	成人の日	第八回特別講義										
月	2																																
月	3																																
月	4																																
月	5																																
火	1			精神医学		耳鼻咽喉・口腔系		総合試験Ⅰb					第三回全国模擬試験							冬休み													春分の日
火	2																																
火	3																																
火	4																																
火	5																																
水	1	第二回全国模擬試験			眼科学					総合試験Ⅰ 再試験					勤労感謝の日							第四回全国模擬試験											
水	2																																
水	3																																
水	4																																
水	5																																
木	1		小児医学	麻酔科学・救命救急医学		放射線科学・臨床検査医学						文化の日				成績発表①			成績発表②								天皇誕生日					
木	2																																
木	3																																
木	4																																
木	5																																
金	1			第三回特別講義		皮膚科学・形成外科学	秋分の日	第四回特別講義				医学祭		第五回特別講義					第七回特別講義														
金	2																																
金	3																																
金	4																																
金	5																																

授業時間割

2022年度　学費等納入金表

納　入	第1期	5月27日
期　限	第2期	10月27日

（注）１．金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
２．新入生の第1期分は、入学時に納入していただいております。

医学部医学科

（単位：円）

区　分		合　計	学生納付金					委託徴収金							
			入学金	特別教育充実費	授業料	教育充実費	小　計	父母後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学健組合入会金	学健組合費	卒業記念アルバム代	小　計
2022年度	年額	8,626,710	1,000,000	3,000,000	3,912,000	688,000	8,600,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
入学	１期	6,326,710	1,000,000	3,000,000	1,956,000	344,000	6,300,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
（１年）	２期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								0
2021年度	年額	7,625,610		3,000,000	3,912,000	688,000	7,600,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
入学	１期	5,325,610		3,000,000	1,956,000	344,000	5,300,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
（２年）	２期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								0
2020年度	年額	7,625,610		3,000,000	3,912,000	688,000	7,600,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
入学	１期	5,325,610		3,000,000	1,956,000	344,000	5,300,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
（３年）	２期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								0
2019年度	年額	4,626,110			3,912,000	688,000	4,600,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
入学	１期	2,326,110			1,956,000	344,000	2,300,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
（４年）	２期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								0
2018年度	年額	4,617,110			3,912,000	688,000	4,600,000	8,500			5,610		3,000		17,110
入学	１期	2,317,110			1,956,000	344,000	2,300,000	8,500			5,610		3,000		17,110
（５年）	２期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								0
2017年度	年額	4,617,110			3,912,000	688,000	4,600,000	8,500			5,610		3,000		17,110
入学	１期	2,317,110			1,956,000	344,000	2,300,000	8,500			5,610		3,000		17,110
（６年）	２期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								0

１．学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
２．７年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口に照会して下さい。

オフィス・アワー

※オフィス・アワーについては、授業・診療・手術・会議・出張等で不在の時を除きます。

科目名	科目責任者	研究室 (内線)	オフィス・アワー	備　　考
M3 腫瘍・血液学 M6 領域別集中講義Ⅰ (腫瘍・血液・感染症学)	髙松　　泰	腫瘍・血液・感染症内科学 (3345)	金曜日 17：00 ～ 17：30	事前にアポイントを取ること nagamori@adm.fukuoka-u.ac.jp
M3 感染症学	髙田　　徹	感染制御部 (3345)	火曜日 16：30 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること takattol@cis.fukuoka-u.ac.jp
M2 グローバル人材演習 M3 内分泌・代謝病学 M3 臨床医学入門Ⅱ M4 行動科学Ⅲ M5 統合講義 M6 領域別集中講義Ⅰ (内分泌・代謝病学)	川浪　大治	内分泌・糖尿病内科学 (3645)	火曜日 16：10 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること
M4 循環器病学 M4 臨床修練入門 M6 領域別集中講義Ⅰ (循環器病学)	三浦伸一郎	心臓・血管内科学 NO.402 (3366)	水曜日 16：00 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること
M3 消化器病学 M6 領域別集中講義Ⅰ (消化器病学)	平井　郁仁	消化器内科学 (3355)	月曜日 12：10 ～ 13：00	事前にアポイントを取ること
M3 腎・泌尿器・膠原病学 M6 領域別集中講義Ⅰ (腎・泌尿器・膠原病学)	升谷　耕介	腎臓・膠原病内科学 (3370)	火曜日 12：10 ～ 13：00	事前にアポイントを取ること
		腎泌尿器外科学 NO.307 (3490)	火曜日 16：30 ～ 17：30	事前にアポイントを取ること
M4 脳神経病学 M6 領域別集中講義Ⅰ (脳神経病学)	坪井　義夫	脳神経内科学 (3520)	金曜日 16：10 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること
M3 呼吸器病学 M6 領域別集中講義Ⅰ (呼吸器病学)	藤田　昌樹	呼吸器内科学 (3376)	金曜日 14：30 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること
M4 精神医学 M6 領域別集中講義Ⅱ (精神医学)	川嵜　弘詔	精神医学 (3380)	火曜日 17：00 ～ 19：00	事前にアポイントを取ること hkawasaki@fukuoka-u.ac.jp
M4 小児医学 M6 領域別集中講義Ⅱ (小児医学)	永光信一郎	小児科学 NO.520 (3390)	水曜日 12：10 ～ 13：00	事前にアポイントを取ること
M3 皮膚・形成外科学 M6 領域別集中講義Ⅱ (皮膚科学・形成外科学)	今福　信一	皮膚科学 (3405)	水曜日 17：00 ～ 17：30	事前にアポイントを取ること
		形成外科学 (2391)	水曜日 16：00 ～ 17：30	事前にアポイントを取ること
M3 放射線科学 M6 領域別集中講義Ⅱ (放射線科学・臨床検査医学)	吉満　研吾	放射線医学 (3415)	木曜日 12：10 ～ 13：00	事前にアポイントを取ること kengo@fukuoka-u.ac.jp
M4 整形外科学 M6 領域別集中講義Ⅱ (整形外科学)	山本　卓明	整形外科学 NO.1222 (3465)	水曜日 12：10 ～ 13：00 金曜日 12：10 ～ 13：00	事前にアポイントを取ること
M3 眼科学 M6 領域別集中講義Ⅱ (眼科学)	内尾　英一	眼科学 (3470)	水曜日 12：10 ～ 13：00	事前にアポイントを取ること
M4 頭頸部病学 M6 領域別集中講義Ⅱ (耳鼻咽喉・口腔系)	坂田　俊文	耳鼻咽喉科学 (3485)	水曜日 17：00 ～ 17：30 金曜日 17：00 ～ 17：30	事前にアポイントを取ること
		歯科口腔外科学 (3530)	月曜日 16：10 ～ 17：00 金曜日 16：10 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること
M4 産科婦人科学 M6 領域別集中講義Ⅱ (産科婦人科学)	宮本　新吾	産科婦人科学　NO.317 (3500)	月曜日 16：10 ～ 17：00 金曜日 16：10 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること

科目名	科目責任者	研究室 (内線)	オフィス・アワー	備　　考
M４ 麻酔科学 M６ 領域別集中講義Ⅱ （麻酔科学・救命救急医学）	秋吉浩三郎	麻酔科学 (3515)	月曜日 16：00 ～ 17：00 金曜日 16：00 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること
M４ 検査診断学	小川　正浩	臨床検査医学 (3545)	火曜日 16：30 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること
M４ 救命救急医学	石倉　宏恭	救命救急医学 (2925)	水曜日 12：10 ～ 13：00	事前にアポイントを取ること
M１ 解剖学Ⅰ M２ 解剖学Ⅱ M２ 研究室配属	立花　克郎	解剖学 (3200)	月曜日 12：10 ～ 13：00 火曜日 16：10 ～ 18：00	事前にアポイントを取ること
M１ 医学生のための生命科学 M２ 組織細胞生物学総論・ 遺伝子・発生学 M２ 組織細胞生物学各論	白澤　専二	細胞生物学 (3255)	水曜日 16：00 ～ 17：00 金曜日 16：00 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること
M１ 医学入門 M２ 生理学Ⅰ M２ 生理学Ⅱ	藤田　孝之	生理学 (3225)	木曜日 12：10 ～ 12：40 17：00 ～ 17：30	事前にアポイントを取ること physiol@fukuoka-u.ac.jp
M１ 生化学Ⅰ M２ 生化学Ⅱ	安永晋一郎	生化学 (3247)	水曜日 16：30 ～ 17：30	在室時は随時可 但し、長時間の時は事前に アポイントを取ること
M２ 薬理学Ⅰ M３ 薬理学Ⅱ	岩本　隆宏	薬理学 (3260)	水曜日 12：20 ～ 12：50	事前にアポイントを取ること
M３ 病理学総論 M３ 病理学各論	濵﨑　　慎	病理学 (3280)	木曜日 12：10 ～ 12：40	事前にアポイントを取ること
M２ 免疫学 M２ 微生物学 M２ 寄生虫学	廣松　賢治	微生物・免疫学 (3295)	火曜日 16：30 ～ 17：30	事前にアポイントを取ること
M４ 再生・移植医学	小玉　正太	再生・移植医学 (3631)	火曜日 17：00 ～ 18：00	事前にアポイントを取ること
M３ 公衆衛生学 M６ 領域別集中講義Ⅱ （公衆衛生学・法医学・ セーフティマネージメント）	有馬　久富	衛生・公衆衛生学 NO.1504 (3315)	水曜日 12：10 ～ 13：00 16：10 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること
M３ 法医学	久保　真一	法医学 (3335)	火曜日 17：00 ～ 18：00 金曜日 17：00 ～ 18：00	事前にアポイントを取ること kuboshin@fukuoka-u.ac.jp
M４ 医療情報社会学 M４ 症候・病態学演習	鍋島　茂樹	総合診療部 (2784)	月曜日 17：00 ～ 18：00 火曜日 17：00 ～ 18：00	事前にアポイントを取ること
M１ 医学概論 M１ 行動科学Ⅰ M２ 臨床医学入門Ⅰ M３ 行動科学Ⅱ M４ CBT 演習	安元　佐和	医学教育推進講座 (3621)	月曜日 17：00 ～ 18：00 火曜日 16：10 ～ 18：00	

第 1 学 年 講 義 要 目

福岡大学医学部医学科 卒業時コンピテンシー達成レベル表

レベル（達成度）	Advanced	Applied	Basic			
Ⅰ．プロフェッショナリズム						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。	診療の場で医師としての態度・価値観を示すことができる	医師としての態度・価値観を模擬的に示すことができる	基盤となる態度・価値観を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅱ．医学的知識						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。	実践の場で問題解決に応用できる	問題解決に応用できる知識を示すことができる	模擬症例の問題リストを抽出できる知識を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	修得する機会があるが、単位認定に関係ない	修得する機会がない
Ⅲ．診療技術・患者ケア						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅳ．コミュニケーションとチーム医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅴ．グローバルな視野と地域医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。	実践できる	理解と計画立案ができる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅵ．科学的探究心と自律学習能力						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。	実践できる	理解と計画立案ができる	計画された研究の見学、基盤となる技術・態度を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない

科目名と卒業時コンピテンシー達成レベル【M1】		解剖学Ⅰ	医学概論	医学概論（研究室配属・研究室紹介）	生化学Ⅰ	医学入門	医学生のための生命科学	行動科学Ⅰ	行動科学Ⅰ（看護実習・C・C体験）	行動科学Ⅰ（心肺蘇生実習）	行動科学Ⅰ（研究室配属・研究室紹介）
Ⅰ．プロフェッショナリズム											
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。											
1	医療者として法的責任、規則を遵守できる。	C	D	C	C	C	C	C	C	C	C
2	生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。	C	D	D	D	D	D	D	C/D	D	D
3	他者を尊重し、利他的な態度で行動できる。	C	D	C	C	C	C	C	C/D	C	C
4	患者の個人情報保護を遵守できる。	F	D	F	F	F	F	D	D	F	F
5	多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。	F	D	F	F	F	F	F	D	F	F
6	患者、社会、医療者に対して説明責任を果たすことができる。	C	D	F	F	F	F	F	D	D	F
7	医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。	C	C	D	C	C	C	D	D	C	D
8	患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。	C	C	F	C	C	C	C	C	C	F
Ⅱ．医学的知識											
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。											
1	正常構造と機能	D	F	F	D	D	F	F	F	D	F
2	発達、成長、加齢、死	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
3	心理、行動	F	C	F	F	F	D	D	C	F	F
4	病因、構造と機能の異常	D	D	F	D	D	D	F	F	F	F
5	診断、治療	F	D	F	F	F	F	F	F	F	F
6	医療安全	C	F	F	F	F	F	F	D	C/D	F
7	疫学、予防、公衆衛生	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
8	保健・医療・福祉制度	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
9	医療経済	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅲ．診療技術・患者ケア											
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。											
1	患者から病歴を的確に聴取できる。	F	C	F	F	F	F	F	C	F	F
2	成人、小児の基本的な身体診察と基本的臨床手技を実践できる。	F	C	F	F	F	F	F	F	C	F
3	患者の病歴、診察所見から臨床推論ができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
4	診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
5	頻度の高い疾患について、EBM（Evidence-Baced Medicine）に基づいた診断、治療方針について説明できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
6	患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
7	POS（Problem-Oriented System）を用いて診療録を記載し、適切にプレゼンテーションができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
8	患者に必要な病状説明・意思決定の場に参加できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅳ．コミュニケーションとチーム医療											
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。											
1	患者とその家族の個人的背景、文化、社会的背景を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。	F	D	F	F	F	F	F	C	F	F
2	多職種の医療チーム内で信頼関係を築き、患者中心の医療のために情報を共有し、説明伝達ができる。	F	D	F	F	F	F	F	D	F	F
3	他の医療者に、手順を守り適切にコンサルテーションできる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
4	患者の医学情報を診療録に的確に記載し、医療チーム内で情報を共有できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
5	医療の国際化を認識し、英語で医療面接ができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅴ．グローバルな視野と地域医療											
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。											
1	医療制度、社会福祉制度を正しく理解した診療を実践できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
2	地域の医療機関、保健、福祉、行政等の関連機関と適切な連携がとれる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
3	行政への届け出や社会福祉制度の必要書類を適切に作成できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
4	地域医療に参加し、プライマリケアが実践できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
5	海外からの患者の診療、医療者との交流が行える。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
6	国際保健や医療の社会的問題の情報を収集できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅵ．科学的探究心と自律学習能力											
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。											
1	基礎研究、臨床研究の理論と方法を理解することができる。	F	F	F	F	D	F	F	F	F	D
2	最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。	F	D	F	F	F	F	F	F	F	F
3	ICTを適切に利用し情報セキュリティ管理ができる。	F	C/D	F	F	F	D	C/D	F	F	F
4	未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。	F	C	D	F	D	F	C	F	F	D
5	自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。	F	C	F	F	F	F	C	C	F	D
6	診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。	F	D	D	F	D	F	E	F	F	F
7	学生、後輩、同僚に対し教育者として貢献できる。	C	C	F	F	F	F	C	C	F	F

解　剖　学　Ⅰ

Ⅰ．担当教員名

解　剖　学	教　　授	立　花　克　郎（科目責任者）
	講　　師	貴　田　浩　志（副責任者）
	〃	フェリル　ロリト
	〃	遠　藤　日富美
	助　　教	山　崎　裕太郎
	非常勤講師	福　田　孝　一（熊本大学大学院 生命科学研究部形態構築学分野）
	〃	小　川　皓　一
耳鼻咽喉科学	教　　授	坂　田　俊　文

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

１．臨床医学を修得していく上で基礎となる正常な人体の形態・構造・機能を理解する。(A-1)
２．グループ学習の意義を理解し、グループの中での協調性、積極性と責任をはたす態度を身につける。(A-2)
３．人体骨学実習を通して、形態学的思考方法や観察眼を養い、自学自習の精神を身に付ける。(A-3)
４．「生命の尊厳」、「医の倫理」を直視し、医学を学ぶ。(A-4)
５．グループ内の他の学生と意見交換ができる。(A-4)
６．医師としてふさわしい態度、高いレベルのモラルを習得する。(C-1)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

肉眼解剖学的構造については；
１．骨の基本構造と人の骨格の概要を説明できる。
２．人の骨格を構成する各骨の主要構造の名称を日本語・英語で書ける。
３．頭蓋を構成する骨の構造を説明できる。
４．筋、靭帯、循環器、末梢神経、内臓、感覚器の概要を示すことができる。
５．上記に基づき、身体の各部位の構造を局所解剖学的に説明することができる。
さらに構造面から機能を説明できる。
６．体表から主な器官の位置と形態を指し示すことができる。
７．生体の構造と位置関係について、三次元的に再構築することが出来、X線写真、CT、MRI、USといった画像の理解に結びつけることができる。
８．人体を構成する器官とその主要な部位名を英語で書くことができる。

中枢神経系の構造については；
１．脳・脊髄の構成・構造を説明できる。
２．中枢神経各部位の機能を説明でき、さらに各部の統合的機能を説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉
１．講義（通常講義・視聴覚コンピューター教材使用講義）に出席し、重要な事項を把握する。

２．毎週、講義前半の小テストを受ける。
３．骨学実習を行い、知識を確認するとともに、不明な点はその場で教科書、iPad などで調べる。
４．骨学実習は小グループで行う。グループ討論を通して実習手順を決め、必要に応じ観察部位をスケッチする。
５．実習中に担当教員から学習方法について指導を受ける。
６．実習に参加し、医学生としての問題意識を自覚し、生命の尊厳や医の倫理について考える。
７．Team based learning, PBL テュートリアルでは学生は小グループに分かれ、グループへ与えられた課題に取り組み、学習成果を発表する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】
１．講義予定範囲を確認し、同範囲の肉眼的構造を把握すると共に機能及び臨床医学的意義を理解する（60分）。
２．教科書・実習テキスト・配布シラバスなどで予習をする (60分)。

【復習】
１．課題学習成果を提出する (60分)。
２．講座作成の解剖学ガイドブックを読む (30分)。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

１．正常な人体の形態・構造・機能を理解しているかを前期試験、後期試験（マルチプルチョイス方式または記述式）で確認する。
２．人体の形態・構造・機能を理解しているかを必要に応じて、実習試験、口頭試問、小テストを行う。
３．実習の記録、team based learning, PBL テュートリアルの課題に対するレポートを提出させ、評価を行う。
４．年間を通しての医の倫理の意味を理解し、説明できるかを評価すると共に、学習姿勢・実習態度・課題学習成果、出席状況も評価の対象とする。
５．最終成績評価は前期試験：後期試験：上記2、3、4＝3.5：3.5：3の比率で行う。

Ⅵ．教科書

（必須）解剖トレーニングノート　第７版　竹内修二　医学教育出版
（必須）臨床のための解剖学　第２版　Keith L. Moore　訳　佐藤達夫　MEDSi
（必須）臨床神経解剖学　原著第６版　訳 井出 千束、杉本 哲夫　医歯薬出版株式会社

Ⅶ．参考書・文献

（推薦）寺田春水、他：骨学実習の手びき　第４版　南山堂
（推薦）中野　隆　　：骨学のすゝめ　南江堂
（推薦）相磯貞和　訳：ネッター解剖学アトラス　原著第７版　南江堂
（推薦）山下　廣　訳：グラント解剖学図譜　第７版　医学書院
（推薦）横地千仞　訳：Rohen 解剖学カラーアトラス　第８版　医学書院
（推薦）森　於菟、他：分担解剖学　金原出版
（推薦）伊藤　隆：解剖学講義　第３版　南山堂
（推薦）松村譲兒：イラスト解剖学　第10版　中外医学社

（推薦）塩田浩平　訳：グレイ解剖学　原著第４版　エルゼビアジャパン
（推薦）佐藤達夫　訳：人体解剖カラーアトラス　R. T. Hutchings　原著第８版　南江堂

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
スタートアップ授業					立花			インドロダクション	http://fukuoka-u.ac.app.box.com/folder/12987034538?=h9hjymcsn8tho04p348iahfqf7tubn8v	オンデマンド
1	4	11	月	1	〃	A-1	1)	解剖学総論１	医学の歴史、医療倫理、生命倫理	講義
2				2	〃	C-2	2)	解剖学総論２	臨床解剖学とは、医学用語	〃
3		18	月	1	山崎	D-4	1)	骨学１	骨学総論、関節・靭帯学総論、筋学総論	〃
4				2	〃	D-4	1)	骨学２	上肢帯・自由上肢の骨、胸郭、脊柱、骨盤、下肢帯・下肢の骨	〃
5		25	月	1	〃	D-4	1)	骨学３	脊柱、骨盤、下肢帯・下肢の骨	〃
6				2	〃	D-4	1)	骨学４	〃	〃
7	5	2	月	1	貴田	D-4	1)	骨学５	脳頭蓋、顔面頭蓋	〃
8				2	〃	D-4	1)	骨学６	〃	〃
中間フォローアップ授業					立花				講義の中でお知らせ	オンデマンド
9		9	月	1	全員 非常勤講師 小川	D-4	1)	骨学実習１	標本を用いた実習	実習
10				2	〃	D-4	1)	骨学実習２	〃	〃
11		16	月	1	〃	D-4	1)	骨学実習３	〃	〃
12				2	〃	D-4	1)	骨学実習４	〃	〃
13		23	月	1	立花	D-5	1)①⑤⑥⑦⑨	解剖学総論３	心血管系、リンパ系、神経系	講義
14				2	山崎	F-2	5)①～⑤ 6)①② 7)①～⑥	解剖学総論４	解剖学と画像診断、レントゲン、CT、MRI、US入門	〃
15		30	月	1	立花	D-6 D-11	1)①～④ 1)①	胸部１	胸郭、胸壁の筋・血管・神経、肺、胸膜	〃
16				2	〃	D-6 D-11	1)①～④ 1)①	胸部２	〃	〃
17	6	6	月	1	〃	D-5	1)①⑤⑥⑦⑨⑩	胸部３	心臓、大血管、縦隔	〃
18				2	〃	D-5	1)①⑤⑥⑦⑨⑩	胸部４	〃	〃
19		13	月	1	〃	D-7	1)①～⑨	腹部１	腹壁の筋・血管・神経、腹膜腔	〃
20				2	〃	D-7	1)①～⑨	腹部２	〃	〃
21		20	月	1	〃	D-7	1)①～⑨	腹部３	腹部内臓、血管系	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
22	6	20	月	2	立花	D-7	1) ①～⑨	腹部 4	腹部内臓、血管系	講義
23		27	月	1	遠藤	D-8	1)②	腹部 5	横隔膜、副腎、後腹壁	〃
24				2	〃	D-8	1)②	腹部 6	腎臓、尿路	〃
25	7	4	月	1	〃	D-9 D-4	1) ①～⑦ 1)⑤	骨盤と会陰 1	骨盤壁、骨盤内臓	〃
26				2	〃	D-9 D-4	1) ①～⑦ 1)⑤	骨盤と会陰 2	〃	〃
27		11	月	1	〃	D-7	1) ①～⑨	腹部 7	腹部まとめ　1	〃
28				2	〃	D-7	1) ①～⑨	腹部 8	腹部まとめ　2	〃
中間フォローアップ授業					立花				講義の中でお知らせ	オンデマンド
29	9	19	月	1	山崎	D-4	1) ①～⑧	背部 1	脊椎と脊柱	課題学習
30				2	〃	D-4	1) ①～⑧	背部 2	〃	〃
31		26	月	1	〃	D-2 D-4	1)(2) ①～③ 1) ①～⑧	背部 3	〃	講義
32				2	〃	D-2 D-4	1)(2) ①～③ 1) ①～⑧	背部 4	〃	〃
33	10	3	月	1	〃	D-4	1) ①～⑧	上肢・下肢 1	殿部・大腿の筋・血管・神経	〃
34				2	〃	D-4	1) ①～⑧	上肢・下肢 2	下腿・足の筋・血管・神経・関節	〃
35		17	月	1	〃	D-4	1) ①～⑧	上肢・下肢 3	上肢帯・上腕の筋・血管・神経	〃
36				2	〃	D-4	1) ①～⑧	上肢・下肢 4	〃	〃
37		24	月	1	〃	D-4	1) ①～⑧	上肢・下肢 5	前腕・手の筋・血管・神経・関節	〃
38				2	〃	D-4	1) ①～⑧	上肢・下肢 6	〃	〃
39		31	月	1	フェリル	D-12	1)②④ ⑤	頭頸部 1	頸部	〃
40				2	〃	D-2	1)(3) ①～③	頭頸部 2	脳神経	〃
41	11	7	月	1	坂田	D-14	1) ①～⑥	頭頸部 3	鼻腔、平衡聴覚器、頚部の内臓、咽頭、喉頭	〃
42				2	〃	D-14	1) ①～⑥	頭頸部 4	〃	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
43	11	14	月	1	フェリル	D-13	1) ①～④	頭頸部 5	視覚器	講義
44				2	〃	D-13	1) ①～④	頭頸部 6	〃	〃
45		21	月	1	貴田	D-2	1) (1) ①②⑤	中枢神経 1	総論、大脳、小脳、大脳皮質 1	〃
46				2	〃	D-2	1) (1) ①②⑤	中枢神経 2	脳血管、髄液、脳幹、脳室	〃
47		28	月	1	非常勤講師 福田	D-2	1) (2) (3)	中枢神経 3	脊髄・脳幹の内部構造、脳神経核	〃
48				2	〃	D-2	1) (2) (3)	中枢神経 4	〃	〃
49	12	5	月	1	〃	D-2	1) (4) (5)	中枢神経 5	小脳の機能解剖、視床	〃
50				2	〃	D-2	1) (4) (5)	中枢神経 6	〃	〃
51		12	月	1	〃	D-2	1) (6) (7)	中枢神経 7	大脳皮質、大脳辺縁系	〃
52				2	〃	D-2	1) (6) (7)	中枢神経 8	〃	〃
53		19	月	1	〃	D-2	1) (6) (7)	中枢神経 9	視床、視床下部、広汎投射系	〃
54				2	〃	D-2	1) (6) (7)	中枢神経10	〃	〃
55		26	月	1	立花 非常勤講師 福田	D-2	2①)	総復習 1	まとめ	〃
56				2	〃	D-2	2①)	総復習 2	まとめ	〃
中間フォローアップ授業					立花				講義の中でお知らせ	オンデマンド

医　学　概　論

Ⅰ．担当教員名

医学教育推進講座	教　授	安元佐和	（科目責任者）
	准教授	八尋英二	（副責任者）
	講　師	武岡宏明	（副担任）
	非常勤講師	出石宗仁	
医学系研究・生命医療倫理部門	准教授	今泉　聡	
臨床医学研究センター	教　授	志村英生	
生理学	教　授	藤田孝之	（主担任）
消化器内科学	教　授	平井郁仁	（主副担任）
生理学	講　師	本田　啓	（副担任）
解剖学	講　師	遠藤日富美	（　〃　）
細胞生物学	准教授	石倉周平	（　〃　）
〃	講　師	吉田和真	（　〃　）
生化学	講　師	芝口浩智	（　〃　）
病理学	講　師	古賀佳織	（　〃　）
微生物・免疫学	講　師	清水章文	（　〃　）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．症候学を学び基礎医学の知識と関連づけることができる。(A-1)
2．生命倫理・医療倫理について、基本的事項を理解する。(C-1)
3．情報社会で必要な情報セキュリティー、医療情報倫理について理解し行動できる。(C-2)
4．TBL (Team based learning) を通して、コミュニケーション、チーム貢献、プレゼンテーション能力を習得する。(C-2)
5．医師としてのプロフェッショナリズムを認識し、自尊心を持つとともに多様な他者の考えを尊重する態度を身につける。(C-4)
6．医療面接や身体診察の実習を通し、患者中心の医療を理解し、コミュニケーション能力を養うことができる。(C-5)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．医師のプロフェッショナリズムとは何かを討論し、医学生に必要な倫理観を理解し説明することができる。
2．PC 周辺機器について概説できる。
3．アプリケーションの役割の違いを理解し、Excel、Word、Power Point を使って資料作成ができる。
4．ハッキング・コンピューターウイルスの危険性について概説できる。
5．代表的な症候の鑑別すべき疾患の臨床症状、身体所見を説明し、病歴シナリオを作成できる。

６．医療面接のロールプレイで患者役を経験し、患者の心理的な反応を疑似体験し医療者のあるべき姿を考えることができる。
７．TBL での学習で役割分担に貢献し、全体でのプレゼンテーションの資料を作成できる。
８．模擬患者と医療面接ができる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．各学生に与えられた課題について個人で学習し、チーム内で討論する（TBL)。
司会、記録、発表を全員が経験する。
２．医療面接のビデオや講義をもとに、課題の疾患の病歴シナリオを作成し、チーム内で患者役と医師役をロールプレイする。
３．服装、身なりを整える。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．与えられた課題について個人で学習する。(30分)
２．医療面接のビデオや講義をもとに、課題の疾患の病歴シナリオを作成する。(30分)
３．課題についての予習、チーム内討論と課題作成を行う。(30分)

【復習】

１．模擬患者との医療面接を経験し、自己のふり返りを行う。(30分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

課題20％、医療面接演習20％、研究室配属20％、テスト20％、授業参加態度20％で、総合的に評価する。
模擬患者との医療面接演習参加は必須とする。

Ⅵ．**教科書**

福岡大学医学部　編：診断学テキストブック（プリント配布）

Ⅶ．**参考書・文献**

福井次矢　奈良信雄　編：内科診断学　第三版　医学書院

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
スタートアップ授業					安元 八尋・武岡			イントロダクション	https://fukuoka-u.app.box.com/file/152049416777	オンデマンド
1	4	11	月	3	〃	A-1		医学概論	医学生に求められる能力 医学の歴史　FU-RIGHT	講義
						A-2	(2)			
						A-9	(1)			
2		18	月	3	今泉	A-1	(1)	プロフェッショナリズムⅠ	医の倫理	〃
						B-3	(1)			
3		25	月	3	志村	B-2	(2)	アカデミックスキルⅠ	ネットリテラシー SNS 個人情報電子メール ファイル管理 Word文書編集	ＰＣ教室
4	5	2	月	3	武岡	A-2	(2)	アカデミックスキルⅡ	ファイル管理 Excel・表計算	〃
						A-8				

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
5	5	9	月	3	八　尋	A-2 A-8	(2)	アカデミックスキルⅢ	Powerpoint プレゼンテーション Moodle	ＰＣ教室
6		16	月	3	〃	A-1 A-6		プロフェッショナリズム２	医師の責務 職責 患者中心の医療 安全	講　義
7		23	月	3	〃	A-1 A-6		プロフェッショナリズム３	医学生とプロフェッショナリズム	全体発表
8		30	月	3	〃	A-1 A-6		プロフェッショナリズム４	〃	〃
9	6	6	月	3	安元 八尋・武岡	A-4 F-1	(1)(2) (16)	コミュニケーション１	コミュニケーションの方法と技能 医療面接	講　義
10		13	月	3	〃	A-4 F-1	 (16)	コミュニケーション２	症候学　課題討論　病歴シナリオ	ＴＢＬ
11		20	月	3	〃	A-4		コミュニケーション３	医療面接　ロールプレイ	全体発表
12		27	月	3	安元・八尋 武岡・全員 非常勤講師 出石	A-1 A-6		コミュニケーション４	医療面接　模擬患者	実　習
13	7	4	月	3	安元 八尋・武岡	A-1 A-6		プロフェッショナリズム５	まとめ	試　験
14		11	月	3	〃	A-1 A-6		コミュニケーション５	医療面接　模擬患者	実　習

医学概論（研究室配属・研究室紹介）

Ⅰ．担当教員名

医学教育推進講座	教　授	安元佐和（科目責任者）
	准教授	八尋英二（副責任者）
	講　師	武岡宏明
再生・移植医学	教　授	小玉正太（実務責任者）
解剖学	教　授	立花克郎
生理学	教　授	藤田孝之
生化学	教　授	安永晋一郎
微生物・免疫学	教　授	廣松賢治
法医学	教　授	久保真一
腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙松　泰
心臓・血管内科学	教　授	三浦伸一郎
消化器内科学	教　授	平井郁仁
呼吸器内科学	教　授	藤田昌樹
腎臓・膠原病内科学	教　授	升谷耕介
皮膚科学	教　授	今福信一
放射線医学	教　授	吉満研吾
産科婦人科学	教　授	宮本新吾
麻酔科学	教　授	秋吉浩三郎
歯科口腔外科学	教　授	近藤誠二
臨床検査医学	教　授	小川正浩

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．医学部基礎医学・社会医学系研究室に配属し、基礎医学の実際に触れることができる。(A-1)
2．基礎医学で実際に行われている医学研究に接し、自主的学習が主体である大学教育への入口として、知的活動への動機づけを高め、理論的な思考法と適切な自己表現能力を身につける。(A-1)
3．医学・医療に関する学習を受験勉強での暗記中心の学習から脱却し、『病気と医科学』をテーマとして自ら疑問を持ち、調べ、その内容の真偽制を吟味して、科学的に問題を解決しようとする成人型の学習態度を身につける。(A-1)
4．各教室をローテーションすることで、広く基礎系研究の概要を理解する。(A-1)
5．２年生以降の基礎専門医学教育へ困難なく対応できるような「橋渡し」の機会とする。(A-1)
6．学生間、学生と担当教員の良好な人間関係の構築を行い、今後６年間の医学教育の礎を形成する。(C-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．課題に関する分野別講義の内容を理解できる。
2．課題に関する資料、文献を収集し、調査できる。
3．課題に関して学生や教員と討論できる。

４．課題に関するレポートを作成し発表ができる。
５．課題に関して新たな問題点を指摘できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．研究室配属
水曜日４限に、１グループ12名程度の学生班が前半・後半40分ずつまたは90分ずつで、各基礎医学・社会医学系７講座に配属され、研究室見学、演習などを行う。各講座の教員から、研究室の特徴や研究内容のトピックスについて紹介があり、第２学年での「研究室配属」への準備、事前の学習法について、学生からの質問や相談を受ける。

２．研究室紹介
１の研究室配属以外の講座から、第２学年の「研究室配属」についての研究室紹介が行われ、学生と質疑応答を行う。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】
１．到達目標を把握して臨む。(30分)

【復習】
１．体験した研究室で新たに出た疑問点について自分で調べる。(30分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

出席、授業態度等により評価する。

Ⅵ．**教科書**

必要に応じ、各講座から情報提供する。

Ⅶ．**参考書・文献**

必要に応じ、各講座から情報提供する。

講座名	第１日集合場所
解剖学	医学部研究棟別館１階　解剖学 資料室（1118）
生理学	医学部研究棟別館１階　生理学 四研（1104）
生化学	医学部研究棟別館５階　ゼミナール室（1512）
再生・移植医学	医学部研究棟本館３階　ゼミナール室（355）
法医学	医学部研究棟本館５階　法医学セミナー室（550）
微生物・免疫学	医学部研究棟本館３階　微生物・免疫学 総合研究室（348）
医学教育推進講座	医学情報センター５階　ゼミナール室

名札は配布後から着用すること。
巻末の案内図を参照すること。(P. 323～)

〈研究室配属・研究室紹介〉

No.	月	日	曜	限	担当者	項目	キーワード	授業形態	解剖学	生理学	生化学	再生・移植医学	法医学	微生物・免疫学	医学教育推進講座
1	4	20	水	4	各担当教員	各研究室毎に提示される	リサーチマインドの涵養、専門基礎医学教育修学法の確立など詳細は各研究室毎に提示される。	グループ演習		【前半】1班 【後半】6班	【前半】2班 【後半】7班	【前半】3班 【後半】8班	【前半】4班 【後半】9班	5班	10班
2	5	18	水	4	〃	〃	〃	〃	【前半】5班 【後半】10班		【前半】1班 【後半】6班	【前半】2班 【後半】7班	【前半】3班 【後半】8班	4班	9班
3	6	1	水	4	〃	〃	〃	〃	【前半】4班 【後半】9班	【前半】5班 【後半】10班		【前半】1班 【後半】6班	【前半】2班 【後半】7班	3班	8班
4		15	水	4	〃	〃	〃	〃	【前半】3班 【後半】8班	【前半】4班 【後半】9班	【前半】5班 【後半】10班		【前半】1班 【後半】6班	2班	7班
5		29	水	4	〃	〃	〃	〃	【前半】2班 【後半】7班		【前半】4班 【後半】9班	【前半】5班 【後半】10班		1班	6班
6	7	6	水	4	〃	研究室紹介①	各研究室の特徴や研究内容のトピックスの紹介、2年次での研究室配属への準備	オンデマンド型							
7		20	水	4	〃	研究室紹介②	〃	講　義							

【前半】　14:40分～15:20分
休憩10分
【後半】　15:30分～16:10分

研究室紹介①　腫瘍・血液・感染症内科学、心臓・血管内科学、呼吸器内科学、腎臓・膠原病内科学、臨床検査医学、産科婦人科学、麻酔科学
研究室紹介②　放射線医学、皮膚科学、歯科口腔外科学、消化器内科学

生　化　学　Ⅰ

Ⅰ．担当教員名

生　化　学	教　　授	安　永　晋一郎（科目責任者）
	講　　師	芝　口　浩　智（副責任者）
	〃	白　須　直　人
	〃	大　野　芳　典
情報基盤センター	准　教　授	瀬　川　波　子

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．生化学の基礎的事項について説明できる。(A-1)
2．栄養素とエネルギー、核酸の代謝、タンパク質の代謝、糖質と脂質の代謝、ビタミン及び無機質の代謝とその異常について説明できる。(A-1)
3．最新情報を収集し正しく応用できる。(A-2)
4．未解決の問題を発見し、解決へ取り組むことができる。(A-3)
5．自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。(A-4)
6．各種臓器の代謝機能とその異常について臨床の観点から説明できる。(C-1)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．栄養素とエネルギーについて
　1）栄養素と栄養所要量について説明できる。
　2）基礎代謝と特異動的作用について説明できる。
　3）栄養異常について、その概略を説明できる。
　4）標準自由エネルギー変化と高エネルギー化合物について説明できる。
　5）生体酸化還元とクエン酸回路、電子伝達系（呼吸鎖）について説明できる。
　6）酸化的リン酸化、基質準位リン酸化および化学的浸透圧説について説明できる。
　7）フリーラジカルの発生と作用を説明できる。
2．生体高分子の構造と機能について
　1）核酸の構造と機能を説明できる。
　2）糖質（炭水化物）の基本的な構造と機能を説明できる。
　3）脂質の基本的な構造と機能を説明できる。
　4）タンパク質の基本的な構造と機能を説明できる。
3．生体物質の代謝について
　1）酵素の機能と調節について説明できる。
　2）核酸の代謝について
　　a．ヌクレオチドの合成・異化・再利用経路を説明できる。
　　b．核酸の主な代謝異常を説明できる。
　3）タンパク質の代謝について
　　a．タンパク質の合成と分解を説明できる。
　　b．アミノ酸の異化と尿素合成の経路を説明できる。

ｃ．アミノ酸の主な代謝異常を説明できる。
ｄ．ヘム・ポルフィリンの代謝を説明できる。
４）糖質（炭水化物）の代謝について
ａ．解糖の経路と調節機構を説明できる。
ｂ．五炭糖リン酸経路の意義を説明できる。
ｃ．糖新生の経路と調節機構を説明できる。
ｄ．グリコーゲンの合成と分解の経路を説明できる。
ｅ．糖質の主な代謝異常を説明できる。
５）脂質の代謝について
ａ．リポタンパク質の構造と代謝を説明できる。
ｂ．脂質の合成と分解を説明できる。
ｃ．空腹時（飢餓）、食後（過食時）と運動時における代謝を説明できる。
ｄ．脂質の主な代謝異常を説明できる。
６）ビタミンの代謝について
ａ．ビタミンの種類と機能を説明できる。
ｂ．ビタミンの欠乏症と過剰症を説明できる。
ｃ．抗酸化ビタミンのフリーラジカル捕捉作用を説明できる。
７）無機質の代謝について
ａ．無機質の代謝を説明できる。
ｂ．無機質の主な代謝異常を説明できる。
４．組織・臓器の代謝について
１）主な臓器の代謝機能を説明できる。
２）主な臓器の代謝異常を説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．講義
担当教員が、指定教科書を利用しながら当日のテーマについて講義するので、これに出席し、主体性をもって参加する。また、学生と担当教員がそれぞれマイクを持ち、当日のテーマについて質疑・応答および討論が繰り返されるので、これに参加する。
講義内容を教科書に基づいてフォローし、メモや書き込みをする。
毎回授業の最初または最後に５～10分間で小テストを実施する。

２．テュートリアル
まとめ小テストを行いその結果に基づきグループ毎（TBL: team-based learning）に問題演習課題を学習し、その成果を発表・討論する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】
１．指定した教科書の該当項目を事前に読んでおく。**（必須）**（30分以上）

【復習】
１．講義後教科書を通読し、講義に基づき重要事項を整理して各章のつながりを系統的に理解する。また、講義に沿って作成された問題演習を行う。（60分以上）

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

１．前期講義内容全般について、前期試験期間に客観試験を実施する。（中間試験）
２．前期後期内容全般について、後期試験期間に客観試験を実施する。（本試験）
３．以上の採点に基づく結果および出席、授業態度、課題提出などの総合評価で合否を判定する。
４．合格点に達しないものは再試験（客観試験）を受験する。
５．再試験の採点に基づく結果および出席、授業態度、課題提出、まとめ小テスト結果などの総合評価で合否を判定する。

Ⅵ．**教科書**

１．安永晋一郎　編：モデル・コア・カリキュラム対応　医用生化学−生体物質の代謝と異常−2022年版　福岡大学医学部生化学講座　2022　ISBN 978-4990942656

Ⅶ．**参考書・文献**

１．川嵜敏祐　監：レーニンジャーの新生化学（上・下）　第７版　廣川書店　2019　ISBN 978-4567244084・ISBN 978-4567244091
２．入村達郎・岡山博人・清水孝雄・仲野　徹　監：ストライヤー生化学　第８版　東京化学同人　2018　ISBN 978-4807909292
３．横溝岳彦　訳：マークス臨床生化学　医学書院　2020　ISBN 978-4260041393
４．他の基礎医学・臨床医学で使われている教科書

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
スタートアップ授業					安永			イントロダクション	https://fukuoka-u.app.box.com/folder/152050566683	オンデマンド
1	4	11	月	4	〃	C-1	1)(1)②〜⑤⑦(2)①〜③	生化学序論と栄養1	細胞、組織、臓器(器官)、細胞周期、細胞死、アポトーシス、ゲノム、遺伝子、疾患、がん、生化学的検査、検体	講義
2				5	〃	C-2	5)⑯	生化学序論と栄養2	三大栄養素、五大栄養素、熱量(カロリー)、三大栄養素の代謝経路と相互変換、三大栄養素の化学的特徴、食事摂取基準、推定エネルギー必要量、基礎代謝、基礎代謝基準値、栄養素の推奨量、運動エネルギー消費量、健康日本２１、食事バランスガイド、栄養異常、体格指数(BMI)、標準体重、栄養不足	〃
						D-12	1)⑧⑨			
						F-1	4)			
3		13	水	4	安永・白須 芝口	C-1	1)(1)②〜⑤⑦(2)①〜③	生化学序論と栄養3 生体エネルギーと生体酸化1	栄養過剰・肥満、メタボリックシンドローム、食事療法、生体エネルギー、標準自由エネルギー変化、発エルゴン反応、吸エルゴン反応、高エネルギー化合物	〃
						C-2	5)③⑯			
						D-12	1)⑧⑨			
						F-1	4)			
4		18	月	4	芝口	C-2	5)③④	生体エネルギーと生体酸化2	クエン酸回路、CoA、アセチルCoA、基質準位のリン酸化、電子伝達系、電子伝達体、酸化還元電位、酸化還元酵素	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
5	4	18	月	5	安永	C-2	5) ③④⑭	生体エネルギーと生体酸化3	CoQ、酸化的リン酸化、化学浸透圧説、グリセロールリン酸シャトル、リンゴ酸-アスパラギン酸シャトル、活性酸素、過酸化脂質、ラジカルスカベンジャー、活性酸素分解酵素	講義
6		25	月	4	大野	C-2	1)(2) ④～⑥	核酸の基礎1	ヌクレオチド、ヌクレオシド、プリン塩基、ピリミジン塩基、核酸の分類、DNA、RNA	〃
7				5	〃	C-1	1)(2) ④～⑥	核酸の基礎2	遺伝子、ゲノム、エクソン、イントロン、遺伝子の発現、核酸の精製、遺伝子組換え、DNAシークエンシング、PCR、サザンブロット、ノーザンブロット、DNAマイクロアレイ、遺伝子多型	〃
8		27	水	4	安永・芝口	C-1	1)(1) ②～⑤ ⑦ (2) ①～③	栄養・エネルギーまとめ	TBL: 問題演習1	テュートリアル
						C-2	5) ③④⑭ ⑯			
						D-12	1)⑧⑨			
						F-1	4)			
9	5	2	月	4	安永	C-2	5)⑬	核酸の代謝とその異常1	核酸代謝の概要、核酸の消化と吸収、デノボ経路、サルベージ経路、プリンヌクレオチドの代謝、ピリミジンヌクレオチドの代謝	講義
10				5	〃	C-1	1)(2) ④～⑥	核酸の代謝とその異常2	デオキシリボヌクレオチドの合成、ヌクレオチド補酵素、ヌクレオチド合成阻害剤、5-FU、MTX、核酸代謝異常、痛風、レシュ・ナイハン症候群、ADA欠損症	〃
						C-2	5)⑬			
						C-4	3)④			
11		9	月	4	芝口	C-2	5)⑩	タンパク質の基礎1	アミノ酸、必須アミノ酸、ペプチド結合、タンパク質の分類、タンパク質の機能、一次構造、二次構造、三次構造、四次構造、αヘリックス、βシート	〃
12				5	〃	C-2	5)⑩	タンパク質の基礎2	タンパク質の精製と分析、ゲルクロマトグラフィー、イオン交換クロマトグラフィー、アフィニティクロマトグラフィー、電気泳動法、ウェスタンブロット法、質量分析法	〃
13		11	水	4	安永・大野	C-1	1)(2) ④～⑥	核酸まとめ	TBL: 問題演習2	テュートリアル
						C-2	5)⑬			
						C-4	3)④			
中間フォローアップ授業					安永			振り返り	講義の途中でお知らせ	オンデマンド

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
14	5	16	月	4	芝口	C-2	5)①	タンパク質の基礎3	酵素タンパク質、補酵素、触媒、基質特異性、活性化エネルギー、酵素活性、基質濃度、ミカエリス・メンテン式、温度、pH、アロステリック修飾因子、化学修飾、酵素阻害剤、アイソザイム	講義
15				5	安永	D-12	1) ①〜④	タンパク質の基礎4	情報伝達タンパク質、ペプチドホルモン、アミンホルモン、松果体ホルモン、視床下部ホルモン、下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン	〃
16		23	月	4	〃	D-12	1) ⑤〜⑦	タンパク質の基礎5	膵臓ホルモン、消化管ホルモン、副腎ホルモン、心臓ホルモン、神経ペプチド、神経伝達物質	〃
17				5	〃	C-2	3)(1)	タンパク質の基礎6	サイトカイン、成長因子、受容体タンパク質、リガンド、細胞膜受容体、細胞内受容体、細胞内シグナル伝達分子、構造維持タンパク質、静的構成成分	〃
18		25	水	4	安永・芝口	C-2	5)①⑩	タンパク質の基礎まとめ1	TBL: 問題演習３	テュートリアル
19		30	月	4	安永	C-2	1)(2)	タンパク質の基礎7	細胞外基質、細胞骨格、細胞膜の裏打ち構造、染色体構造、ヒストン、細胞接着タンパク質、細胞接着分子、収縮作用タンパク質、アクチン、ミオシン	講義
20				5	〃	C-2	1)(1) ②③	タンパク質の基礎8	血漿輸送タンパク質、アルブミン、トランスフェリン、セルロプラスミン、ヘモグロビン、膜輸送タンパク質、輸送体、GLUT、SGLT、イオンチャネル、イオンポンプ	〃
21	6	6	月	4	〃	C-2 C-3 D-1	3)(3) 2)(1)④ (2)①② 1)⑤⑧	タンパク質の基礎9	生体防御タンパク質、HLA、T細胞受容体、抗体、補体、Toll様受容体、血液凝固・線溶系タンパク質、血液凝固因子	〃
22				5	〃	D-5 D-8	1)⑬ 1)⑥⑦	タンパク質の基礎10	ユビキチン、オートファジー、熱ショックタンパク質、プリオン、モータータンパク質、急性期タンパク質、ムチン、アンジオテンシン、浸透圧維持タンパク質、緩衝作用タンパク質、テロメラーゼ	〃
23		8	水	4	安永・芝口	C-1 C-2	1)(2) ⑤ 5)⑩	タンパク質の代謝とその異常1	タンパク質代謝の概要、タンパク質の消化と吸収、タンパク質の生合成、プロモーター、エンハンサー、エピジェネティクス	〃
24		13	月	4	安永	C-2	5)⑩	タンパク質の代謝とその異常2	アミノ酸代謝の概要、アミノ酸の分解、アミノ基の代謝、アンモニア、尿素回路、炭素骨格の代謝、アミノ酸の合成、アミノ酸から各種窒素化合物の合成、生体アミン(カテコールアミン)	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
25	6	13	月	5	安永	C-2	5)⑫	タンパク質の代謝とその異常３	その他の生体アミン、クレアチン、クレアチニン、甲状腺ホルモン、ポルフィリン、ヘム、ヘモグロビン、ビリルビン、グルタチオン、タウリン、メラニン、一酸化窒素、コリン	講義
26		20	月	4	〃	C-4	3)②	タンパク質の代謝とその異常４	タンパク質代謝異常、多発性骨髄腫、Mタンパク質、ベンス・ジョーンズタンパク質、慢性肝不全、低アルブミン血症、アンモニア、フィッシャー比、アミロイドーシス、アミロイド、コンゴレッド染色	〃
						D-8	3)(3)②③			
27				5	〃	C-4	3)②	タンパク質の代謝とその異常５	アミノ酸代謝異常、フェニルケトン尿症、ホモシスチン尿症、メープルシロップ尿症、尿素サイクル異常症、高アンモニア血症、有機酸代謝異常症、有機酸血症、有機酸尿症、ビリルビンの代謝異常、高ビリルビン血症、黄疸、新生児黄疸、ポルフィリン症、新生児マススクリーニング	〃
28		22	水	4	安永・芝口	C-2	1)(1)②③ 1)(2) 3)(1) 3)(3)	タンパク質の基礎まとめ２	TBL: 問題演習４	テュートリアル
						C-3	2)(1)④ (2)①②			
						D-1	1)⑤⑧			
						D-5	1)⑬			
						D-8	1)⑦			
						D-12	1)①～⑦			
29		27	月	4	大野	C-2	5)②⑤～⑦	糖質の基礎１	糖質の分類、糖質の機能、単糖、アルドース、ケトース、立体異性体、アノマー、エピマー、グリコシド性-OH、グリコシド結合、配糖体、重要な単糖類、糖酸、糖アルコール、アミノ糖、デオキシ糖、オリゴ糖、還元性二糖、非還元性二糖、マルトトリオース	講義
30				5	〃	C-2	5)②⑤～⑦	糖質の基礎２	多糖、デンプン、デキストリン、グリコーゲン、セルロース、寒天、複合糖質、プロテオグリカン、グリコサミノグリカン、ヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸、ヘパリン、糖タンパク質、糖脂質、血液型物質	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
31	7	4	月	4	安永	C-1	1)(2)⑤	タンパク質の代謝まとめ	TBL: 問題演習５	テュートリアル
						C-2	5)⑩⑫			
						C-4	3)②			
						D-8	3)(3)②③			
32				5	〃	C-2	5)①	糖質の代謝とその異常１	糖質代謝の概要、糖質の消化と吸収、解糖系、嫌気的解糖、パスツール効果、ワールブルク効果、アルコール発酵、律速酵素、五炭糖リン酸経路、ヌクレオチド、$NADP^+$、グルクロン酸経路、UDP-グルコース、糖ヌクレオチド、グルクロン酸抱合、ビリルビンジグルクロニド	講義
33		11	月	4	〃	C-2	5)⑦	糖質の代謝とその異常２	糖新生、コリ回路、グルコース・アラニン回路、その他の単糖の代謝、ガラクトース代謝、マンノース代謝、フルクトース代謝、グリコーゲン合成、グリコーゲン分解、ホスホリラーゼ、ホスホリラーゼキナーゼ、糖代謝によるATPの生成、グリセロールリン酸シャトル、リンゴ酸-アスパラギン酸シャトル、熱効率	〃
34				5	〃			前期総括１	前期学習範囲のまとめ、アンケート	〃
35		13	水	4	安永・芝口			前期総括２	前期学習範囲のまとめ	〃
36	9	19	月	4	安永			学習範囲の総復習	本試験に備えて学習範囲の総復習	課題学習
37				5	〃			〃	〃	〃
38		26	月	4	〃	C-2	5)⑤⑥	糖質の代謝とその異常３	グリコシレーション、糖転移酵素、グリケーション、アマドリ化合物、HbA_{1c}、GA、終末糖化産物(AGE)、1,5-AG、糖質代謝異常、先天性糖代謝異常症、ラクトース不耐症、ガラクトース血症、糖原病、フォンギールケ病、ポンペ病	講義
39				5	〃	C-2	5)③④	糖質の代謝とその異常４	糖尿病、インスリン、高血糖症、糖尿、ケトン症、アシドーシス、１型糖尿病、２型糖尿病、ペットボトル症候群、低血糖症、インスリノーマ、複合糖質の代謝異常、ムコ多糖症、ハーラー症候群、ハンター症候群、グリコプロテイン代謝異常症、先天性グリコシル化異常症	〃
						C-4	3)①			
40		28	水	4	安永・瀬川白須	C-2	5)⑧⑨	脂質の基礎１	脂質の分類、脂質の機能、脂肪酸	〃
41	10	3	月	4	〃	C-2	5)⑧⑨	脂質の基礎２	飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸、トランス脂肪酸、EPA、DHA、必須脂肪酸、エイコサノイド	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
42	10	3	月	5	安永・瀬川 白須	C-2	5)⑧⑨	脂質の基礎３	単純脂質、中性脂肪、TG、DG、MG、複合脂質、グリセロリン脂質	講義
43		12	水	4	安永・大野	C-2 C-4	5)①～⑦ 3)①	糖質まとめ	TBL: 問題演習６	テュートリアル
中間フォローアップ授業					安永			振り返り	講義の途中でお知らせ	オンデマンド
44		17	月	4	〃	C-2	5)⑧⑨	脂質の基礎４	スフィンゴリン脂質、糖脂質、リポポリサッカライド、ステロイド、コレステロール、胆汁酸、プロビタミンD、ステロイドホルモン	講義
45				5	〃	C-2	5)⑨	脂質代謝とその異常１	脂質代謝の概要、血漿リポタンパク質、カイロミクロン、VLDL、IDL、LDL、HDL、脂質の消化と吸収、カイロミクロン系、VLDL-LDL系、HDL系、中性脂肪の加水分解	〃
46		24	月	4	〃	C-2	5)⑧	脂質代謝とその異常２	中性脂肪の生合成、一般経路、腸経路、β酸化、ケトン体とケトーシス、脂肪酸の生合成、脂肪酸合成酵素(FAS)、アシルキャリアータンパク質(ACP)、アセチルCoAカルボキシラーゼ（ACC）	〃
47				5	〃	C-2	5)⑧	脂質代謝とその異常３	リン脂質の代謝、ホスホリパーゼ、アラキドン酸カスケード、細胞内シグナル伝達、イノシトールリン脂質、DG、IP_3、スフィンゴ糖脂質の代謝	〃
48		26	水	4	安永・白須	C-2	5)⑧	脂質代謝とその異常４	ステロイドの代謝、コレステロール合成、スタチン、胆汁酸、ステロイドホルモン	〃
49		31	月	4	安永	C-2	5)⑧	脂質代謝とその異常５	脂質代謝異常、高脂血症、低脂血症、脂肪酸代謝異常症、脂質蓄積症、G_{M2}ガングリオシドーシス、ゴーシェ病、ファブリー病、ニーマン・ピック病、ライソゾーム病、先天性ステロイド代謝異常症	〃
50				5	白須	C-2 C-4	5)⑮ 3)⑤	ビタミン１	ビタミンの歴史、ビタミンの種類、水溶性ビタミン、脂溶性ビタミン、ビタミンの所要量、ビタミンB_1、TPP、ビタミンB_2、FAD、FMN、グルタチオン、ナイアシン、NAD^+、$NADP^+$	〃
51	11	7	月	4	〃	C-2 C-4	5)⑮ 3)⑤	ビタミン２	ビタミンB_6、PLP、PMP、ビタミンB_{12}、Ado-B_{12}、CH_3-B_{12}、葉酸、C_1単位、THF、パントテン酸、CoA、ACP、ビオチン、アビジン、ビタミンC、コラーゲン代謝	〃
52				5	〃	C-2 C-4	5)⑮ 3)⑤	ビタミン３	ビタミンA、レチノイド、ビタミンD、カルシフェロール、ビタミンE、トコフェロール、ビタミンK、Gla化、PIVKA-Ⅱ	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
53	11	9	水	4	安永・白須	C-2	5)⑧⑨	脂質まとめ	TBL: 問題演習７	テュートリアル
						C-4	3)③			
54		14	月	4	白須	C-2	1)(1) 3)(4) ①② 5)⑮	水・無機質代謝とその異常１	水代謝の概要、水代謝の調節、細胞内液、細胞外液、電解質組成、電解質の役割、酸塩基平衡、アニオンギャップ、膜電位、体液浸透圧、無機質代謝の概要	講義
						C-4	3)⑤			
						D-8	1)① ③～⑥			
55				5	〃	C-2	5)⑮	水・無機質代謝とその異常２	無機質の分布と機能、Na、K、Ca、Mg、P、S、Cl、Fe、Cu、Mn、I、Co、Zn、Se、Mo、F、Cr	〃
56		21	月	4	安永	C-2	5)⑮	ビタミンまとめ	TBL: 問題演習８	テュートリアル
						C-4	3)⑤			
57				5	〃	C-4	3)⑤	水・無機質代謝とその異常３	無機質代謝異常、脱水、浮腫、高Na血症、低Na血症、高K血症、低K血症、高Ca血症、低Ca血症、高P血症、低P血症、鉄代謝異常、鉄欠乏性貧血、銅代謝異常、亜鉛欠乏	講義
						D-8	3)(3) ①②			
58		28	月	4	〃	D-7	1) ⑥～⑩ ⑫	主な臓器・組織の代謝機能とその異常１	消化器系、消化管、消化酵素、消化管ホルモン、胆汁酸、肝臓、胆汁色素、黄疸、糖原病、糖尿病	〃
59				5	〃	D-7	1)①	主な臓器・組織の代謝機能とその異常２	アルコール代謝、低アルブミン血症、高アンモニア血症、フィッシャー比、解毒作用、逸脱酵素、胆のう、胆石、膵臓、外分泌、内分泌	〃
							4)(5)⑥			
60	12	5	月	4	〃	D-5	1)②⑫	主な臓器・組織の代謝機能とその異常３	筋骨格系、骨格筋、クレアチンリン酸、クレアチンキナーゼアイソザイム、骨、コラーゲン、Ca代謝、循環器系、心筋、心筋トロポニン、心筋ミオシン軽鎖Ｉ、H-FABP、BNP、血管、VEGF、FGF	〃
						D-6	1)⑥⑨			
61				5	〃	D-2	1)(1) ①③④	主な臓器・組織の代謝機能とその異常４	呼吸器系、肺サーファクタント、SP-A、SP-D、KL-6、腎・泌尿器系、クレアチニンクリアランス、タンパク尿、ベンスジョーンズタンパク質、エリスロポエチン、レニン、生殖器系、精巣、前立腺特異抗原、卵巣、脳神経系、血液脳関門、神経伝達物質	〃
						D-6	1)⑥⑩			
						D-8	1) ③～⑦ 2)②			
						D-9	1)⑧ 2)(2)①			
62		7	水	4	安永・白須	C-2	1)(1) 3)(4) ①② 5)⑮	水・無機質代謝まとめ	TBL: 問題演習９	テュートリアル
						C-4	3)⑤			
						D-8	1)① ③～⑥ 3)(3) ①②			

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
63	12	12	月	4	安永	D-1	1) ②③ ⑤～⑧	主な臓器・組織の代謝機能とその異常５	血液・造血器・免疫系、造血幹細胞、赤血球、2,3-BPG、貧血、PK欠損症、G6PDH欠損症、ヘモグロビン異常症、鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血	講義
64				5	〃	C-3	2) (1) ①②	主な臓器・組織の代謝機能とその異常６	白血球、自然免疫、獲得免疫、遺伝子再構成、モノクローナル抗体、細胞性免疫、NK細胞、パーフォリン、グランザイム、フローサイトメーター、白血病	〃
						D-12	1) ①～⑦			
65		19	月	4	〃	D-1	1)⑧ 4) (2) ①～④ (4) ①～④ ⑧⑨	主な臓器・組織の代謝機能とその異常７	骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、免疫不全症、血小板、内分泌系、ホルモン、結合組織、脂肪組織、アディポサイトカイン、平滑筋	〃
						D-12	1) ①②⑨			
66				5	〃	C-2	5) ①～⑦ ⑩～⑬ ⑯	主な臓器・組織まとめ１	TBL: 問題演習10	テュートリアル
						C-3	2) (1) ①②			
						D-1	1)②③ ⑤～⑧			
						D-2	1) (1) ①③④			
						D-5	1)②⑫			
						D-6	1)⑥⑨			
						D-7	1)① ⑥～⑩ ⑫			
						D-8	1) ③～⑦ 2)②			
						D-9	1)⑧ 2) (2)①			
						D-12	1) ①～⑦ ⑨			
67		21	水	4	安永・白須	〃	〃	主な臓器・組織まとめ２	TBL: 問題演習11	〃
68		26	月	4	安永			総括１	生化学全般、アンケート	講義
69				5	〃			総括２	生化学全般	〃
70	1	11	水	4	安永・白須			総括３	生化学全般	〃
中間フォローアップ授業					安永			振り返り	講義の途中でお知らせ	オンデマンド

※前期、後期あわせて４回は遠隔授業とする。

医学入門（先端医療　ザ・プロフェッショナル）

Ⅰ．担当教員名

	学　長	朔　啓二郎	
生　理　学	教　授	藤　田　孝　之	（科目責任者）
消化器内科学	教　授	平　井　郁　仁	（副責任者）
再生・移植医学	教　授	小　玉　正　太	
法　医　学	教　授	久　保　真　一	
腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙　松　　泰	
内分泌・糖尿病内科学	教　授	川　浪　大　治	
腎臓・膠原病内科学	教　授	升　谷　耕　介	
脳神経内科学	教　授	坪　井　義　夫	
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	教　授	佐　藤　寿　彦	
心臓血管外科学	教　授	和　田　秀　一	
整 形 外 科	准 教 授	前　山　　彰	
産科婦人科学	教　授	宮　本　新　吾	
総合診療部	教　授	鍋　島　茂　樹	

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．医療現場での様々な課題について、その多面性・社会性について理解する。(A-3)
2．医学を学んでいく上で必要な基本姿勢や、将来、医療のプロフェッショナルになるために必要な心構えを理解する。(A-4)
3．生命倫理に基づいた臨床診療行為、基礎・臨床医学研究遂行の重要性を理解する。(C-1)
4．将来、医療のプロフェッショナルとなり、患者に寄り添い、地域社会に貢献する使命感について考える（C-4)
5．医療現場における多職種連携の重要性を理解する。(C-5)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies)

1．将来の医療人としての大切な心構えを説明できる。
2．医療人・医学研究者の魅力とやりがいについて説明できる。
3．医学・医療の進歩における医学研究の重要性を説明できる。
4．高度専門医療とプライマリ・ケアについて、意義・必要性等を説明できる。
5．医療現場での様々な課題を列挙できる。
6．チーム医療の重要性について説明できる。
7．地域医療の重要性について説明できる。
8．将来の理想の医療人への道（キャリアデザイン）を考え、今から必要なことが何かを列挙できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．担当教員が、それぞれの専門医療の現場から見た将来のキャリアデザインに必要な事柄を講義時間内に熱く語るので、出席して積極的に質問をし、議論を通して理解を深める。

２．各授業について、その要旨や、それについて自分が考えたことをレポートにまとめて提出する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．学修要項のキーワードについて、事前学習して講義に臨む。(30分)

【復習】

１．講義・講演内容、授業中の討論を振り返り、学んだこと、考えたことをもとに、参考書などで更に情報を集め、理解を深める。(30分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

出席状況、授業態度、レポートなどを総合的に判断する。

評価は合否で行う。

Ⅵ．**教科書**

特に指定しない。

Ⅶ．**参考書・文献**

必要時、各担当者から講義の中で紹介する。

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
スタートアップ授業					藤田孝			イントロダクション	https://fukuoka-u.app/box.com/folder/152049657226	オンデマンド
1	4	13	水	3	朔	G-3	4)	心臓救急最前線	急性冠症候群、AED、胸骨圧迫、心肺蘇生法	講義
2		20	水	3	和田	D-5	4)(2)(4)(7)	心臓手術の歴史と未来：どのように始まり、どこに向かうか	心臓手術、歴史、過去、未来	〃
3		27	水	3	髙松	E-3 F-2 A-3	1)3) 8) 1)	がんを知り、がんと向き合う	腫瘍の病態・症候、抗腫瘍薬の適応、有害事象、全人的医療	〃
4	5	11	水	3	宮本	A-8	1)	少子化克服を目指した臨床研究	不妊症、再生医療(脂肪幹細胞)、次世代シークエンス、子宮内感染	〃
5		18	水	3	川浪	A-5	1)	志望科の選択～私の経験から～	研修医、レジデント、大学院、研究、人との出会い	〃
6		25	水	3	小玉	F-2 A-8	12)13) 1)	再生医療	再生医療、細胞移植	〃
7	6	1	水	3	坪井	D-2		患者から学ぶ技術	神経所見のとり方、中枢神経、末梢神経、自律神経の働き	〃
8		8	水	3	佐藤	A-8 G-3	1) 3)	肺がん・外科手術最前線	ロボット外科、低侵襲外科、がん治療	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
9	6	15	水	3	升谷	F-2	13)	輸血と移植 ↓ 臓器移植の現場を知る	脳死下臓器提供、心停止下臓器提供、腎移植	講義
10		22	水	3	前山	D-4	1)①,③～⑧ 2)～4)	整形外科って何するの？	四肢・脊椎・運動器疾患	〃
11		29	水	3	平井	D-7	1)2)4)	胃と腸の“はたらき”と“病気”	消化器機能、消化器がん、炎症性腸疾患、内視鏡治療	〃
12	7	6	水	3	鍋島	B-1	4)～8)	総合医療医からのメッセージ	内科診断学、ウイリアム・オスラー、プライマリ・ケア、家庭医療	〃
						B-2	1)2)			
						B-3	1)			
13		13	水	3	久保	B-2	1)	30年後の日本の姿 法中毒研究最前線	死因究明制度、薬物中毒、アルコール、医薬品、質量分析計	〃
						C-3	3)			
						E-5	1)			
14		20	水	3	藤田孝	A-8	1)	医療人となること	循環器疾患、臨床医学、基礎医学、医学研究	〃

医学生のための生命科学

Ⅰ．担当教員名

細胞生物学　教　　授　白　澤　専　二（科目責任者）
　　准　教　授　角　田　俊　之（副責任者）
　　〃　　石　倉　周　平

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．生命活動の基本単位は細胞であることを理解できる。(A-1)
2．病気とは“ホメオスターシス”が破綻した状態であることを理解できる。(A-1)
3．生命の本質的存在であるゲノムを理解できる。(A-1)
4．細胞の基本構造と機能について理解できる。(A-1)
5．癌（がん）・糖尿病・自己免疫疾患を題材として、各疾患を分子・細胞・組織レベルで理解できるように努める。(A-1)
6．医学・医療に対して自主性と積極性を持って学修する姿勢を身につける。(A-1)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．生命科学と医療の結びつきを理解する。
2．基礎医学を理解する重要性を認識する。
3．ゲノム、遺伝情報、遺伝子発現の分子メカニズムについて理解する。
4．細胞膜と細胞内小器官の構造と機能を理解する。
5．糖質・蛋白質・脂質代謝、ATP 産生過程について理解する。
6．分子間、細胞間、組織間ネットワークの存在と意義を理解する。
7．細胞の増殖・分化・アポトーシスについて理解する。
8．幹細胞、iPS 細胞、ES 細胞の概念を理解する。
9．受精卵から各種器官が形成される過程を理解する。
10．癌、自己免疫疾患、メタボリックシンドロームについて概念を理解する。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

1．講義：スライド、板書によって行われる講義を聴講する。復習を十分に行う。また、Moodle に掲載する講義資料を必ず印刷して講義に臨む。
2．レポート提出：課題に対してレポートを提出する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

1．Moodle に掲載している講義資料を事前にプリントアウトして、講義概要を確認してくること。(15分)

【復習】

1．講義後は、必ず講義内容に関して理解を深めること。(30分)
2．授業時に示す課題（ゲノム、膜と小器官、細胞周期と癌、免疫担当細胞、物質・エネルギー代謝とメタボリックシンドローム、幹細胞）について、レポートを作成し提出すること。(45分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

１．期末試験：講義内容およびレポート課題に関して筆記試験を行う。

２．レポート：採点結果を総合評価に加味する。

３．１、２ならびに出席状況、授業態度をもって総合的に評価する。

Ⅵ．**教科書**

特に指定しない

Ⅶ．**参考書・文献**

１．組織細胞生物学　原著第３版　南江堂

２．モデル・コア・カリキュラム対応　医用生化学　2021年版　安永晋一郎編著　福岡大学医学部生化学講座

３．内科学　第11版　朝倉書店

４．Janeway's 免疫生物学　原著第９版　南江堂

５．標準生理学　第９版　医学書院

６．ラングマン人体発生学　第11版　メディカル・サイエンス・インターナショナル

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
スタートアップ授業								イントロダクション	https://fukuoka-u.app.box.com/file/895389568242	オンデマンド
1	9	19	月	3	白澤・角田	C-1	1) (1) (2) 2) (1)	生命科学と医療	生命科学、基礎研究と臨床、オーダーメイド医療、再生医療、分子標的療法、VINDICATE+P	課題学習
2		26	月	3	〃	C-1	1) (1) (2) 2) (1)	〃	〃	講義
3	10	3	月	3	白澤	C-1	1) (2)	遺伝情報・遺伝子発現調節－１	DNA、DNAの複製と修復、転写、翻訳、セントラルドグマ、染色体構造、転写調節	〃
4		17	月	3	〃	C-4	1)	遺伝情報・遺伝子発現調節－２	多因子疾患、遺伝子多型、SNP、HLA、エピゲノム、クロマチンリモデリング、RNA干渉、miRNA	〃
5		24	月	3	〃	C-1	1) (1)	細胞膜・細胞内小器官・細胞骨格－１	脂質二重層、小胞輸送、ミトコンドリア、リボソーム、小胞体、アクチン、微小管、中間径線維、モーター蛋白	〃
6		31	月	3	〃	C-2	1) (1)	細胞膜・細胞内小器官・細胞骨格－２	イオンチャネル、トランスポーター、膜電位、酸塩基平衡、電解質代謝	〃
7	11	7	月	3	〃	C-2	3) (1)	細胞周期・シグナル伝達	シグナル伝達、レセプター、リガンド、リン酸化カスケード、プロテアソーム、生理活性物質	〃
8		14	月	3	白澤・角田	C-4 E-3	2) 1) ①②	癌	癌遺伝子、癌抑制遺伝子、多段階発癌、RB、p53、K-Ras、Bcl-2、アポトーシス	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
9	11	21	月	3	白澤	C-3	2) (1)～(4)	血液細胞・免疫担当細胞・自己免疫疾患	赤血球、血小板、好中球、好酸球、好塩基球、単球、T細胞、B細胞、抗原提示細胞、HLA、TCR、Th1、Th2、Th17、Treg、自然リンパ球	講義
10		28	月	3	白澤・石倉	C-2	5)	生体構成物質・代謝・生体エネルギー	代謝の基本反応、エネルギー産生系、酵素活性の調節、酸化的リン酸化、ATP合成酵素	〃
11	12	5	月	3	〃	C-2	5)	糖質代謝・脂質代謝・メタボリックシンドローム・糖尿病-1	解糖系、β酸化、酸化的リン酸化、ATP合成	〃
12		12	月	3	〃	C-2	5)	糖質代謝・脂質代謝・メタボリックシンドローム・糖尿病-2	AMPK、メトホルミン、血中リポ蛋白質、必須脂肪酸、COX、5-LOX、アディポカイン、インスリン、インクレチン、GLP-1	〃
13		19	月	3	白澤・角田	C-2	4)	発生学総論・再生医療	ES細胞、組織幹細胞、iPS細胞、外胚葉・中胚葉・内胚葉	〃
14		26	月	3	白澤・角田・石倉			研究室紹介		〃

行　動　科　学　Ⅰ

Ⅰ．担当教員名

医学教育推進講座	教　　授	安　元　佐　和（科目責任者）
	准　教　授	八　尋　英　二（副責任者）
	講　　師	武　岡　宏　明
精神医学	教　　授	川　嵜　弘　詔
	臨床心理士	矢　野　里　佳
再生・移植医学	教　　授	小　玉　正　太
循環器（心臓血管・リズムセンター）	准　教　授	西　川　宏　明（西新病院）
心臓血管外科学	教　　授	和　田　秀　一
救命救急センター	准　教　授	喜多村　泰　輔
医学系研究・生命医療倫理部門	准　教　授	今　泉　　聡
人文学部 教育・臨床心理学科	教　　授	徳　永　　豊
教育開発支援機構	准　教　授	須　長　一　幸

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

１．将来の医療人になるために必要な、生命・医療の倫理を理解し、倫理的原則に基づき行動できる。(B-4)

２．人の行動の背景や多様性について説明できる。(B-4)

３．医療人（基礎医学、社会医学、臨床医学、国際医療）へのキャリアパスを理解する。(C-4)

４．人の認知特性とストレスマネージメントについて説明できる。(C-5)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．医療人としての倫理・使命について説明できる。

２．医学情報、診療情報の取扱いに関する注意事項、取扱い方について説明できる。

３．自分の将来の医療人としての夢を語り、キャリアパスを想起できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．担当教員が当日のテーマについて講義と TBL、グループ討論を実施する。

２．授業、講義後に確認テスト及びレポートを作成する。

３．「Vision Board」1分間プレゼンテーションを各自行う。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．講義で出された課題について自己学習、あるいはグループ学習を必須とする。(60分)

【復習】

１．プリントや資料によりレポートをデータ、及びプリントアウトして提出する。(30分)

V．成績評価および方法（Evaluation）

看護実習・心肺蘇生実習20％、課題提出20％、Vision Board 20％、テスト20％、研究室配属を含む授業参加態度20％で、総合的に評価する。

Vision Board 発表については必須とする。

Ⅵ．教科書

特に指定しない。

Ⅶ．参考書・文献

必要時、各担当者が講義の中で紹介する。

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
スタートアップ授業					安元			イントロダクション	講義の中でお知らせ	オンデマンド
1	9	21	水	3	〃	B-1 B-4	(6) (1)	行動科学概説	行動特性　保健行動 患者の社会心理　文化的背景	講義
2		28	水	3	〃	C-5	(5)(6)	行動科学	自分の強み・弱み　キャリアパス	〃
3	10	5	水	3	今泉	A-1 B-3	(1)	医の倫理と生命倫理	ジュネーブ宣言 ヘルシンキ宣言 職業倫理指針 医師憲章 臨床倫理 研究倫理	〃
4		12	水	3	徳永	B-4		社会医学	多様性 バイアス(偏見) 障害	〃
5		19	水	3	安元	C-5	(1)(2)	人の行動と心理	行動科学 動機付け 人の行動と行動変容	〃
6		26	水	3	須長	B-4		社会と医学	医療社会学　人類学	〃
7	11	2	水	3	川嵜 (矢野)	A-4		精神医学	メタ認知トレーニング	〃
8		9	水	3	安元	C-5	(4)	ストレス	ストレスマネージメント コーピング	〃
9		16	水	3	小玉・和田	A-9	(1)	医師のキャリアパス Ⅰ	海外留学 生涯学習 大学院	〃
10		30	水	3	安元	A-9	(1)	医師のキャリアパス Ⅱ	男女共同参画	〃
11	12	7	水	3	喜多村・西川	A-9	(1)	医師のキャリアパス Ⅲ	臨床専門医、救命救急医 心臓カテーテル	〃
12		14	水	3	安元	A-9	(1)	Vision Board	プレゼンテーション	全体発表
13		21	水	3	武岡	A-2	(2)	医師のキャリアパス Ⅳ	総合診療医	講義
14	1	11	水	3	安元 八尋・武岡	A-2	(1)	まとめ	確認テスト	試験

行動科学Ⅰ（看護実習・C･C 体験）

Ⅰ．担当教員名

医学教育推進講座	教　　授	安　元　佐　和（科目責任者）
	准 教 授	八　尋　英　二（副責任者・実務責任者）
	講　　師	武　岡　宏　明
看　護　部	看護部長	甲　斐　純　美
	教育担当師長	中　村　悦　子

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．医療の現場を見学し、チーム医療を理解する。(B-4)
2．C･C 体験から医療者プロフェッショナリズムを理解する。(C-1)
3．臨床実習前に身につけておくべき自己の課題を考えることができる。(C-4)
4．医療現場の体験実習を通して、患者の入院生活や心理を理解する。(C-5)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．患者の入院生活や環境を説明できる。
2．入院生活の心理状態の多様性を説明できる。
3．医療チームを構成する異なる職種の医療スタッフ３職種以上（医師・看護師以外）にインタビューし、役割を説明できる。
4．プライバシー保護について考え、患者の権利について説明できる。
5．医学生に必要な態度について説明できる。
6．医療現場の体験から得られた自己の学習目標を設定できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

1．実習は下記の日程で、福岡大学病院、筑紫病院、西新病院の各病棟で行う。
2．実習上の諸注意を厳守する。
3．オリエンテーション時から白衣を着用し、名札をつける。
4．実習の意義を理解し、注意事項を確認して参加する。終了後は実習で学んだことをポートフォリオにまとめ、他のグループの発表も参考にして、広く医療現場に対する理解を深めるとともに、自己の学習目標の設定に役立てる。(60分)

日　程

月　　日	午　　前	午　　後
9月5日㈪	8：45 集合 9：00 ～ オリエンテーション 場所：臨床大講堂 司会：科目責任者 (1 年生主担任、学部長、教務委員 病院長、看護部長、副看護部長、 医学教育推進講座)	12：50 集合 13：00 ～ 病棟オリエンテーション 院内見学（各部署） M5 との顔合わせ（RI 大講堂）
9月6日㈫ 9月7日㈬ 9月8日㈭	8：30 ～ 17：00 病棟実習（看護実習 A・B）(C・CC)・ポートフォリオ作成 8：30 ～ 17：00 病棟実習（看護実習 A・C）(C・CB)・ポートフォリオ作成 8：30 ～ 17：00 病棟実習（看護実習 B・C）(C・CA)・ポートフォリオ作成	
9月9日㈮	ふりかえり、発表準備 (RI 大講堂)	成果発表会（RI 大講堂）

※ C・C 体験の開始時刻及び終了時刻は各診療科ごとに異なる

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

実習への参加態度、ポートフォリオ、看護師・M5学生・患者を含めた360°評価を合わせて総合的に評価する。

実習上の諸注意

１．実習態度

１）病院は、患者の療養、生活の場であることを理解して行動する。
２）医学科の学生であることを自覚し、節度ある謙虚で真摯な態度をとる。
３）５分前行動を厳守する。
４）欠席、遅刻はしない。（欠席・遅刻する場合は、医学部事務課に連絡する）
５）実習の開始・終了時は、病棟師長に挨拶をする。
６）私語や私的な行動を慎み、学生間では、姓名を呼ぶ。
７）実習で関わる人々に対して、状況に応じた挨拶、言葉遣いを心がける。
８）病院内の移動は、原則として、エレベーターを使用しない。
９）デイルームや外来などのソファーに座らない。
10）医療器具や患者の物品を破損させたり等、トラブルが発生した際は、すみやかに病棟師長に報告する。

２．服装・身だしなみ・携帯品

１）ケーシー白衣・黒のスラックス（スカートやジーンズ、ワークパンツ、ワイドパンツ、足首が見える丈のものは禁止）・名札・白の不織布マスクを着用する。
２）白の無地のＴシャツ（色柄文字禁止）、靴下（スニーカーソックスは不可）は黒を着用し、ケーシー白衣はアイロンをかけ、しわのないようにする。
３）靴は清潔で音の出ない黒の無地のスニーカー（ハイカット・サンダル・クロックス・革靴禁止）を選ぶ。
４）髪型、髪の色などにも配慮し、長髪は飾りのない黒ゴムで一つに束ねる。（茶髪禁止）
５）化粧は華美にしない。（つけまつげ禁止）
６）爪は切り、ネイル・マニキュアはしない。
７）指輪、アクセサリーはつけない。
８）香水・整髪料など匂いの強いものは避ける。
９）ヒゲはきちんと剃る。

３．個人情報の取り扱い

１）患者に関する個人情報・実習中に知り得た情報は一切口外しない。
２）実習中にとったメモなどは、置き忘れや紛失がないようにする。（患者情報はメモをとらない）

４．その他

１）病院内では、携帯電話は使用しない。病棟内に持ち込まない。
２）病院内・敷地内とその周辺では、全ての場所で禁煙を厳守する。
３）規則正しい食生活と十分な睡眠を心がけ体調を整える。
体調不良時は、すみやかに報告する。
４）病棟への持ち込みはファイルなど必要最低限にする。（手荷物・部活動の道具等の持込不可）
ロッカーの借用については、前日までに医学部事務課で手続きを行うこと。
５）ポートフォリオの記入は病棟では行わない。（PC 教室を利用する）

行動科学Ⅰ（心肺蘇生実習）

Ⅰ．担当教員名

医学教育推進講座	教　　授	安　元　佐　和（科目責任者）
	准 教 授	八　尋　英　二（副責任者）
救命救急センター	准 教 授	喜多村　泰　輔（実務責任者）
麻　酔　科	助　　教	南　原　菜穂子（実務担当者）（手術部）
	〃	今給黎　佑　理（　〃　）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

１．患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。(B-4)
２．医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。(C-4)
３．患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。(C-5)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．一次救命処置の各手技を正しく実施できる。
　１）安全確認と感染防御を正しく実施できる。
　２）意識の確認を正しく実施できる。
　３）頭部後屈あご先挙上法による気道確保を正しく実施できる。
　４）人を呼んで「ヒト」「モノ」「AED」を集めることができる。
　５）呼吸と脈の確認を正しく実施できる。
　６）胸骨圧迫の位置、角度、速さ、深さ、圧迫解除を正しく実施できる。
　７）胸骨圧迫をたえまなく実施できる。
　８）AED（自動体外式除細動器）を正しく安全に使用できる。
２．一次救命処置の手順を正しく実施できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉
１．一次救命処置に関する講義。
２．講師によるデモンストレーション。
３．シミュレーターを使用した実習。
４．グループに分かれて実習。グループ編成及び実習日程は次頁に記載。
５．動きやすい服装。（スカート不可）運動靴、白の不織布マスクを着用。

〈事前事後学習の方法〉
【予習】
１．指定した教科書を読み、具体的な手順と意味を理解しておくこと。(60分)
【復習】
１．具体的な手順を再度確認すること。(30分)

Ⅵ．教科書

特になし。

Ⅶ. 参考書・文献

JRC 蘇生ガイドライン2015オンライン版
http://jrc.umin.ac.jp/pdf/20151016/1_BLS.pdf

No.	月	日	曜	限	担当者	項目	キーワード	授業形態
1	9	21	水	4	喜多村	心肺蘇生法	心肺停止、一次救命処置	講義・実習
2	10	5	水	4	南原	〃	〃	〃
3		19	水	4	喜多村	〃	〃	〃
4	11	16	水	4	今給黎	〃	〃	〃

・場所：医学情報センター 5F　エレベーター使用不可
・軽い運動ができる服装で参加して下さい。（スカート不可、運動靴着用、白の不織布マスク着用）
・指定の実習日に体調不良で休む場合は、医学教育推進講座に連絡し、指示を受けること。

※標記科目のグループ分け及び実習日程は、下記のとおりとします。

【９月21日(水)】　4限　研究室配属の1・6班
【10月５日(水)】　4限　研究室配属の2・7・10班
【10月19日(水)】　4限　研究室配属の4・9班
【11月16日(水)】　4限　研究室配属の3・5・8班

行動科学Ⅰ（研究室配属・研究室紹介）

Ⅰ．担当教員名

医学教育推進講座	教　授	安元佐和	（科目責任者）
	准教授	八尋英二	（副責任者）
	講　師	武岡宏明	
再生・移植医学	教　授	小玉正太	（実務責任者）
解剖学	教　授	立花克郎	
生理学	教　授	藤田孝之	
生化学	教　授	安永晋一郎	
薬理学	教　授	岩本隆宏	
微生物・免疫学	教　授	廣松賢治	
病理学	教　授	濵﨑　慎	
衛生・公衆衛生学	教　授	有馬久富	
法医学	教　授	久保真一	
内分泌・糖尿病内科学	教　授	川浪大治	
脳神経内科学	教　授	坪井義夫	
精神医学	教　授	川嵜弘詔	
小児科学	教　授	永光信一郎	
消化器外科学	教　授	長谷川　傑	
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	教　授	佐藤寿彦	
心臓血管外科学	教　授	和田秀一	
脳神経外科学	教　授	安部　洋	
整形外科学	教　授	山本卓明	
	〃	柴田陽三	（筑紫病院）
形成外科学	教　授	髙木誠司	
眼科学	教　授	内尾英一	
耳鼻咽喉科学	教　授	坂田俊文	
腎泌尿器外科学	教　授	羽賀宣博	
救命救急医学	教　授	石倉宏恭	
スポーツ科学部	教　授	上原吉就	

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．基礎医学・社会医学・臨床医学の研究室で行われている研究の概要を理解できる。(C-4)

2．２学年の「研究室配属」で配属される研究室での研究内容に興味を持ち、配属前に、事前に関連する分野について調べることができる。(C-4)

3．「研究室配属」で希望する研究室と事前に連絡を取り、研究内容の打ち合わせなどで、医学研究者としての態度を身につける。(C-4)

Ⅲ．**コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）**（Competencies)

１．課題に関する分野別講義の内容を理解できる。

２．課題に関する資料、文献を収集し、調査できる。

３．課題に関して学生や教員と討論できる。

４．課題に関するレポートを作成し発表ができる。

５．課題に関して新たな問題点を指摘できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．研究室配属

水曜日４限に、１グループ12名程度の学生班が前半・後半40分ずつまたは90分ずつで、各基礎医学・社会医学系７講座に配属され、研究室見学、演習などを行う。各講座の教員から、研究室の特徴や研究内容のトピックスについて紹介があり、第２学年での「研究室配属」への準備、事前の学習法について、学生からの質問や相談を受ける。

２．研究室紹介（基礎第１講義室）

１の研究室配属以外の講座から、第２学年の「研究室配属」についての研究室紹介が行われ、学生と質疑応答を行う。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．到達目標を把握して臨む。(30分)

【復習】

１．体験した研究室で新たに出た疑問点について自分で調べる。(30分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

出席、授業態度等により評価する。最終日のプレゼンテーションを必須とする。

Ⅵ．**教科書**

必要に応じ、各講座から情報提供する。

Ⅶ．**参考書・文献**

必要に応じ、各講座から情報提供する。

講座名	第１日集合場所
解剖学	医学部研究棟別館１階　解剖学 資料室（1118）
生理学	医学部研究棟別館１階　生理学 四研（1104）
生化学	医学部研究棟別館５階　ゼミナール室（1512）
再生・移植医学	医学部研究棟本館３階　ゼミナール室（355）
法医学	医学部研究棟本館５階　法医学セミナー室（550）
微生物・免疫学	医学部研究棟本館３階　微生物・免疫学 総合研究室（348）
医学教育推進講座	医学情報センター５階　ゼミナール室

名札は配布後から着用すること。

巻末の案内図を参照すること。(P. 323～)

〈研究室配属・研究室紹介〉

No.	月	日	曜	限	担当者	項目	キーワード	授業形態	心肺蘇生	解剖学	生理学	生化学	再生・移植医学	法医学	微生物・免疫学	医学教育推進講座
1	9	21	水	4	各担当教員	各研究室毎に提示される	リサーチマインドの涵養、専門基礎医学教育修学法の確立など詳細は各研究室毎に提示される。	グループ演習	1班・6班		【前半】3班 【後半】8班		【前半】4班 【後半】9班		10班	5班
2	10	5	水	4	〃	〃	〃	〃	2班・7班・10班			【前半】3班 【後半】8班			9班	4班
3		19	水	4	〃	〃	〃	〃	4班・9班	【前半】1班 【後半】6班	【前半】2班 【後半】7班			【前半】5班 【後半】10班	8班	3班
4	11	2	水	4	〃	研究室紹介③	各研究室の特徴や研究内容のトピックスの紹介、2年次での研究室配属への準備	講義								
5		16	水	4	〃	各研究室毎に提示される	リサーチマインドの涵養、専門基礎医学教育修学法の確立など詳細は各研究室毎に提示される。	グループ演習	3班・5班・8班						7班	2班
6		30	水	4	〃	〃	〃	〃							6班	1班
7	12	14	水	4	安元 八尋・武岡	Vision Board	プレゼンテーション	発表								

【前半】　14:40分～15:20分
休憩10分
【後半】　15:30分～16:10分

※グループ演習がない日は研究室紹介④⑤(オンデマンド)に振替とする。

研究室紹介③　消化器外科学、心臓血管外科学、整形外科学、脳神経外科学
研究室紹介④　内分泌・糖尿病内科学、脳神経内科学、精神医学、小児科学、眼科学、病理学、衛生・公衆衛生学
研究室紹介⑤　薬理学、救命救急医学、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学、形成外科学、耳鼻咽喉科学、腎・泌尿器外科学、スポーツ科学部

第 2 学 年 講 義 要 目

福岡大学医学部医学科 卒業時コンピテンシー達成レベル表

レベル（達成度）	Advanced	Applied	Basic			
Ⅰ．プロフェッショナリズム						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。	診療の場で医師としての態度・価値観を示すことができる	医師としての態度・価値観を模擬的に示すことができる	基盤となる態度・価値観を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅱ．医学的知識						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。	実践の場で問題解決に応用できる	問題解決に応用できる知識を示すことができる	模擬症例の問題リストを抽出できる知識を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	修得する機会があるが、単位認定に関係ない	修得する機会がない
Ⅲ．診療技術・患者ケア						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅳ．コミュニケーションとチーム医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅴ．グローバルな視野と地域医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。	実践できる	理解と計画立案ができる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅵ．科学的探究心と自律学習能力						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。	実践できる	理解と計画立案ができる	計画された研究の見学、基盤となる技術・態度を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない

科目名と卒業時コンピテンシー達成レベル【M2】		組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	免疫学	生理学Ⅰ	グローバル人材演習	生化学Ⅱ	解剖学Ⅱ	微生物学	生理学Ⅱ	組織細胞生物学各論	寄生虫学	臨床医学入門Ⅰ	薬理学Ⅰ	研究室配属
Ⅰ. プロフェッショナリズム														
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。														
1	医療者として法的責任、規則を遵守できる。	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
2	生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
3	他者を尊重し、利他的な態度で行動できる。	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
4	患者の個人情報保護を遵守できる。	F	F	F	D	F	F	F	F	F	F	D	F	F
5	多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。	F	F	F	D	F	F	F	F	F	F	D	F	F
6	患者、社会、医療者に対して説明責任を果たすことができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
7	医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。	F	F	F	C	F	F	F	F	F	F	C	F	F
8	患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。	F	F	F	C	F	F	F	F	F	F	C	F	F
Ⅱ. 医学的知識														
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。														
1	正常構造と機能	D	D	D	F	C/D	D	D	D	D	D	F	C/D	F
2	発達、成長、加齢、死	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
3	心理、行動	F	F	F	C	F	F	F	F	F	F	C	D	F
4	病因、構造と機能の異常	D	D	D	F	F	F	D	F	D	D	F	F	F
5	診断、治療	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	F
6	医療安全	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
7	疫学、予防、公衆衛生	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
8	保健・医療・福祉制度	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
9	医療経済	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅲ. 診療技術・患者ケア														
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。														
1	患者から病歴を的確に聴取できる。	F	F	F	C	F	F	F	F	F	F	C/D	F	F
2	成人、小児の基本的な身体診察と基本的臨床手技を実践できる。	F	F	F	C	F	F	F	F	F	F	C/D	F	F
3	患者の病歴、診察所見から臨床推論ができる。	F	F	F	D	F	F	F	F	F	F	D	F	F
4	診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
5	頻度の高い疾患について、EBM（Evidence-Baced Medicine）に基づいた診断、治療方針について説明できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	F
6	患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
7	POS（Problem-Oriented System）を用いて診療録を記載し、適切にプレゼンテーションができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
8	患者に必要な病状説明・意思決定の場に参加できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅳ. コミュニケーションとチーム医療														
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。														
1	患者とその家族の個人的背景、文化、社会的背景を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。	F	F	F	C	F	F	F	F	F	F	C	F	F
2	多職種の医療チーム内で信頼関係を築き、患者中心の医療のために情報を共有し、説明伝達ができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
3	他の医療者に、手順を守り適切にコンサルテーションできる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
4	患者の医学情報を診療録に的確に記載し、医療チーム内で情報を共有できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
5	医療の国際化を認識し、英語で医療面接ができる。	F	F	F	B	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅴ. グローバルな視野と地域医療														
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。														
1	医療制度、社会福祉制度を正しく理解した診療を実践できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
2	地域の医療機関、保健、福祉、行政等の関連機関と適切な連携がとれる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
3	行政への届け出や社会福祉制度の必要書類を適切に作成できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
4	地域医療に参加し、プライマリケアが実践できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
5	海外からの患者の診療、医療者との交流が行える。	F	F	F	C	F	F	F	F	F	F	C	F	F
6	国際保健や医療の社会的問題の情報を収集できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅵ. 科学的探究心と自律学習能力														
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。														
1	基礎研究、臨床研究の理論と方法を理解することができる。	F	F	F	F	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	F	F	C/D	C/D
2	最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	D
3	ICTを適切に利用し情報セキュリティ管理ができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	C/D	F	C/D
4	未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。	F	F	F	F	C/D	C/D	F	C/D	C/D	F	C	D	C/D
5	自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。	F	F	F	F	C/D	C/D	F	C/D	C/D	F	C	C	C/D
6	診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	C	C	C/D
7	学生、後輩、同僚に対し教育者として貢献できる。	F	F	F	C	C/D	C	F	C	C	F	C	C	C/D

組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学

Ⅰ．担当教員名

細胞生物学	教　　授	白　澤　専　二（科目責任者）
	准　教　授	石　倉　周　平（副責任者）
	〃	角　田　俊　之
	講　　師	小　柳　　緑
	〃	土　井　佳　子
	〃	吉　田　和　真
	助　　教	田　中　陽　子
	非常勤講師	山　本　　健（久留米大学医学部医化学講座教授）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．ゲノム・分子・細胞・組織・器官の構造・機能およびそれらの階層性を理解し、生命体としてのヒトの理解につなげることができる。(A-1)
2．中枢および末梢神経系ならびに各種神経伝導路について理解し、説明することができる。(A-1)
3．配偶子の接合から、各器官および個体が形成される発生過程を理解し、説明することができる。(A-1)
4．最新の基礎医学研究に基づいて、疾患メカニズムおよびその治療法について正しく理解することができる。(A-2)
5．癌をはじめとする様々な疾患の原因・機序の解明における基礎研究の重要性について正しく理解することができる。(A-3)
6．テュートリアル学習において、自ら課題・目標を設定し積極的に学ぶ機会を持つことができる。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．細胞の全体像を図示し、小器官の構造と機能を説明できる。
2．生体膜の構造と機能、細胞同士の接着と結合様式を説明できる。
3．細胞膜を介する分泌と吸収の過程および細胞内輸送システムを説明できる。
4．細胞骨格の種類とその構造と機能を概説できる。
5．上皮組織と腺の構造と機能を説明できる。
6．結合組織を構成する細胞と細胞間質を説明できる。
7．軟骨と骨組織の構造的特徴について、構成する細胞と基質の特徴を関連づけて説明できる。
8．骨髄の構造、造血幹細胞、末梢血細胞の種類と構造的特徴および機能を説明できる。
9．筋組織について、骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能を対比して説明できる。
10．神経細胞・神経組織の構造、脳神経、脳神経節、脳神経核、大脳基底核、視床、伝導路について概説できる。
11．真核細胞のゲノムと遺伝子の構造を説明できる。
12．DNA の複製・修復、RNA 干渉、miRNA を説明できる。

13. DNA から RNA を経てタンパク質合成に至る遺伝情報の変換過程を説明できる。
14. プロモーター、転写因子などによる遺伝子発現の調節、エピジェネティックなゲノム制御機構を説明できる。
15. 組換え実験の基本、PCR 法を概説できる。
16. 細胞周期、有糸分裂、減数分裂の各過程を概説できる。
17. 単一遺伝子疾患、多因子疾患、遺伝子多型、遺伝子頻度について概説できる。
18. 細胞の増殖・分化・アポトーシスについて概説できる。
19. がん遺伝子、がん抑制遺伝子、がん化の分子機構について概説できる。
20. オーダーメイド医療・個別化医療について概説できる。
21. 細胞における分子レベルでのシグナリングについて理解する。
22. 配偶子の形成から出生に至る一連の経過と胚形成の概要を説明できる。
23. 三層性胚盤の形成と役割を概説できる。
24. 胚内体腔の形成について概説できる。
25. 心臓脈管系の形成過程を概説できる。
26. 消化器・呼吸器系の形成過程を概説できる。
27. 尿生殖器系の形成過程を概説できる。
28. 頭・頚部の形成とその神経支配を概説できる。
29. 神経系の形成過程を概説できる。
30. 主要な神経伝導路を概説できる。
31. 自己学習・グループ学習・討論のそれぞれの長所を理解する。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

1．講義：教科書、スライド、板書によって行われる講義を聴講する。予習と復習を十分する。教科書にそって講義は行うので、必ず指定教科書を持参し、また、Moodle に掲載する講義資料を必ず印刷して講義に臨む。
2．顕微鏡実習：各人が顕微鏡を用い、用意された標本を観察し、スケッチする。毎回実習終了時に、スケッチした内容をレポートとして提出する。
3．テュートリアル：自己学習・グループ学習を積極的に行い、発表・討論に臨む。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

1．Moodle にあげている講義資料を事前にプリントアウトして、講義概要を確認してくること。(15分)

【復習】

1．講義後は、必ず講義内容に関して理解を深めること。(30分)
2．キーワードを自分自身で整理して理解を深めること。(30分)
3．組織像に関しては、実習後に、指定アトラスを利用して復習し理解を深めること。(30分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

1．実習レポート：採点結果を総合評価に加味する。
2．テュートリアル：参加姿勢・発表・討論を総合的に評価する。

３．期末試験前組織知識確認テスト
４．期末試験：講義および実習内容について筆記試験を行う。
５．１～４を総合的に評価し、判定する。

Ⅵ．教科書

１．組織細胞生物学　原著第３版　南江堂
２．ラングマン人体発生学　第12版　メディカル・サイエンス・インターナショナル
３．ウィーター図説で学ぶ機能組織学　原著第６版　エルゼビア・ジャパン株式会社

Ⅶ．参考書・文献

内科学　第11版　朝倉書店

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	4	月	1	白澤・石倉	C-1	1) (1)(2) 2)(1)	細胞と生命	生命、進化、個体発生、細胞、組織・器官、ゲノム・遺伝子	講義
2				2	〃	C-2	1)(1) 3)(1)	生体膜と機能局在	リン脂質二重層、膜タンパク質、細胞膜、シグナル伝達、受容体、輸送体	〃
3				3	〃	C-2	1) 5)	細胞小器官	核、小胞体、リボソーム、ゴルジ装置、リソソーム、ミトコンドリア、ペルオキシソーム、プロテアソーム、オートファジー、クラスリン、Redox、シトクロムC、Bcl-2、Bax、ペントースリン酸経路	〃
4				4	〃	C-2	1) (1)(2)	分泌・吸収・細胞骨格	エキソサイトーシス、エンドサイトーシス、微小管、アクチンフィラメント、中間フィラメント、モーター蛋白、中心子	〃
5		11	月	1	〃	C-1	1)(2)	細胞周期・癌	細胞周期、サイクリン、APC/C、RB遺伝子、抗癌剤の作用、癌細胞、老化	〃
6				2	〃	C-2	3)(1)	シグナリング	ユビキチン、レセプター、リガンド、シグナルカスケード、増殖・分化・アポトーシス、カスパーゼ	〃
7				3	〃	C-2	2)(1)	上皮組織－１	扁平上皮、円柱上皮、移行上皮、細胞の極性、基底膜、密着結合、接着結合、ギャップ結合、接着分子、カドヘリン、インテグリン、線毛、微絨毛	〃
8				4	〃	C-2	2)(1)	上皮組織－２	部分分泌、離出分泌、全分泌、腺組織の分類、外分泌腺、内分泌腺	〃
9		18	月	1	全員	C-2	2)(1)	上皮組織－３	各種上皮	実習
10				2	〃	C-2	2)(1)	上皮組織－４	腺上皮	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
11	4	18	月	3	白澤・石倉	C-2	2)(1)	結合組織－1	膠原線維、細網線維、弾性線維、線維芽細胞、コラーゲン、プロテオグリカン、グリコサミノグリカン、脂肪細胞、肥満細胞、大食細胞、形質細胞、アディポサカイン、レプチン、アディポネクチン、TNF-α、MPK、UCP1、COX	講義
12				4	〃	C-2	2)(1)	軟骨組織－1	硝子軟骨、弾性軟骨、線維軟骨、軟骨細胞	〃
13		25	月	1	全員	C-2	2)(1)	結合組織－2	膠様組織(臍帯)、細網組織(リンパ節)、疎生結合組織	実習
14				2	〃	C-2	2)(1)	軟骨組織－2	硝子軟骨、弾性軟骨、線維性軟骨、軟骨細胞、軟骨基質	〃
15				3	白澤・石倉	C-2	2)(1)	骨組織－1	骨細胞、骨芽細胞、破骨細胞、膜性骨化、軟骨性骨化、骨端軟骨板、カルシトニン、ビタミンD3、M-CSF、RANK、RANKL、PTH、骨基質、緻密骨、海綿骨	講義
16				4	〃	C-2	2)(1)	血液－1	赤血球、白血球、血小板、骨髄、好中球、好酸球、好塩基球、単球、T細胞、B細胞、巨核球、HSC、凝固・線溶系、組織因子、t-PA、DIC	〃
17	5	2	月	1	全員	C-2	2)(1)	骨組織－2	長骨、骨膜、骨細胞、骨芽細胞、破骨細胞、骨基質、骨層板、ハバース管、骨の発生	実習
18				2	〃	C-2	2)(1)	血液－2	血液塗抹標本、骨髄(赤芽球、骨髄球、巨核球)	〃
19				3	白澤・石倉	C-2	2)(1)	筋組織－1	平滑筋、骨格筋、心筋、筋節、Ｉ帯、A帯、Ｚ線、筋線維、アクチン／ミオシン-フィラメント、筋紡錘、トロポニン、筋小胞体、T細管、介在板、暗小体、RyR、γ-環、脂質ラフト、カベオラ	講義
20				4	〃	C-2	2)(1) 3)(2)	神経組織－1	神経細胞、軸索、髄鞘、シナプス、小膠細胞、星状膠細胞、稀突起膠細胞、シュワン細胞、血液脳関門、上衣細胞、アルツハイマー病、多発性硬化症	〃
21		9	月	1	全員	C-2	2)(1)	筋組織－2	平滑筋、骨格筋、横紋筋、筋紡錘、心筋	実習
22				2	〃	C-2	2)(1)	神経組織－2	脊髄神経節、軸索、髄鞘、神経細胞、膠細胞	〃
23				3	白澤・石倉	D-2	1)(1) ①②⑤	神経組織－3	発生、大脳、小脳、脊髄、脈絡叢、白質、灰白質、脳脊髄液、髄膜	講義
24				4	白澤・角田	D-2	1)(1) ①～③ (2) ①～③ (3) ①～③	神経組織－4	神経核、脳神経、錐体路、脊髄視床路、後索-内側毛帯系、視床特殊核、大脳基底核、歯状核	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
25	5	16	月	1	石倉・白澤	C-1	1)(2)	遺伝－1	ゲノム、遺伝子、染色体、DNA、RNA、二重らせん、ヒストン、転写、クロマチン、プロモーター、エクソン、イントロン	講義
26				2	〃	C-4	1)	遺伝－2	コドン、セントラルドグマ、翻訳、RNA干渉、DNA複製、DNA修復、エピゲノム制御	〃
27				3	非常勤講師 山本	E-1	1)	遺伝－3	常染色体優性遺伝性疾患、常染色体劣性遺伝性疾患、伴性遺伝、遺伝子頻度	〃
28				4	〃	C-4	1)	遺伝－4	遺伝子多型、多因子疾患、SNP	〃
29		23	月	1	全員	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－1		テュートリアル
30				2	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－2		〃
31				3	白澤・角田			遺伝－5	遺伝学復習	講義
32				4	石倉・白澤	C-4	2)	分子細胞生物学的解析法	PCR、ウィルスベクター、次世代シークエンサー、CRISPR-Cas9、siRNA、ELISA、質量分析法	〃
33		30	月	1	全員	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－3		テュートリアル
34				2	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－4		〃
35				3	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－5		〃
36				4	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－6		〃
37	6	6	月	1	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－7		〃
38				2	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－8		〃
39				3	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－9		〃
40				4	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－10		〃
41		13	月	1	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－11		〃
42				2	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－12		〃
43				3	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－13		〃
44				4	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－14		〃
45		20	月	1	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－15		〃
46				2	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－16		〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
47	6	20	月	3	角田・白澤			発生学総論－1	発生学総論復習	講義
48				4	〃			発生学総論－2	発生学総論復習	〃
49		27	月	1	全員	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－17		テュートリアル
50				2	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－18		〃
51				3	角田・白澤			発生学各論－1	発生学各論復習	講義
52				4	〃			発生学各論－2	発生学各論復習	〃
53	7	4	月	1	全員	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－19		テュートリアル
54				2	角田・白澤			発生学各論－3	発生学各論復習	講義
55				3	〃			発生学総括－1		〃
56				4	〃			発生学総括－2		〃
57		5	火	3	白澤・石倉			組織細胞生物学総括－1		〃
58				4	白澤・角田			組織細胞生物学総括－2		〃
59		11	月	1	白澤			細胞・組織図試験－1		試験・講義
60				2	〃			細胞・組織図試験－2		〃
61				3	〃			課題学習－1		課題学習
62				4	〃			課題学習－2		〃
63		12	火	1	〃			課題学習－3		〃
64				2	〃			課題学習－4		〃
65				3	〃			課題学習－5		〃
66				4	〃			課題学習－6		〃
		29	金	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

免　　疫　　学

Ⅰ．担当教員名

微生物・免疫学	教　　授	廣　松　賢　治（科目責任者）
	講　　師	石　井　一　成（副責任者）
	〃	伊　藤　竜　太
	〃	伴　　文　武
	〃	栗　原　悠　介
	〃	清　水　章　文
	助　　教	吉　村　芳　修
	〃	尾　鶴　　亮
	非常勤講師	原　田　　守（島根大学医学部微生物・免疫学教授）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．免疫系の機能を組織、細胞、分子レベルで理解する。(A-1)
2．病原体に対する免疫応答を理解する。(A-1)
3．先天性、後天性免疫不全症候群 における免疫系の反応を理解する。(A-1)
4．主な自己免疫疾患、アレルギー性疾患における免疫系の反応を理解する。(A-2)
5．がん細胞に対する免疫系の反応を理解する。(A-3)
6．免疫アレルギー性疾患の原因・機序の解明における基礎研究の重要性について理解することができる。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．自然免疫と獲得免疫の特徴、違いを説明できる。
2．液性免疫、細胞性免疫の特徴、違いを説明できる。
3．免疫応答にかかわる臓器、細胞群を説明できる。
4．ＭＨＣクラスⅠとクラスⅡの基本構造、抗原提示経路の特徴、違いを説明できる。
5．免疫グロブリンとＴ細胞抗原レセプターの構造、多様性獲得機構と反応様式を説明できる。
6．免疫学的寛容（中枢性・末梢性）の機構とその破綻を説明できる。
7．抗原レセプターからのシグナルを増強あるいは減弱する調節機構を概説できる。
8．Th1 ／ Th2 ／ Th17　Ｔ細胞それぞれが担当する生体防御反応を説明できる。
9．病原微生物に対する感染防御機構と予防ワクチンの意味を説明できる。
10．アレルギー発症の機序を概説できる。
11．ガン免疫に関わる細胞性機序を概説できる。
12．先天性免疫不全、後天性免疫不全症候群を概説できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．系統講義

２．テュートリアル学習（課題シートを基に自学自習、グループ討論、発表を行う）

３．指定教科書や参考書・プリントをよく読みこむこと

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．次回授業する範囲の予習（10分）

【復習】

１．今回授業した範囲の復習（30分）

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．本試験

２．テュートリアル学習、グループ討論、学生発表会等の態度評価

Ⅵ．**教科書**

Matthew Helbert（松島綱治　他　訳）：ヒトの免疫学―基本から疾患理解につなげる―　原著第３版　エルゼビア・ジャパン、南江堂　2019

Abbas, A. K. et al（松島綱治　他　訳）：分子細胞免疫学　原著第９版　エルゼビア・ジャパン　2018

Ⅶ．**参考書・文献**

病気がみえる　vol. 6　免疫・膠原病・感染症　第２版　メディックスメディア　2018

小熊恵二　他：シンプル微生物学　改訂第６版　南江堂　2018

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	5	火	1	廣松	C-2	3)(3)	免疫学イントロダクション	生体防御防御機構、体液性免疫、細胞性免疫、補体系、NK細胞、好中球、マクロファージ、樹状細胞、T細胞、B細胞、抗体	講義
						C-3	2)(1)			
2				2	〃	D-1	1)①②④⑦	自然免疫と獲得性免疫	Toll様受容体(Toll-like receptor)、抗原提示、リンパ節、胸腺、骨髄 LPS（エンドトキシン）、サイトカイン、発熱、ショック	〃
						C-3	2)(1)①～④			
						E-2	3)①②			
3		7	木	1	〃	C-3	2)(1)(2)	免疫系の抗原認識	抗原認識-特異性、多様性、メモリー、トレランス、免疫グロブリン（抗体）/B細胞抗原受容体（BCR）の構造、抗原認識	〃
4				2	〃	C-3	2)(2)	〃	T細胞抗原受容体（TCR）の構造、主要組織適合性遺伝子複合体（MHC）、抗原提示細胞（樹状細胞、マクロファージ、B細胞）	〃
5		12	火	1	〃	C-3	2)(2)	T細胞に対する抗原提示	MHCクラスⅠ・Ⅱ抗原提示経路・CDIシステム（NKT細胞）	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
6	4	12	火	2	廣　松	C-3	2)(2)	T細胞に対する抗原提示	樹状細胞によるナイーブT細胞への抗原提示、リンパ球の循環、活性化T細胞への抗原提示	講　義
7		14	木	1	〃	C-3	2)(2)(3)	T細胞抗原レセプター・免疫グロブリンの多様性の機構	抗原レセプター遺伝子座の生殖細胞系構成、遺伝子の再構成	〃
8				2	〃	C-3	2)(2)	T細胞抗原レセプター・免疫グロブリンの多様性の機構	免疫グロブリン、アイソタイプ(クラス)スイッチ、affinity maturation、胚中心	〃
9		19	火	1	〃	C-3 D-1	2)(2) 1)④	T細胞胸腺内分化	positive selection-self MHC restriction拘束性、negative selection・胸腺内トレランス・末梢トレランス(アナジー regulatory T細胞)	〃
10				2	〃	C-3 D-1	2)(2) 1)④	〃	〃	〃
11		21	木	1	〃	C-3 D-1	2)(3) 1)④	T細胞の活性化	ナイーブT細胞の活性化ー樹状細胞、シグナル１／シグナル２【補助刺激-B71/2-CD28】、アナジー、CTLA4分子	〃
12				2	〃	C-3 D-1	2)(3) 1)④	〃	〃	〃
13		26	火	1	〃	C-3	2)(3)②③	細胞性免疫のエフェクター機構	CD4ヘルパー T細胞(Th1／Th2／Th17)、活性化マクロファージの機能	〃
14				2	〃	C-3	2)(3)②③	〃	regulatory T細胞・CD8細胞障害性T細胞	〃
15		28	木	1	〃	C-3	2)(1)	液性免疫のエフェクター機構	トキシンの中和、オプソニン化、ADCC、FcR、補体活性化	〃
16				2	〃	C-3	2)(2)②(3)②③	〃	B細胞活性化-T/B interaction-アイソタイプ・スイッチ、affinity maturation、T依存性抗原、T非依存性抗原、conjugate vaccine	〃
17	5	10	火	1	全　員			テュートリアル課題学習		テュートリアル
18				2	〃			〃		〃
19		12	木	1	栗　原	C-3	2)(4)①1)(2)①②	微生物に対する免疫	細胞外寄生性病原体に対する免疫応答、ウイルスに対する免疫応答	講　義
20				2	〃	C-3	2)(4)①④	〃	細胞内寄生性病原体に対する免疫応答	〃
21		17	火	1	廣　松	C-3 E-4	2)(4)④ 2)①3)(6)	アレルギー発症の機序	Coombs分類、Ⅰ型アレルギー、好酸球、マスト細胞、アナフィラキシー・ショック	〃
22				2	〃	C-3 E-4	2)(4)④ 2)①3)(6)	〃	〃	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
23	5	19	木	1	廣松	C-3	2)(4)④	アレルギー発症の機序	Coombs分類、Ⅱ型、Ⅲ型アレルギー、Ⅳ型アレルギー	講義
24				2	〃	C-3	2)(4)③	自己免疫疾患の基礎	全身性自己免疫病、臓器特異的自己免疫病、ループス腎炎、Th1、Th2、Th17	〃
						E-4	3)(3)			
25		24	火	1	〃	C-3	2)(4)②	免疫不全	先天性免疫不全症とAIDS	〃
26				2	〃	C-3	2)(4)②	〃	〃	〃
27		26	木	1	全員			学生発表・討論		全体発表
28				2	〃			〃		〃
29		31	火	1	非常勤講師 原田	C-3	2)(2)③ (4)⑤	特別講義	腫瘍(がん)に対する免疫応答の機序	講義
30				2	〃	C-3	2)(2)③ (4)⑤	〃	〃	〃
31	6	2	木	1	全員			学生発表・討論		全体発表
32				2	〃			〃		〃
	7	19	火	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

生　理　学　Ⅰ

Ⅰ．担当教員名

生　理　学	教　　授	藤　田　孝　之（科目責任者）
	講　　師	本　田　　啓（副責任者）
	〃	内　田　俊　毅
	助　　教	胡　　耀　鵬
	〃	平　石　敬　三
	非常勤講師	井　上　隆　司

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

生理学は、個体がどのようにして種々の「活動」を行うのかを明らかにする学問です。すなわち、いかにして食物を食べ、動き、環境の変化に適応し、新しい世代を生み出すかなど、その「仕組み」（原理・機序）を、生体を構成する全ての「階層」（レベル）に亘って包括的に理解することを目的としています。言い換えれば、分子、細胞、組織、器官、個体、環境の各階層における「働き」（機能）の発現・調節の仕組みを知るのみならず、それらがどのように「統合」され、個体の活動として実現しているのかを理解するのが究極の目的です。そのためには、まず、それぞれの階層における働きの作動原理を学ぶ必要があります。

前期の最初では、以下の１～６の到達目標に述べられている、細胞機能の発現に関わる種々の「一般原理」を勉強します。次に、生体全体を統合的に調節している「神経系」の成り立ちや働きについて学びます。

１．基礎医学としての生理学、病態生理学、臨床医学のそれぞれが持つ役割や意義、相互の関連性について理解する。(A-4)

２．生体の恒常性維持やリズム形成に関わる基本原理、細胞機能や細胞間相互作用を成り立たせる一般諸原理（エネルギーの流れ、物質輸送、電気・化学情報伝達）を理解し、細胞内・細胞間情報伝達の役割についての考え方を修得する。(A-1)

３．自律神経による内臓機能調節の機序、感覚神経による外部刺激受容伝達と感覚情報統合の機序、運動神経による反射調節と脳による随意運動調節の機序を理解する。(A-1)

４．血液の組成と機能を理解する。(A-1)

５．学習を通して、先端的な医学情報に触れ、それを論理的に読み解き、更に批判的に考察する態度を涵養する。(A-2)

６．学習を通して、生理学上の未解決の諸問題とその解決に向けた現在の取り組み及びその意義を理解する。(A-3)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．細胞の微細構造と細胞内小器官の役割について説明できる。

２．細胞の内外環境における物理化学的因子と細胞の活動を支えるエネルギーの流れについて説明できる。

３．細胞膜の構造と機能をイオン透過性、物質輸送から説明できる。

４．細胞内液・外液のイオン組成から静止膜電位の成因を説明できる。
５．細胞膜を介する能動・受動輸送の機序を説明できる。
６．細胞膜のイオンチャネル、ポンプの機能とその制御機構を説明できる。
７．興奮性細胞の膜興奮生成過程をイオンチャネルの時間的活性変化から説明できる。
８．神経軸索内の興奮伝播機構を説明できる。
９．生理活性物質の受容体結合から細胞内情報伝達までの情報の流れを説明できる。
10．シナプス伝達の種類（促進性、抑制性）と機能、及びその統合と可塑性について説明できる。
11．交感神経、副交感神経末端からの遊離物質の種類とその作用を概説できる。
12．内臓性求心路（臓器感覚）と関連痛を説明できる。
13．神経筋接合部と遊離物質による終板電位の発生を説明できる。
14．骨格筋の収縮過程、筋疲労、筋麻痺、筋無力症の病因、筋弛緩剤の作用機序を概説できる。
15．骨格筋、心筋、平滑筋の収縮、弛緩機構の違いを対比して説明できる。
16．表在感覚（温、冷、触、圧、痛覚）の受容と伝導路、及び機能を説明できる。
17．深部感覚の受容と伝導路、及び筋紡錘、腱器官の働きを説明できる。
18．視力と視力検査の原理を説明できる。
19．色覚と色覚異常を説明できる。
20．網膜電図と臨床的意義を説明できる。
21．視覚情報の受容機構と伝導路を説明できる。
22．対光反射、輻輳反射の機能について説明できる。
23．屈折異常と調節障害を説明できる。
24．聴覚受容と伝導路を説明できる。
25．伝音性難聴、感音性難聴を伝音機構、感音機構から説明できる。
26．音の強さの単位を説明できる。
27．味覚、嗅覚の受容の仕組みと伝導路を説明できる。
28．平衡感覚機能を眼球運動、姿勢制御と関連させて説明できる。
29．主な脳内神経伝達物質とその作用を説明できる。
30．大脳皮質の運動野・錐体路系と随意運動との関連を説明できる。
31．小脳、大脳基底核の機能を協調運動と関連させて説明できる。
32．運動失調、不随意運動の起こり方を概説できる。
33．脊髄反射（伸張反射、屈曲反射）、脳幹を介する反射の種類と機序、意義を説明できる。
34．主な病的反射の起こり方とその意義を説明できる。
35．視床下部の中枢（満腹・摂食・体温・浸透圧調節等）を概説できる。
36．覚醒と睡眠、学習と記憶について説明できる。
37．連合野の高次機能を説明できる。
38．大脳辺縁系の情動行動、本能行動中枢を説明できる。
39．神経系の諸機能検査法の原理を説明できる。
40．赤血球の生成過程、Hb の生成と構造、ガス運搬、pH 緩衝作用が説明できる。
41．白血球の役割、免疫との関係について説明できる。
42．血小板の止血（凝固）における役割と機序、及び血栓形成・出血傾向を説明できる。
43．血漿蛋白質異常と浮腫の関係を説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．講義に出席する。

２．テュートリアルやテーマ別学習で理解を深める。

３．テーマ別学習や小テストの結果から、間違った点を理解する。

４．理解できない点について講義担当者へ質問する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．シラバスに記載されている学習項目について、教科書、生理学資料集、配布資料、参考書などで予習をする。(30分程度)

【復習】

１．シラバスに記載されている学習項目について、教科書、生理学資料集、配布資料、参考書などで復習をする（必要ならば講義担当者へ質問すること)。(30分程度)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．出席状況（※ 特に、テュートリアルは全て出席すること)、授業への参加姿勢。

２．小テスト（レスポンなど)、テュートリアルなどでの提出物

３．確認試験・期末試験成績

※連絡事項は重要なこと（提出物やその期限など）を含め、『Ｍ２の掲示板』や『Moodle』などでお伝えする場合があります。各自注意して、それらを随時確認すること。

Ⅵ．**教科書**

・大地陸男　著：生理学テキスト　第８版　文光堂　2017

Ⅶ．**参考書・文献**

・小澤瀞司・福田康一郎　監修、本間研一ほか　編集：標準生理学　第９版　医学書院　2019

・坂井建雄・河原克雅　総編集：カラー図解　人体の正常構造と機能〔全10巻縮刷版〕 第４版　日本医事新報社　2021

・William F. Ganong 原著、Kim E. Barrett ほか著、岡田泰伸　監修：ギャノング生理学　原書25版　丸善出版　2017

・John E. Hall　著、石川義弘ほか　総監訳：ガイトン生理学　原著第13版　エルゼビア・ジャパン 2018

・Linda S. Costanzo　著、鯉淵典之　監訳：症例問題から学ぶ生理学　原書４版　丸善出版　2018

・貴邑冨久子・根来英雄　著：シンプル生理学　第７版　南江堂　2016

・医療情報科学研究所編：病気がみえる　メディックメディア（vol.4呼吸器　第3版　2018, vol.5血液　第2版　2017, vol.7脳・神経　第2版　2017)

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	5	火	3	藤田	C-1	1)(1) 2)(1)	一般生理1 (イントロダクション・細胞の構造と機能)	細胞の環境、ホメオスタシス	講義
						C-2	3)			
2				4	〃	C-2	5)②③④⑯	一般生理2 (細胞とエネルギー)	細胞の基本構造、細胞とエネルギー	〃
3		6	水	1	〃	C-2	1)(1) 3)(4)	一般生理3 (細胞内外の物理化学的環境)	電解質、浸透圧、体液、体液中の物質の移動	〃
						D-8	1)⑥ 3)(2)			
4				2	〃	C-2	1)(1)②③④	一般生理4 (細胞内外の物質輸送)	細胞内外の物質輸送、、イオンチャネル、トランスポーター、酸塩基平衡	〃
5		12	火	3	本田	C-2	3)(1)	一般生理5 (細胞内情報伝達)	細胞膜受容体、G蛋白質、効果器、セカンドメッセンジャー、チロシンキナーゼ、細胞内受容体、転写因子	〃
6				4	〃	C-1	1)(1)⑦	一般生理6 (細胞間情報伝達)	インテグリン、接着分子、ギャップジャンクション、サイトカイン、細胞増殖と細胞死	〃
7		13	水	1	〃	C-2	3)(4)①～③	一般生理7 (細胞間・臓器間情報伝達)	内分泌系、自己分泌系・傍分泌系	〃
						D-12	1)①			
8				2	藤田	C-2	1)(1)①② 3)(2)①	細胞の興奮と伝導1	静止膜電位、活動電位、不応期	〃
9		19	火	3	〃	C-2	1)(1)② 3)(2)①②	細胞の興奮と伝導2	イオンチャネルの機能と構造	〃
						D-2	4)(6)③			
10				4	〃	C-2	3)(2)①②	細胞の興奮と伝導3	シナプス伝達、シナプス電位、神経伝達物質	〃
11		20	水	1	〃	C-2	3)(2)②	神経筋接合部	運動神経、骨格筋、アセチルコリン、ニコチン受容体、終板電位、重症筋無力症	〃
12				2	〃	C-2	2)(1)⑤	骨格筋	骨格筋の種類と特徴、骨格筋における興奮収縮連関、収縮の分子機構、機能異常・病態	〃
						D-2	3)(1) 4)(6)①③			
13		26	火	3	〃	C-2	2)(1)⑤ 3)(1)	心筋	心筋の構造と特徴、興奮収縮連関、収縮の分子機構、機能異常・病態	〃
14				4	〃	C-2	2)(1)⑤ 3)(1)	平滑筋	平滑筋の構造と特徴、興奮収縮連関、受容体収縮連関、収縮の分子機構、機能異常・病態	〃
15		27	水	1	〃			確認試験		〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
16	4	27	水	2	藤田	C-2	1)(7)①② 2)(1)④ 3)(1)	神経系概論	神経系の概要、体性感覚と自律神経系、神経系を構成する細胞、神経線維の分類、神経伝達路、皮膚文節と支配筋	講義
						D-2	1)(1)①(2)①(6)①(7)① 2)②			
17	5	10	火	3	本田	D-2	1)(7)①②	自律神経1	遠心性神経、交感神経、副交感神経、交感神経節、二重神経支配、神経緊張	〃
18				4	〃	D-2	1)(7)①②	自律神経2	神経伝達物質と受容体、内臓反射、自律神経中枢と臓器系への作用	〃
19		11	水	1	〃	C-2	3)(2)①④	体性感覚1	体性感覚総論（感覚受容体、起動電位等）	〃
20				2	〃	D-2	1)(6)	体性感覚2	表在知覚、深部知覚、感覚伝導路、内臓感覚	〃
21		17	火	3	〃	D-2	1)(6)	体性感覚3	痛覚	〃
22				4	〃	D-13	1)①②	視覚1	視覚総論、明暗視、色覚	〃
23		18	水	1	〃	D-13	1)③	視覚2	視覚情報処理、視覚路の障害	〃
24				2	〃	D-13	1)④	視覚3	視覚中枢、視覚異常	〃
25		24	火	3	内田	D-2	1)(6)	味覚・嗅覚	刺激受容機構、情報伝達機構、中枢情報処理機構	〃
26				4	〃	D-2	1)(6)②	聴覚・平衡感覚1	聴覚概論、外耳、中耳、内耳、聴覚情報処理、聴覚路、難聴	〃
						D-14	1)⑤			
27		25	水	1	〃	D-2	1)(6)②	聴覚・平衡感覚2	平衡と運動の知覚、前庭機能障害、前庭反射、三半規管	〃
						D-14	3)(1)			
28				2	非常勤講師 井上	C-2	3)(2)	中枢神経1（運動制御）	中枢神経系総論、脊髄、筋紡錘、腱器官、脊髄反射、運動性上下行路	〃
						D-2	1)(1)②⑤			
29		31	火	3	〃	D-2	1)(3)	中枢神経2（運動制御）	脳幹、神経結合、体性運動反射	〃
30				4	〃	D-2	1)(5)②③ 3)(1)③ 4)(2)③④⑤	中枢神経3（運動制御）	小脳、神経回路、運動機能・姿勢調節と障害、大脳基底核、運動機能調節、運動失調	〃
31	6	1	水	1	〃	D-2	1)(5)①	中枢神経4（高次機能）	大脳皮質、運動中枢、運動性入出路、運動機能調節	〃
32				2	〃	D-2	1)(1)③④(4)①② 2) 3)(3)	中枢神経5（高次機能）	大脳皮質の区分と一般構造、神経結合、中枢神経系の伝達物質、高次機能局在、高次機能検査法（脳波等）	〃
33		7	火	3	藤田・胡	D-2	1)(4)③	中枢神経6（高次機能）	睡眠と覚醒、意識、学習と記憶	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
34	6	7	火	4	藤田・胡	D-2	1)(7)②③	中枢神経7（高次機能）	視床下部、大脳辺縁系	講義
35		8	水	1	内田	D-1	1)①～⑧ 2)②③	血液1	血液の組成、血液の一般的性質、血漿蛋白、血漿浸透圧と膠質浸透圧、造血、赤血球、ヘモグロビン、鉄代謝	〃
36				2	〃	D-1	1)②③ 4)(1)①	血液2	Hbの酸素解離曲線、貧血、赤血球指数	〃
37		14	火	3	生理学スタッフ全員			グループ学習	前期の内容について	テュートリアル
38				4	〃			〃	〃	〃
39		15	水	1	内田	D-1	1)⑦	血液3	白血球、免疫機構、血液型、輸血	講義
40				2	〃	D-1	1)⑧	血液4	血小板、凝固線溶系	〃
41		21	火	3	生理学スタッフ全員			グループ学習	前期の内容について	テュートリアル
42				4	〃			〃	〃	〃
43		22	水	1	〃			〃	〃	演習
44				2	〃			〃	〃	〃
45				3	〃			〃	〃	〃
46				4	〃			〃	〃	〃
47		28	火	3	〃			〃	〃	テュートリアル
48				4	〃			〃	〃	〃
49		29	水	1	〃			〃	〃	演習
50				2	藤田			前期のまとめ		講義
	7	26	火	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

グローバル人材演習

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　　授	川　浪　大　治（科目責任者）
医学教育推進講座	准　教　授	八　尋　英　二（副責任者）
解　剖　学	講　　師	フェリル ロリト
生　理　学	助　　教	胡　　耀　鵬
法　医　学	助　　教	ウォーターズ　ブライアン

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

１．医学、医療のグローバル化に対応するために必要な基本的医学英語を習得する。(A-1)
２．医学研究のための英語論文の構成・読み方を説明できる。(A-2)
３．英語でのプレゼンテーションのスライドを作成し、発表できる。(A-5)
４．英語による医療面接の基本（医療コミュニケーション、病歴聴取）を実践できる。(C-2)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．基本的な英語の医学専門用語を理解し、医療コミュニケーションに使う事ができる。
２．医学論文の記載法、英語でのプレゼンテーションの構成を理解できる。
３．１分間の英語のプレゼンテーションのスライド作成し、発表できる。
４．外国人模擬患者から、英語で病歴聴取を実践できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．e-learning による英語の医学用語の演習　※ PC 用イヤホンを各自持参すること。
２．英語講師との個別指導（自己紹介、Vision Board、ディスカッション）
３．講義：論文の構成、英語のプレゼンテーション
４．英語の医療面接　TBL ロールプレイ、英語の模擬患者との医療面接
５．プレゼンテーションや医療面接の事前の自己学習を十分行うこと。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．上記の事前自己学習を十分に行うこと。(30分)

【復習】

１．教員からのフィードバックで英語やコミュニケーションを振り返ること。(30分)

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

60点以上で合格、割合は下に記す。
e-learning の全受講　40%、英語でのプレゼンテーション（スライド作成・発表）　30%、英語での医療面接　30%。合計100点満点。

Ⅵ．教科書

医学・医療系学生のための総合医学英語テキスト　Step1　日本医学英語教育学会　編　メジカルビュー社　￥2,800＋税

Ⅶ. 参考書・文献

医学・医療系学生のための総合医学英語テキスト　Step 2　日本医学英語教育学会　編

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	6	水	3	全員	A9	1)	リスニング	UNIT001 自己紹介と本人確認 UNIT002 胸痛 1　安定狭心症	e-learning (PC教室)
								リーディング	UNIT001 スクリーニング検査 UNIT002 痙攣(ざそう)	
								Private lesson		T B L
2				4	八尋	A7	2)①		基本的医学英語	講義 (PC教室)
3		13	水	3	全員	A9	1)	リスニング	UNIT003 頭痛 1　緊張性頭痛 UNIT004 腹痛 1　過敏性腸症候群	e-learning (PC教室)
								リーディング	UNIT003 過温症 UNIT004 気管支炎と肺炎	
								Private lesson		T B L
4				4	〃	〃	〃	リスニング	UNIT005 鬱症状 REVIEW001 レビュー 001	e-learning (PC教室)
								リーディング	UNIT005 医者は幸せか REVIEW001 レビュー 001	
								Private lesson		T B L
5		20	水	3	〃	〃	〃	リスニング	UNIT006 下血 UNIT007 アレルギー	e-learning (PC教室)
								リーディング	UNIT006 健康と孤独 UNIT007 不安障害 1	
								Private lesson		T B L
6				4	八尋	A8	1)③		英語論文について	講義 (PC教室)
7		27	水	3	全員	A9	1)	リスニング	UNIT008 薬歴 UNIT009 既往歴/手術歴	e-learning (PC教室)
								リーディング	UNIT008 不安障害 2 UNIT009 自傷行為	
								Private lesson		T B L
8				4	〃	〃	〃	リスニング	UNIT010 無月経 REVIEW002 レビュー 002	e-learning (PC教室)
								リーディング	UNIT010 日本における飲酒 REVIEW002 レビュー 002	
								Private lesson		T B L
9	5	11	水	3	八尋	A8	1)③		英語でのプレゼンテーションとスライド作成	講義 (PC教室)
10				4	全員	A9	1)	リスニング	UNIT011 家族歴 UNIT012 異常月経	e-learning (PC教室)
								リーディング	UNIT011 腱炎 UNIT012 前立腺	
								Private lesson		T B L

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
11	5	18	水	3	全員	A9	1)	リスニング	UNIT013 社会歴 1 UNIT014 社会歴 2	e-learning (PC教室)
								リーディング	UNIT013 膵臓 UNIT014 糖尿病 1	
12				4	八尋	A7	2)①		英語の医療面接の基本	講義 (PC教室)
13		25	水	3	全員	A-4	1)	英語医療面接1	海外留学英語シナリオ作成	(PC教室)
						A-8	1)			
						A-9	1)			
14				4	〃	F3	2)②	英語医療面接2	ロールプレイ	〃
15	6	1	水	3	ウォーターズ	A8	1)③		How to read a scienific papar in English with using PICO process	講義 (中　1)
16				4	全員	A8	1)③		論文のよみかた　実践	
17		8	水	3	〃	F3	2)②	英語医療面接3	ロールプレイ	ゼミ室
18				4	〃	F3	2)②	英語医療面接4		
19		15	水	3	〃			Vision Board発表		全体発表 (中　1)
20				4	〃					

生　化　学　Ⅱ

Ⅰ．担当教員名

生　化　学	教　　授	安　永　晋一郎（科目責任者）
	講　　師	芝　口　浩　智（副責任者）
	〃	白　須　直　人
	〃	大　野　芳　典
情報基盤センター	准　教　授	瀬　川　波　子
細胞生物学	講　　師	土　井　佳　子
腫瘍・血液・感染症内科	講　　師	佐々木　秀　法
内分泌・糖尿病内科学	教　　授	川　浪　大　治
消化器内科	講　　師	横　山　圭　二
産科婦人科学	准　教　授	四　元　房　典

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．生化学Ⅰでの学習事項を統括して説明できる。(A-1)
2．生化学実験や臨床検査の基本原理を説明できる。(A-2)
3．生化学Ⅰでの学習項目と臨床医学とのつながりを円滑に説明できる。(A-3)
4．生化学実験や臨床検査の基本技術を取得する。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．生化学的実験手技の基本を身につける。
2．生化学的臨床検査の基本原理について説明できる。
3．栄養素とエネルギーについて
　1）栄養素と栄養所要量について説明できる。
　2）基礎代謝と特異動的作用について説明できる。
　3）栄養異常について、その概略を説明できる。
　4）標準自由エネルギー変化と高エネルギー化合物について説明できる。
　5）生体酸化還元とクエン酸回路、電子伝達系（呼吸鎖）について説明できる。
　6）酸化的リン酸化、基質準位リン酸化および化学的浸透圧説について説明できる。
　7）フリーラジカルの発生と作用を説明できる。
4．生体高分子の構造と機能について
　1）核酸の構造と機能を説明できる。
　2）糖質（炭水化物）の基本的な構造と機能を説明できる。
　3）脂質の基本的な構造と機能を説明できる。
　4）タンパク質の基本的な構造と機能を説明できる。
5．生体物質の代謝について
　1）酵素の機能と調節について説明できる。
　2）核酸の代謝について

ａ．ヌクレオチドの合成・異化・再利用経路を説明できる。
ｂ．核酸の主な代謝異常を説明できる。
３）タンパク質の代謝について
ａ．タンパク質の合成と分解を説明できる。
ｂ．アミノ酸の異化と尿素合成の経路を説明できる。
ｃ．アミノ酸の主な代謝異常を説明できる。
ｄ．ヘム・ポルフィリンの代謝を説明できる。
４）糖質（炭水化物）の代謝について
ａ．解糖の経路と調節機構を説明できる。
ｂ．五炭糖リン酸経路の意義を説明できる。
ｃ．糖新生の経路と調節機構を説明できる。
ｄ．グリコーゲンの合成と分解の経路を説明できる。
ｅ．糖質の主な代謝異常を説明できる。
５）脂質の代謝について
ａ．リポタンパク質の構造と代謝を説明できる。
ｂ．脂質の合成と分解を説明できる。
ｃ．空腹時（飢餓)、食後（過食時）と運動時における代謝を説明できる。
ｄ．脂質の主な代謝異常を説明できる。
６）ビタミンの代謝について
ａ．ビタミンの種類と機能を説明できる。
ｂ．ビタミンの欠乏症と過剰症を説明できる。
ｃ．抗酸化ビタミンのフリーラジカル捕捉作用を説明できる。
７）無機質の代謝について
ａ．無機質の代謝を説明できる。
ｂ．無機質の主な代謝異常を説明できる。
６．組織・臓器の代謝について
１）主な臓器の代謝機能を説明できる。
２）主な臓器の代謝異常を説明できる。
７．生化学での学習事項と臨床医学へのつながりを説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．実習
学生は32班（１班３～４名）の小グループに分かれ、与えられた課題の生化学実習に取り組む。実験に失敗した場合、やり直しを要する場合があるので、後の時間をあけておくこと。

２．講義シリーズ（生化学と臨床）
講義時間内にレポートを作成する。

３．演習
本試験と同じ形式で復習試験を行なう。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．配布した実習書の該当項目を事前に読み実習動画を視聴しておく。**（必須）**（60分）

【復習】

１．実習内容・結果・考察についてレポートを作成し、一週間後に提出する。(60分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．実習は、出席、参加姿勢及び一週間後に提出するレポートで評価する。実習各項目について不合格判定の場合は補習、レポートまたは試験を課す場合がある。

２．講義シリーズは講義時間内に作成するレポートで評価する。講義シリーズ各項目について不合格判定の場合は補習、レポートまたは試験を課す場合がある。

３．演習は客観試験により評価する。合格点に達しない場合は試験を課す場合がある。

４．以上の結果に基づく総合評価で合否を判定する。

Ⅵ．**教科書**

１．安永晋一郎　編：モデル・コア・カリキュラム対応　医用生化学―生体物質の代謝と異常―2021年版　福岡大学医学部生化学講座　2021　ISBN 978-4990942649

２．福岡大学医学部生化学：生化学実習書　2022年版　福岡大学医学部生化学講座　2022

Ⅶ．**参考書・文献**

１．川嵜敏祐　監：レーニンジャーの新生化学（上・下）　第７版　廣川書店　2019　ISBN 978-4567244084・ISBN 978-4567244091

２．入村達郎・岡山博人・清水孝雄・仲野　徹　監：ストライヤー生化学　第８版　東京化学同人　2018　ISBN 978-4807909292

３．横溝岳彦　訳：マークス臨床生化学　医学書院　2020　ISBN 978-4260041393

４．他の基礎医学・臨床医学で使われている教科書

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	7	木	3	安永			生化学演習(1)	生化学全般	復習試験
2				4	〃			〃	〃	〃
3		14	木	3	芝口・安永 瀬川・白須 大野・土井			実習討論 1	実習器具、実習機器、危険防止	実習
4				4	〃			実習討論 2	測容器の使用法、マイクロピペッターの使用法	〃
5		21	木	3	〃	D-1	1)⑤ 2)③ 4) (4)⑨	実習討論 3	比色分析法	〃
6				4	〃	D-1	1)⑤ 2)③ 4) (4)⑨	実習討論 4	吸光度、透過率、Lambert-Beerの法則、分光光度計	〃
7		28	木	3	瀬川・安永 芝口・白須 大野・土井	C-2	5)② ⑤～⑦ ⑯	実習討論 5	血糖の定量	〃
8				4	〃	C-2	5)② ⑤～⑦ ⑯	実習討論 6	空腹時血糖値、酵素法、除タンパク質、補酵素、o-トルイジンほう酸法	〃
9	5	12	木	3	安永・大野 瀬川・芝口 白須・土井	C-2 C-4	5)⑩ 3)②	実習討論 7	電気泳動	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
10	5	12	木	4	安永・大野 瀬川・芝口 白須・土井	C-2 C-4	5)⑩ 3)②	実習討論 8	血清分離、等電点、セルロースアセテート膜電気泳動、A/G比	実習
11		19	木	3	白須・安永 瀬川・芝口 大野・土井	C-1	1)(2) ①～⑥	実習討論 9	遺伝子解析	〃
12				4	〃	C-1	1)(2) ①～⑥	実習討論10	アルコール代謝関連遺伝子、毛髪採取、PCR法、アガロースゲル電気泳動	〃
13		26	木	3	〃	C-4	3) ①～⑥	実習討論11	尿の検査	〃
14				4	〃	C-4	3) ①～⑥	実習討論12	尿タンパク、尿糖、尿ケトン体、尿ビリルビン、尿ウロビリン体	〃
15	6	2	木	3	佐々木・安永	D-1	1)～4)	生化学と臨床１	臓器の代謝とその異常、血液疾患	講義
16				4	四元・安永	D-9	1)～4)	生化学と臨床２	臓器の代謝とその異常、産婦人科疾患	〃
17		9	木	3	横山・安永	D-7	1)～4)	生化学と臨床３	臓器の代謝とその異常、消化器疾患	〃
18				4	川浪・安永	D-12	1)～4)	生化学と臨床４	臓器の代謝とその異常、内分泌代謝疾患	〃
19		16	木	3	安永			生化学演習(2)	生化学全般	復習試験
20				4	〃			〃	〃	〃

第２学年

解　剖　学　Ⅱ

Ⅰ．担当教員名

解　剖　学	教　　授	立　花　克　郎（科目責任者）
	講　　師	貴　田　浩　志（副責任者）
	〃	フェリル　ロリト
	〃	遠　藤　日富美
	助　　教	山　崎　裕太郎
	非常勤講師	小　川　皓　一
脳神経内科学	教　　授	坪　井　義　夫
消化器外科学	教　　授	長谷川　　傑
脳神経外科学	教　　授	安　部　　洋
耳鼻咽喉科学	教　　授	坂　田　俊　文

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

１．臨床医学を修得していく上で基礎となる正常な人体の形態・構造・機能を理解する。(A-1)
２．人体解剖学実習を通して、形態学的思考方法や観察眼を養い、自学自習の精神を身に付ける。(A-2)
３．グループ学習の意義を理解し、グループの中での協調性、積極性と責任をはたす態度を身につけ、他の学生と意見交換ができる。(A-3)
４．グループ内の他の学生と意見交換ができる。(A-4)
５．「生命の尊厳」、「医の倫理」を直視し、医学を学ぶ。(C-1)
６．医師としてふさわしい態度、高いレベルのモラルを習得する。(C-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

肉眼解剖学的構造については；

１．骨格、筋、靭帯、循環器、末梢神経、内臓、感覚器の概要を示すことができる。
２．上記1. に基づき、身体の各部位の構造を局所解剖学的に説明することができる。
　さらに構造面から機能を説明できる。
３．体表から主な器官の位置と形態を指し示すことができる。
４．生体の構造と位置関係について、三次元的に再構築することが出来、X線写真、CT、MRI 、US といった画像の理解に結びつけることができる。
５．人体を構成する器官とその主要な部位名を英語で書くことができる。

中枢神経系の構造については；

１．脳・脊髄の構成・構造を説明できる。
２．中枢神経各部位の機能を説明でき、さらに各部の統合的機能を説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．解剖実習に出席し、重要な事項を把握する。

２．解剖学Ⅰで学習した範囲に関して実習が行われる。
３．解剖実習を行い、知識を確認するとともに不明な点はその場で教科書、iPad などで調べる。
４．解剖実習は４人で１体の人体解剖を行う。テュートリアル・グループ討論を通して解剖手順を決め、必要な部位は印を付けるかスケッチする。
５．解剖実習の学習成果を毎回レポートにまとめて提出する。
６．実習中に担当教員から人体解剖の指導を受ける。
７．医学部慰霊祭に参加し、医学生としての問題意識を自覚し、生命の尊厳や医の倫理について考える。
８．学生は小グループに分かれ、各グループに与えられた Team based Learning またはテュートリアル課題に取り組み、学習の成果を発表する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．実習予定範囲を確認し、同範囲の肉眼的構造を把握すると共に機能及び臨床医学的意義を理解しておく。(30分)
２．教科書・実習テキストなどで予習をする。(30分)

【復習】

１．必要に応じ補講を受ける。(20分)
２．解剖実習後に指定教科書の対応部分を読む。(20分)
３．毎週の解剖実習後に教科書「グラント 解剖実習」を読み、解剖の手順を理解する。(20分)
４．毎週の解剖実習後に教科書「グラント 解剖実習」に記載されている“復習項目”を確認する。(20分)
５．講座作成の“解剖実習ハンドブック”を読む。(10分)

Ⅴ．成績評価および方法 (Evaluation)

１．正常な人体の形態・構造・機能を理解しているか、実習試験を行う。
２．必要に応じて、実習中に人体解剖についての実技試験、口頭試問、小テストを行う。
３．実習の記録、課題に対するレポートを提出させ、正確な人体構造を理解しているか評価を行う。
４．解剖実習期間を通しての学習姿勢・実習態度・成果、出席状況も評価の対象とする。
５．解剖学Ⅰの成績も評価基準の参考とする。
６．上記１～５の全ての項目を評価の対象とする。ただし医の倫理に反する実習態度のみで不合格にすることがある。

Ⅵ．教科書

(必須) Grant’s Dissector 17th Edition Patrick W. Tank　Lippincott Williams & Wilkins（あるいは日本語版グラント 解剖実習 改訂版　訳 新井良八　西村書店）
(必須) 臨床のための解剖学　第２版　Keith L. Moore　訳　佐藤達夫　MEDSI
(必須) 臨床神経解剖学　原著第６版　訳 井出 千束、杉本 哲夫　医歯薬出版株式会社
(必須) プラクティカル 解剖実習 脳　千田　隆夫、小村　一也　丸善出版株式会社

Ⅶ．参考書・文献

(推薦) 相磯貞和　訳：ネッター解剖学アトラス　原著第７版　南江堂　３月改定予定
(推薦) 山下　廣　訳：グラント解剖学図譜　第７版　医学書院

（推薦）横地千仞　訳：Rohen 解剖学カラーアトラス　第８版　医学書院
（推薦）森　於菟、他：分担解剖学　金原出版
（推薦）伊藤　隆：解剖学講義　第３版　南山堂
（推薦）松村譲兒：イラスト解剖学　第10版　中外医学社
（推薦）塩田浩平　訳：グレイ解剖学　原著第４版　エルゼビアジャパン
（推薦）佐藤達夫　訳：人体解剖カラーアトラス　R. T. Hutchings　原著第８版　南江堂

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	8	金	1	立花	A-1	1）	解剖実習	諸注意、生命倫理、医療倫理	実習
2				2	解剖ｽﾀｯﾌ全員 非常勤講師 小川	A-1	1）	〃	遺体出し	〃
3				3	〃	D-4	1） ①～⑧	〃	背部体表、皮剥	〃
4				4	〃	D-4	1） ①～⑧	〃	背部の皮神経・皮静脈	〃
5				5	〃	D-4	1） ①～⑧	〃	背部浅層の筋	〃
6		15	金	1	解剖スタッフ 全員	D-4	1） ①～⑧	〃	背部深層の筋	〃
7				2	〃	D-4	1） ①～⑧	〃	後頭下筋	〃
8				3	〃	D-4	2)①	〃	脊柱、脊柱管	〃
9				4	〃	D-4	1） ①～⑧	〃	脊髄、髄膜、脊髄神経	〃
10				5	〃	D-4	1） ①～⑧	〃	腕神経叢、腋窩	〃
11		22	金	1	〃	D-4	1） ①～⑧	〃	上肢の皮剥、上肢の皮神経・皮静脈	〃
12				2	〃	D-4	1） ①～⑧	〃	肩甲部の筋・神経・血管	〃
13				3	〃	D-4	1） ①～⑧	〃	上腕の筋・神経・血管、肘窩	〃
14				4	〃	D-4	1） ①～⑧	〃	前腕屈側の筋・神経・血管	〃
15				5	〃	D-4	1） ①～⑧	〃	手根管、手掌の筋・腱	〃
16	5	6	金	1	〃	D-4	1） ①～⑧	〃	手掌の神経・血管	〃
17				2	〃	D-4	1） ①～⑧	〃	前腕伸側の筋・神経・血管	〃
18				3	〃	D-4	1） ①～⑧	〃	手背	〃
19				4	〃	D-4	1） ①～⑦	〃	上肢の神経・血管のまとめ、肩関節	〃
20				5	〃	D-4	1） ①～⑧	〃	肘関節、手の関節	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
21	5	13	金	1	解剖スタッフ全員	D-11	1)	解剖実習	胸部の皮剥、胸壁の神経・血管	実習
22				2	〃	D-11	1)	〃	胸部の筋（浅層）	〃
23				3	〃	D-11	1)	〃	胸部の筋（深層）	〃
24				4	〃	D-6	1)①～④	〃	胸膜、肺	〃
25				5	〃	D-6	1)①～④	〃	肺の解剖、気管支、気管支枝	〃
26		20	金	1	〃	D-6	1)①～④	〃	肺の血管	〃
27				2	〃	D-5	1)①⑤～⑦⑨	〃	心膜、大血管、縦隔	〃
28				3	〃	D-5	1)①⑤～⑦⑨	〃	心臓、冠血管の膨出・スケッチ	〃
29				4	〃	D-7	1)①～③⑥⑨	〃	腹部の皮剥、腹壁の神経・血管	〃
30				5	〃	D-7	1)①～③⑥⑨	〃	前腹壁、側腹壁	〃
31		27	金	1	解剖スタッフ全員 長谷川	D-7	1)①～③⑥⑨	〃	鼠径管、横隔膜	〃
32				2	〃	D-7	1)①～③⑥⑨	〃	腹膜、大網、胃	〃
33				3	〃	D-7	1)①～③⑥⑨	〃	肝臓、胆嚢、網嚢	〃
34				4	〃	D-7	1)①～③⑥⑨	〃	空腸、回腸、腸間膜、大腸	〃
35				5	〃	D-7	1)①～③⑥⑨	〃	腹腔動脈とその枝	〃
36	6	3	金	1	〃	D-7	1)①～③⑥⑨	〃	上腸間膜動脈とその枝	〃
37				2	〃	D-7	1)①～③⑥⑨	〃	下腸間膜動脈とその枝	〃
38				3	〃	D-7	1)①～③⑥⑨	〃	門脈系、胸部・腹部の血管系のまとめ	〃
39				4	〃	D-7	1)①～③⑥⑨	〃	十二指腸、膵臓、脾臓	〃
40				5	〃	D-8	1)②	〃	腎臓、尿管、副腎	〃
41		10	金	1	解剖スタッフ全員	D-8	1)②	〃	後腹壁の筋、腰神経叢、外生殖器	〃
42				2	〃	D-9	1)①～⑧	〃	〃	〃
43				3	〃	D-9	1)①～⑧	〃	骨盤内臓、骨盤の神経・血管、骨盤底	〃
44				4	〃	D-9	1)①～⑧	〃	下肢の皮神経・皮静脈	〃
45				5	〃	D-9	1)①～⑧	〃	大腿前面の筋・神経・血管、大腿三角	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
46	6	17	金	1	解剖スタッフ全員	D-9	1)①～⑧	解剖実習	大腿内側部の筋・神経・血管	実習
47				2	〃	D-9	1)①～⑧	〃	殿部の筋・神経・血管	〃
48				3	〃	D-9	1)①～⑧	〃	大腿後面の筋・神経・血管	〃
49				4	〃	D-9	1)①～⑧	〃	下腿前面と外側面の筋・神経・血管、足背	〃
50				5	〃	D-9	1)①～⑧	〃	下腿後面の筋・神経・血管	〃
51		24	金	1	〃	D-9	1)①～⑧	〃	足底の筋・神経・血管	〃
52				2	〃	D-9	1)①～⑧	〃	下肢の神経・血管のまとめ	〃
53				3	〃	D-9	1)①～⑧	〃	下肢の関節：股関節	〃
54				4	〃	D-4	1)①～⑧	〃	膝関節	〃
55				5	〃	D-4	1)①～⑧	〃	足関節	〃
56	7	1	金	1	〃	D-14	1)①～⑥	〃	頸部の筋・神経・血管	〃
57				2	〃	D-14	1)①～⑥	〃	顔面の筋・神経・血管	〃
58				3	〃	D-14	1)①～⑥	〃	甲状腺、気管	〃
59				4	〃	D-14	1)①～⑥	〃	髄膜、脳出し	〃
60				5	〃	D-14	1)①～⑥	〃	頭蓋窩、脳神経	〃
61		7	木	1	〃	D-13	1)①～④	〃	眼窩の神経・血管、眼球	〃
62				2	〃	D-13	1)①～④	〃	外眼筋、涙腺	〃
63				3	〃	D-14	1)①～⑥	〃	頭部の離断	〃
64				4	〃	D-14	1)①～⑥	〃	咽頭、頭部の切半	〃
65				5	〃	D-14	1)①～⑥	〃	鼻腔、副鼻腔	〃
66		8	金	1	解剖スタッフ全員 坂田	D-14	1)①～⑥	〃	口蓋、口腔領域、舌下領域	〃
67				2	〃	D-14	1)①～⑥	〃	喉頭：喉頭の軟骨、声帯	〃
68				3	〃	D-14	1)①～⑥	〃	喉頭内筋、反回神経	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
69	7	8	金	4	解剖ｽﾀｯﾌ全員 坂田	D-14	1) ①～⑥	解剖実習	耳下腺、顔面神経、側頭部	実習
70				5	〃	D-14	1) ①～⑥	〃	咀嚼筋、顎関節、外頚動脈の枝、耳；外耳、中耳、内耳	〃
71		14	木	1	解剖ｽﾀｯﾌ全員 安部・坪井	D-2	1)(1)	〃	脳実習　1	〃
72				2	〃	D-2	1)(1)	〃	脳実習　2	〃
73				3	〃	D-2	1)(1)	〃	脳実習　3	〃
74				4	〃	D-2	1)(1)	〃	脳実習　4	〃
75				5	〃	D-2	1)(1)	〃	脳実習　5	〃
76		15	金	1	〃	D-2	1)(1)	〃	実習試験	〃
77				2	〃	D-2	1)(1)	〃	実習試験	〃
78				3	解剖ｽﾀｯﾌ全員 安部・坪井 非常勤講師 小川	D-2	1)(1)	〃	納棺　1	〃
79				4	〃	D-2	1)(1)	〃	納棺　2	〃
80				5	解剖ｽﾀｯﾌ全員 安部・坪井	D-2	1)(1)	〃	清掃、片づけ	〃

微　生　物　学

Ⅰ．担当教員名

微生物・免疫学	教　授	廣松賢治（科目責任者）
	講　師	石井一成
	〃	伊藤竜太（副責任者）
	〃	伴　文武
	〃	栗原悠介
	〃	清水章文
	助　教	吉村芳修
	〃	尾鶴　亮

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．感染症の病原体である各種病原微生物の基本的性状、病原性とそれによって生じる病態を理解する。(A-1)
2．病原体に対する生体側の防御機構、免疫現象を理解する。(A-1)
3．感染症の原因・機序を考察して、その予防・治療の基本原則を理解する。(A-1)
4．グローバルヘルスとしての感染症の重要性を理解することができる。(A-2)
5．感染症の原因・機序の解明における基礎研究の重要性について理解することができる。(A-3)
6．報道等を通じて問題となる感染性疾患について自ら理解し学習することができる。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．病原微生物のうち、重要な真菌、細菌、スピロヘータ、リケッチア、クラミジア、ウイルスの性状、相違点を理解する。

〔細菌・真菌〕

1）細菌の構造を図示し、形態と染色性により分類できる。
2）細菌の感染経路を分類し、説明できる。
3）細菌が疾病を引き起こす機序を説明できる。
4）外毒素と内毒素について説明できる。
5）グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。
6）グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。
7）グラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。
8）グラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、チフス菌、ペスト菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、ブルセラ、レジオネラ、インフルエンザ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。
9）グラム陰性スピリルム属病原菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。

10）抗酸菌（結核菌、非定型抗酸菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。
11）真菌（アスペルギルス、クリプトコッカス、カンジダ、ムコール）の微生物学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。
12）スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。

〔ウイルスの基本的性状と病原性〕
1）ウイルス粒子の構造を図示し、各部の機能を説明できる。
2）構造と性状によりウイルスを分類できる。
3）ＤＮＡゲノムとＲＮＡゲノムの複製・転写を一般化し、説明できる。
4）ウイルスの吸着、侵入、複製、成熟と放出の各過程を説明できる。
5）ウイルス感染細胞に起こる変化を説明できる。
6）ウイルス感染の組織特異性と病原性を説明できる。
7）主要な感染様式を列挙し、具体例をあげて説明できる。
8）プリオンの性状を説明できる。

〔ウイルス感染に対する生体反応・予防・治療〕
1）ウイルスに対する中和反応と細胞性免疫を説明できる。
2）ワクチンによるウイルス病予防の原理を説明できる。
3）ワクチンの種類と問題点を説明できる。
4）抗ウイルス薬を列挙し、効果発現の機序を説明できる。

〔各種のウイルスの特徴と病原性〕
1）主要なＤＮＡウイルス（ＣＭＶ、ＥＢＶ、パポーバウイルス、アデノウイルス、パルボウイルスＢ１９、ヒトヘルペスウイルス）が引き起こす疾患名を列挙できる。
2）主要なＲＮＡウイルス（ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、ムンプスウイルス、風疹ウイルス）が引き起こす疾患名を列挙できる。
3）肝炎ウイルス（Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄ，Ｅ）の性状とそれぞれが引き起こす疾患の特徴を列挙できる。
4）レトロウイルス（HIV、HTLV）の特性とゲノム構造を説明し、分類できる。
5）腫瘍ウイルスによる発がん機構を説明できる。

2．病原微生物（寄生体）の侵襲に対して、生体側の反応を理解する。
3．滅菌、消毒法を理解し、感染の予防に対する態度を涵養する。
4．化学療法剤の種類と、その作用機序について説明できる。
5．新興感染症・再興感染症を説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies）

〈学習方略〉
1．系統講義
2．実習【滅菌、消毒法などの理解に基づいた感染予防の基本、検体からの病原細菌の分離、同定、薬剤感受性検査の流れなどを細菌学実習により実習する】
3．テュートリアル形式【細菌学、ウイルス学、真菌学に関する課題を基に自学自習、グループ討論を行い、レポートを作成する】

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．次回授業する範囲の予習（10分）

【復習】

１．今回授業した範囲の復習（30分）

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

１．中間試験【記述及び多肢選択形式問題】

２．期末試験【記述及び多肢選択形式問題】

３．細菌学実習に対する取り込み姿勢
細菌学実習に対する取り込み姿勢及び、医療従事者として滅菌、消毒法を理解し、感染予防に留意できるか、グラム染色ができるかなどを実習の場で評価する。

４．テュートリアル課題、グループ学習、学生発表における態度姿勢、討論内容。

５．実習レポート

６．実習態度に真摯さが認められず、医療人としての資質に著しく欠けると判断されれば学力試験点数に関わらず不合格となる場合がある。

７．最終評価点数は１～５を総合的に評価し決定する。おおむね、中間：本試験＝１：３
中間試験成績が顕著に低い学生、あるいは、本試験における細菌、真菌、ウイルスなどの分野別のいずれかではなはだしく点数が低い場合は、不合格となる。

Ⅵ．**教科書**

小熊　恵二　他：シンプル微生物学　改訂第６版　南江堂　2018

Ⅶ．**参考書・文献**

レビンソン微生物学・免疫学　原書11版　丸善出版

病気がみえる　vol.6 免疫・膠原病・感染症　第２版　メディックメディア　2018

Tao Le, James S. Yeh: FIRST AID CASES FOR THE USMLE STEP 1　第４版　McGraw-Hill 2019

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	6	7	火	1	廣松	C-1	1)(1)⑧	微生物学総論１病原体の分類	病原体の分類（細菌、真菌、原虫、蠕虫、ウイルス、プリオン）真核生物、原核生物	講義
2				2	〃	C-3	1)(4)	細菌の構造と機能	細菌の構造と機能，細菌細胞の特徴、グラム染色、細胞壁、莢膜、線毛、べん毛、芽胞	〃
3		9	木	1	〃	C-3	1)(4)①	微生物学総論２細菌の増殖・代謝	増殖、代謝（呼吸、発酵）、好気性菌、嫌気性菌、ペプチドグリカン合成、タンパク質分泌装置	〃
4				2	〃	C-3	1)(4)	〃	〃	〃
5		14	火	1	清水	C-3	1)(4)	微生物学総論３細菌遺伝学・遺伝子の水平伝達	細菌ゲノムの変化（変異、遺伝子の水平伝達）、ファージ、プラスミド、トランスポゾン、接合、形質導入、形質転換	〃
6				2	〃	C-3	1)(4)	〃	〃	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
7	6	16	木	1	廣松	C-3	1)(4)②	微生物学総論４感染と発症(感染源・感染経路・感受性宿主)	常在菌、内因感染、院内感染、日和見感染、易感染性宿主、感染症、定着(colonization)、病原性、感染経路	講義
8				2	〃	E-2	1)②⑤⑥	〃	〃	〃
9		21	火	1	〃	C-3	1)(4)③	微生物学総論５細菌の病原因子	細菌の病原因子(付着、侵入、莢膜、食菌抵抗性、細胞内寄生性)、外毒素・内毒素(エンドトキシン)、LPS、敗血症、血管内凝固症候群(DIC)、ARDS	〃
10				2	〃	E-2	1)①	〃	〃	〃
11		23	木	1	伊藤	C-3	1)(4)	微生物学総論６抗菌薬(作用機序・選択毒性)	選択毒性、抗菌薬、作用機序、副作用、薬剤感受性試験	〃
12				2	〃	F-2	8)⑤	〃	薬剤耐性機構と耐性菌出現のメカニズム	〃
13				3	〃	E-2	1)③④	微生物学総論７薬剤耐性菌・感染症の予防と対策	薬剤耐性菌、滅菌と消毒、医療関連感染、標準予防策、感染経路別予防策、予防接種ワクチン、先天性感染、垂直感染	〃
14				4	〃	E-2	4)(5)	〃	〃	〃
15		28	火	1	廣松	C-3	1)(4)④	細菌学各論１グラム陽性球菌	ブドウ球菌、レンサ球菌	〃
16				2	〃	C-3	1)(4)④	〃	肺炎球菌、腸球菌、黄色ブドウ球菌	〃
17		30	木	1	〃	C-3	1)(4)⑥	細菌学各論２グラム陽性桿菌	バシラス属(炭疽菌)、コリネバクテリウム属(ジフテリア菌)、リステリア菌、クロストリジウム属ー破傷風菌、ボツリヌス菌、ウェルシュ菌、ディフィシル菌、Clostridium difficle 感染症の症候、菌交代症	〃
18				2	〃	E-2	4)(2)⑦	〃	〃	〃
19				3	全員			テュートリアル課題学習１	細菌学総論、微生物に対する宿主免疫応答、病原因子、外毒素、抗菌薬選択毒性	テュートリアル
20				4	〃			〃	〃	〃
21	7	5	火	1	〃			学生発表・討論		全体発表
22				2	〃			〃		〃
	8	22	月	1	中間試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					
23		23	火	1	廣松	C-3	1)(4)⑤	細菌学各論３グラム陰性球菌	淋菌、髄膜炎菌、性感染症、淋菌感染症、高度多剤耐性淋菌(セフトリアキソン高度耐性淋菌)	講義
24				2	〃	C-3	1)(4)⑦	細菌学各論４グラム陰性桿菌腸管関連①	腸内細菌、病原性大腸菌、EHEC、溶血性尿毒症症候群(HUS)の病態、診断	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
25	8	30	火	1	廣　松	C-3	1)(4)⑦	細菌学各論４ グラム陰性桿菌 腸管関連①	サルモネラ、赤痢、コレラ、腸炎ビブリオ	講　義
26				2	〃	C-3	1)(4)⑧	細菌学各論５ グラム陰性桿菌 腸管関連②	カンピロバクター、ヘリコバクター・ピロリ菌、クレブシエラ・エンテロバクター・セラチア	〃
27	9	6	火	1	〃	E-2	1)③④	〃	多剤耐性緑膿菌、グルコース非発酵菌群、バクテロイデス（嫌気性菌）カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	〃
28				2	〃	C-3	1)(4)⑦	細菌学各論６ グラム陰性桿菌 呼吸器関連・動物由来	ヘモフィルス・インフルエンザ菌、レジオネラ、百日咳菌、ペスト、野兎病菌、ブルセラ	〃
29		7	水	1	栗　原	C-3	1)(4)⑨	細菌学各論７ 抗酸菌（結核菌）	抗酸菌、結核菌、結核症の進展一次結核、二次結核、潜在性感染、休眠菌、再燃	〃
30				2	〃	C-3	1)(4)⑨	細菌学各論７ 非結核性抗酸菌・らい菌	抗結核薬、BCGワクチン、非結核性（非定型）抗酸菌症、らい菌	〃
31		13	火	1	清　水	C-3	1)(4)⑪	細菌学学論８ マイコプラズマ・リケッチア	肺炎マイコプラズマ、リケッチア症（発疹チフス、日本紅斑熱、つつが虫病）	〃
32				2	尾　鶴	C-3	1)(4)⑪	細菌学各論９ スピロヘータ	梅毒トレポネーマ、性感染症（STD）、ボレリア（ライム病ボレリア）、レプトスピラ（ワイル病）	〃
33		14	水	1	〃	C-3	1)(4)⑪	細菌学各論10	クラミジア	〃
34				2	全　員			テュートリアル課題学習２	感染症症例	テュートリアル
35		20	火	1	伊　藤	C-3	1)(4)⑩	真菌学	真菌の性状、酵母、菌糸、胞子、検査法、治療薬	講　義
36				2	〃	E-2	4)(3)①②	〃	浅在性、深在性真菌症（カンジダ、アスペルギルス、クリプトコッカス、ムコール）、ニューモシスチス肺炎	〃
37		21	水	1	全　員	E-2	2)③	微生物学実習	細菌の取り扱い法、細菌の分離培養、消毒薬の効果、ツベルクリン皮内反応（皮内注射実施、消毒）	実　習
38				2	〃	G-3	1)②⑬	〃	〃	〃
39		27	火	1	〃	E-2	2)③	〃	ブドウ球菌の同定、確認培養、芽胞染色、莢膜染色、レンサ球菌の溶血環、細菌学的検査（細菌塗抹、培養、同定、薬剤感受性試験）	〃
40				2	〃	F-2	3)⑬	〃	〃	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
41	9	28	水	1	全員	E-2	2)③	微生物学実習	ベータラクタマーゼ、薬剤感受性試験、消毒薬の効果の判定、標準予防策(standard precaution)/皮膚消毒、細菌学的検査(細菌塗抹、培養、同定、薬剤感受性試験)、Gram染色の実施	実習
42				2	〃	F-3	6)(1)③	〃	〃	〃
43	10	4	火	1	〃	E-2	2)③	〃	生化学性状判定、赤血球凝集反応、グラム染色テスト	〃
44				2	〃	F-3	6)(2)③	〃	〃	〃
45		5	水	1	廣松	C-3	1)(1)①②	ウイルス学①総論1	ウイルスの基本的性状・DNAウイルス・RNAウイルス・エンベロープ	講義
46				2	〃	C-3	1)(1)③④	〃	ウイルスの分類・増殖様式	〃
47		11	火	1	〃	C-4	6)②	ウイルス学②総論2	ウイルス感染細胞におきる変化・細胞変性効果・ウイルスと癌化・がん遺伝子・がん抑制遺伝子	〃
48				2	〃	C-3	1)(1)⑤⑥⑦	〃	ウイルスの感染様式・ウイルス伝播経路と予防	〃
49		12	水	1	〃	C-3	1)(2)①②③	ウイルス学③総論3	ウイルスに対する免疫応答・ワクチン(弱毒生ワクチン・不活化ワクチン)	〃
50				2	〃	E2	4)(1)	〃	抗ウイルス薬(抗ヘルペス・抗レトロウイルス薬・抗HCV)	〃
51		18	火	1	〃	C-3	1)(3)①	ウイルス学各論DNAウイルス1	DNAウイルスとは・ポックスウイルス・HSV1,2・水痘/帯状疱疹ウイルス	〃
52				2	〃	E-2	4)(1)④⑦⑧	〃	水痘・帯状疱疹ウイルス・サイトメガロウイルス	〃
53		19	水	1	〃	C-3	1)(3)①	ウイルス学各論DNAウイルス2	EBウイルス　(伝染性単核球症など)・HHV6,7,8	〃
54				2	〃	C-3	1)(3)①	ウイルス学各論DNAウイルス3	アデノウイルス・パピローマ・パルボウイルス	〃
55	11	1	火	1	栗原	E-2	4)(1)①	ウイルス学各論RNAウイルス1	RNAウイルス・インフルエンザウイルス	〃
56				2	廣松	E-2	4)(1)②⑤	ウイルス学各論RNAウイルス2	麻疹・ムンプスウイルス	〃
57		2	水	1	〃	C-3	1)(3)②	ウイルス学各論RNAウイルス3	ピコルナウイルス科・ポリオコクサッキー・エンテロウイルス	〃
58				2	〃	C-3	1)(3)②	〃	狂犬病・エボラ出血熱・SFTS・ロタ	〃
59		8	火	1	〃	C-3	1)(3)②	ウイルス学各論RNAウイルス4	ノロウイルス・風疹・デング熱	〃
60				2	〃	C-3	1)(3)②	〃	日本脳炎ウイルス・ジカ熱・SARS-CoV	〃
61		9	水	1	吉村	E-2	4)(1)⑥⑨	ウイルス学各論レトロウイルス	レトロウイルスの性状、HTLV-1、HIV、AIDS	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
62	11	9	水	2	吉村	E-2	4)(3)②	ウイルス学各論 レトロウイルス	日和見感染症・ニューモシスチス肺炎	講義
63		15	火	1	〃	C-3	1)(3)②	ウイルス学各論 肝炎ウイルス・プリオン病	A型肝炎ウイルス、B型肝炎ウイルス、慢性肝炎、無症候性キャリアー	〃
64				2	〃	D-7	2)①	〃	C型肝炎ウイルス、D型肝炎ウイルス、E型肝炎ウイルス、プリオンとプリオン病	〃
65		16	水	1	全員			学生発表・討論		全体発表
66				2	〃			〃		〃
67		22	火	1	〃			〃		〃
68				2	〃			〃		〃
	12	7	水	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

生　理　学　Ⅱ

Ⅰ．担当教員名

生　理　学	教　　授	藤　田　孝　之（科目責任者）
	講　　師	本　田　　啓（副責任者）
	〃	内　田　俊　毅
	助　　教	胡　　耀　鵬
	〃	平　石　敬　三
	非常勤講師	佐　藤　元　彦（愛知医科大学　教授）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

前期で得た知識に基づいて、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、消化器系、内分泌・生殖系等の内臓諸機能がどのように発現し、調節されているかを詳しく学びます。また、これらの機能の破綻がどのようにして種々の病気をひきおこすのか、その機序（病態生理学）を、幾つかの具体例を通して学びます。更に、動物標本を用いた実験、自らを被験者とした臨床生理学的測定（血圧、心電図、スパイロメーター、脳幹反応、尿 pH・浸透圧）、コンピュータソフトによるシミュレーション演習等によって、座学で学んだ知識への理解を深め、臨床医学を学ぶための準備とします。

1．呼吸器系、循環器系（心臓、血管）、腎・泌尿器系、消化器系、内分泌系、成長、老化、性分化、生殖の機能と調節機構を理解する。(A-1)
2．体温調節、体内リズム（睡眠・覚醒）形成の仕組みを理解する。(A-1)
3．呼吸、循環、水・電解質・酸塩基調節、消化・吸収、内分泌、栄養・代謝、体温調節、体内リズムの病態を理解する。(A-1)
4．実習を通して、呼吸、血圧、浸透圧、酸塩基の調節、神経筋伝達、心臓興奮収縮連関、体性反射、脳幹反応等の基本概念と測定法を修得する。(A-4)
5．学習を通して、先端的な医学情報に触れ、それを論理的に読み解き、更に批判的に考察する態度を涵養する。(A-2)
6．学習を通して、生理学上の未解決の諸問題とその解決に向けた現在の取り組み及びその意義を理解する。(A-3)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．呼吸筋と呼吸運動の機序を説明できる。
2．肺気量と肺・胸郭系の圧–容量関係（コンプライアンス）を説明できる。
3．肺胞におけるガス交換と血流との関係を説明できる。
4．サーファクタントの意義（肺虚脱の成因など）を説明できる。
5．肺換気の血液ガスへの影響を説明できる。
6．呼吸中枢による呼吸調節機序を説明できる。
7．気管支喘息、肺気腫、異常呼吸運動の病態を説明できる。
8．ホルモンを化学構造、作用機序から分類できる。
9．ホルモン分泌の制御機構を概説できる。

10. 視床下部と脳下垂体前葉、後葉ホルモンとの関係を説明できる。
11. 電解質、水調節に関与するホルモンの分泌機序、作用機序とその異常について説明できる。
12. 糖質調節に関与するホルモンの分泌機序、作用機序とその異常について説明できる。
13. 成長に関与するホルモンの作用を説明できる。
14. 生殖に関与するホルモンの作用を説明できる。
15. 心拍の機序（代謝、イオン）と自律神経系による調節を説明できる。
16. 心筋細胞膜の興奮・消退過程のメカニズムを各種イオンと関連づけて説明できる。
17. 心室筋の活動電位持続時間を変化させる因子と、その意義を説明できる。
18. 興奮伝播に関わる因子と、その機構を説明できる。
19. 心筋の興奮収縮連関を、Ca^{2+}動態と結びつけて説明できる。
20. 心臓における Frank-Starling の法則を説明できる。
21. 心電図を心筋細胞の活動電位と対応させて説明できる。
22. 心筋収縮促進因子とその作用機序を説明できる。
23. 心筋の興奮収縮連関機構とその異常を説明できる。
24. 血管の構造と分類、機能の違いを説明できる。
25. 血行力学の諸法則を概説できる。
26. 循環反射・調節機構を説明できる。
27. 脳、心、肺、肝、腎における特殊な循環調節を概説できる。
28. 胎児循環の特殊性、主要な循環動態の異常について概説できる。
29. 腎血流量と腎機能との関係を説明できる。
30. 糸球体の濾過機能と調節を説明できる。
31. イヌリン、クレアチニンクリアランスの測定と意義を説明できる。
32. 尿細管各部での水、電解質、糖の再吸収の機序を説明できる。
33. 腎に作用するホルモン（アルドステロン、ADH)、血管作動物質（レニン–アンジオテンシン–アルドステロン）の作用を説明できる。
34. 腎における尿の濃縮能の機序とその意義を説明できる。
35. 水、電解質、酸塩基平衡と腎機能との関係を説明できる。
36. 下部尿路・膀胱の構造と神経支配を説明できる。
37. 排尿反射を説明できる。
38. 性行動異常、性機能障害の病態を概説できる。
39. 加齢、老化の機序、生理的機能の変化を概説できる。
40. 体温調節機構とその異常による病態を説明できる。
41. 概日リズムと睡眠・覚醒の関係を概説できる。
42. 運動時のエネルギー代謝、体力増進のトレーニングのメカニズムを概説できる。
43. 消化・吸収の全体像とそこで作動する一般原理を概説できる。
44. 消化管蠕動運動を平滑筋の興奮収縮連関、自発的興奮リズム発生機構から説明できる。
45. 消化管運動の自律神経制御機構を説明できる。
46. 消化液分泌（唾液、胃液、膵液、胆汁液、腸液）の機序を説明できる。
47. 糖、蛋白質、脂質、水、電解質、ビタミンの吸収機構を説明できる。
48. 下痢、便秘、腸閉塞、嘔吐、胃潰瘍の病態を概説できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．講義に出席する。

２．テュートリアルやテーマ別学習で理解を深める。

３．テーマ別学習や小テストの結果から、間違った点を理解する。

４．理解できない点について講義担当者へ質問する。

５．実習を通して理解を深める。

６．実習項目ごとのレポート作成をおこなう。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．シラバスに記載されている学習項目について、教科書、生理学資料集、配布資料、参考書などで予習をする。(30分程度)

【復習】

１．シラバスに記載されている学習項目について、教科書、生理学資料集、配布資料、参考書などで復習をする（必要ならば講義担当者へ質問すること)。(30分程度)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．出席状況（※特に、実習、実習関連学習、テュートリアルは全て出席すること)、授業への参加姿勢。

２．小テスト（レスポンなど)、テュートリアルなどでの提出物

３．実習レポート提出、及びその内容（※ レポートなど、提出物の提出は必須とする。)

４．期末試験成績

※連絡事項は重要なこと（提出物やその期限など）を含め、『Ｍ２の掲示板』や『Moodle』などでお伝えする場合があります。各自注意して、それらを随時確認すること。

Ⅵ．**教科書**

・大地陸男　著：生理学テキスト　第８版　文光堂　2017

Ⅶ．**参考書・文献**

・小澤瀞司・福田康一郎　監修、本間研一ほか　編集：標準生理学　第９版　医学書院　2019

・坂井建雄・河原克雅　総編集：カラー図解　人体の正常構造と機能〔全10巻縮刷版〕 第４版　日本医事新報社　2021

・William F. Ganong　原著、Kim E. Barrett ほか著、岡田泰伸　監修：ギャノング生理学　原書25版　丸善出版　2017

・John E. Hall　著、石川義弘ほか　総監訳：ガイトン生理学　原著第13版　エルゼビア・ジャパン　2018

・Linda S. Costanzo　著、鯉淵典之　監訳：症例問題から学ぶ生理学　原書４版　丸善出版　2018

・貴邑冨久子・根来英雄　著：シンプル生理学　第７版　南江堂　2016

・医療情報科学研究所編：病気がみえる　メディックメディア（vol.1消化器　第6版　2020, vol.2循環器　第5版　2021, vol.3糖尿病・代謝・内分泌　第5版　2021, vol.4呼吸器　第3版　2018, vol.8腎・泌尿器　第3版　2019)

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	6	29	水	3	藤田	D-6	1)	呼吸 1	呼吸器系の概要、呼吸器系の構造と機能、換気、自律神経性調節	講義
2				4	〃	D-6	1)	呼吸 2	肺気量分画、スパイロメトリー、肺胞換気量、残気量、死腔	〃
3	7	6	水	1	内田	D-6	1)⑤	呼吸 3	肺コンプライアンスと表面張力、肺の圧容積関係、気道抵抗、クロージングボリューム	〃
4				2	〃	D-6	1)⑥⑦⑨ 4)(1)②	呼吸 4	ガス交換と拡散能、換気血流比と血液ガス、低酸素血症、A-aDO_2の開大（拡散障害、シャント、換気血流比不均等）、呼吸中枢と調節、低換気とCO_2蓄積、酸素解離曲線、ガスの運搬	〃
5				3	〃	D-6	1)⑧ 4)(3)①②,(8)②	呼吸 5	%VCとFEV1.0%、閉塞性換気障害、拘束性換気障害、肺気腫、COPD、口すぼめ呼吸、CO_2ナルコーシス、フローボリューム曲線、気胸、酸素マスク	〃
6				4	本田	D-12	1)①②	内分泌 1	ホルモン総論、生成と放出、作用機序	〃
7		13	水	1	〃	D-12	1)③	内分泌 2	視床下部ホルモン、下垂体ホルモン	〃
8				2	〃	D-12	1)④⑤	内分泌 3	副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン、甲状腺ホルモン	〃
9				3	〃	D-12	1)④⑥	内分泌 4	副甲状腺ホルモン、膵島ホルモン	〃
10				4	〃	D-12	1)⑦ 4)(2)①～③ 4)(3)①～④ 4)(4)①～④ 4)(5)①～③	内分泌 5	男性ホルモン、女性ホルモン	〃
11	8	23	火	3	藤田	D-5	1)⑤⑧⑨⑫～⑭	循環 1	循環器系の概要、心拍出量	〃
12				4	〃	D-5	1)⑤⑧⑨⑫～⑭	循環 2	一回拍出量、静脈循環	〃
13		26	金	1	〃	D-5	1)⑤⑧⑨⑫～⑭	循環 3	血行力学、循環動態の異常	〃
14				2	〃	D-5 F-1	1)⑤⑧⑨⑫～⑭ 5)①	循環 4	血管の構造と分類、微小循環	〃
15		29	月	3	〃	D-5	1)⑤⑧⑨⑫～⑭	循環 5	血管の構造と分類、微小循環、リンパ循環	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
16	8	29	月	4	藤田	D-5	1)⑤⑧⑨⑫～⑭ 4)(9)①②	循環 6	浮腫、血圧、循環の調節機構	講義
17		30	火	3	〃	D-5	1)⑤⑧⑨⑫～⑭	循環 7	圧受容体反射、特殊な循環	〃
18				4	〃	D-5	1)①～④⑩⑪	心臓 1	心臓の構造と機能、自動能、興奮と興奮伝播、心周期	〃
19	9	2	金	1	〃	D-5	1)①～④⑩⑪	心臓 2	心電図波形のメカニズム	〃
20				2	〃	D-5	1)①～④⑩⑪	心臓 3	心電図	〃
21		5	月	3	〃	D-8	1)①～⑦	腎臓 1	腎臓の構造と機能	〃
22				4	〃	D-8	1)①～⑦	腎臓 2	糸球体、尿細管、集合管	〃
23		6	火	3	〃	D-8	1)①～⑤	腎臓 3	尿細管、集合管	〃
24				4	本田	D-8	1)⑤～⑦ 3)(2)①	腎臓 4	血漿浸透圧、pH調節、腎臓内分泌	〃
25		9	金	1	〃	D-8	1)⑧	腎臓 5・排尿	膀胱の構造と神経支配、排尿反射、腎・尿路機能の特徴とその異常	〃
26				2	〃	D-9	1)①～⑨	生殖	性分化、精巣の構造と機能、卵巣・子宮の構造と機能、性周期、妊娠、乳汁分泌	〃
27		12	月	3	胡	D-5	4)(3)①～④⑥	病態生理	不整脈の心電図	〃
28				4	本田	C-2	3)(4)①～③⑤ 5)⑯	環境生理	代謝、体温調節、サーカディアンリズム、運動生理	〃
29		13	火	3	藤田	D-7	1)④～⑫⑭⑮	消化・吸収総論1	消化・吸収の全体像・一般原理	〃
30				4	〃	D-7	1)①～⑤	消化・吸収総論2	消化管の構造と神経支配、消化管運動の調節（Cajal細胞、自律神経系）	〃
31		16	金	1	内田	D-7	1)①～⑤	消化・吸収1	消化管の構造と神経支配、消化管の蠕動運動と自律神経、闘争か逃走か反応、胃腸反射	〃
32				2	〃	D-7	1)③④⑬⑭ 4)(1)②	消化・吸収2	咀嚼と嚥下、唾液、食道の運動、LES圧などの逆流防止機構、食道内圧、逆流性食道炎、アカラシア	〃
33		20	火	3	〃	D-7	1)⑦⑫ 4)(2)① 6	消化・吸収3	胃酸の分泌機構、消化管ホルモン、胃潰瘍、胃切除後貧血、ダンピング症候群のメカニズム	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
34	9	20	火	4	内田	D-7	1)⑦〜⑫	消化・吸収 4	膵液分泌、胆汁液（胆汁酸と胆汁色素）分泌、小腸の腸液分泌と吸収、糖・タンパク質・脂質などの消化・吸収機構、インクレチン	講義
35		26	月	3	非常勤講師 佐藤			病態生理	呼吸の病態生理	〃
36				4	内田	D-7	1)⑪⑮ 4)(3)② (7)1①	消化・吸収 5	結腸の構造と機能、排便反射、下痢と嘔吐、腸内フローラ、小腸と結腸の病態（腸閉塞と消化管穿孔）、急性腹症	〃
37		27	火	3	〃	D-7	1)⑥⑧⑮	消化・吸収 6	胎生期の肝臓、肝臓の機能、肝小葉の構造と機能、胆汁色素、ビリルビン腸肝循環、グルクロン酸抱合、肝障害とビリルビン	〃
38				4	〃	D-7	1)⑥ 4)(5)④⑤	消化・吸収 7	肝炎、門脈圧亢進症、肝硬変、肝予備能、肝性脳症	〃
39		30	金	1	生理学スタッフ 全員			グループ学習	後期の内容について	演習
40				2	〃			〃	〃	〃
41	10	3	月	3	〃			〃	〃	〃
42				4	〃			〃	〃	〃
43		4	火	3	〃			〃	〃	〃
44				4	藤田			実習関連学習		実習
45		7	金	1	〃			〃		〃
46				2	〃			〃		〃
47		11	火	3	生理学スタッフ 全員			グループ学習	後期の内容について	テュートリアル
48				4	〃			〃	〃	〃
49		14	金	1	藤田			実習関連学習		実習
50				2	本田・胡			〃		〃
51		17	月	3	生理学スタッフ 全員			生理学実習		〃
52				4	〃			〃		〃
53		18	火	3	〃			〃		〃
54				4	〃			〃		〃
55		21	金	1	〃			グループ学習	後期の内容について	テュートリアル
56				2	〃			〃	〃	〃
57	11	1	火	3	〃			〃	〃	〃
58				4	〃			〃	〃	〃
59		7	月	3	〃			生理学実習		実習
60				4	〃			〃		〃
61		8	火	3	〃			〃		〃
62				4	〃			〃		〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
63	11	11	金	1	生理学スタッフ全員			実習関連学習		実習
64				2	〃			〃		〃
65		14	月	3	〃			生理学実習		〃
66				4	〃			〃		〃
67		15	火	3	〃			〃		〃
68				4	〃			〃		〃
69		18	金	1	藤田			病態生理		講義
70				2	〃			後期のまとめ		〃
71		21	月	3	生理学スタッフ全員			生理学実習		実習
72				4	〃			〃		〃
73		22	火	3	〃			〃		〃
74				4	〃			〃		〃
	12	9	金	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

寄　生　虫　学

Ⅰ．担当教員名

微生物・免疫学	教　授	廣松賢治（科目責任者）
	講　師	石井一成（副責任者）
	〃	伊藤竜太
	〃	伴　文武
	〃	栗原悠介
	〃	清水章文
	助　教	吉村芳修
	〃	尾鶴　亮

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．寄生虫症の的確な診断と治療ができるように重要な病原寄生虫に関する基礎的知識を身につける。(A-1)
2．重要な病原体を媒介する動物と、それらが媒介する病原体との関連を理解する。(A-1)
3．寄生虫疾患の診断上必要な試料・検体の採取と取り扱い法および標本作製法を知る。(A-1)
4．グローバルヘルスとしての寄生虫疾患の重要性を理解することができる。(A-2)
5．寄生虫疾患における基礎研究の重要性について理解することができる。(A-3)
6．報道等を通じて問題となる寄生虫疾患について自ら理解し学習することができる。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．宿主－寄生虫相互関係について説明できる。
2．人体寄生虫の病害と症状を説明できる。
3．個々の人体寄生虫の感染および体内移行経路を述べることができる。
4．人体寄生虫の診断と治療および予防方法を説明できる。
5．人体寄生虫の分布について述べることができる。
6．人体寄生虫の標本を観察し、その特徴から種類を判定することができる。
7．寄生虫検体の取り扱いを知る。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

1．講義　スライド、プリント配布
2．実習　実物標本、虫体の圧平染色および病理切片標本等の観察
3．テュートリアル　課題シートを基にした自学およびグループ学習
4．指定した教科書の序説部分あるいは配布プリントを事前に読んでおくこと。
5．授業時に前回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
6．講義で配布されたプリント等を熟読して復習すること。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

1．次回授業する範囲の予習（10分）

【復習】

１．今回授業した範囲の復習 (30分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．出席状況および実習レポート（原則として実習は全て出席すること）

２．論述および CBT 様式問題による評価（実習内容の画像等の問題も含む）

Ⅵ．**教科書**

吉田幸雄：図説　人体寄生虫学　改訂10版　南山堂　2021

Ⅶ．**参考書・文献**

W.Levinson, P.Chin-Hong, E.A.Joyce, et al.: Review of Medical Microbiology & Immunology, 17th ed. MCGRAW-HILL EDUCATION 2022

名和行文：清潔指向社会の落とし穴　寄生虫感染の Q&A　ミネルヴァ書房　2003

病気がみえる　vol.6 免疫・膠原病・感染症　第２版　メディックメディア　2018

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	24	水	1	石井	C-1	1) (1)⑧	寄生虫学総論	寄生の概念、寄生虫分類、感染経路、生活史、原虫、蠕虫、Negrected tropical diseases（NTDs）	講義
						C-3	1) (5) 2) (4)①			
						E-2	4) (3) ②～④			
2				2	〃	C-3	1) (5) 2) (4)①	腸管寄生線虫症	回虫症、鉤虫症、鞭虫症、蟯虫症、糞線虫症	〃
						E-2	4) (3)③			
3		25	木	3	〃	C-3	1) (5) 2) (4)①	組織内寄生線虫症 幼虫移行症	糸状虫症、旋毛虫症、イヌ回虫症、アニサキス症、顎口虫症、住血線虫症	〃
						E-2	4) (3)③			
4				4	全員	C-3	1) (5)	線虫実習	回虫、鉤虫、鞭虫、蟯虫、糞線虫、ミクロフィラリア、アニサキス、顎口虫、旋毛虫	実習
						E-2	4) (3)③			
5		31	水	1	石井	C-3	1) (5) 2) (4)①	吸虫症	肝吸虫症、横川吸虫症、肺吸虫症、住血吸虫症、セルカリア性皮膚炎	講義
						E-2	4) (3)③			
6				2	〃	C-3	1) (5) 2) (4)①	条虫症	裂頭条虫症、弧虫症、無鉤条虫症、有鉤条虫症、多包条虫症	〃
7	9	1	木	3	全員	C-3	1) (5) 2) (4)①	テュートリアル 課題学習	寄生虫症症例に関する課題	テュートリアル
						E-2	4) (3) ③④			
8				4	〃	C-3	1) (5) 2) (4)①	〃	〃	〃
						E-2	4) (3) ③④			
9		8	木	3	石井	C-3	1) (5) 2) (4)①	腸管内寄生原虫症	アメーバ症、ジアルジア性下痢症、膣トリコモナス症	講義
						E-2	4) (3)④			

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
10	9	8	木	4	全員	C-3	1)(5)	吸虫、条虫実習	肝吸虫、肺吸虫、住血吸虫、裂頭条虫、テニア科条虫、エキノコックス	実習
11		15	木	3	石井	C-3	1)(5) 2)(4)	組織・細胞内寄生原虫症	トリパノソーマ症(睡眠病、シャーガス病)、リーシュマニア症	講義
12				4	〃	C-3	1)(5) 2)(4)	胞子虫症 1	クリプトスポリジュウム症、トキソプラズマ症、ニューモシスチス肺炎	〃
						E-2	4)(3)②			
13		22	木	3	〃	C-3	1)(5) 2)(4)	胞子虫症 2	マラリア	〃
						E-2	4)(3)④			
14				4	廣松	C-3	1)(5) 2)(4)	臨床寄生虫学	日本でよく遭遇する寄生虫症および診断	〃
						E-2	4)(3) ③④			
15		29	木	3	全員	C-3	1)(5)	原虫実習	赤痢アメーバ、ランブル鞭毛虫、トリコモナス、トリパノソーマ、リーシュマニア	実習
						E-2	4)(3) ②④			
16				4	〃	C-3	1)(5)	〃	トキソプラズマ、マラリア原虫、ニューモシスチス肺炎	〃
						E-2	4)(3) ②④			
17	10	6	木	3	〃	C-3	1)(5) 2)(4)	テュートリアル課題学習	寄生虫各論に関する課題	テュートリアル
						E-2	4)(3) ②③④			
18				4	〃	C-3	1)(5) 2)(4)	〃	〃	〃
						E-2	4)(3) ②③④			
19		13	木	3	石井	C-3	1)(5) 2)(4)	衛生昆虫	外部寄生虫、媒介昆虫、ダニアレルギー	講義
20				4	全員	C-3	1)(5)	衛生昆虫実習	ノミ、シラミ、マダニ、ヒゼンダニ、ニキビダニ、ツツガムシ	実習
		27	木	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

薬　理　学　Ⅰ

Ⅰ．担当教員名

薬理学	教授	岩本隆宏（科目責任者）
	准教授	根本隆行（副責任者）
	講師	喜多　知
	〃	小松知広
	〃	篠田康晴
	非常勤講師	喜多紗斗美（徳島文理大学薬学部教授）
	〃	児島将康（久留米大学分子生命科学研究所教授）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

薬理学は、薬物の生体への相互作用を考究する基礎医学と臨床医学の両面にわたる総合的な学問である。薬理学Ⅰ（M2）と薬理学Ⅱ（M3）を通して、薬理学の基本原理（薬物の作用様式、薬物動態）と的確な薬物療法を実施するための基本知識（薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項）を学ぶ。薬理学Ⅰの到達目標は、以下の項目である。

1．薬理学の基本的な概念を理解する。(A-1)
2．薬理作用および薬物動態の基本原理を理解する。(A-1)
3．末梢神経に作用する薬物の基本知識を習得する。(A-1)
4．医薬品の開発・臨床試験を理解する。(A-2)
5．演習により、薬物動態の解析法を理解する。(A-3)
6．薬理学実習により、生体・組織レベルの薬理作用を理解する。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．薬理学総論および薬理学各論（末梢神経作用薬）
　1）薬理学の基本的な概念と位置づけを説明できる。
　2）薬物の用量–反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係を説明できる。
　3）薬物の受容体結合と薬理作用との定量的関連性を理解し、作動薬と拮抗薬を説明できる。
　4）受容体による情報伝達の機序を説明できる。
　5）蛋白リン酸化とカルシウムイオンによる細胞内シグナル伝達過程を説明できる。
　6）薬物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。
　7）製剤の分類・用途を説明できる。
　8）薬物投与方法を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。
　9）治療薬物モニタリング（TDM）の意義とその対象薬を説明できる。
　10）臨床薬理学の立場から、薬物動態と薬物相互作用を説明できる。
　11）医薬品の分類、医薬品情報、ポリファーマシーを説明できる。
　12）処方箋の記載事項を説明できる。
　13）医薬品開発と臨床試験（治験）を説明できる。
　14）末梢神経作用薬の薬理作用と治療応用を説明できる。

２．薬物動態シミュレーション演習（アクティブ・ラーニング）
薬物動態シミュレーションソフトを用いて、薬物動態に影響するパラメーターと決定因子にはどのようなものがあるか体験学習する。
１）薬物動態シミュレーションソフトにより、薬物動態を解析できる。
２）薬物動態のパラメーターと決定因子を説明できる。

３．薬理学実習
１）シミュレーションソフトを用いた血圧・心拍数の自律神経調節の実験
交感神経・副交感神経による血圧・心拍数の調節機構と末梢神経作用薬の薬理作用、作用機序、薬物相互作用を説明できる。
２）シミュレーションソフトを用いた腸管収縮の受容体反応の実験
受容体作用薬（作動薬・拮抗薬）の濃度－反応曲線から、受容体阻害様式（競合・非競合）を判定し、効力の指標となる pD_2 値、pA_2 値および pD'_2 値を算出できる。
３）モルモット摘出回腸標本を用いたコリン作動性薬物の実験
内臓平滑筋に作用する薬物の薬理作用、作用機序、薬物相互作用を説明できる。
４）パーキンソン病様モデルマウスを用いた薬理作用・薬物動態（脳内移行）の実験
病態モデルマウスに対するパーキンソン病治療薬の薬理作用、薬物動態、薬物相互作用を説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉
１．指定教科書と配布プリントを中心に、PC スライドと板書によって進められる講義に出席し、その内容を理解する。
２．講義後の小テストにより、各講義内容の理解度をチェックする。
３．演習に出席し、薬物動態や受容体反応についての理解を深める。
４．講義の終了後、不明な点を積極的に質問する（教員室へ訪問可能）。

〈事前事後学習の方法〉
【予習】
１．講義の前に、該当する範囲の教科書を予習する（30分）。
【復習】
１．CBT 問題集等を用いて、学んだ知識の実践力・応用力を自ら確認する（30分）。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．期末試験（論述式・客観式）により評価する。
２．講義と実習・演習の出席状況と学習態度も評価の対象とする。

Ⅵ．**教科書**

１．岡庭　豊：薬がみえる vol.4　第１版　メディックメディア　2020
２．岡庭　豊：薬がみえる vol.1　第２版　メディックメディア　2021

Ⅶ．**参考書・文献**

１．金井好克　他：エース薬理学　第１版　南山堂　2020
２．柳澤輝行・丸山　敬　訳：イラストレイテッド薬理学　原著６版　丸善　2016
３．田中千賀子　他：New 薬理学　改訂７版　南江堂　2017

4．Brunton, L. L.: Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics 13th ed.　McGraw-Hill　New York　2017

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	24	水	3	岩本	C-3	3)(1)(3)	薬理学総論	薬理学の学習方法、薬の作用様式、薬理作用の分類 (vol.4: 2-14, 38-56)	講義
2				4	喜多知	C-3	3)(1)(2)	〃	薬物の作用点、受容体、チャネル・トランスポーター、酵素 (vol.4: 15-37)	〃
3		31	水	3	篠田	C-3	3)(2)	薬物動態	薬物の体内動態 (vol.4: 58-71)	〃
4				4	〃	C-3	3)(2)	〃	薬物の吸収 (vol.4: 72-85)	〃
5	9	7	水	3	根本	C-3	3)(2)	〃	薬物の分布 (vol.4: 86-100)	〃
6				4	〃	C-3	3)(2)	〃	薬物の代謝、排泄 (vol.4: 101-123)	〃
7		14	水	3	非常勤講師 喜多紗	F-2	8)⑨	〃	薬物動態変動(疾患、遺伝的要因)、薬物動態パラメータ (vol.4: 124-142)	〃
8				4	〃	F-2	8)⑨	〃	薬物速度論、コンパートメントモデル、治療薬物モニタリング(TDM)(vol.4: 143-200)	〃
9		21	水	3	根本	F-2	8)⑨	演習(アクティブ・ラーニング)	薬物動態シミュレーション演習 (vol.4: 143-190)	実習(PC教室)
10				4	〃	F-2	8)⑨	〃	〃	〃
11		28	水	3	岩本	F-2	8)①⑨⑪⑭	薬剤の使用と実務	医薬品の分類、医薬品情報、処方箋、ポリファーマシー (vol.4: 292-343)	講義
12				4	根本	F-2	8)③④	末梢神経系に作用する薬	自律神経作用薬(総論) (vol.1: 2-13, 18-25)	〃
13	10	5	水	3	喜多知	F-2	8)③④	〃	交感神経作用薬、アドレナリン作動薬、抗アドレナリン薬 (vol.1: 26-54)	〃
14				4	〃	F-2	8)③④	〃	〃	〃
15		12	水	3	〃	F-2	8)④	〃	副交感神経作用薬、コリン作動薬、抗コリン薬(vol.1: 55-74)	〃
16				4	岩本	A-2	1)2)	実習ガイダンス	実習・発表会の進め方、動物実験の注意事項	〃
17		19	水	3	薬理学スタッフ全員	F-2	8)④	実習1	(Ⅲ.3. 薬理学実習項目のローテーション)	実習(実習室・PC教室)
18				4	〃	A-2	1)2)	〃	〃	〃
19	11	2	水	3	小松	F-2	8)⑩	薬物相互作用	薬物相互作用の分類・機序 (vol.4: 202-212)	講義
20				4	〃	C-3	3)(2)	製剤	製剤の分類・特徴・用途・使い方 (vol.4: 214-290)	〃
21		9	水	3	薬理学スタッフ全員	F-2	8)④	実習2	(Ⅲ.3. 薬理学実習項目のローテーション)	実習(実習室・PC教室)

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
22	11	9	水	4	薬理学スタッフ全員	A-2	1)2)	実習 2	(Ⅲ.3. 薬理学実習項目のローテーション)	実習(実習室・PC教室)
23		10	木	1	根本	F-2	8)④	末梢神経系に作用する薬	神経節遮断薬、末梢性・中枢性筋弛緩薬、重症筋無力症治療薬(vol.1: 75, 88-99, 103-105)	講義
24				2	非常勤講師 児島	F-2	8)④	生理活性ペプチドと創薬	インスリン、ナトリウム利尿ペプチド、グレリン(プリント)	〃
25				3	薬理学スタッフ全員	F-2	8)④	実習 3	(Ⅲ.3. 薬理学実習項目のローテーション)	実習(実習室・PC教室)
26				4	〃	A-2	1)2)	〃	〃	〃
27		16	水	3	〃	F-2	8)④	実習 4	(Ⅲ.3. 薬理学実習項目のローテーション)	〃
28				4	〃	A-2	1)2)	〃	〃	〃
29		17	木	1	〃	F-2	8)④	実習まとめ	発表スライド作成	演習(PC教室)
30				2	〃	F-2	8)④	〃	〃	〃
31				3	〃	A-2	1)2)	実習発表会	発表・全体討論	講義
32				4	〃	A-2	1)2)	〃	〃	〃
	12	13	火	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

組織細胞生物学各論

Ⅰ．担当教員名

細胞生物学	教　　授	白　澤　専　二（科目責任者）
	准　教　授	角　田　俊　之（副責任者）
	〃	石　倉　周　平
	講　　師	小　柳　　緑
	〃	土　井　佳　子
	〃	吉　田　和　真
	助　　教	田　中　陽　子

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．人体の各器官を構成する組織の構造的・機能的特徴を理解することができる。(A-1)
2．各組織に存在する主要な細胞の形態的・機能的特徴を理解することができる。(A-1)
3．各細胞が機能を発現する際に必要な分子とその機能発現機序を理解することができる。(A-1)
4．各器官間に存在するネットワークの分子機序とその意義を、最新の医学的知見も踏まえて理解することができる。(A-2)
5．各細胞が機能不全に陥った場合にどの様な病態が生じるかを理解でき、その治療法を中心に最新の医学的知見も踏まえて医学の進捗状況を理解する姿勢を身につけることがきる。(A-3)
6．細胞生物学・組織学・生化学・生理学・遺伝学・解剖学を統合させた基礎医学の修得と理解を推進し、新たな自己の到達目標を設定できる。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．血管、リンパ管の構造と機能を説明できる。
2．凝固・線溶系を説明できる。
3．脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃、パイエル板の構造と機能を説明できる。
4．自然リンパ球、リンパ球、抗原提示細胞の機能について説明できる。
5．内分泌腺の構造と分泌されるホルモンの関係と作用機序を説明できる。
6．皮膚の構造と機能、および、感覚受容器からの感覚伝導路を説明できる。
7．気道と肺の構造と機能を説明できる。
8．気管支喘息エンドタイプについて説明できる。
9．口唇、舌、唾液腺の構造と機能を説明できる。
10．食道、胃、十二指腸、空腸、回腸、結腸の構造と機能を説明できる。
11．GERD、炎症性腸疾患を説明できる。
12．肝、胆、膵の構造と機能を説明できる。
13．肝星細胞・クッパー細胞と肝癌・NASH の関係を説明できる。
14．腎と尿路系器官の構造と機能を説明できる。
15．糸球体傍装置、尿細管・集合管に存在するトランスポーターの機能を説明できる。
16．女性生殖器の構造と機能を説明できる。

17．卵巣–子宮内膜周期に関して説明できる。
18．男性生殖器の構造と機能を説明できる。
19．前立腺肥大症、前立腺癌、ED について説明できる。
20．視覚器の構造と機能を説明できる。
21．平衡聴覚器の構造と機能を説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．講義：教科書、スライド、板書によって行われる講義を聴講し、要点をノートする。予習と復習を十分する。教科書にそって講義は行うので、必ず教科書を持参し、また、Moodle に掲載する講義資料を必ず印刷して講義に臨む。
講義後は、必ず講義内容に関する範囲の指定教科書を読んで理解を深めること。

２．顕微鏡実習：毎回講義された内容について、顕微鏡実習で確認する。各人が顕微鏡を用い、用意された標本を観察し、要点をスケッチする。スケッチは毎回レポートとして提出する。
組織像に関しては、実習後に、指定アトラスを利用して復習し理解を深めること。
期末試験前に、写真を利用した知識確認テストを行うので、日頃より学習を積み重ねること。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．Moodle にあげている講義資料を事前にプリントアウトして、講義概要を確認してくること。(15分)

【復習】

１．講義後は、必ず講義内容に関して理解を深めること。(30分)
２．キーワードを自分自身で整理して理解を深めること。(30分)
３．組織像に関しては、実習後に、指定アトラスを利用して復習し理解を深めること。(30分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．実習レポート：採点結果を総合評価に加味する。
２．テュートリアル：参加姿勢・発表・討論を総合的に評価する。
３．期末試験前組織知識確認テスト
４．期末試験：講義および実習内容について筆記試験を行う。
５．１～４を総合的に評価し、判定する。

Ⅵ．**教科書**

１．組織細胞生物学　原著第３版　南江堂
２．ウィーター図説で学ぶ機能組織学　原著第６版　エルゼビア・ジャパン株式会社

Ⅶ．**参考書・文献**

内科学　第11版　朝倉書店

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	25	木	1	石倉・白澤			総括－1	前期試験解説	講義
2				2	角田・白澤			総括－2	〃	〃
3		29	月	1	白澤・石倉	C-2 C-4 D-1 D-5	2)(1)③⑤ 4)② 1)⑧ 1)②	脈管系－1	弾性血管、筋性血管、毛細血管、リンパ管、内皮細胞、血管新生、心膜腔、凝固・線溶系、トロンボモデュリン、プロスタサイクリン、NO、トロンボキサンA2、泡沫細胞、ANP、BNP	〃
4				2	〃	C-2 C-3	3)(3) 2)(1)～(4)⑤	免疫系－1	リンパ節、胚中心、扁桃、胸腺、脾臓、T細胞、B細胞、抗原提示細胞、HLA、自然リンパ球、サイトカイン	〃
5	9	1	木	1	全員	C-2	2)(1)③	脈管系－2	弾性血管、筋性血管、毛細血管	実習
6				2	〃	D-1	1)④	免疫系－2	リンパ節、リンパ小節、胸腺、胸腺細胞、脾臓、白脾髄、赤脾髄	〃
7		5	月	1	白澤・石倉	D-12	1)①～④	内分泌系－1	視床下部、下垂体前葉、下垂体後葉、松果体、甲状腺、濾胞、副甲状腺（上皮小体）、RAAS系、概日時計、MEN、高Ca血症	講義
8				2	〃	D-12	1)⑤⑥	内分泌系－2	膵臓、ランゲルハンス島、副腎髄質、副腎皮質、原発性・二次性アルドステロン症、クッシング徴候、StAR、先天性副腎過形成	〃
9		8	木	1	全員	D-12	1)③④	内分泌系－3	視床下部、下垂体前葉、下垂体後葉、甲状腺、濾胞	実習
10				2	〃	D-12	1)⑤⑥	内分泌系－4	膵臓、ランゲルハンス島、副腎髄質、副腎皮質、球状帯、束状帯、網状帯	〃
11		12	月	1	白澤・石倉	D-7	1)①～⑤⑦⑫～⑮ 4)(2)⑤	消化器系－1	消化管基本構造、食道、GERD、胃小窩、胃腺、壁細胞、主細胞、PPI、プロトンポンプ、ガストリン、ECL細胞、H2受容体、H.ピロリ菌	講義
12				2	〃	D-7	1)⑩～⑫ 4)(3)③⑦⑫⑬	消化器系－2	十二指腸、空腸、回腸、リーベルキューン陰窩、輪状ヒダ、絨毛、杯細胞、パネート細胞、パイエル板、M細胞、結腸、インクレチン、セクレチン、CCK/PZ、GLP-1、DPP-4、炎症性腸疾患、APC	〃
13		15	木	1	全員	D-7	1)③～⑤⑫⑬	消化器系－3	口唇、舌乳頭、味蕾、食道、胃、胃腺、主細胞、壁細胞、胃十二指腸移行部、胃腸内分泌細胞	実習
14				2	〃	D-7	1)①～⑤⑩～⑫	消化器系－4	十二指腸、空腸、輪状ヒダ、腸絨毛、腸腺、十二指腸腺、杯細胞、パネート細胞、大腸	〃
15		22	木	1	〃			組織細胞生物学－1		テュートリアル
16				2	〃			組織細胞生物学－2		〃
17		26	月	1	白澤			総括－3		講義

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
18	9	26	月	2	白澤・石倉	D-7	1) ⑥⑧ ⑫⑬	消化器系－5	大唾液腺、肝、肝小葉、中心静脈、グリソン鞘、類洞、クッパー細胞、星状細胞、毛細胆管、胆管、胆嚢、膵、膵小葉、TGFB、線維化、NASH、二次胆汁酸、CFTR	講義
19		29	木	1	全員	D-7	1) ⑥⑬	消化器系－6	唾液腺、肝、肝小葉、中心静脈、グリソン鞘、類洞、クッパー細胞、伊東細胞	実習
20				2	〃	D-7	1) ⑧⑨	消化器系－7	毛細胆管、胆管、胆嚢、膵、膵小葉、外分泌部、膵管	〃
21	10	3	月	1	白澤・角田	D-6	1) ①～③ 4) (3) ①③④	呼吸器系－1	鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺胞、クループ、クララ細胞、Cystic fibrosis、1型・2型肺胞細胞、サーファクタント、肺気腫、ブラ・ブレブ、Asthma endotype、気道リモデリング、COPD	講義
						D-14	1)③			
22				2	〃	D-8	1)	泌尿器系－1	腎臓、腎杯、腎盂、ネフロン、腎小体、糸球体、尿細管、緻密斑、集合管、尿管、膀胱、尿道、移行上皮、VUR、足細胞、スリット膜、メサンギウム、糸球体傍細胞、レニン、各種輸送体と遺伝子異常、利尿剤、SGLT-2、尿崩症、PRA、PAC	〃
23		6	木	1	全員	D-6	1)①	呼吸器系－2	気管、肺、細気管支、呼吸細気管支、肺胞	実習
24				2	〃	D-8	1)	泌尿器系－2	腎臓、ネフロン、腎小体、糸球体、尿細管、緻密斑、集合管、尿管、膀胱	〃
25		13	木	1	〃			組織細胞生物学－3		テュートリアル
26				2	〃			組織細胞生物学－4		〃
27		17	月	1	白澤・角田	D-3	1)①	外皮－1	表皮、ケラチノサイト、真皮、皮下組織、汗腺、マイスネル小体、パチニー小体、感覚性伝導路、フィラグリン、悪性黒色腫	講義
28				2	〃	D-13	1)	感覚器系－1	眼球、角膜、強膜、脈絡膜、虹彩、毛様体、レンズ、網膜、クリスタリン、アルドース還元酵素、視細胞、視覚伝導路、外耳、中耳、内耳、骨迷路、膜迷路、半規管、卵形嚢、球形嚢、蝸牛管、平衡斑、膨大部稜、コルチ器、内リンパ、聴覚伝導路	〃
						D-14	1)			
29		20	木	1	全員	D-3	1)	外皮－2	表皮、真皮、皮下組織、汗腺、脂腺、マイスネル小体、パチニー小体	実習
30				2	〃	D-13	1)	感覚器系－2	眼球、線維膜、血管膜、内耳、膜迷路、平衡斑、コルチ器	〃
						D-14	1)			

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
31	10	31	月	1	角田・白澤	D-9	1)①～⑤	男性生殖器系－1	精巣、精巣上体、精細管、前立腺、テストステロン、DHT、5α-還元酵素、セルトリ細胞、ライディッヒ細胞、精子形成、BPH、前立腺癌、PSA、ED	講義
						D-12	1)⑦			
32				2	〃	D-9	1)⑥～⑧	女性生殖器系－1	子宮内膜周期と卵巣周期、放線冠、透明帯、卵胞細胞、内卵胞細胞、黄体化、栄養膜合胞体、受精、ZP-3、デーデルライン桿菌、triple negative乳癌	〃
						D-12	1)⑦			
33				3	全員			組織細胞生物学－5		テュートリアル
34				4	〃			組織細胞生物学－6		〃
35	11	7	月	1	〃	D-9	1)①～⑤	男性生殖器系－2	精巣、曲精細管、間質細胞、精巣上体管、精巣輸出管	実習
36				2	〃	D-9	1)⑥～⑧	女性生殖器系－2	卵巣、卵巣皮質、卵胞、卵管、子宮体、子宮内膜、筋層	〃
37		14	月	1	白澤			総括－4		講義
38				2	〃			総括－5		〃
39		21	月	1	〃			組織図試験－1	脈管系、免疫系、内分泌系、外皮、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、感覚器系	試験・講義
40				2	〃			組織図試験－2	〃	〃
	12	20	火	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

臨　床　医　学　入　門　Ⅰ

Ⅰ．担当教員名

医学教育推進講座	教　　授	安　元　佐　和（科目責任者）
	准 教 授	八　尋　英　二（副責任者）
	講　　師	武　岡　宏　明
	非常勤講師	出　石　宗　仁
消化器内科	講　　師	田　中　　崇

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．臨床医学の中で重要な臨床推論の基礎を日常診療で遭遇する代表的な症候（胸痛、腹痛、頭痛など）の鑑別診断から習得する。(A-1)
2．代表的な症候の鑑別疾患について、情報収集できる。(A-2)
3．模擬患者との医療面接における自己目標を設定し、コミュニケーション能力を向上できる。(A-4)
4．TBL で主な症候学を学び、鑑別点を挙げて、医療面接に応用できる。(B-1)
5．OSCE による臨床技能評価を理解し、医療面接、身体診察の基本的な技能を習得する。(B-1)
6．患者中心の医療を理解しコミュニケーション能力を養う。(C-2)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．病院における患者の診療の流れの実際を説明できる。
2．代表的な症候の鑑別すべき疾患の臨床症状、身体所見を説明し、病歴シナリオを作成できる。
3．医療面接のロールプレイを経験し、患者の心理的な反応を疑似体験し、医療者のあるべき態度を習得できる。
4．バイタルサイン、胸部・腹部の身体診察ができる。
5．模擬患者と医療面接を経験し、医師に必要な態度でコミュニケーションをとることができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

1．各学生に与えられた疾患について個人で学習し、チーム内で鑑別の仕方を討論する（TBL)。司会、記録、発表を全員が経験する。
2．医療面接のビデオや講義をもとに、課題の疾患の病歴シナリオを作成し、チーム内で患者役と医師役をロールプレイする。
3．シミュレーターあるいは学生間で、バイタルの取り方や身体診察の実際を経験する。
4．模擬患者との医療面接を経験し、患者視点ついて理解する。
5．医療面接、身体診察にふさわしい態度、身なり、言葉遣いを習得する。
6．課題についての予習、チーム内討論と課題作成を行う。
7．M4 OSCE の模擬患者を経験する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

1．与えられた疾患、課題について予習する。(30分)
2．医療面接の身体診察の基本を動画で視聴する。(30分)

【復習】

１．バイタルの取り方や身体診察について復習する。(30分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

課題20％、医療面接演習20％、身体診察手技20％、テスト20％、授業参加態度20％で、総合的に評価する。

模擬患者との医療面接演習参加と、M4 OSCE で模擬患者・運営補助を経験することを必須とする。

Ⅵ．**教科書**

１．福岡大学医学部　編：診断学テキストブック

２．福井次矢　奈良信雄　編：内科診断学　第三版　医学書院　￥9,500＋税

Ⅶ．**参考書・文献**

１．後藤英司　編：臨床推論　EBM と病態生理から症候を考える

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	26	金	3	安元 八尋・武岡	F-1	16)20) 33)	臨床医学入門	症候学(胸痛・腹痛・頭痛) 臨床推論	講義
2				4	〃	F-1	16)	症候学 1	病歴シナリオ(胸痛) 身体診察(バイタル・胸部)	〃
3	9	2	金	3	〃	F-3	5)(2) (5)(7)	症候学 2	バイタル・胸部診察 シミュレーター　role play	〃
4				4	〃	F-3	5)(2) 5)	症候学 3	医療面接　バイタル 胸部診察	〃
5		9	金	3	〃	F-3	5)(2) 5)	症候学 4	バイタル (医療面接・胸部診察)	全体発表
6				4	〃	〃	〃	〃	〃	〃
7		16	金	3	安元・田中	F-1	20)	症候学 5	鑑別診断(腹痛) (成人・小児)	TBL
8				4	〃	F-3	5)(2) 5)	〃	腹部診察(video) シナリオ作成	〃
9		30	金	3	〃	F-3	5)(2) 5)	症候学 6	医療面接(腹部)身体診察 roleplay	〃
10				4	田中	F-2	(7)	〃	腹部エコー体験	〃
11	10	7	金	3	安元 八尋・武岡	F-3	5)(2) 5)	症候学 7	課題発表	全体発表
12				4	〃	F-3	5)(2) 5)	〃	〃	〃
13		14	金	3	安元	F-1	33)	症候学 8	頭痛	講義
14				4	安元 八尋・武岡	F-3	5)(2)	血圧測定	医療面接 身体診察 バイタル	実習
15		21	金	3	非常勤講師 出石	A-4 F-3	1)2) 5)	医療コミュニケーション	SPとの医療面接	〃
16				4	安元 非常勤講師 出石	A-4 F-3	1)2) 5)	CBT体験	CBT	PC教室
17		28	金	3	安元 八尋・武岡			到達度テスト	CBT まとめ	試験

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
18	10	28	金	4	安元 八尋・武岡			到達度テスト	CBT まとめ	試験
19	12	15	木	1	OSCE体験					
20				2	〃					
21				3	〃					
22				4	〃					

研　究　室　配　属

Ⅰ．担当教員名

解　剖　学	教　　授	立　花　克　郎（科目責任者）
内分泌・糖尿病内科学	教　　授	川　浪　大　治（副責任者）
生　化　学	教　　授	安　永　晋一郎
	講　　師	芝　口　浩　智
衛生・公衆衛生学	教　　授	有　馬　久　富
医学系研究・生命医療倫理部門	准　教　授	今　泉　　聡
アニマルセンター	教　　授	田　中　聖　一
医学部RIセンター	教育技術職員	榮　　文　也

全科　教員（p.123、124参照）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．研究の実施に必要な基礎知識を習得できる。(A-1)
2．論文を検索、収集し、批判的に読むことができる。(A-2)
3．未解決の問題を発見し、解決のための研究を計画できる。(A-3)
4．研究計画に基づいて研究を実施できる。(A-4)
5．倫理に基づいた研究を実施できる。(C-1)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．生命倫理・医療倫理、研究倫理の基礎知識について理解する。
2．課題に関する資料、文献を収集し、調査できる。
3．資料となる論文の構成・批判的読み方を取得する。
4．課題に関して学生や教員と討論ができる。
5．期間中は研究の一端に関わり、習った手法、関わった研究の一部をこのコースのプロダクトとして発表する。
6．希望のある学生は、そのまま研究を継続させて、担当研究室所属長から指導を受けることができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

期間：令和５年１月30日（月）～２月28日（火）

１月31日（月）にオリエンテーションを実施する。その後配属期間中に１～６名程度の学生グループが基礎医学・社会医学系ならびに臨床系研究室に配属され、以下１～３のようなプログラムに参加する。

【予習】

1．基礎医学・社会医学・臨床医学関連の話題を素材とした、自由研究課題をグループ毎に担当指導教員から与えられ、グループの各人は更に細分化された研究課題に取り組む。(60分)

【復習】

1．研究室内リサーチカンファレンス等へ参加し研究課題の進捗と問題点について討論を行う。(60分)

２．成果発表（30分程度）
各人の成果発表は、担当所属講座主任教授に一任する。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

評価は出席・態度・成果発表および研究に必要な基礎知識の習得度を評価する。評価は合否で行う。ただし、オリエンテーションを無断欠席した場合は不合格とする。

Ⅵ．**教科書**

必要に応じ、各講座から情報提供する。

Ⅶ．**参考書・文献**

必要に応じ、各講座から情報提供する。

実習上の諸注意

臨床系講座・筑紫病院に研究室配属する学生は、服装・身だしなみ・携帯品に注意すること。

1）ケーシー白衣・黒のスラックス（スカートやジーンズ、足首が見える丈のものは禁止）・名札を着用する。
2）白の無地のＴシャツ（色柄禁止）を着用し、ケーシー白衣はアイロンをかけ、しわのないようにする。
3）靴は清潔で音の出ない黒の無地のスニーカー（ハイカット・サンダル・クロックス・革靴禁止）を選ぶ。
4）髪型、髪の色などにも配慮し、長髪は束ねる。（茶髪禁止）
5）化粧は華美にしない。（つけまつげ禁止）
6）爪は切り、ネイルマニキュアはしない。
7）指輪、アクセサリーはつけない。
8）香水・整髪料など匂いの強いものは避ける。
9）ヒゲはきちんと剃る。

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	1	30	月	1	今泉	A-1 B-3		科学研究倫理	医と研究倫理、研究倫理指針、個人情報保護、利益相反、研究不正	講義
2				2	有馬	A-2		科学研究の手法	科学研究、論文検索、科学論文の構成と読み方、論理的・批判的思考、データ取集、データ解析（統計学）	〃
						A-9				
						B-1	1）～3）			
3				3	安永	A-2	2）⑤	遺伝子組換え実験の基礎知識	カルタヘナ法、遺伝子組換え生物等とは、遺伝子組換え実験、拡散防止措置	〃
						A-8	1）①④			
						C-1	1）（2）			
					田中	A-8	1）	動物実験	動物愛護法、動物倫理、3R、人獣共通感染症、動物アレルギー	〃
						B-3	1）①			
					立花（榮）	E-6	1） ①⑦	放射線同位元素（RI）実験	放射線の基礎事項、物質との相互作用、放射線防護、放射線取扱施設の管理	〃
4				4	芝口	B-3		研究倫理eラーニング	研究倫理、行動規範、成果の発表方法、研究費の適正な使用	〃
				5				（配属先　顔合わせ）		

Ｍ２研究室配属　担当教員一覧

No.	講座名・診療科	代表者	担当教員（代表者以外）				
1	解剖学	立花　克郎	貴田　浩志	フェリル　ロリト	遠藤日富美	山崎裕太郎	
2	細胞生物学	白澤　専二	角田　俊之	石倉　周平	土井　佳子	小柳　　緑	吉田　和真
			田中　陽子				
3	生理学	藤田　孝之	本田　　啓	内田　俊毅	胡　　耀鵬	平石　敬三	
4	生化学	安永晋一郎	芝口　浩智	白須　直人	大野　芳典	瀬川　波子（情報基盤センター）	
5	薬理学	岩本　隆宏	根本　隆行	喜多　　知	小松　知広	篠田　康晴	
6	病理学	濵﨑　　慎	上杉　憲子	濵田　義浩（病院病理部）	青木光希子	古賀　佳織	
			武藤　礼治				
7	微生物・免疫学	廣松　賢治	石井　一成	伊藤　竜太	伴　　文武	栗原　悠介	清水　章文
			吉村　芳修	尾鶴　　亮			
8	再生・移植医学	小玉　正太	坂田　直昭	吉松　軍平（再生医療センター）	田中　智子		
9	衛生・公衆衛生学	有馬　久富	吉村　　力	佐藤　　敦	阿部真紀子		
10	法医学	久保　真一	柏木　正之	松末　　綾	ウォーターズ ブライアン	髙山　みお	
11	腫瘍・血液・感染症内科学	髙松　　泰	田中　俊裕	磯部　泰司	戸川　　温（感染制御部）	佐々木秀法	茂木　　愛
12	内分泌・糖尿病内科学	川浪　大治	髙士　祐一	横溝　　久	牟田　芳実		
13	心臓・血管内科学	三浦伸一郎	桑野　孝志	志賀　悠平	末松　保憲	杉原　　充	有村　忠聴
14	消化器内科学	平井　郁仁	釈迦堂　敏	田中　　崇	石橋　英樹	船越　禎広	
15	呼吸器内科学	藤田　昌樹	井上　博之				
16	腎臓・膠原病内科学	升谷　耕介	三宅　勝久	安野　哲彦	伊藤　建二	冷牟田浩人	
17	脳神経内科学	坪井　義夫	藤岡　伸助	合馬　慎二	三嶋　崇靖	西田　明弘	栗原可南子（神経疾患遠隔診療研究講座）
			井上　賢一				
18	精神医学	川嵜　弘詔	堀　　輝	衞藤　暢明	飯田　仁志	原田　康平	畑中　聡仁
			田口　公之	北井　良和	林　　礼雄	吉村　裕太	後藤　玲央（ニューロサイエンス・精神医学研究講座）
19	小児科学	永光信一郎	太田　栄治（総合周産期母子医療センター）	吉兼 由佳子	藤田　貴子	八ツ賀 秀一	
20	皮膚科学	今福　信一	古賀　文二				
21	放射線医学	吉満　研吾	長町　茂樹（放射線部）	高山　幸久	浦川　博史	肥田　浩亮	赤井　智春
22	消化器外科学	長谷川　傑	塩飽　洋生	吉村　文博（手術部）	梶原　正俊	山田　哲平	槇　　研二
			中島　　亮	島岡　秀樹	松本　芳子	佐々木貴英	内藤　滋俊
			渡邉　利史	橋本　恭弘	棟近　太郎		
23	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	佐藤　寿彦	白石　武史（臓器移植医療センター）	吉永　康照	早稲田龍一	廣瀬龍一郎（総合周産期母子医療センター）	
24	脳神経外科学	安部　　洋	野中　　将	森下　登史	小林　広昌		
25	心臓血管外科学	和田　秀一	桑原　　豪				
26	整形外科学	山本　卓明	木下　浩一	田中　　潤	萩尾　友宣	三宅　　智	
27	形成外科学	髙木　誠司	大山　拓人	森田　　愛	岡本　理沙	鈴木翔太郎	小柳　俊彰

No.	講座名・診療科	代表者	担当教員（代表者以外）				
28	眼科学	内尾　英一	尾﨑　弘明	髙橋　理恵	原田　一宏	小林　彩加	川村　朋子
29	耳鼻咽喉科学	坂田　俊文	末田　尚之	田浦　政彦	妻鳥敬一郎	打田　義則	宮﨑　健
			前原　宏基				
30	腎泌尿器外科学	羽賀　宣博	松岡　弘文	中村　信之	松﨑　洋吏	岡部　雄	宮﨑　健
31	産科婦人科学	宮本　新吾	四元　房典	宮田　康平	倉員　正光		
32	麻酔科学	秋吉浩三郎	重松　研二（手術部）	楠本　剛			
33	歯科口腔外科学	近藤　誠二	梅本　丈二	瀬戸　美夏	喜多　涼介	吉野　綾	
34	臨床検査医学	小川　正浩	大久保久美子	髙田　耕平	小柳　尚子		
35	救命救急医学 ※	石倉　宏恭	岩朝　光利	喜多村泰輔	仲村　佳彦	大蔵　裕子	星野　耕大
			村西謙太郎	森本　紳一	泉谷　義人	鯉江めぐみ	高山　和之
36	医学教育推進講座	安元　佐和	八尋　英二	武岡　宏明			
37	スポーツ科学部	上原　吉就	小松　知宏（薬理学）	山本　泰暉			
筑紫病院							
38	循環器内科	河村　彰	池　周而	矢野　雅也	衛藤　聡	松尾　邦浩（救急科）	奥田　哲
39	呼吸器内科	石井　寛	串間　尚子（感染制御部）	木下　義晃			
40	消化器内科	植木　敏晴	久部　高司	野間栄次郎	丸尾　達	八尾　建史（内視鏡部）	宮岡　正喜（内視鏡部）
			髙津　典孝（炎症性腸疾患センター）	小野陽一郎	大津　健聖		
41	小児科	小川　厚	井上　貴仁				
42	外科	渡部　雅人	東　大二郎	宮坂　義浩	柴田　亮輔		
43	整形外科	伊﨑　輝昌	野村　智洋	坂本　哲哉	蓑川　創	小阪　英智	
44	脳神経外科	東　登志夫	新居　浩平	津川　潤（脳卒中センター）			

※救命救急医学は、肝炎ワクチン未接種者の受け入れ不可。

第 3 学 年 講 義 要 目

福岡大学医学部医学科 卒業時コンピテンシー達成レベル表

レベル（達成度）	Advanced	Applied	Basic			
Ⅰ．プロフェッショナリズム						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。	診療の場で医師としての態度・価値観を示すことができる	医師としての態度・価値観を模擬的に示すことができる	基盤となる態度・価値観を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅱ．医学的知識						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。	実践の場で問題解決に応用できる	問題解決に応用できる知識を示すことができる	模擬症例の問題リストを抽出できる知識を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	修得する機会があるが、単位認定に関係ない	修得する機会がない
Ⅲ．診療技術・患者ケア						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅳ．コミュニケーションとチーム医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅴ．グローバルな視野と地域医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。	実践できる	理解と計画立案ができる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅵ．科学的探究心と自律学習能力						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。	実践できる	理解と計画立案ができる	計画された研究の見学、基盤となる技術・態度を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない

科目名と卒業時コンピテンシー達成レベル【M3】		薬理学Ⅱ	病理学総論	公衆衛生学	臨床医学入門Ⅱ	行動科学Ⅱ	内分泌・代謝病学	病理学各論	放射線科学	呼吸器病学	消化器病学	腎・泌尿器・膠原病学	皮膚・形成外科学	眼科学	感染症学	法医学	腫瘍・血液学
Ⅰ. プロフェッショナリズム																	
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。																	
1	医療者として法的責任、規則を遵守できる。	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C/D	C/D
2	生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。	C	C	D	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C/D	C/D
3	他者を尊重し、利他的な態度で行動できる。	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C/D	C/D
4	患者の個人情報保護を遵守できる。	D	D	D	C	C	C	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	C/D
5	多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。	C	C	C	C	C	C	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	C/D
6	患者、社会、医療者に対して説明責任を果たすことができる。	C	C	C	C	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	C/D
7	医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C/D	C/D
8	患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C/D	C/D
Ⅱ. 医学的知識																	
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。																	
1	正常構造と機能	D	D	F	D	F	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	C
2	発達、成長、加齢、死	F	F	D	F	F	D	F	F	F	F	F	F	F	F	C	C
3	心理、行動	F	F	C/D	C	C	D	F	F	F	F	F	F	F	F	C	C
4	病因、構造と機能の異常	D	D	F	D	F	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	C
5	診断、治療	F	F	F	D	F	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	C
6	医療安全	F	F	D	D	C/D	C	F	D	D	D	D	D	D	D	C	C
7	疫学、予防、公衆衛生	F	F	C/D	F	D	D	F	F	D	D	D	D	D	D	C	C
8	保健・医療・福祉制度	F	F	C/D	F	D	D	F	F	F	F	F	F	F	F	C	C
9	医療経済	F	F	D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	C	C
Ⅲ. 診療技術・患者ケア																	
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。																	
1	患者から病歴を的確に聴取できる。	F	F	F	C/D	C/D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
2	成人、小児の基本的な身体診察と基本的臨床手技を実践できる。	D	D	D	C/D	C/D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
3	患者の病歴、診察所見から臨床推論ができる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
4	診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。	F	D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	D
5	頻度の高い疾患について、EBM(Evidence-Baced Medicine)に基づいた診断、治療方針について説明できる。	D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	D
6	患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。	D	F	D	C	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
7	POS(Problem-Oriented System)を用いて診療録を記載し、適切にプレゼンテーションができる。	D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	D
8	患者に必要な病状説明・意思決定の場に参加できる。	D	F	F	D	D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	D
Ⅳ. コミュニケーションとチーム医療																	
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。																	
1	患者とその家族の個人的背景、文化、社会的背景を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。	F	F	C	B	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
2	多職種の医療チーム内で信頼関係を築き、患者中心の医療のために情報を共有し、説明伝達ができる。	F	F	C	C	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
3	他の医療者に、手順を守り適切にコンサルテーションできる。	F	F	C	C	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
4	患者の医学情報を診療録に的確に記載し、医療チーム内で情報を共有できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
5	医療の国際化を認識し、英語で医療面接ができる。	F	F	F	C	C	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅴ. グローバルな視野と地域医療																	
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。																	
1	医療制度、社会福祉制度を正しく理解した診療を実践できる。	F	F	D	F	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
2	地域の医療機関、保健、福祉、行政等の関連機関と適切な連携がとれる。	F	F	D	F	C	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	D
3	行政への届け出や社会福祉制度の必要書類を適切に作成できる。	F	F	D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	D
4	地域医療に参加し、プライマリケアが実践できる。	F	F	C/D	F	C/D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	D
5	海外からの患者の診療、医療者との交流が行える。	F	F	C	C	C	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	D
6	国際保健や医療の社会的問題の情報を収集できる。	F	F	C/D	F	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	D	D
Ⅵ. 科学的探究心と自律学習能力																	
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。																	
1	基礎研究、臨床研究の理論と方法を理解することができる。	C/D	C/D	C/D	F	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D
2	最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D
3	ICTを適切に利用し情報セキュリティ管理ができる。	C/D	C/D	C/D	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C/D	C/D
4	未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。	C/D	C/D	C/D	C	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D
5	自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。	C	C/D	C/D	C	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D
6	診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。	C	C/D	C/D	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C/D	C/D
7	学生、後輩、同僚に対し教育者として貢献できる。	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C/D	C/D

薬　理　学　Ⅱ

Ⅰ．担当教員名

薬理学	教授	岩本隆宏（科目責任者）
	准教授	根本隆行（副責任者）
	講師	喜多　知
	〃	小松知広
	〃	篠田康晴
	非常勤講師	喜多紗斗美（徳島文理大学薬学部教授）
	〃	西　昭徳（久留米大学医学部教授）
	〃	柳田俊彦（宮崎大学医学部教授）
	〃	後藤雄輔（医療法人三愛 健康リハビリテーション内田病院）
麻酔科	助教	柴田志保

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

薬理学は、薬物の生体への相互作用を考究する基礎医学と臨床医学の両面にわたる総合的な学問である。薬理学Ⅰ（M2）と薬理学Ⅱ（M3）を通して、薬理学の基本原理（薬物の作用様式、薬物動態）と的確な薬物療法を実施するための基本知識（薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項）を学ぶ。薬理学Ⅱの到達目標は、以下の項目である。

1．末梢・中枢神経、循環器・腎臓、呼吸器・免疫・炎症、消化器・血液・内分泌に作用する薬物の基本知識を習得する。(A-1)
2．抗菌薬・化学療法薬の概要を理解する。(A-1)
3．薬理学の専門的知識（薬理作用の基本原理、薬物相互作用、薬物依存等）を習得する。(A-2)
4．臨床薬理学の立場から、薬物動態の基本原理を理解する。(A-2)
5．薬理学実習により、生体・組織レベルの薬理作用を理解する。(A-3)
6．P-Drug 演習により、適正医薬品の選択法と処方箋の書き方を理解する。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．薬理学総論（薬理学Ⅰの復習）
　1）薬物の用量–反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係を説明できる。
　2）薬物の受容体結合と薬理作用との定量的関連性を理解し、作動薬と拮抗薬を説明できる。
　3）薬物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。
　4）薬物投与方法を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。
　5）治療薬物モニタリング（TDM）の意義とその対象薬を説明できる。
　6）臨床薬理学の立場から、薬物動態と薬物相互作用を説明できる。
2．薬理学各論
　1）末梢神経作用薬（交感神経作用薬、副交感神経作用薬、局所麻酔薬、筋弛緩薬）の薬理作用と治療応用を説明できる。
　2）中枢神経作用薬（全身麻酔薬、抗不安薬、向精神薬、中枢神経興奮薬、麻薬性鎮痛薬、抗

けいれん薬、パーキンソン病治療薬、抗認知症薬、脳循環改善薬）の薬理作用と治療応用を説明できる。

３）高血圧治療薬、心臓血管系作用薬（狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、脂質異常症治療薬）の薬理作用と治療応用を説明できる。

４）腎臓作用薬（利尿薬、高尿酸血症治療薬）、泌尿器系・産婦人科系作用薬の薬理作用と治療応用を説明できる。

５）抗炎症薬と解熱鎮痛薬の薬理作用と治療応用を説明できる。

６）呼吸器系作用薬（抗喘息薬、呼吸促進薬、鎮咳薬、去痰薬）の薬理作用と治療応用を説明できる。

７）血液作用薬（造血薬、血栓症治療薬、止血薬、貧血治療薬）の薬理作用と治療応用を説明できる。

８）消化器系作用薬（消化性潰瘍治療薬、制吐薬）の薬理作用と治療応用を説明できる。

９）免疫作用薬（免疫抑制薬、免疫賦活薬、抗アレルギー薬）の薬理作用と治療応用を説明できる。

10）抗菌薬の薬理作用と治療応用を説明できる。

11）化学療法薬の薬理作用と治療応用を説明できる。

12）ホルモン関連薬（副腎皮質ホルモン作用薬、糖尿病治療薬、骨代謝作用薬）の薬理作用と治療応用を説明できる。

13）漢方医学の特徴や主な和漢薬（漢方薬）を概説できる。

３．薬理学実習

以下の実験を小グループに分かれて体験学習し、その成果を実習発表会で報告する。

１）シミュレーションソフトを用いた血圧・心拍数の自律神経調節の実験
交感神経・副交感神経による血圧・心拍数の調節機構と末梢・中枢神経作用薬の薬理作用、作用機序、薬物相互作用を説明できる。

２）モルモット摘出回腸標本を用いたコリン作動性薬物の実験
内蔵平滑筋に作用する薬物の薬理作用、作用機序、薬物相互作用を説明できる。

３）マウスを用いたパーキンソン病治療薬の実験
パーキンソン病治療薬の薬理作用、作用機序、薬物相互作用を説明できる。

４）マウスを用いた麻酔薬の実験
麻酔薬の薬理作用、作用機序、薬物相互作用を説明できる。

４．P-Drug 演習（アクティブ・ラーニング）

P-Drug（Personal Drug）は、医薬品の適正使用を目指して、医師が患者に処方する医薬品を有効性・安全性・適合性・費用の基準から選択し、エビデンスに基づいて自らの処方集を作成する一連のプロセスを意味する。本演習では、薬物治療プロセスを早期に学ぶ目的で、症例問題を用いて適正医薬品の選択法を体験学習する。この P-Drug 演習を小グループに分かれて実施し、その成果を演習発表会で報告する。

１）P-Drug の理論に基づいて、適正医薬品の選択法を説明できる。

２）処方箋の書き方と服薬の基本・アドヒアランスを説明できる。

５．ロール・プレイ演習（アクティブ・ラーニング）
薬物治療において十分な薬効を得るには、患者の疾患や病態を的確に診断し、最適な治療薬を選択することは必須であるが、それに加えて、患者に病態や薬物治療を分かりやすく説明し、十分な理解のもとに薬を服用してもらう必要がある。この重要性を体験的に学ぶ目的で、医師役、患者役、司会進行役の小グループでロール・プレイ演習を実施する。
１）症例に対する薬物治療に関して、必要な情報を事前調査できる。
２）医師役として分かりやすい言葉で薬物治療を患者役に説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉
１．指定教科書と配布プリントを中心に、PC スライドと板書によって進められる講義に出席し、その内容を理解する。
２．講義後の小テストにより、各講義内容の理解度をチェックする。
３．実習・演習に出席し、薬物の薬理作用や薬物療法についての理解を深める。
４．学外講師の特別講義に出席し、緊張感のある環境下で学習と思考を刺激するとともに、最先端の薬理学情報に触れる。
５．講義の終了後、不明な点を積極的に質問する（教員室へ訪問可能)。

〈事前事後学習の方法〉
【予習】
１．講義の前に、該当する範囲の教科書を予習する（30分)。
【復習】
１．CBT 問題集等を用いて、学んだ知識の実践力・応用力を自ら確認する（30分)。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)
１．期末試験（論述式・客観式）により評価する。
２．講義と実習・演習の出席状況と学習態度も評価の対象とする。

Ⅵ．**教科書**
１．岡庭　豊：薬がみえる vol.1　第２版　メディックメディア　2021
２．岡庭　豊：薬がみえる vol.2　第１版　メディックメディア　2015
３．岡庭　豊：薬がみえる vol.3　第１版　メディックメディア　2016
４．岡庭　豊：薬がみえる vol.4　第１版　メディックメディア　2020

Ⅶ．**参考書・文献**
１．金井好克　他：エース薬理学　第１版　南山堂　2020
２．柳澤輝行・丸山　敬　訳：イラストレイテッド薬理学　原著６版　丸善　2016
３．田中千賀子　他：New 薬理学　改訂７版　南江堂　2017
４．髙久史麿　他：治療薬マニュアル2022　医学書院　2022
５．浦部晶夫　他：今日の治療薬2022　南江堂　2022
６．Brunton, L. L.: Goodman & Gilman’s The Pharmacological Basis of Therapeutics　13th ed. McGraw-Hill　New York　2017

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	4	月	1	岩本	F-2	8)①③④⑪⑭	薬理学総論	薬理学Ⅱの学習方法、薬理学Ⅰの復習(vol.4)、神経系総論、自律神経総論(vol.1: 2-25)	講義
2				2	喜多知	F-2	8)③④	末梢神経系に作用する薬	交感神経作用薬、アドレナリン作動薬、抗アドレナリン薬(vol.1: 26-54)	〃
3				3	〃	F-2	8)④	〃	〃	〃
4				4	〃	F-2	8)④	〃	副交感神経作用薬、コリン作動薬、抗コリン薬(vol.1: 55-74)	〃
5		11	月	1	根本	F-2	8)④	〃	神経節遮断薬、末梢性・中枢性筋弛緩薬、重症筋無力症治療薬(vol.1: 75, 88-99, 103-105)	〃
6				2	篠田	F-2	8)④	中枢神経系の疾患と薬：てんかん	中枢神経疾患治療薬(総論)、抗てんかん薬(vol.1: 144-165)	〃
7				3	岩本	F-2	8)④	循環器系の疾患と薬	循環器疾患治療薬(総論)、Ca拮抗薬(vol.1: 300-314)	〃
8				4	〃	F-2	8)④	〃	交感神経抑制薬、Naチャネル遮断薬、Kチャネル遮断薬、硝酸薬(vol.1: 315-328)	〃
9		18	月	1	篠田	F-2	8)④	中枢神経系の疾患と薬：統合失調症	精神疾患治療薬(総論)、定型・非定型抗精神薬(vol.1: 230-250)	〃
10				2	〃	F-2	8)④	中枢神経系の疾患と薬：気分障害、双極性障害	抗うつ薬、気分安定薬(vol.1: 251-269)	〃
11				3	非常勤講師 後藤	F-2	8)⑬	漢方医学と漢方薬	漢方診断学、漢方薬理学、漢方薬処方(vol.1: 472-510)	〃
12				4	岩本	F-2	8)④	循環器系の疾患と薬	レニン・アンジオテンシン系阻害薬、強心薬、末梢血管拡張薬(vol.1: 329-355)	〃
13		25	月	1	篠田	F-2	8)④	中枢神経系の疾患と薬：認知症、脳血管障害	アルツハイマー型認知症治療薬、血栓溶解療法、脳保護薬、脳循環代謝改善薬(vol.1: 184-198, 202-217)	〃
14				2	非常勤講師 西	F-2	8)④	中枢神経系の疾患と薬：パーキンソン病	ドパミン神経、パーキンソン病治療薬(プリント、vol.1: 166-183)	〃
15				3	柴田	F-2	8)④	中枢神経系・体性神経系の疾患と薬：全身麻酔・局所麻酔	全身麻酔薬(総論)、吸入麻酔薬、静脈麻酔薬、局所麻酔薬(vol.1: 78-87, 110-122)	〃
16				4	〃	F-2	8)④⑦	中枢神経系の疾患と薬：痛みと鎮痛薬	痛み(総論)、オピオイド鎮痛薬、非ステロイド性抗炎症薬、神経障害性疼痛治療薬(vol.1: 123-143)	〃
17		28	木	1	小松	F-2	8)④	循環器系の疾患と薬：高血圧	高血圧(総論)、高血圧治療薬、低血圧治療薬(vol.1: 402-417)	〃
18				2	〃	F-2	8)④	循環器系の疾患と薬：心不全	心不全(総論)、心不全治療薬(vol.1: 356-366)	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
19	5	2	月	1	小松	F-2	8)④	脂質代謝の疾患と薬	脂質異常症治療薬(総論)、高コレステロール血症治療薬、高トリグリセライド血症治療薬(vol.2: 54-81)	講義
20				2	非常勤講師 喜多紗	F-2	8)④	骨・尿酸代謝の疾患と薬	骨粗鬆症治療薬、高尿酸症・痛風治療薬(vol.2: 82-108)	〃
21				3	〃	F-2	8)④	内分泌系の疾患と薬	内分泌(総論)、副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン(vol.2: 110-112, 137-159)	〃
22				4	根本	F-2	8)④	泌尿器系・産婦人科系の疾患と薬	過活動膀胱治療薬、前立腺肥大症治療薬、勃起不全治療薬、子宮収縮薬・弛緩薬、経口避妊薬(vol.1: 461-470, vol.2: 180-191)	〃
23		9	月	1	小松	F-2	8)④	循環器系の疾患と薬：不整脈	不整脈(総論)、抗不整脈薬(vol.1: 382-401)	〃
24				2	〃	F-2	8)④	循環器系の疾患と薬：虚血性心疾患	狭心症治療薬、心筋梗塞治療薬(vol.1: 367-381)	〃
25				3	篠田	F-2	8)④	中枢神経系の疾患と薬：不眠症、神経症性障害	睡眠薬、抗不安薬(vol.1: 270-291)	〃
26				4	〃	F-2	8)④	中枢神経系の疾患と薬：ストレス関連障害、心身症、薬物依存症	精神刺激薬、アルコール中毒、依存性薬物(vol.1: 292-298)	〃
27		12	木	1	根本	F-2	8)④	呼吸器系の疾患と薬	呼吸の調節(総論)、鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬(vol.3: 96-99, 105-115)	〃
28				2	〃	F-2	8)④	〃	喘息(総論)、気管支喘息治療薬(vol.3: 116-132)	〃
29				3	小松	F-2	8)④	糖代謝の疾患と薬	糖尿病(総論)、１型糖尿病、インスリン製剤(vol.2: 2-19, 38-45)	〃
30				4	〃	F-2	8)④	〃	２型糖尿病、経口血糖降下薬、インクレチン関連薬(vol.2: 20-37)	〃
31		16	月	3	根本	F-2	8)④	消化器系の疾患と薬	消化器(総論)、消化薬、制吐薬、止痢薬、下剤(vol.3: 2-26)	〃
32				4	〃	F-2	8)④	〃	消化性潰瘍治療薬、攻撃因子抑制薬、防御因子増強薬(vol.3: 30-42)	〃
33		19	木	1	〃	F-2	8)④	血液系の疾患と薬	血液(総論)、止血薬、抗血栓薬(vol.2: 208-227)	〃
34				2	〃	F-2	8)④	〃	抗凝固薬血栓薬、血栓溶解薬、貧血治療薬(vol.2: 228-255)	〃
35				3	岩本	F-2	8)④	腎臓の疾患と薬	腎機能(総論)、利尿薬(vol.1: 424-437)	〃
36				4	〃	A-2	1)2)	実習ガイダンス	実習・発表会の進め方、動物実験の注意事項	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
37	5	23	月	3	根本	F-2	8)②	免疫・炎症・アレルギー系の疾患と薬	免疫抑制薬、免疫刺激薬、抗炎症薬 (vol.2: 296-312, 318-325)	講義
38				4	〃	F-2	8)②③	〃	アナフィラキシーショック治療薬、抗アレルギー薬、抗リウマチ薬(vol.2: 326-362)	〃
39		26	木	1	岩本・根本	F-2	8)④	P-Drug演習 1 (アクティブ・ラーニング)	P-Drug演習の説明、循環器作用薬、課題調査(グループ学習) (vol.1, 4)	演習 (PC教室)
40				2	〃	A-2	1)2)	〃	発表準備(グループ討論、スライド作成) (vol.1, 4)	〃
41				3	〃	A-2	1)2)	〃	発表・全体討論	〃
42				4	〃	A-2	1)2)	〃	〃	〃
43		30	月	3	薬理学スタッフ全員	F-2	8)④	実習 1	(Ⅲ.3. 薬理学実習項目のローテーション)	実習 (実習室・PC教室)
44				4	〃	A-2	1)2)	〃	〃	〃
45	6	6	月	3	〃	F-2	8)④	実習 2	(Ⅲ.3. 薬理学実習項目のローテーション)	〃
46				4	〃	A-2	1)2)	〃	〃	〃
47		13	月	3	〃	F-2	8)④	実習 3	(Ⅲ.3. 薬理学実習項目のローテーション)	〃
48				4	〃	A-2	1)2)	〃	〃	〃
49		16	木	1	〃	F-2	8)④	実習 4	(Ⅲ.3. 薬理学実習項目のローテーション)	〃
50				2	〃	A-2	1)2)	〃	〃	〃
51				3	〃	F-2	8)④	実習発表会	発表スライド作成	演習 (PC教室)
52				4	〃	A-2	1)2)	〃	発表・全体討論	講義
53		20	月	3	喜多知	F-2	8)⑤	感染症と薬	抗菌薬(総論) (vol.3: 164-173, 205-206, 217, 221, 224)	〃
54				4	〃	F-2	8)⑥⑫	悪性腫瘍と薬	抗がん薬(総論)、化学療法薬、分子標的薬(vol.3: 358-373, 398-402, 418-419)	〃
55		23	木	1	根本・岩本	F-2	8)④⑦	P-Drug演習 2 (アクティブ・ラーニング)	中枢神経作用薬、課題調査(グループ学習) (vol.1, 4)	演習 (PC教室)
56				2	〃	A-2	1)2)	〃	発表準備(グループ討論、スライド作成) (vol.1, 4)	〃
57				3	非常勤講師 柳田	A-4	1)2)	ロール・プレイ演習 (アクティブ・ラーニング)	ロール・プレイ演習の導入・実施	講義
58				4	〃	A-4	1)2)	〃	解説・評価、全体討論	〃
	7	5	火	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

病　理　学　総　論

Ⅰ．担当教員名

病　理　学	教　　授	濵　﨑　　慎	（科目責任者）
	〃	二　村　　聡	（筑紫病院）
	准　教　授	濵　田　義　浩	（病院病理部）
	〃	上　杉　憲　子	（副責任者）
	講　　師	青　木　光希子	
	〃	古　賀　佳　織	
	助　　教	武　藤　礼　治	

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

病理学（pathology）は病気（疾病 disease）の本態を明らかにする学問である。具体的には、(1) 細胞傷害・変性と細胞死、(2) 組織の炎症と修復、創傷治癒、(3) 循環障害　(4) 免疫系疾患、(5) 腫瘍、(6) 遺伝子異常と小児疾患、(7) 環境要因や栄養障害、糖蛋白の代謝障害、老化にもとづく疾患 (8) 感染症　(9) 細胞診について学習し、種々の病因・病態を理解できる。(A-I)

1．重要な病理学的用語の定義を正確に説明できる。病理学は肉眼・組織レベルの形態学を基盤として発展してきたが、最近では免疫組織化学、電子顕微鏡学、分子生物学などが導入され、細胞・遺伝子レベルで疾病の本態が習得できる。(A-2)

2．病気の原因と発病機構を理解し、病気によって生ずる組織の変化、その経過および転帰について学習できる。(A-3)

3．与えられたテーマの問題を展開し、また病理組織形態でも明確な判断ができる。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．細胞傷害・変性と細胞死細胞傷害・変性と細胞死

細胞傷害、変性、萎縮、細胞死の原因と形態的変化を説明できる。

1）細胞傷害、変性、萎縮、細胞死の多様性、原因と意義を説明できる。

2）細胞傷害、変性、萎縮、細胞死について細胞と組織における形態的変化を説明できる。

3）ネクローシスとアポトーシスの違いを説明できる。

2．組織炎症と修復、創傷治癒

炎症の概念それらの治癒過程を理解し病態を説明できる。

1）炎症の定義を説明できる。

2）炎症の分類、組織形態学的変化と経時的変化を説明できる。

3）組織の再生を説明できる。

4）組織の修復を説明できる。

5）創傷治癒の過程を説明できる。

3．循環障害

循環障害の成因と病態を説明できる。

1）虚血、充血、うつ血と血行静止の違いおよびそれぞれの原因と病態を説明できる。

２）出血の原因と止血の機構を説明できる。
３）血栓症の成因と病態を説明できる。
４）塞栓の種類と経路や塞栓症の病態を説明できる。
５）硬塞の種類と病態を説明できる。
６）ショック・脱水の原因と病態を説明できる。

４．免疫異常、アレルギー、自己免疫疾患
１）免疫が介在する組織障害の所見や機序を説明できる。
２）免疫異常が引き起こす組織障害を説明できる。
３）免疫異常が介在する疾患を列記できる。
４）自己免疫疾患の種類、発症機序、組織所見を説明できる。
５）免疫不全について説明できる。
６）移植における拒絶の組織所見を理解する。

５．腫瘍
細胞の増殖・分化の機構とそれらの異常を学び、腫瘍の定義、発生機構と病態を説明できる。
１）異形成、退形成を説明できる。
２）腫瘍の定義および良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。
３）腫瘍細胞の異型性、多形性を説明できる。
４）局所における腫瘍の増殖、局所浸潤と転移を説明できる。
５）腫瘍発生に関わる遺伝子的要因と外的因子を概説できる。
６）腫瘍と染色体異常の関係を説明できる。
７）癌遺伝子と癌抑制遺伝子を概説できる。
８）上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の肉眼的および組織学的な違いを説明できる。
ａ．主要な良性、悪性上皮性腫瘍について説明できる。
ｂ．主要な良性、悪性非上皮性腫瘍について説明できる。

６．遺伝子異常と疾患・小児疾患と小児腫瘍
１）遺伝子・染色体異常と疾患の発生と関連を説明できる。
２）代表的な遺伝子異常による疾患の臨床所見や病理所見を説明できる。
３）新生児を含む小児期に特有な疾患を挙げることができる。
４）小児期に特有な腫瘍を説明できる。

７．環境要因や栄養障害、糖蛋白の代謝障害、老化にもとづく疾患
１）アルコールやタバコによって生じる疾患を理解する。
２）環境因子によっておこる障害を列記することができる。
３）薬剤によっておこる組織障害を理解する。
４）栄養障害によっておこる疾患を列記できる。
５）糖蛋白の代謝異常、糖尿病などの組織障害について理解する。
６）加齢に伴う臓器の構造と機能の変化を説明できる。老化に伴う臓器の変化、老年者に特有な疾患について説明できる。

８．感染症
感染症による組織障害の機序と病理所見を説明できる。

１）感染症によって引き起こされる炎症反応について列記できる。
２）代表的な感染症とその組織所見を列記できる。

９．細胞診断
臨床における細胞診の重要性について説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．指定した教科書（Vinay Kumar 豊國伸哉監訳：ロビンス基礎病理学原書10版エルゼビア・ジャパン)、講義スライドを用いる。
２．教科書、アトラス、参考書及び自らの講義ノートを読み理解を深める。疑問点や不明点が出れば、指定した教科書で調べて、病気のメカニズムを理解する。
３．実習：正常組織を理解する。代表的病態について提示された組織病変を観察し、理解する。病理組織アトラスを参考にする。
４．院内解剖症例の臨床病理カンファレンス（Clinicopathological conference, CPC）への参加：4 月より12月まで火曜日、PM 5：30より臨床大講堂横カンファレンス室で行われる CPC に参加する。10－15人を1つの班とする。参加は1回のみで、白衣着用を必須とする。検討疾患概要は、前の週に配布するので予習する。レポート（患者の概要、剖検診断、死因、調べた内容、感想）を記述し、これを次週の木曜日までに病理学教室に提出する。本実習は点数化し各論後半テストに加算する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．担当者の用意した授業用のスライドあるは講義資料に目を通し、わからないことは教科書などで調べておく（30分)。
２．授業項目は指定教科書に準拠しているため、当該にざっと目を通す（30分)。

【復習】

１．授業のスライドあるいは講義資料にもう一回目を通し、わからないことは、再度教科書などで確認し、復習する（30分)。
２．授業中に理解するべき部位を強調した部分については、他の参考資料も活用し、確実に理解するようにする（30分)。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

筆記試験、出席、実習のスケッチやレポートなど、CPC レポート。
筆記試験を主体に評価するが、実習でのレポート等も加味して評価する。
なお、講義、実習とも2/3以上の出席が必須である。

Ⅵ．**教科書（必須）**

Vinay Kumar 豊國伸哉監訳：ロビンス基礎病理学原書10版エルゼビア・ジャパン 丸善出版（発売）2018

Ⅶ．**参考書・文献**

１．小田義直　編集：組織病理アトラス　第6版　文光堂　2015
２．R. ルービン　鈴木利光監訳：カラールービン病理学　改訂版　西村書店　2017
３．北川昌伸　編集：標準病理学　第6版　医学書院　2019

4. Barbara Young　後藤　薫　監訳：ウィーター図説で学ぶ機能組織学　原著第6版　エルゼビア・ジャパン　2018
5. Victor P. Eroschenko　相磯貞和　訳：Di Fiore 人体組織図譜　原著第11版　南江堂　2011
6. 深山正久　編集：病理組織マップ＆ガイド　文光堂　2014
7. D. S. Strayer：Rubin's Pathology　8th ed.　Wolters Kluwer　2020
8. V. Kumar：Robbins basic pathology　10th ed.　Elsevier　2018

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	5	火	1	濵　崎	C-4	2)	病理序論 細胞傷害・変性と細胞死(1)	病理学で学ぶこと。細胞の構造と機能、細胞傷害、変性、萎縮、細胞死の多様性、原因、形態的変化。ネクローシスとアポトーシス	講　義
2				2	〃	〃	〃	細胞傷害・変性と細胞死(2)	細胞死の多様性、原因、形態的変化。ネクローシスとアポトーシス	〃
3				3	〃	〃	5)	炎症と修復(1)	炎症の定義、分類、組織形態学的変化と経時的変化の病理	〃
4				4	〃	〃	〃	炎症と修復(2)	炎症の組織形態学的変化と経時的変化の病理実習	〃
5		7	木	1	〃	〃	〃	炎症と修復(3)	組織の再生と修復、創傷治癒の過程・細胞増殖と適応	〃
6				2	濵﨑・青木	〃	〃	変性壊死、炎症と修復(4)	炎症の定義、分類、組織形態学的変化と経時的変化の病理実習	実　習
7		8	金	1	上　杉	C-4	4)	循環障害(1)	血管の構造と機能、急性炎症における血管反応	講　義
8				2	〃	〃	〃	循環障害(2)	血液循環障害、浮腫、ショック	〃
9		12	火	1	〃	〃	〃	循環障害(3)	出血と止血の機序、血栓症、塞栓症、梗塞	〃
10				2	〃	〃	〃	循環障害(4)	動脈硬化の形態と分類	〃
11				3	上杉・古賀	〃	〃	循環障害(5)	循環障害の病理実習	実　習
12				4	上　杉	C-3	2)	免疫・アレルギー・移植拒絶(1)	免疫介在組織障害、アレルギー、自己免疫疾患	講　義
		14	木	1						自　習
				2						〃
		15	金	1						〃
				2						〃
13		19	火	1	上　杉	C-3	2)	免疫・アレルギー・移植拒絶(2)	免疫介在組織障害、アレルギー、自己免疫疾患	講　義
14				2	〃	〃	〃	免疫・アレルギー・移植拒絶(3)	〃	〃
15				3	上杉・青木	〃	〃	免疫・アレルギー・移植拒絶(4)	〃	実　習
16				4	上　杉	C-4	1)	遺伝性疾患/小児の疾患(1)	遺伝性疾患	講　義
17		21	木	1	濵　田	C-4 E-7	1) 1)2)	遺伝性疾患/小児の疾患(2)	新生児・小児期の疾患	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
18	4	21	木	2	濵田	E-7	1) 2)3)	遺伝性疾患/小児の疾患(3)	小児腫瘍	講義
19		22	金	1	濵田・上杉	C-4	1)	遺伝性疾患(4)	遺伝子疾患の病理実習	実習
20				2	濵田	E-5 E-6	2)-3) 1)-3)	環境要因　栄養障害薬剤障害(1)	化学物理的物質、環境因子、アルコール、薬剤、放射線による毒性	講義
21		26	火	1	〃	〃	〃	環境要因　栄養障害老化(2)	化学物理的物質、環境因子、アルコール、薬剤、放射線による毒性	〃
22				2	上杉	E-5 E-8	2)-3) 1)	環境要因　栄養障害老化(3)	栄養障害、糖蛋白代謝の障害老化に伴う変化	〃
23				3	〃	C-4 E-5	3) 2-3)	環境要因　栄養障害代謝障害(4)	栄養障害、糖蛋白代謝の障害老化に伴う変化	〃
24				4	濵田・上杉	〃	〃	環境要因　栄養障害(5)	環境要因　栄養障害の病理実習	実習
25	5	6	金	1	濵﨑	C-4	6)	腫瘍総論(1)	腫瘍の Introduction & 癌の転移・浸潤	講義
26				2	二村	〃	〃	腫瘍総論(2)	癌の形態　低分化と高分化	〃
27		10	火	1	濵﨑・二村	〃	〃	腫瘍総論(3)	癌の形態：胃癌(低分化腺癌)	実習
28				2	〃	〃	〃	腫瘍総論(4)	癌の形態： 肺癌(腺癌：乳頭型・腺房型)	〃
29				3	濵﨑	〃	〃	腫瘍総論(5)	細胞増殖・癌遺伝子と癌抑制遺伝子	講義
30				4	二村	〃	〃	腫瘍総論(6)	上皮性腫瘍と癌の進展	〃
31		13	金	1	濵﨑	〃	〃	腫瘍総論(7)	非上皮性腫瘍	〃
				2	(予備)					
32		17	火	3	濵﨑・武藤	〃	〃	腫瘍総論(8)	非上皮性腫瘍	実習
33				4	〃	〃	〃	腫瘍総論(9)	アスベストと中皮腫	〃
34		20	金	1	濵田	C-3	1)	感染症(1)	微生物による疾病発症の機序、感染による炎症反応の種類と組織形態。	講義
35				2	〃	〃	〃	感染症(2)	細菌、マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア、ウイルス、真菌感染症の病理	〃
36		27	金	1	濵田・古賀	〃	〃	感染症(3)	感染症の病理実習	実習
37				2	上杉	F-3	4)	細胞診断	細胞診総論、臨床における細胞診の意義	講義
	6	3	金	1	(予備)					
				2	〃					
		28	火	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

公　衆　衛　生　学

Ⅰ．担当教員名

衛生・公衆衛生学　教　　授　有馬久富（科目責任者）
准教授　吉村　　力（副責任者）
講　　師　前田俊樹
〃　佐藤　　敦
〃　川添美紀
〃　阿部真紀子
非常勤講師　向井直子（福岡市城南区保健福祉センター・保健所長）
〃　西　　巧（福岡県保健環境研究所 主任技師）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

公衆衛生（Public health）とは、「共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康をはかるための科学であり、技術」（C. E. A. Winslow）である。わが国の医師法第１条には「医師は医療および保健指導をつかさどることによって公衆衛生の向上および推進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする」と定められている。

疾病発症予防と健康増進のためには、人間社会に存在する健康問題を的確に把握し、それらと関連する要因を究明し、問題を解決する方法を理解し、実践する能力を身につける必要がある。このことを通じて、国民そして人類の健康を守る視点と能力を持つ医師となることを目標とする。

より具体的には

１．わが国と世界の保健・医療・福祉の制度について説明できる。(A-1)
２．論文を検索、収集し、批判的に読んで EBM を説明、実践できる。(A-2)
３．人間集団の健康状態を疫学的に説明できる。(A-3)
４．設定した学習目標にもとづいて、公衆衛生学実習に取り組むことができる。(A-4)
５．医療および研究の倫理について説明できる。(C-1)
６．保健指導・健康教育・健康管理の原理と方法について説明できる。(C-3)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．公衆衛生学概論
　１）健康の意味を理解し、概念を説明できる。
　２）公衆衛生の定義を説明できる。
　３）予防の原則を説明できる。
　４）プライマリケアとヘルスプロモーションの考え方を対比的に説明できる。
　５）社会集団と健康との関連を概観でき、その基本を説明できる。
　６）ライフサイクルを概観でき、その意味を具体的に説明できる。
　７）ライフサイクル別の健康につき、主要な課題と解決の方針を説明できる。
２．疫学・生物統計
　１）疫学の概念、研究デザイン、諸指標について説明できる。

２）基本的な統計解析ができる。
３）疾病のリスク要因と予防要因を説明できる。
４）根拠に基づく医療（EBM）の考え方を説明できる。

３．医の倫理と法規
１）医の倫理と生命倫理に関する規範を説明できる。
２）患者の基本的権利を熟知し、これらに関する現状の問題点を説明できる。
３）医師の義務と裁量権に関する基本的態度を説明できる。
４）適切な説明を行った上で、患者の選択に基づき、主体的な同意を得るために必要な態度、考え方を説明できる。

４．障害者福祉
１）身体障害者の置かれた状況を具体的にイメージし、一部をシミュレーションすることができる。
２）障害や疾病の分類の考え方を理解し、実例を述べることができる。
３）障害とバリアフリーの原則を説明でき、実例を述べることができる。

５．医療法と医療体制
１）地域社会とその生活集団の健康について、課題把握の技法を説明し、実施できる。
２）保健対策や保健サービスについての基本的な考え方を説明できる。
３）地域における保健、福祉、医療の各システムの共通性と個別性を説明できる。

６．社会保障と医療保障
１）福祉国家としての社会保障、医療保障、医療福祉の基本的概念を説明できる。
２）わが国が抱える社会保障、医療保障、医療福祉の主な課題を説明できる。

７．産業保健
１）労働の場における環境や作業様態とは何か、具体的に説明できる。
２）職業病の概念、発見方法、コントロール方法につき、主要な考え方を説明できる。
３）労働時間や休息・休業の原則を列記し、労働基準の意味を説明できる。
４）作業場の安全衛生管理体制と産業医の役割を説明できる。
５）作業場の健康管理体制の概要を述べ、特殊健診の意味を説明できる。
６）主な有害業務に関して、問題となる有害物の特性、検診の概要、予防の原則を説明できる。
７）過重労働対策について説明できる。
８）メンタルヘルス対策について説明できる。

８．環境保健
１）生活の場である環境と人間の健康との関連を説明できる。
２）環境条件の意味や環境の評価方法を説明できる。
３）環境災害（公害を含む）及び環境保全について、主要な項目を列挙できる。
４）生活環境および、地球環境の評価と維持の原則を説明できる。
５）大気水質土壌の汚染に関し、評価の原則と汚染防止の重要な方策を説明できる。
６）廃棄物処理の原則を説明できる。

９．食品・栄養と健康
１）食中毒の原因菌、原因食品および各原因菌の特徴を説明できる。
２）食品に関する衛生上の危害発生の予防および対策を説明できる。

３）栄養状態の評価の原則を説明できる。
４）国民栄養の現状について、概要を説明できる。

10．母子保健
１）妊婦と胎児の健康を維持するためのシステムについて、概要・現状・課題を説明できる。
２）乳幼児と母親の健康を維持するためのシステムについて、概要・現状・課題を説明できる。

11．学校保健
１）学校医の職務、健康診断、学校における予防すべき感染症について説明できる。
２）生涯を通じた健康づくりの観点から、学校保健の重要性と医師としての関わりの必要性を説明できる。

12．成人保健
１）国民健康づくり対策の目標と基本方針を説明できる。
２）主要な生活習慣病の現状と社会的な背景を説明できる。
３）主要な生活習慣病の発見と予防および対策を説明できる。
４）生活習慣に関連した行動変容の機構を理解し、課題を説明できる。

13．高齢者保健
１）高齢化社会の現状や高齢化の課題を説明できる。
２）高齢社会を維持するための社会システムの概要を説明できる。
３）介護保険の考え方やシステムの概要を説明できる。

14．精神保健
１）精神障害者を支える社会のしくみについて説明できる。
２）「入院治療中心から地域生活中心へ」という対策の基本方針を理解する。
３）精神保健福祉法に基づく入院について説明できる。

15．人口保健統計
１）人口静態統計、人口動態統計の概略を説明できる。
２）死因別統計の概略を説明できる。
３）疾病統計の概要を説明でき、国民生活基礎調査、患者調査などの主要な統計調査を概説できる。

16．地域保健
１）保健所の機能を具体的に説明できる。
２）地域保健において、保健所と市町村の果たす役割を対比的に説明できる。
３）医療圏と医療計画の意味を説明でき、主要な項目を説明できる。
４）国の公衆衛生を維持するための法的体系の概要を説明できる。

17．国際保健
１）世界における健康格差について説明できる。
２）国際機関の役割を理解する。
３）二国間協力を理解する。
４）世界における保健問題を理解する。

18．感染症対策
１）主要な感染症の現状と課題を説明できる。
２）検疫、予防接種、感染症サーベイランスを説明できる。

３）社会を感染症の脅威から防御するためのシステムの概要を説明できる。

19．公衆衛生学実習

１）保健所を代表とする保健／医療／福祉に関連した学外の施設では、どのような理念の下に、どのような活動が行われているかを、事例に即して具体的に説明できる。

２）学外施設など現場で学んだ事例の理解をもとに、地域の人々の健康増進を実現するため、医師として必要な能力を説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．要点やキーワードをまとめたプリント、スライドなどを活用した講義により、理解の定着をはかる。レスポンスアナライザーを使って問題を解く。

２．疫学・生物統計では、年齢調整死亡率、相対危険度、寄与危険度などについて実際に計算し、解答を得る。電卓を必要とするので持参のこと。

３．公衆衛生学実習においては、施設の体験／見学／グループワークなどを、テーマに応じて行う。

４．公衆衛生学実習で学外に出る場合は、公共の交通機関を利用すること。福岡大学生としての自覚を持って、常識を逸脱した行動は厳につつしむこと。約束の時間や期限などは厳守し、社会から信用される医療人として成長することを期待する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．シラバスに記載されている学習項目について、教科書で事前に予習しておくこと。(30分)

【復習】

１．授業後に講義内容および教科書を復習し、理解不足の点については参考書等で調べること。(30分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．期末に行う論述形式の試験（全配点の約80%）により評価する。なお、出席状況、授業態度、ワークシート、レポートの内容により、加点・減点を行う。

２．公衆衛生学実習およびEBM実習では、提出レポートの内容およびグループ発表の内容（全配点の約20%）により評価する。なお、実習オリエンテーションに参加しなかったものは、実習参加を認めず、不合格とする。また、公衆衛生学実習、実習まとめ、実習発表会およびEBM実習のそれぞれについて、３分の１以上の時間を欠席した者は不合格とする。実習オリエンテーション、公衆衛生学実習、実習まとめ、実習発表会およびEBM実習に遅刻した場合、身だしなみ・態度の不良を指摘された場合は、その都度減点する。

３．試験の成績にかかわらず、講義・実習中の態度不良のみで不合格となる場合がある。

Ⅵ．**教科書**

・監修　岸玲子　編集　馬場園明、小泉昭夫、武林亨、今中雄一：NEW予防医学・公衆衛生学改訂第４版　南江堂

Ⅶ．**参考書・文献**

１．医療情報科学研究所編：公衆衛生がみえる　2020－2021

２．厚生労働統計協会編：図説国民衛生の動向　2021　厚生労働統計協会

３．厚生労働統計協会編：国民衛生の動向　2021　厚生労働統計協会

４．対話からの社会医学・公衆衛生学マイクロレクチャー　http://social-med.blogspot.jp/

その他、必要に応じて授業中に助言する。

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	6	水	1	有馬	B-1	4)～5) 6)④	公衆衛生学概論１	健康、公衆衛生、疾病予防、プライマリケア、ヘルスプロモーション、ライフサイクル、健康日本21、健康増進法、特定健康診査、特定保健指導、生活習慣病予防、メタボリックシンドローム、行動変容	講義プリント
2				2	吉村	A-1	1)～3)	医の倫理と法規	医療倫理、研究倫理、リスボン宣言、インフォームドコンセント、医療法規、情報セキュリティ、死亡診断書、終末医療、緩和ケア、生命倫理	〃
						B-2	2)			
						B-3	1)			
3		7	木	3	非常勤講師 西	A-5	1)	医療法と医療体制	医療法、医療従事者、多職種連携、医療計画、地域連携	〃
						A-7	1)			
						B-1	7)8)			
4				4	前田	B-1	8)	社会保障と医療保障	医療保険制度、介護保険制度、その他社会保障制度、診療報酬体系、医療経済	〃
5		8	金	3	佐藤	B-1	4) ①～③	人口保健統計	人口転換、人口静態統計、人口動態統計、死因統計、平均寿命、健康寿命	〃
6				4	〃	B-1	3) 4) ③～⑤	疫学・生物統計１	疫学研究デザイン 疫学とその応用	〃
7		13	水	1	吉村	A-7	1)③	高齢者保健	高齢化社会、高齢者医療確保法、介護保険制度	〃
						B-1	8)③			
8				2	〃	B-1	8)⑫ 9)①	感染症対策	感染症法、予防接種法、検疫法、世界各国およびわが国の主要な感染症の現状と課題、輸入感染症、感染制御	〃
9		14	木	3	阿部	B-1	5)②	食品・栄養と健康	食事摂取基準、栄養素、食育、食生活指針、国民健康・栄養調査、栄養疫学	〃
						F-2	11)①			
				4	（予　備）					
10		15	金	3	川添	A-7	1)	母子保健 学校保健	母子保健法、母体保護法、児童福祉法、女性労働者の保護・子育て支援、少子化対策、児童虐待 学校医の職務、学校保健安全法、健康診断、学校感染症、学校精神保健	講義プリント
						B-1	7)			
						A-7	1)			
						B-1	7)			
				4	（予　備）					
11		20	水	1	有馬	B-1	8)9)	国際保健 精神保健	精神保健の考え方、精神保健福祉法、国際保健、世界保健機構、二国間協力、世界における保健問題	講義プリント
						B-1	6) ③④	産業保健	労働安全衛生法、産業医、労働衛生の３管理、過重労働対策、メンタルヘルス対策、労働災害、産業中毒	

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
12	4	20	水	2	有馬	B-1	4)	疫学・生物統計２	スクリーニング	講義 プリント
		21	木	3	（予備）					
				4	〃					
13		22	金	3	非常勤講師 向井	A-7	1)	地域保健	保健所活動の実際、対人保健サービス、環境・食品行政、医薬務行政、感染症対策、精神保健福祉	講義 プリント
14				4	有馬	B-1	3)4)	疫学・生物統計３	脳卒中の疫学、臨床試験	〃
15		27	水	1	全員			EBM実習１	EBMの実践	
16				2	〃			〃	〃	
17		28	木	3	〃			EBM実習２	〃	
18				4	〃			〃	〃	
19	5	6	金	3	〃			実習オリエンテーション１	実習の説明、実習書の配布	グループワーク
20				4	〃			実習準備	各施設への連絡の指示	〃
21		11	水	1	〃			実習オリエンテーション２	実習施設について調べる	〃
22				2	〃			実習準備	実習目的の確認 実習施設への連絡の確認 実習詳細説明、実習に向けての最終確認	〃
23		13	金	3	〃			〃	〃	〃
24				4	〃			〃	〃	〃
25		17	火	1	〃			〃	〃	〃
26				2	〃			〃	〃	〃
27		18	水	1	〃			EBM実習３	EBMの実践	
28				2	〃			〃	〃	
29		20	金	3	〃			実習準備	実習目的の確認 実習に向けての最終確認	グループワーク
30				4	〃			〃	〃	〃
31		24	火	1	〃			EBM実習４	EBMの実践	
32				2	〃			〃	〃	
33		25	水	1	〃			実習準備	実習目的の確認 実習に向けての最終確認	グループワーク
34				2	〃			〃	〃	〃
35		27	金	3	〃			〃	〃	〃
36				4	〃			〃	〃	〃
37		31	火	1	〃			〃	〃	〃
38				2	〃			〃	〃	〃
39 ～ 42	6	1	水	終日	公衆衛生学 実習			保健所実習 各施設実習	フィールド体験、施設体験を基にした社会医学的観察と分析	現場での取材 事例観察 野外実習

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
43～46	6	2	木	終日	公衆衛生学実習			保健所実習 各施設実習	フィールド体験、施設体験を基にした社会医学的観察と分析	現場での取材 事例観察 野外実習
47		3	金	3	実習準備 レポート作成			実習準備 実習まとめ ポートフォリオ作成	実習に向けての最終確認 体験記録の整理、要点の抽出、データの見直し、作図作表、ポートフォリオ作成	グループワーク
48				4	〃			〃	〃	〃
49～52		8	水	終日	公衆衛生学実習			保健所実習 各施設実習	フィールド体験、施設体験を基にした社会医学的観察と分析	現場での取材 事例観察 野外実習
53～56		9	木	終日	〃			〃	〃	〃
57		10	金	3	全員			実習まとめ ポートフォリオ作成 発表会準備	体験記録の整理、要点の抽出、データの見直し、作図作表、ポートフォリオ作成 発表会に向けて準備	グループワーク
58				4	〃			〃	〃	〃
59		15	水	1	〃			実習発表会	自グループの知見のまとめと発表、他のグループの発表との比較検討	グループ別発表 全体討論
60				2	〃			〃	〃	〃
61		17	金	3	〃			〃	〃	〃
62				4	〃			〃	〃	〃
63		22	水	1	〃			〃	自グループの知見のまとめと発表、他のグループの発表との比較検討	グループ別発表 全体討論
64				2	〃			〃	〃	〃
		24	金	3	（予　備）					
				4	〃					
	7	7	木	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

内分泌・代謝病学

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　　授	川　浪　大　治	（科目責任者）
	〃	小　林　邦　久	（筑紫病院）
	講　　師	髙　士　祐　一	（副責任者）
	〃	横　溝　　久	
	助　　教	牟　田　芳　実	
	非常勤講師	田　邉　真紀人	（福岡徳洲会病院）
	〃	前　田　泰　孝	（南昌江内科クリニック）
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	非常勤講師	位　藤　俊　一	（近畿大学医学部外科）
脳神経外科	准　教　授	野　中　　将	
腎泌尿器外科学	講　　師	松　﨑　洋　吏	
総合医学研究センター	教　　授	松　永　　彰	

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．糖尿病の病型、病態を理解する。(A-1)
2．糖尿病の合併症について理解する。(A-1)
3．内分泌疾患の病態をホルモンの作用面から理解する。(A-2)
4．糖尿病の診断と治療および臨床的課題を理解する。(A-3)
5．内分泌疾患の診断と治療を理解し、最新の知見を学ぶ。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

〈糖代謝異常〉

1）膵島の形態と機能を説明できる。
2）インスリン分泌調節、糖代謝を説明できる。
3）糖尿病の病因、病態生理、分類、診断基準と症候を説明できる。
4）糖尿病の合併症を列挙できる。
5）糖尿病の急性代謝失調を説明できる。
6）糖尿病細小血管症の病態生理、病期分類、診断と治療を説明できる。
7）糖尿病大血管症の病態生理、診断と治療を説明できる。
8）糖尿病の食事療法と運動療法を説明できる。
9）糖尿病の薬物療法を説明できる。
10）糖尿病の先端的な治療を説明できる。
11）低血糖症の病因、症候、診断と治療を説明できる。

〈内分泌疾患〉

1）ホルモンの種類、合成、作用機構について説明できる
2）視床下部・下垂体疾患の成因、診断、治療について説明できる

３）甲状腺疾患の成因、診断、治療について説明できる
４）副腎および関連疾患の成因、診断、治療について説明できる
５）性腺疾患の成因、診断、治療について説明できる
６）多腺性内分泌疾患、遺伝性疾患について説明できる

〈脂質代謝異常〉
１）脂質の構造と機能を説明できる。
２）リポ蛋白の構造と代謝を説明できる。
３）動脈硬化の病態生理と合併症を説明できる。
４）原発性高脂血症の分類を説明できる。
５）二次性高脂血症の病因を列挙できる。
６）高コレステロール血症の予防と治療を説明できる。
７）高中性脂肪血症の予防と治療を説明できる。

〈肥満、核酸代謝異常〉
１）肥満症の分類と治療を説明できる。
２）核酸の代謝を説明できる。
３）高尿酸血症の病因、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

〈ビタミン〉
ビタミンの欠乏症と過剰症を説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies)

〈学習方略〉
１．基礎医学で習得した知識を融合させながら内分泌・代謝疾患を理解する。
２．内分泌・代謝疾患の診断基準を身体所見、検査所見から理解する。
３．病態に見合った内分泌・代謝疾患の治療を理解する。
４．症例検討や演習問題を通じて、臨床的視点を養う。

〈事前事後学習の方法〉
【予習】
１．各講義の予習（30分）
【復習】
１．各講義の復習（30分）

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

筆記試験。授業態度、講義出席状況も評価の対象とする。

Ⅵ．教科書

講義プリントを冊子として配布予定

Ⅶ．参考書・文献

１．矢﨑義雄　総編集：内科学　第11版　朝倉書店
２．日本糖尿病学会編：糖尿病治療ガイド　2020～2021　文光堂
３．寺本民生、片山茂裕　編集：講義録　内分泌・代謝学　メジカルビュー社
４．日本内分泌学会編：内分泌代謝専門医研修ガイドブック　診断と治療社
５．高倉公明他　編集：図説脳神経外科学　New Approach 間脳・下垂体【機能・解剖・手術】メジカルビュー社

６．松田公志・中川昌之・冨田善彦　編集：新 Urologic Surgery シリーズ４　良性腎疾患・副腎・後腹膜の手術　メジカルビュー社

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	6	水	3	川浪	D-12	4)(5)	糖代謝異常総論	糖尿病総論	講義
2				4	〃	D-12	4)(5)①	糖尿病(1)	糖尿病の成因と分類	〃
3		13	水	3	〃	D-12	4)(5)②③	糖尿病(2)	糖尿病の急性合併症と慢性合併症	〃
4				4	非常勤講師 前田	D-12	4)(5)④⑤	糖尿病(3)	血糖測定器、インスリンポンプの進歩	〃
5		20	水	3	小林	D-12	4)(5)①～⑤	糖尿病(4)	糖尿病症例の提示	〃
6				4	〃	C-5	8)	行動科学	行動変化ステージ・コーチング スティグマとアドボカシー	〃
						D4	3)(3)①	肥満糖尿病		
7		27	水	3	川浪	D-12	4)(5)④⑤	糖尿病(5)	糖尿病の治療	〃
8				4	横溝	D-12	4)(5)①～⑤	糖尿病(6)	国家試験問題演習	〃
9	5	11	水	3	髙士	D-12	4)(3)	甲状腺・副甲状腺疾患(1)	Ｃａ代謝と副甲状腺疾患	〃
10				4	〃	D-12	4)(1)	視床下部・下垂体疾患(1)	下垂体前葉機能亢進症	〃
11		16	月	1	松永	D-12	1)⑨ 4)(6)	脂質異常症(1)	血清脂質とリポ蛋白代謝	〃
12				2	〃	D-12	1)⑨ 4)(6)	脂質異常症(2)	脂質異常症の診断と治療，症例検討	講義 症例検討
13		18	水	3	〃	D-12	4)(7)②	ビタミン・核酸代謝異常	痛風，ビタミン欠乏症	講義
14				4	川浪	D-12	1)2)	内分泌総論	内分泌総論	〃
15		25	水	3	非常勤講師 田邉	D-12	4)(4)	副腎疾患および関連疾患(1)	副腎疾患総論・性腺疾患	〃
16				4	川浪	D-12	4)(4)	副腎疾患および関連疾患(2)	クッシング症候群・原発性アルドステロン症・副腎皮質機能低下症、褐色細胞腫・MEN	〃
		31	火	3						自習
				4						〃
17	6	7	火	3	横溝	D-12	4)(2)	甲状腺・副甲状腺疾患(2)	甲状腺疾患総論	講義
18				4	〃	D-12	4)(2)	甲状腺・副甲状腺疾患(3)	甲状腺疾患各論	〃
		14	火	3						自習
				4						〃
19		15	水	3	非常勤講師 位藤	D-12	1)④4)(2)4)(3)	甲状腺・副甲状腺疾患(4)	甲状腺・副甲状腺疾患外科治療	講義

第３学年

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
20	6	15	水	4	松　崎	D-12	4) (4)①② 4) (10)②	副腎疾患および関連疾患(3)	副腎腫瘍の外科治療	講　義
21		21	火	3	牟　田	D-12	4) (1)	視床下部・下垂体疾患(2)	下垂体前葉機能低下症および尿崩症	〃
22				4	〃	D-12	3) (3)①	肥　満　症	肥満症の定義と治療	〃
23		22	水	3	野　中	D-12	4) (1)①②④⑥	視床下部・下垂体疾患(3)	視床下部・下垂体病変の外科治療	〃
24				4	川　浪			内分泌疾患まとめ	国家試験問題演習	〃
		30	木	1	試　験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

消　化　器　病　学

Ⅰ．担当教員名

消化器内科学	教　　授	平　井　郁　仁	（科目責任者）
	准教授	釈迦堂　　敏	
	講　　師	横　山　圭　二	
	〃	田　中　　崇	
	〃	石　橋　英　樹	
	〃	芦　塚　伸　也	
	〃	石　田　祐　介	（内視鏡部）
	助　　教	高　田　和　英	
	〃	船　越　禎　広	
	〃	久　能　宣　昭	
	〃	福　永　篤　志	
消化器外科学	教　　授	長谷川　　傑	（副責任者）
	講　　師	吉　村　文　博	（手術部）
	〃	梶　原　正　俊	
	〃	内　藤　滋　俊	
	助　　教	中　島　　亮	
	〃	島　岡　秀　樹	
放射線医学	講　　師	浦　川　博　史	
消化器内科	教　　授	植　木　敏　晴	（筑紫病院）
	准教授	久　部　高　司	（　〃　）
	助　　教	小　野　陽一郎	（　〃　）
内視鏡部	教　　授	八　尾　建　史	（　〃　）
	講　　師	宮　岡　正　喜	（　〃　）
外　　科	教　　授	渡　部　雅　人	（　〃　）
	准教授	東　　大二郎	（　〃　）
	助　　教	薦　野　　晃	（　〃　）
	〃	高　橋　宏　幸	（　〃　）
病　理　部	教　　授	二　村　　聡	（　〃　）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．消化器（消化管、肝・胆・膵）の構造と機能ならびに消化器疾患の病態生理、臨床症状、徴候を理解する。(A-1)

2．消化器疾患の身体所見、一般検査所見（血液、尿、便)、負荷試験および画像診断（X線、内視鏡、腹部超音波検査など）の知識を身につける。(A-1)

3．消化器疾患の疾患概念と病理を理解する。(A-1)

４．消化器疾患診療における最新の知識ならびに治療法を理解する。(A-2)
５．消化器疾患診療における現在の限界について理解する。(A-3)
６．消化器疾患の内科的、外科的治療と管理の要点を理解する。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）(Competencies)

１．消化器疾患の主要症候の発生機序、病態生理を説明できる。
２．消化管疾患（食道～大腸）におけるＸ線、内視鏡診断を適切に記述できる。
３．食道・胃・大腸疾患の疾患概念と病理を理解し、適切な診断と治療法を説明できる。
４．急性腹症、腸閉塞の適切な診断と治療法を選択できる。
５．腹部領域の先天異常、ヘルニア、肛門疾患の適切な診断と治療法を選択できる。
６．肝臓の生理的機能を理解し、一般検査、生化学検査、腫瘍マーカーの意味を説明できる。
７．急性・慢性肝不全の病態を理解し、適切な診断と治療法を選択できる。
８．ウィルス性肝炎の発生、進展機序を理解し、適切な診断と治療法を選択できる。
９．自己免疫性、代謝性機序による肝疾患の病態、診断、治療法を列挙できる。
10．肝・胆・膵疾患における腹部超音波、CT、血管造影、ERCP、MRCP などの画像診断の基本について理解し、主要疾患の鑑別を説明できる。
11．肝・胆・膵領域の主要疾患の疾患概念と病理を理解し、適切な診断と治療法を選択できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法(Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．消化器病学の各論を内科、外科、病理で統合的に講義を行う。
２．レスポンスアナライザーを使って、臨床問題を解く。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．次回の講義までに「2022年度消化器病学統合講義テキスト」の紙面（モノクロ、一部カラー）、Moodle にアップロードされたテキスト（カラー）を事前に確認し、理解する。(60分)
２．テキストだけではわからないことを教科書、参考書で調べる。(20分)

【復習】

１．「2022年度消化器病学統合講義テキスト」、Moodle にアップロードされたスライド資料（講義用のスライドに更新される場合あり）を復習し、科目試験に備える。(60分)

Ⅴ．成績評価および方法(Evaluation)

客観試験

Ⅵ．教科書

矢崎義雄　総編集：内科学　第11版　朝倉書店
矢崎義雄　監修：新臨床内科学　第10版　医学書院
武藤徹一郎、幕内雅敏　監修：新臨床外科学　第４版　医学書院

Ⅶ．参考書・文献

佐々木裕　総編集：最新ガイドライン準拠消化器疾患診断・治療指針　中山書店
北野正剛　監修：標準外科学　第15版　医学書院

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	5	23	月	1	釈迦堂	D-7	2)①② 4)(5)①② A-6 1)④ 3)④	肝炎ウイルス、ウイルス性肝炎1	ウイルスとは(形態、特性、増殖)、DNAウイルス、RNAウイルス、肝炎ウイルス、急性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎、肝炎訴訟	講義
2				2	〃	D-7	4)(5)①～③	ウイルス性肝炎2	急性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎、急性肝不全	〃
3		24	火	3	福永	D-7	1)①⑥⑧ 3)(1)①	肝胆膵の臨床解剖、生理、免疫、肝病態生理	構造と機能、ビリルビン、胆汁酸代謝、体質性黄疸	〃
4				4	〃	F-2 7) D-7 2)③		肝疾患の診断と治療	超音波検査の肝病変への適応と実際	〃
5		30	月	1	浦川	D-7	1)①②⑥	腹部血管画像診断	腹部画像診断に必要な血管解剖(肝の正常画像、肝細胞癌、胆管細胞癌、転移性肝癌、肝血管腫、IVR)	〃
6				2	横山	D-7	4)(5)⑨⑩	免疫異常と肝疾患	自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎、原発性硬化性胆管炎、肝内胆汁うっ滞	〃
7	6	6	月	1	〃	D-7 4)(1)①(5)④⑤ F-1 25)		肝硬変、門脈圧亢進症	病態生理、症候、身体所見、検査所見、診断、治療、Budd-Chiari症候群、肝性脳症、食道静脈瘤、特発性細菌性腹膜炎、腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘤	〃
8				2	田中	D-7	4)(5)⑥～⑧⑪ 3)(1)	代謝異常による肝疾患等	ヘモクロマトーシス、ウイルソン病、アルコール性肝障害、薬剤性肝障害、肝膿瘍、脂肪肝、肝包虫症、肝嚢胞、肝腫大	〃
9		13	月	1	〃	D-7	4)(8)⑨	肝腫瘍	肝腫瘍の病因、疫学、診断、画像診断と内科的治療、肝血管腫、肝内胆管癌、原発性肝癌、転移性肝癌	〃
10				2	内藤	D-7	4)(4)①②(8)⑧ E-3 F-1 20)	悪性胆嚢・胆道疾患	胆嚢癌、胆管癌、乳頭部癌	〃
11		20	月	1	梶原	D-7 4)(8)⑨ E-3 2)3)		肝臓の外科解剖、肝腫瘍の外科的治療	肝臓の脈管と肝区域、肝細胞癌、胆管細胞癌、転移性肝癌の外科的治療	〃
12				2	〃	D-7	4)(4)①～③	良性胆嚢・胆道疾患	胆石症、急性胆嚢炎、胆嚢ポリープ、胆嚢腺筋症、膵管胆道合流異常	〃
						E-3	2)3)			
13	8	22	月	3	内藤	D-7	2)①③④ 3)(2)①	症候・病態外科的黄疸	原因と病態、診断と治療	〃
						E-3	2)3)			
						F-1	24)			

第3学年

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
14	8	22	月	4	石橋	D-7	1)③～⑤⑦⑩～⑫	消化管の臨床解剖、生理、免疫	構造と機能	講義
15		29	月	3	〃	D-7	1)⑩	消化吸収障害、蛋白漏出性胃腸症	病因、病態生理、診断治療、吸収不全症候群	〃
						F-2	11)④			
16				4	石田	E-3	5)⑦	膵内分泌腫瘍	インスリノーマ、グルカゴノーマ、ソマトスタチノーマ、VIPoma（ガストリノーマ）	〃
						F-1	20)			
17		30	火	1	中島	D-7	4)(6)	胆膵疾患の内視鏡・画像診断と治療	ＥＲＣＰ、ＥＳＴ、ＰＴＢＤ、PTGBD、EUS、MRCP、DIC-CT	〃
						E-3	2)3)			
						F-1	20)24)			
18				2	〃	D-7	4)(8)⑩	膵癌	膵癌の病態、診断、治療	〃
						E-3				
						F-1	20)24)			
19				3	植木	D-7	1)⑨ 4)(6)①	急性膵炎	病因、病態生理、診断、治療	〃
20				4	〃	D-7	4)(6)② ③(8)⑪	慢性膵炎、膵嚢胞性疾患	病因、病態生理、診断、治療、嚢胞性膵疾患、膵良性腫瘍	〃
21	9	5	月	1	高田	D-7	4) (4)～(6)	典型症例呈示（肝胆膵）1	典型症例、臨床問題の解説	〃
22				2	〃	D-7	4) (4)～(6)	典型症例呈示（肝胆膵）2	〃	〃
23				3	宮岡	D-7	4)(1)	食道良性疾患	アカラシア、胃食道逆流症（ＧＥＲＤ）、食道炎、食道潰瘍、Mallory-Weiss症候群、食道裂孔・破裂、Barrett上皮、食道良性腫瘍、食道憩室、食道裂孔ヘルニア	〃
24				4	小野	D-7	4)(8)① ②	食道悪性疾患	食道癌の疫学、診断、進行度、治療、非上皮性悪性腫瘍	〃
25		6	火	1	吉村	D-7	1)①③⑦ 4)(2)	胃疾患の外科治療	胃十二指腸潰瘍・胃粘膜下腫瘍・胃癌の手術治療と治療成績、術後合併症、胃切除後症候群	〃
						E-3	2)3)			
						F-1	19)21)22)			
26				2	石橋	D-7	4)(2)① ②④⑤⑦	胃良性疾患	急性胃炎、慢性胃炎、ピロリ菌、上腸間膜動脈性十二指腸狭窄・閉鎖症、十二指腸憩室、急性胃粘膜病変、胃巨大皺襞症、アニサキス、ディスペプシア、消化性潰瘍、Z-E症候群、消化管ホルモン、胃潰瘍、十二指腸潰瘍	〃
27		12	月	1	八尾	D-7	4)(2)③ (8)③～⑤⑫	胃・十二指腸腫瘍	胃良性腫瘍、胃ポリープとその内科的治療、胃癌、胃悪性リンパ腫の診断、内科的治療	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
28	9	12	月	2	渡部	D-7	1)③ 4)(8)①②	食道疾患の外科治療	食道癌と非上皮性悪性腫瘍の外科治療	講義
						E-3	2)3)			
						F-1	19)			
29				3	久部	D-7	4)(3)⑰(8)⑥⑦	腸腫瘍 1	小腸腫瘍、大腸ポリープ、大腸癌発癌遺伝子、癌抑制遺伝子、大腸癌の遺伝子異常	〃
30				4	〃	D-7	4)(3)⑧	腸腫瘍 2	その他の大腸腫瘍、消化管ポリポーシス・遺伝性非ポリポーシス	〃
31		13	火	1	長谷川	D-7	1)⑪4)(3)	大腸癌の外科治療	ポリポーシス、大腸癌の外科治療	〃
						E-3	1)2)4)5)⑦			
						F-1	20)～23)			
32				2	平井	D-7	4)(3)③	腸疾患 1	クローン病、潰瘍性大腸炎の診断、内科的治療、腸結核	〃
33		20	火	1	〃	D-7	4)(3)③⑤～⑦⑫⑬	腸疾患 2	感染性腸炎、虚血性腸炎、アミロイドーシス、薬剤起因性腸炎、放射線性腸炎、膠原病に伴う腸疾患、憩室症、過敏性腸症候群、偽膜性腸炎、腸潰瘍、好酸球性腸炎、直腸粘膜脱症候群	〃
34				2	高橋	D-7	4)(7)①	腹部損傷・異物	腹部外傷、消化管損傷、消化管異物、肝損傷、胆道損傷、膵損傷、脾損傷、後腹膜損傷	〃
						F-1	20)～23)			
35		26	月	1	島岡	D-7	4)(7)	横隔膜・腹膜・腹壁疾患	横隔膜ヘルニア、食道裂孔ヘルニア、尿膜管遺残、臍ヘルニア、鼠径ヘルニア、大腿ヘルニア、腹壁瘢痕ヘルニア	〃
36				2	高橋	D-7	4)(3①②⑩(7)①	急性腹症、腹膜炎、虫垂炎	癌性腹膜炎、横隔膜下・Douglas 窩膿瘍、腹膜偽粘液腫、後腹膜腫瘍、腸管軸捻転症、消化管穿孔、腸間膜動(静)脈血栓症	〃
						F-1	20)22)23)			
37				3	東	D-7	1)⑩⑪4)(3)③④	炎症性腸疾患の外科治療、直腸肛門疾患	クローン病、潰瘍性大腸炎、痔核、痔瘻、脱肛、肛門癌、肛門周囲潰瘍、裂肛、直腸脱	〃
						F-1	20)22)23)			
38				4	薦野	D-7	4)(3)②	イレウス、腸閉塞	原因と病態、診断、治療	〃
						F-1	20)21)23)			
39		27	火	1	船越	D-7	2)③	消化管造影検査	上部消化管造影、小腸造影、注腸造影検査法、適応、禁忌、前処置、画像診断	〃
						F-2	8)④	消化管疾患に使用される薬剤	鎮痙剤、抗潰瘍薬、抗炎症性腸疾患薬	

第３学年

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
40	9	27	火	2	船越	F-2	6)	内視鏡を用いた診断と治療	消化管内視鏡の原理、検査法、画像診断、治療	講義
41	10	3	月	1	小野	F-1	3)21)	症候・病態 悪心・嘔吐・食思不振	原因と病態、診断、治療	〃
42				2	芦塚	F-1	23)	症候・病態 便秘・下痢	〃	〃
43				3	八尾	F-1	22)	症候・病態 吐血・下血	原因と病態、診断、治療	〃
44				4	久能	D-7	4)(1)(2)	典型症例呈示（消化管）1	典型症例、臨床問題の解説	〃
45		17	月	1	〃	D-7	4)(3)	典型症例呈示（消化管）2	〃	〃
46				2	二村	D-7	2)⑤4)(8)①②	消化管疾患の病理－1	生検、病理診断、検体の取り扱い方、Barrett食道、食道炎、食道癌、急性胃炎と慢性胃炎、A型胃炎と胃カルチノイド腫瘍、消化性潰瘍	〃
						F-2	4)①			
47				3	〃	D-7	4)(8)③～⑦⑫	消化管疾患の病理－2	胃癌、肉眼型と組織型、スキルス癌、クルッケンベルグ腫瘍、腹膜播種、消化管リンパ腫、十二指腸・小腸癌(乳頭部癌を除く)、大腸癌、カルチノイド腫瘍、腺腫の自然史	〃
48				4	〃	D-7	4)(3)	消化管疾患の病理－3	炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)、腸結核、虚血性腸病変、憩室、アミロイド症、過誤腫、分離腫(異所症)、ポリポーシス、急性虫垂炎	〃
		31	月	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

病　理　学　各　論

Ⅰ．担当教員名

病　理　学	教　　授	濵　﨑　　慎	（科目責任者）
	〃	二　村　　聡	（筑紫病院）
	准　教　授	濵　田　義　浩	（病院病理部）
	〃	上　杉　憲　子	（副責任者）
	講　　師	原　岡　誠　司	（筑紫病院）
	〃	青　木　光希子	
	〃	古　賀　佳　織	
	助　　教	武　藤　礼　治	
	非常勤講師	竹　下　盛　重	（済生会八幡総合病院病理検査科部長）
	〃	加　藤　誠　也	（済生会福岡総合病院病理診断科主任部長）
	〃	青　木　茂　久	（佐賀大学医学部臨床病態病理学教授）
	〃	林　　博　之	（原三信病院病理診断科）
循環器内科	講　　師	末　松　保　憲	
腎臓・膠原病内科学	教　　授	升　谷　耕　介	
脳神経内科学	教　　授	坪　井　義　夫	
産科婦人科学	講　　師	伊　東　智　宏	

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．病理学総論で学習した病気の概要を、各臓器に置き換え、疾患をより深く説明できる。主要疾患に関しては、肉眼的、組織学的特徴を把握できる。各疾患の臨床像、検査データ、病理像の整合を行い、病気を幅広く説明できる。(A-1)

2．重要な病理学的用語の定義を正確に説明できる。肉眼・組織レベルの形態学を基盤として発展してきたが、最近では免疫組織化学、電子顕微鏡学、分子生物学などが導入され、細胞・遺伝子レベルで疾病の本態が習得できる。(A-2)

3．病気の原因と発病機構を理解し、病気によって生ずる組織の変化、その経過および転帰について学習できる。(A-3)

4．与えられたテーマの問題を展開し、また病理組織形態でも明確な判断ができる。(A-4)

講義項目

1　内分泌系臓器（脳下垂体、甲状腺、副甲状腺及び副腎）の病理
2　唾液腺、口腔の病理
3　食道、胃の病理
4　腸管・肛門（管）の病理
5　肝臓の病理
6　胆道系の病理
7　膵臓の病理
8　呼吸器の病理
9　心臓血管系の病理
10　骨髄、血液の病理
11　リンパ節の病理
12　脾、胸腺、網内系の病理

13　腎臓及び尿路系の病理　　14　男性生殖器の病理
15　女性生殖器の病理　　16　乳腺の病理
17　脳、神経の病理　　18　皮膚の病理
19　骨軟部疾患の病理

臨床科医より主な疾患の説明、疾患の統計的趨勢や話題の疾患等の説明がなされる所がある。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．内分泌系臓器の病理

１）下垂体ホルモンと各標的臓器及び feedback 機構を理解し、その障害時の臨床・病理的意義を説明できる。
２）副腎皮質ホルモンの種類とその機能亢進または低下により起こる疾患を説明できる。
３）下垂体及び副腎の腫瘍を大まかに整理し、その特徴を説明できる。
４）甲状腺機能亢進または低下症における甲状腺の形態的変化を説明できる。
５）甲状腺腫瘍の組織学的分類と進展様式の特徴を説明できる。

２－４．頭頸部疾患・消化管の病理

１）口腔内病変、鼻腔、咽頭領域の腫瘍性病変について大まかに説明できる。また、シェーグレン症候群の組織像を説明できる。
２）消化管疾患を病態（発生・機能異常、循環障害、炎症、代謝障害、腫瘍）ごとに体系的に説明できる。
３）各疾患の肉眼的、組織学的異常を症状や画像所見等と対比させながら大まかに説明できる。
４）各疾患の病因については、比較的明らかであるものとそうでないものとに分けて把握し、大まかに説明できる。
５）手術標本の病理診断で広く使用されている分類（早期癌、進行癌、ポリープ、消化性潰瘍）の概要を説明できる。
６）各疾患の病理学的な定義ならびに特徴的な所見を説明できる。

５－７．肝、胆、膵系の病理

１）肝、胆道、膵の解剖を説明できる。
２）肝硬変の出現機序、背景疾患とその病態を説明できる。
３）ウィルス性肝炎（A 型、B 型、C 型、D 型、E 型）の感染経路、発症機序及び肝硬変、肝癌との関係を説明できる。
４）胆嚢隆起性病変を概説できる。
５）胆嚢癌、胆管癌、膵癌の臨床病理所見の特徴を説明できる。
６）膵炎の種類とその病態を説明できる。
７）膵神経内分泌腫瘍を概説できる。

８．呼吸器の病理

１）肺の組織を理解し、病変の主座となる部位を説明できる。
２）死因に結びつく肺病変を説明できる。
３）肺硝子膜症、慢性閉塞性肺疾患、肺線維症等肺に特有な病変の概念を説明できる。
４）特徴的肺感染症の組織診断ができる。
５）代表的肺癌の組織診断ができ、治療、予後を述べることができる。

６）縦隔腫瘍、嚢胞性疾患を説明できる。

９．心臓血管系の病理

１）心臓・血管の解剖学組織学を説明できる。

２）心筋炎、心内膜炎等の形態と病的概念を説明できる。

３）冠動脈硬化症及び心筋梗塞、狭心症など虚血性心疾患の成因と形態を説明できる。

４）動脈硬化症の成り立ちやその部位的特徴、およびその組織像を理解し、その危険因子また致死的循環器疾患との因果関係を説明できる。

５）動脈解離、大動脈瘤の発生機序と形態を説明できる。

６）血管炎の概念、部位から特徴、組織像を説明できる。

10－12．造血器、リンパ系組織の病理

１）骨髄、リンパ節、脾、胸腺の肉眼及び組織学的特徴を述べることができる。

２）構成細胞の形態、機能を説明できる。

３）主要造血器疾患における病態と骨髄形態を述べることができる。

４）リンパ節炎の主なものについて組織像がわかる。肉芽腫性炎を説明できる。

５）悪性リンパ腫及び類似疾患を理解し、主な組織学的特徴を説明できる。
特にホジキン・非ホジキン（B、T 細胞性）リンパ腫の違い、成人 T 細胞性白血病 / リンパ腫（ATL/L）を説明できる。

６）胸腺リンパ球系腫瘍について述べることができる。

７）脾腫の原因となる疾患とその組織像を説明できる。

13、14．腎、泌尿器系の病理

１）各種原発性糸球体腎炎の発生機序とその分類や二次性腎炎との区別を説明できる。

２）糖尿病、アミロイド症など代謝性疾患の腎の病理を説明できる。

３）腎炎の組織像や特殊な用語の使い方を理解する。

４）血栓性微少血管症の組織を理解する。

５）腎、膀胱腫瘍の特徴を説明できる。

14－16．生殖器の病理

１）精巣腫瘍の臨床・病理所見および予後について説明できる。

２）前立腺肥大、前立腺癌の臨床病理像および Gleason 分類について説明できる。

３）子宮頸癌、体癌、異形成および子宮内膜増殖症の病因、病理像および臨床像を説明できる。

４）卵巣腫瘍の主なものの頻度、病理像および臨床像について説明できる。

５）妊娠に関係する臓器変化について説明できる。

６）乳腺の良性病変および腫瘍、とくに乳癌の病理学的特徴と臨床像について説明できる。

７）主要な性器疾患の病理組織診断ができる。

17．脳、神経の病理

１）神経細胞、グリア細胞の役割と、その相互機能を説明できる。

２）脳の炎症性疾患とその特徴。特にウイルス感染や slow virus infection について説明できる。

３）脳出血、脳血栓症、脳梗塞の種類と、各々の原因やその臨床病理所見について説明できる。

４）頭蓋内圧亢進症の原因とその形態的変化（脳ヘルニア）について説明できる。

５）脳腫瘍の種類とその特徴について説明できる。

６）脱髄疾患、脳血管病変、変性疾患の特徴について説明できる。

18．皮膚科疾患の病理

１）正常構造、病的所見を説明できる。

２）乾癬、天疱瘡、類天疱瘡、尋常性疣贅、脂漏性角化症を説明できる。

３）Bowen 病、扁平上皮癌、Paget 病、基底細胞癌、悪性黒色腫、血管肉腫、菌状息肉症を説明できる。

19．骨軟部疾患の病理

１）骨肉腫を概説できる。

２）骨肉腫以外の骨腫瘍を列挙できる。

３）関節炎（関節リウマチ、痛風・痛風性関節炎）を概説できる。

４）代表的な軟部腫瘍を列挙できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

講義：１．教科書を中心に進める

２．学習の理解のため、講義資料や病理の図譜を用いる

３．講義内容に不明な点がある場合は、担当教官に質問を行い理解する。

実習：１．代表的病変について実際提示された組織標本を観察し、疾患と組織形態を理解する。スケッチの提出やレポートについては、担当医が指示に従う。

院内解剖症例の臨床病理カンファレンス（Clinicopathological conference, CPC）への参加：

１．4月より12月までに火曜日、PM5：30より臨床大講堂横カンファレンス室で行われる CPC に参加。

２．10～15人を１つの班とする。参加は１回のみで、白衣着用を必須とする。

３．レポート（患者の概要、剖検診断、死因、調べた内容、感想）を記述し、次週の木曜日までに病理学教室に提出する。本実習は点数化し各論後半テストに加算する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

講義：１．提出されている講義資料をよみ、わからないことは教科書などで調べておく（30分）

実習：１．事前に正常組織像を理解する。(30分)
提示されている疾患について教科書や図譜などで調べておく（30分）

CPC：１．疾患概要は、前の週に配布するので疾患について臨床所見や組織障害などについて予習する。(30分)

【復習】

講義：１．講義中のわからなかったことは教科書などで確認する。病理組織については特に図譜を参考し、理解に務める（30分）

実習：１．実習で確認した組織の病理所見をもう一度図譜などで確認しする（30分）

CPC：１．教科書で、疾患の概念、臨床所見、病理所見などを復習する（30分）

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

出席（講義、実習とも2/3以上の出席が必須)、筆記試験、実習スケッチやレポート、CPC レポート。各論は範囲が広いため、前半、後半にわけて試験を行う。前半、後半のいずれかが60点未満の場合、各論不合格とする。再試は不合格の分のみ受験する。

Ⅵ. 教科書（必須）

Vinay Kumar 豊國伸哉監訳：ロビンス基礎病理学原書10版エルゼビア・ジャパン丸善出版2018

Ⅶ. 参考書・文献

1．小田義直　編集：組織病理アトラス　第6版　文光堂　2015

2．R. ルービン　鈴木利光　監訳：カラールービン病理学　改訂版　西村書店　2017

3．北川昌伸　編集：標準病理学　第6版　医学書院　2019

4．Barbara Young　後藤　薫　監訳：ウィーター図説で学ぶ機能組織学　原著第6版　エルゼビア・ジャパン　2018

5．Victor P. Eroschenko 相磯貞和訳：Di Fiore 人体組織図譜原著第 II 版南江堂2011

6．深山正久編集：病理組織マップ＆ガイド文光堂2014

7．D. S. Strayer：Rubin’s Pathology　8th ed.　Wolters Kluwer　2020

8．V. Kumar：Robbins basic pathology　10th ed.　Elsevier　2018

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	6	7	火	1	青木光	D-12	4)	内分泌疾患(1)	下垂体、副腎疾患	講義
2				2	古賀	〃	〃	内分泌疾患(2)	甲状腺疾患、他	〃
3		10	金	1	非常勤講師 青木	〃	4) (6)	内分泌疾患(3)	特別講義 (脂肪代謝と生活習慣病)	〃
4				2	〃	〃	〃	内分泌疾患(4)	〃	〃
5		14	火	1	青木光・古賀	D-12	4)	内分泌疾患(5)	内分泌疾患実習	実習
				2	（予備）					
6		17	金	1	二村	D-7	1)	消化管 (1)	消化管の基本構造	講義
7				2	〃	〃	4) (1)～(3)	消化管(2)・頭頸部	炎症、良性腫瘍、悪性腫瘍、喫煙・飲酒関連疾患群、多重癌	〃
8		21	火	1	〃	〃	〃	上部消化管(食道)の病理(3)	循環障害、炎症・感染症、食道癌	〃
9				2	〃	〃	〃	上部消化管(胃)の病理(4)	急性胃炎、慢性胃炎、腺腫、胃癌、カルチノイド腫瘍、GIST、MALT リンパ腫	〃
10		24	金	1	原岡	〃	1) ①～③	下部消化管(腸炎)の病理(5)	虚血性病変、腸結核、Crohn 病、潰瘍性大腸炎	〃
11				2	〃	〃	〃	下部消化管(腸腫瘍)の病理(6)	ポリポーシス、腺腫、腺腫症、大腸癌、カルチノイド腫瘍	〃
12	8	22	月	1	二村	〃	〃	消化管の病理(7)	炎症性腸疾患､消化管原発性腫瘍	実習
13				2	〃	〃	〃	消化管の病理(8)	〃	〃
14		23	火	1	濵田	〃	1) ④～⑦	肝、胆、膵疾患の病理(1)	急性肝炎、慢性肝炎、劇症肝炎の病理	講義
15				2	〃	〃	〃	肝、胆、膵疾患の病理(2)	肝硬変、門脈圧亢進症、肝代謝異常、肝腫瘍	〃
16				3	濵﨑	D-6	4) (1)～(7)	呼吸器病学(1)	細菌性肺炎、肺結核、肺真菌症、肺気腫、気管支喘息、他	〃
17				4	末松	D-5	4) (1)～(3)	心筋梗塞、狭心症、動脈硬化(1)	心臓・血管病、イベント発症、心臓病リスク	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
18	8	25	木	3	上杉	D-5	4) (4)〜(11)	循環器病学(2)	動脈硬化の合併症、大動脈瘤と解離、マルファン症候群、川崎病	講義
19				4	〃	〃	4) (4)〜(11)	循環器病学(3)	虚血性心疾患、心内膜炎	〃
20		26	金	1	濵田	D-7	1) ④〜⑦	肝、胆、膵疾患の病理(3)	胆嚢炎、胆石症、胆管系の形成不全	〃
21				2	〃	〃	〃	肝、胆、膵疾患の病理(4)	胆道癌、胆嚢ポリープ、膵炎、膵腫瘍	〃
22		29	月	1	濵﨑	D-6	4) (1)〜(7)	呼吸器病学(2)	好酸球性肺炎、過敏性肺臓炎、サルコイドーシス、肺血栓塞栓症、他	〃
23				2	〃	〃	〃	呼吸器病学(3)	間質性肺炎(特発性、膠原病、薬剤)、放射線肺臓炎、じん肺	〃
24	9	1	木	3	非常勤講師 加藤	〃	〃	循環器病学(4)	特別講義 (心筋症、心筋炎の病理)	〃
				4	(予備)					
25		2	金	1	濵田・上杉	D-7	1) ④〜⑦	肝、胆、膵疾患の病理(5)	実習	実習
26				2	〃	〃	〃	肝、胆、膵疾患の病理(6)	〃	〃
27		8	木	3	濵﨑	D-6	4) (1)〜(7)	呼吸器病学(4)	肺癌、肺良性腫瘍、胸膜中皮腫	講義
28				4	濵﨑・武藤	〃	〃	呼吸器病学(5)	実習(呼吸器)	実習
29		9	金	1	上杉	D-5	4) (4)〜(11)	循環器病学(5)	血管炎、非動脈硬化性血管障害	講義
30				2	上杉・青木光	〃	〃	循環器病学(6)	実習(循環器疾患)	実習
31		15	木	3	濵﨑	D-6	4)(8)	縦隔の病理	炎症・嚢胞・腫瘍など	講義
32				4	濵﨑・古賀	〃	〃	呼吸器病学＋縦隔	実習(呼吸器＋縦隔)	実習
33		16	金	1	伊東	D-9	1)2)	産婦人科の臨床と病理(1)	子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、婦人科炎症性疾患・感染症	講義
34				2	武藤	〃	3)	女性生殖器の病理(外陰、子宮頸部、子宮体部)(2)	外陰・膣の感染症と腫瘍、子宮頸癌、異形成(上皮内腫瘍)、子宮筋腫、子宮内膜症、子宮内膜過形成	〃
35		22	木	3	〃	〃	〃	女性生殖器の病理(外陰、子宮頸部、子宮体部)(3)	子宮体部腫瘍、絨毛性腫瘍(胞状奇胎、絨毛癌)	〃
36				4	〃	〃	〃	女性生殖器の病理(絨毛性疾患、卵巣腫瘍)(4)	絨毛性腫瘍(胞状奇胎、絨毛癌)、卵巣腫瘍(漿液性腫瘍、粘液性腫瘍、奇形腫、未分化胚細胞腫瘍、卵黄嚢腫瘍、卵巣間質腫瘍)	〃
		29	木	3	(予備)					
				4	〃					

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
	9	30	金	1	中間試験			前半分の試験	試験範囲 6/7 内分泌系臓器の基本構造 ～ 9/15 呼吸器病学＋縦隔まで	
				2	〃			〃		
				3	〃			〃		
				4	〃			〃		
37	10	6	木	3	升谷	D-8	4 (1)～(6)	内科からみる腎臓病(1)腎病理(1)	腎移植	講義
38				4	上杉	D-8	4) (1)～(6)	腎病理(1)	糸球体、尿細管の正常組織と機能、糸球体障害の発症機序	〃
39		7	金	1	〃	〃	〃	腎病理(2)	糸球体炎組織(メサンギウム・管内・管外増殖、半月体、フィブリノイド壊死)	〃
40				2	〃	〃	4)(4)	腎病理(3)	腎炎で用いられる特殊用語　間質性腎炎，血管病変	〃
41		14	金	1	上杉・青木光	〃	1)～3)	腎病理実習(4)	実習	実習
42				2	武藤・古賀	D-9	3)	女性生殖器の病理の実習(5)	〃	〃
43	11	7	月	1	非常勤講師 竹下	D-1	1)	造血器疾患(1)	骨髄組織、骨髄微小環境、幹細胞、血球分化	講義
44				2	〃	〃	〃	白血球系疾患病理(2)	骨髄異形成症候群、白血病、骨髄増殖症候群、多発性骨髄腫	〃
45		14	月	1	〃	〃	〃	赤血球、血小板疾患(3)	貧血、血小板疾患	〃
46				2	非常勤講師 竹下 武藤	〃	〃	白血球系疾患病理(4)	骨髄異形成症候群、白血病、骨髄増殖症候群、多発性骨髄腫	実習
47		21	月	1	非常勤講師 竹下	〃	4)(4)	リンパ節、胸腺、脾臓病理(1)	リンパ節、網内系組織の構造と機能、リンパ節炎、悪性(ホジキン、非ホジキン)リンパ腫	講義
48				2	〃	〃	〃	リンパ節、胸腺、脾臓病理(2)	悪性リンパ腫、免疫異常、脾腫をきたす疾患	〃
49		25	金	1	非常勤講師 竹下 武藤	〃	〃	リンパ節、胸腺、脾臓病理(3)	実習	実習
50				2	青木光	D-11	1)～4)	乳腺の病理(1)	乳腺組織のみかた、乳腺症、線維腺腫、乳癌	講義
51		28	月	1	非常勤講師 林	D-8	4(4)， (7)～(9)	腎腫瘍、膀胱疾患腫瘍(1)	腎腫瘍、腎盂、尿管腫瘍、膀胱腫瘍	〃
52				2	非常勤講師 林 上杉	〃	〃	腎腫瘍、膀胱疾患腫瘍(2)	実習　(腎腫瘍、膀胱腫瘍)	実習
53	12	2	金	1	青木光	D-11	1)～4)	乳腺の病理(2)	実習(乳腺症、線維腺腫、乳癌)	〃
54				2	〃	D-2	4)	脳、神経病理(1)	脳組織の見方、感染症、脱髄疾患	講義
55		5	月	1	〃	〃	〃	脳、神経病理(2)	変性疾患、脳血管障害	〃
56				2	坪井	〃	1)～3)	神経疾患の病態(3)	神経変性疾患	〃
57		9	金	1	非常勤講師 林	D-9	3)	男性生殖器(1)	男性器の不妊症、炎症、精巣腫瘍、前立腺癌と肥大症	〃
58				2	非常勤講師 林 濵田	〃	〃	男性生殖器(2)	実習	実習
59		12	月	1	青木光	D-2	4)	脳、神経病理(4)	脳腫瘍	講義

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
60	12	12	月	2	青木光・古賀	D-2	4)	脳、神経病理(5)	実習(感染症、脱髄疾患、脳血管病変、変性疾患、脳腫瘍)	実習
61		16	金	1	古賀	D-3	〃	皮膚疾患(1)	皮膚組織のみかた、炎症性皮膚疾患、皮膚腫瘍	講義
62				2	古賀・濵田	〃	〃	皮膚疾患(2)	実習(皮膚組織のみかた、炎症性皮膚疾患、皮膚腫瘍)	実習
		19	月	1	(予備)					
63				2	古賀	D-4	4)	骨軟部疾患	骨腫瘍、軟部腫瘍、痛風、関節リウマチ	講義
		23	金	1	(予備)					
				2	〃					
		26	月	2	〃					
	1	25	水	1	試験			後半分の試験	試験範囲 9/16 産婦人科の臨床と病理(1)～12/19骨軟部疾患までの内容	
				2	〃			〃		
				3	〃			〃		
				4	〃			〃		

行　動　科　学　Ⅱ

Ⅰ．担当教員名

医学教育推進講座	教　　授	安　元　佐　和	（科目責任者）
	准　教　授	八　尋　英　二	（副責任者・実務責任者）
	講　　師	武　岡　宏　明	
薬　理　学	教　　授	岩　本　隆　宏	（主担任）
消化器外科学	教　　授	長谷川　　傑	（主副担任）
細胞生物学	講　　師	小　柳　　緑	（副担任）
生　化　学	講　　師	白　須　直　人	（　〃　）
薬　理　学	准　教　授	根　本　隆　行	（　〃　）
	講　　師	喜　多　　知	（　〃　）
病　理　学	講　　師	青　木　光希子	（　〃　）
微生物・免疫学	講　　師	石　井　一　成	（　〃　）
再生・移植医学	准　教　授	坂　田　直　昭	（　〃　）
法　医　学	准　教　授	柏　木　正　之	（　〃　）
看　護　部	教育担当師長	中　村　悦　子	

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．地域医療の現況と課題を説明できる。(A-1)
2．患者中心のチーム医療、多種連携について説明できる。(A-2)
3．臨床実習前に身につけておくべき自己の課題を明確にする。(A-3)
4．第一線の地域医療機関における実習を通じて、医師のプロフェッショナリズムを理解する。(A-4)
5．医師としての基本的態度を身につける。(B-1)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．指導医と行動をともにしながら患者の心理や立場を理解できる。
2．指導医の医療に対する哲学や信念を感じ取ることができる。
3．地域医療の現状と課題について説明できる。
4．医師としての必要な態度について説明できる。
5．医療チームを構成する多職種を知り、各々の役割を説明できる。
6．クリニカルクラークシップ（C.C）を見学し、臨床実習前に身につけておくべき自己目標を設定できる。
7．看護実習を通して患者中心のチーム医療について自分の考えを述べることができる。
8．受け持ち患者のバイタルサインを測定できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

1．実習は小グループに分かれて学外の受け入れ医療機関で行う。
2．実習では時間を厳守し、服装・身だしなみを正し、福大医学生としての品位を保つ。
3．実習先への移動には公共交通機関を利用する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．実習受け入れ医療機関の場所や、行われてる医療の特徴を事前に調べ、何を見学したいのかを考えて参加する。（実習の医療機関は５月下旬までに決定し、各自に知らせる）（30分）

【復習】

１．実習でポートフォリオを作成し、体験したことをグループ毎に PowerPoint を使用して発表する。（60分）

２．実習での体験をもとに、自己の将来像の設定に役立てる。（60分）

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

１．提出されたポートフォリオで自己のふり返りを行い、実習先医療機関の指導医及び教員が評価する。

２．病棟での360°評価を実施する。

３．オリエンテーション・実習・グループワーク・課題発表の全てに参加すること。

４．ポートフォリオと発表をもとに、目標の達成度を評価する。

実習上の諸注意

１．実習態度

１）病院は、患者の療養、生活の場であることを理解して行動する。

２）医学科の学生であることを自覚し、節度ある謙虚で真摯な態度をとる。

３）５分前行動を厳守する。

４）欠席、遅刻はしない。（欠席・遅刻する場合は、医学部事務課に連絡する）

５）実習の開始・終了時は、スタッフに挨拶をする。

６）私語や私的な行動を慎み、学生間では、姓名を呼ぶ。

７）実習で関わる人々に対して、状況に応じた挨拶、言葉遣いを心がける。

８）病院内の移動は、原則として、エレベーターを使用しない。

９）医療器具や患者の物品を破損させたり等、トラブルが発生した際は、すみやかにスタッフに報告する。

２．服装・身だしなみ・携帯品

１）ケーシー白衣・黒のスラックス（スカートやジーンズ、足首が見える丈のものは禁止）・名札を着用する。

２）白の無地のＴシャツ（色柄禁止）を着用し、ケーシー白衣はアイロンをかけ、しわのないようにする。

３）靴は清潔で音の出ない黒の無地のスニーカー（ハイカット・サンダル・クロックス・革靴禁止）を選ぶ。

４）髪型、髪の色などにも配慮し、長髪は束ねる。（茶髪禁止）

５）化粧は華美にしない。（つけまつげ禁止）

６）爪は切り、ネイルマニキュアはしない。

７）指輪、アクセサリーはつけない。

８）香水・整髪料など匂いの強いものは避ける。

９）ヒゲはきちんと剃る。

３．個人情報の取り扱い

１）患者に関する個人情報・実習中に知り得た情報は一切口外しない。

２）実習中にとったメモなどは、置き忘れや紛失がないようにする。（患者情報はメモをとらない）

４．その他

１）病院内では、携帯電話は使用しない。病棟内に持ち込まない。

２）病院内・敷地内では、全ての場所で禁煙を厳守する。

３）規則正しい食生活と十分な睡眠を心がけ体調を整える。体調不良時は、すみやかに報告する。

４）ロッカーの借用については、前日までに医学部事務課で手続きを行うこと。

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	場所
1	7	11	月	1	安元 八尋・武岡	A-1 A-3 G-4	3) 1) 3)	事前準備 (受け入れ施設との連絡等)	PC教室
2				2	〃	〃	〃	〃	〃
3				3	〃	〃	〃	〃	〃
4				4	〃	〃	〃	〃	〃
5		12	火	1	学外施設 指導医	〃	〃	地域医療体験	学外実習施設
6				2	〃	〃	〃	〃	〃
7				3	〃	〃	〃	〃	〃
8				4	〃	〃	〃	〃	〃
9		13	水	1	〃	〃	〃	〃	〃
10				2	〃	〃	〃	〃	〃
11				3	〃	〃	〃	〃	〃
12				4	〃	〃	〃	〃	〃
13		14	木	1	〃	〃	〃	〃	〃
14				2	〃	〃	〃	〃	〃
15				3	〃	〃	〃	〃	〃
16				4	〃	〃	〃	〃	〃
17		15	金	1	〃	〃	〃	ポートフォリオ・発表資料作成	基礎第２講義室　等
18				2	〃	〃	〃	〃	〃
19				3	〃	〃	〃	〃	〃
20				4	〃	〃	〃	〃	〃
21		19	火	1	安元 八尋・武岡	A-4	1)2)	看護実習前オリエンテーション	基礎第２講義室　等
22				2	〃	〃	〃	〃	〃
23				3	〃	〃	〃	〃	〃
24				4	〃	〃	〃	〃	〃
25		20	水	1	安元・中村	A-4	1)2)	患者対応実習(1)	各病棟
26				2	看護部	〃	〃	患者対応実習(2)	〃
27				3	〃	F-2	11)	患者対応実習(3)	〃
28				4	〃	〃	〃	患者対応実習(4)	〃
29		21	木	1	安元 八尋・武岡	G-1	1)	C.C体験	〃
30				2	〃	〃	〃	〃	〃
31				3	〃	〃	〃	〃	〃
32				4	〃	〃	〃	〃	〃
33		22	金	1	安元・八尋 武岡・担任	A-2	2)	まとめ	基礎第２講義室　等
34				2	〃	〃	〃	〃	〃
35				3	〃	〃	〃	発表	〃
36				4	〃	〃	〃	〃	〃

呼　吸　器　病　学

Ⅰ．担当教員名

呼吸器内科学	教　　授	藤　田　昌　樹（科目責任者）
	〃	石　井　　寛（筑紫病院）
	准　教　授	井　上　博　之
	〃	濵　田　直　樹
	〃	串　間　尚　子（筑紫病院　感染制御部）
	講　　師	海　老　規　之
	〃	赤　木　隆　紀（西新病院）
	助　　教	佐々木　朝　矢
	〃	井　形　文　保
	非常勤講師	福　山　　聡（九州大学病院呼吸器科講師）
衛生・公衆衛生学	准　教　授	吉　村　　力
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	教　　授	佐　藤　寿　彦（副責任者）
	講　　師	宮　原　　聡
	〃	早稲田　龍　一
	助　　教	上　田　雄一郎

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

臨床医学における呼吸器病学の意義について理解し、呼吸器病学の基本的事項を系統的に学ぶ。

１．呼吸器疾患の疫学、予防、発症要因と臨床像を総合的に習得する。(A-1)

２．呼吸器疾患診療における最新の知識を習得する。(A-2)

３．呼吸器疾患診療における現在の限界について理解する。(A-3)

４．呼吸器疾患診療における最新情報を国際的に発信する方法を習得する。(A-3)

５．呼吸器疾患の内科的、外科的治療と管理の要点を理解する。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．呼吸器疾患の症候と病態生理の説明ができる。

２．呼吸器疾患の胸部Ｘ線写真やCTなどの画像所見の説明ができる。

３．臨床呼吸生理学の概要を理解し、個々の呼吸器疾患の呼吸機能障害についての説明ができる。

４．呼吸器疾患の内科的、外科的治療法、救急処置について理解し、適切な対策の説明ができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．呼吸器病学の各論をプリントやスライド動画などを用いて内科と外科が協力して講義を行う。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．「呼吸器病学2022」を事前に読み、次回の講義を予習すること。(30分)

【復習】

１．「呼吸器病学の2022」、講義プリント、moodle または FU–box にアップロードされた資料を用い、本日の講義の振り返りと必要事項の復習すること。(30分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

論述試験および客観試験：全ての講義が終了した後に行う論述式と多肢選択方式を組み合わせた試験。

Ⅵ．**教科書**

１．新臨床内科学　第10版　医学書院　2020

２．北野正剛・坂井義治・田邉　稔・池田徳彦・大木隆生　編：標準外科学　第16版　医学書院　2020

３．南学正臣　編：内科学書　改訂第９版　中山書店　2019

４．杉本恒明・矢崎義雄　編：内科学　第11版　朝倉書店　2017

５．門脇　孝・永井良三　編：カラー版　内科学　西村書店　2012

６．金澤一郎・北原光夫・山口　徹・小俣政男　編：内科学　医学書院　2006

Ⅶ．**参考書・文献**

１．日本肺癌学会　編：肺癌取扱い規約　第８版（補訂版）　2021

２．金澤　實・永田　真・前野敏孝　編：呼吸器病学　丸善出版　2012

３．正岡　昭　著：呼吸器外科学　改訂４版　南山堂　2009

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	24	水	1	石井	D-6	1)①～③	呼吸器の解剖	肺の肉眼的・顕微鏡的解剖	講義
2				2	〃	G-2	13)	慢性咳嗽	咳・痰	〃
3		26	金	3	藤田	D-6	3)	呼吸器病学概論	概説、病歴、症候学	〃
4				4	〃	D-6	2)	検査１	気管支鏡、喀痰、胸水検査、血液生化学免疫学的検査	〃
5		31	水	1	早稲田	D-6	4)(8)④	検査２、手技	胸腔鏡、縦隔鏡、胸腔ドレナージ、気道インターベンション、ステント挿入術、術前・術後管理と外科手技	〃
6				2	井形	D-6	2)① 4)(7)②	胸部画像および無気肺	胸部画像および無気肺	〃
7	9	2	金	3	藤田	D-6	4)(2)③④	呼吸器感染症１	肺結核症、非結核性抗酸菌症	〃
8				4	〃	D-6	1)⑩ 4)(2)②	呼吸器感染症２	細菌性肺炎、ガイドライン	〃
9		7	水	1	宮原	D-6	4)(8)①②④(9)④	胸膜疾患	気胸、血胸、膿胸、癌性胸膜炎、中皮腫、他	〃
10				2	〃	D-6	4)(8)③(9)③	頸部、縦隔、横隔膜疾患	頸部気管腫瘍、縦隔腫瘍、横隔膜ヘルニア、胸部外傷、気道異物、他	〃
11		9	金	3	藤田	D-6	4)(2)①②	呼吸器感染症３	ウィルス肺炎、非定型肺炎、肺真菌症、寄生虫疾患、他	〃
12				4	〃	D-6	4)(2)⑤～⑦	呼吸器感染症４	高齢者肺炎と誤嚥性肺炎、膿胸、肺炎球菌ワクチン	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
13	9	14	水	1	佐藤	D-6	4)(9)①	肺腫瘍 1	原発性肺癌	講義
14				2	上田	D-6	4)(9)②③	肺腫瘍 2	転移性肺腫瘍、良性肺腫瘍	〃
15		16	金	3	藤田	D-6	4)(3)①②	ＣＯＰＤ 1	慢性閉塞性肺疾患	〃
16				4	〃	D-6	4)(3)①②	ＣＯＰＤ 2	慢性閉塞性肺疾患	〃
17		21	水	1	佐々木	D-6	4)(3)①③	気管支喘息 1	気管支喘息	〃
18				2	〃	D-6	4)(5)①③	気管支喘息 2	アレルギー性肺疾患の基礎	〃
19		28	水	1	濵田	D-6	4)(3)④⑤⑥⑦(5)①②④	間質性肺疾患、その他	間質性肺疾患、職業性肺疾患	〃
20				2	井上	A-8 B-3	1) 1)	基礎・臨床研究概説	科学的探究、医学研究と倫理	〃
21	10	5	水	1	非常勤講師 福山	D-6	1)④⑤	呼吸機能 1	概説、換気機能(スパイロメトリーなど)、肺気量分画	〃
22				2	〃	D-6	1)⑥⑦⑨	呼吸機能 2	ガス交換、動脈血ガスと呼吸調節	〃
23		7	金	3	海老	D-6	4)(9)①	肺癌の集学的治療	薬物療法、放射線治療	〃
24				4	井上	D-6	4)(9)①	肺癌の支持療法	緩和医療、ターミナルケア	〃
25		12	水	1	吉村	D-6	1)⑤	睡眠調整障害、他	睡眠時無呼吸症候群、低換気、過換気症候群	〃
26				2	串間	B-1	5)⑤	禁煙	喫煙の功罪と禁煙の方法	〃
27		14	金	3	藤田	D-6	4)(4)①②③④	肺循環、その他	肺循環障害、ＡＲＤＳ、呼吸不全	〃
28				4	赤木	F-3	1)2)4)5)	一般病院での呼吸器診療	呼吸器診療実践(呼吸器外来疾患)	〃
		27	木	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

眼　　科　　学

Ⅰ．担当教員名

眼　科　学	教　　授	内　尾　英　一	（科目責任者）
	准　教　授	久　冨　智　朗	（筑紫病院）
	〃	尾　﨑　弘　明	（副責任者）
	講　　師	髙　橋　理　恵	
	助　　教	川　村　朋　子	
	〃	原　田　一　宏	
	〃	上　野　智　弘	
	〃	小　林　彩　加	
	〃	海　津　嘉　弘	（筑紫病院）
	非常勤講師	近　藤　寛　之	（産業医科大学　教授）
	〃	園　田　康　平	（九州大学　教授）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

１．視器に対する生理的、解剖的、臨床的、検査法を理解する。（A-1）
２．最近行われている治療、検査も含めて眼科の診断学、治療学を理解する。（A-2）
３．神経疾患やその他全身疾患など他科領域との関連について考え、理解をする。（A-3）
４．画像所見等についても知識、理解に努める。（A-4）

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．視器とその付属器の構造と役割を理解し、説明することができる。
２．視器、特に眼球の発生と先天異常の関係を理解し説明することができる。
３．明視を得るための種々の生理的機能（調節、屈折など）を理解し説明することができる。
４．視覚について静的、動的な三次元視力を理解し説明することができる。
５．視器に対する生理的、解剖的、臨床的、検査法を理解し説明することができる。
６．視器および付属器の疾患を各部位別、組織的に理解し説明することができる。
７．それぞれの疾患を中心に各組織にまたがっておよぼす影響を関連づける。
８．全身疾患における眼症状のその価値治療について説明することができる。
９．視器の疾患と他科領域との関係を説明することができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．配布する講義テキストに沿って講義を行う。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．各講義、配布テキストや教科書により授業範囲を事前に予習し、授業内容を理解しておく。（30分）

【復習】

１．授業後は配布テキストを中心に要点を復習し、眼科疾患に対する理解を深める。（30分）

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

多枝選択試験による。

Ⅵ．教科書

講義プリントを冊子として配布

標準眼科学　第14版　医学書院

現代の眼科学　第13版　金原出版

Ⅶ．参考書・文献

眼科診療プラクティス　文光堂

眼科学　第3版　文光堂

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	24	水	3	内尾	D-13	1)	眼科学総論	眼球、構造、発生、症候学	講義
2				4	〃	D-13	1)	外眼部疾患	眼瞼、涙器、涙液、眼窩	〃
3		25	木	1	原田	D-13	2)	眼科検査法Ⅰ	視力、ランドルト環、マリオット盲点、屈折、網膜電図、眼位、眼球運動、両眼視、眼圧検査、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査	〃
4				2	〃	D-13	1)	眼光学、光覚、色覚	調節、光覚、色覚、暗順応	〃
5		31	水	3	非常勤講師 近藤	D-13	4)(1)①	小児眼科Ⅰ	小児眼疾患(後眼部)	〃
6				4	久冨	D-13	3)①	眼底疾患(黄斑部疾患)	黄斑部疾患	〃
7	9	1	木	1	上野	D-13	2)	眼科検査法Ⅱ	視力、ランドルト環、マリオット盲点、屈折、網膜電図、眼位、眼球運動、両眼視、眼圧検査、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査	〃
8				2	非常勤講師 園田	D-13	4)(1)⑦	ぶどう膜疾患	ぶどう膜炎、ぶどう膜腫瘍、眼内炎	〃
9		8	木	1	髙橋	D-13	4)(1)①	斜視、弱視	外斜視、内斜視、上下斜視、弱視	〃
10				2	内尾	D-13	4)(1)②	角膜疾患	感染症、角膜潰瘍、角膜混濁	〃
11		15	木	1	尾﨑	D-13	4)(1)④	緑内障	原発性開放隅角緑内障、原発性閉塞隅角緑内障、続発緑内障、先天緑内障、ステロイド緑内障	〃
12				2	川村	D-13	4)(1)③	水晶体疾患	構造と生理、検査法、白内障、水晶体偏位、手術療法	〃
13		22	木	1	尾﨑	D-13	4)(1)⑥⑧	眼底疾患(糖尿病網膜症)	眼底出血、糖尿病網膜症	〃
14				2	〃	D-13	4)(1)⑨	眼外傷	穿孔性眼外傷、鈍的外傷、薬物化傷、黄斑円孔、鋸状縁断裂	〃
15		29	木	1	髙橋	D-13	3)(1)	小児眼科Ⅱ	小児の眼の特性、小児眼疾患(前眼部)	〃
16				2	海津	D-13	4)(2)	眼腫瘍	眼瞼腫瘍、眼内腫瘍、眼窩腫瘍	〃
17	10	6	木	1	尾﨑	D-13	4)(1)⑧	視神経疾患、神経眼科	視神経炎、うっ血乳頭、瞳孔異常、眼筋麻痺、視野異常	〃

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
18	10	6	木	2	内尾	D-13	4)(1)②	角膜移植、結膜疾患	角膜移植、結膜炎、アレルギー、ウイルス	講義
19		13	木	1	上野	D-13	4(1)⑤⑩	眼底疾患(網膜血管疾患、変性疾患)	静脈閉塞症、網膜色素変性症、網膜剥離、増殖硝子体網膜症	〃
20				2	小林	D-13	4)(1)	全身疾患と眼	高血圧、糖尿病、腎疾患、ウイルス性疾患、内分泌・血液疾患、膠原病、他	〃
				3						自習
				4						〃
		25	火	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

感　染　症　学

Ⅰ．担当教員名

感染制御部	教　　授	髙　田　　徹（科目責任者）
	准 教 授	戸　川　　温
	非常勤講師	下　野　信　行（九州大学病院総合診療科）
総合診療部	教　　授	鍋　島　茂　樹

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．主要な感染症の臨床、病因（病原微生物）、病歴・身体所見、診断（検査）と治療（病原微生物や感染臓器と治療薬との関係性）、社会医学（感染制御、疫学、予防）等の知識を習得し、診療に応用できる。(A-1)

2．‘コンピテンシー’の項目に記載されている感染症関連の最新の医学情報を収集し、批判的に評価し、正しく応用できる。(A-2)

3．‘コンピテンシー’の項目に記載されている感染症関連の未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組むことができる。(A-3)

4．感染症学に関する自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

【病因、病態生理】

1．敗血症の症候と診断と治療を説明できる。

2．市中感染症と院内（病院）感染症を説明できる。

3．医療器具関連感染症（血管留置カテーテル、尿道カテーテル、人工呼吸器）、術後感染症、手術部位感染症、を説明できる。

4．薬剤耐性（antimicrobial resistance ＜ AMR ＞）、菌交代現象・菌交代症、薬剤耐性菌（Methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* ＜ MRSA ＞、バンコマイシン耐性腸球菌（vancomycin-resistant Enterococci ＜ VRE ＞）、基質特異性拡張型β ラクタマーゼ（extended spectrum beta-lactamase ＜ ESBL ＞）産生 Gram 陰性桿菌、多剤耐性アシネトバクター属菌、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌等）を概説できる。

5．コロナイゼーションと感染症発症の違いを説明できる。

6．コンプロマイズドホストと日和見感染症を説明できる。

7．院内感染

1）標準予防策（standard precautions）、感染経路別予防策（飛沫感染予防策、接触感染予防策や空気感染予防策等）が必要となる病原微生物を説明できる。

2）患者から医療従事者への病原微生物曝露を防ぐための個人防護具、予防接種等を概説できる。

3）医療従事者の体液曝露後の感染予防策を概説できる。

8．ワンヘルス、新興・再興感染症、人獣共通感染症を説明できる。

9．菌血症の病態、診断、治療について説明できる。

10．発熱性好中球減少症の病態、診断、治療について説明できる。

11. 感染性心内膜炎の病態、診断、治療について説明できる。
12. 急性気道感染症の病態、診断、治療について説明できる。
13. 深部頭頸部感染症の病態、診断、治療について説明できる。
14. 皮膚軟部組織感染症の病態、診断、治療について説明できる。
15. 骨関節感染症の病態、診断、治療について説明できる。
16. 感染性下痢症の病態、診断、治療について説明できる。
17. 性感染症の病態、診断、治療について説明できる。
18. 腹腔内感染症（腹膜炎、腹腔内膿瘍、肝膿瘍、胆嚢炎、胆管炎）の病態、診断、治療について説明できる。
19. 尿路感染症（急性腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、前立腺炎、精巣上体炎）の病態、診断、治療について説明できる。
20. 中枢神経感染症（髄膜炎、脳炎）の病態、診断、治療について説明できる。

【診断・検査・治療の基本】

１．各病原微生物、各感染臓器の診断の手がかりとなる病歴と身体所見を説明できる。
２．ウイルス感染症診断における抗原検査、核酸増幅検査、血清抗体検査を説明できる。
３．細菌感染症診断における直接塗抹、Gram 染色、培養検査、抗原検査、核酸増幅検査、毒素検出検査、血清抗体検査を説明できる。
４．真菌感染症における直接塗抹、培養検査、核酸増幅検査を説明できる。
５．病原微生物及び感染臓器ごとの適切な抗微生物薬を説明できる。
６．抗菌薬適正使用（antimicrobial stewardship ＜AMS＞）を説明できる。
７．予防接種について、適応と意義、種類とそれぞれの投与方法を説明できる。
８．感染症法を概説できる。

【症候】

以下の症候をきたす代表的な感染性疾患の原因を列挙できるまたは病態を鑑別できる。

１．ショック
２．発熱
３．けいれん
４．意識障害・失神
５．脱水
６．全身倦怠感
７．黄疸
８．発疹
９．リンパ節腫脹
10. 浮腫
11. 胸水
12. 胸痛・胸部圧迫感
13. 呼吸困難・息切れ
14. 咳・痰
15. 血痰・喀血

16．頭痛・頭重感
17．腹痛
18．悪心、嘔吐
19．便秘・下痢・血便
20．吐血・下血
21．血尿・タンパク尿
22．関節痛、関節腫脹
23．腰背部痛

【疾患】

１．ウイルス感染症・プリオン病
１）インフルエンザの症候と診断と治療を説明できる。
２）麻疹の症候と診断と合併症及び予防法を説明できる。
３）風疹の症候と診断と合併症及び予防法を説明できる。
４）水痘・帯状疱疹の症候と診断と治療及び予防法を説明できる。
５）流行性耳下腺炎（ムンプス）の症候と診断と合併症及び予防法を説明できる。
６）ヒト免疫不全ウイルス＜HIV＞感染症の症候と診断と治療及び感染対策を説明できる。
７）単純ヘルペスウイルス感染症、伝染性紅斑、手足口病、突発性発疹、咽頭結膜熱、伝染性単核（球）症を説明できる。
８）サイトメガロウイルス＜CMV＞感染症を説明できる。
９）ヒトＴ細胞白血病ウイルス（human T-cell leukemia virus type 1＜HTLV-I＞）感染症を説明できる。
10）プリオン病を説明できる。
11）蚊媒介ウイルス感染症（デング熱、日本脳炎、ジカ熱、黄熱）について概説できる。
12）ダニ媒介ウイルス感染症（重症熱性血小板減少性症候群、ダニ媒介脳炎）について概説できる。

２．細菌感染症
１）黄色ブドウ球菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。
２）Ａ群β溶血性レンサ球菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。
３）肺炎球菌感染症の症候と診断と治療と予防法を説明できる。
４）インフルエンザ（桿）菌感染症と *Moraxella catarrhalis* 感染症を説明できる。
５）緑膿菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。
６）大腸菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。
７）*Clostridioides difficile* 感染症の症候と診断と治療を説明できる。
８）結核症、非結核性（非定型）抗酸菌症の症候と診断と治療及び予防法を説明できる。
９）マイコプラズマ感染症を説明できる。
10）クラミジア感染症を説明できる。
11）レジオネラ感染症を説明できる。
12）リケッチア感染症を説明できる。
13）カンピロバクター、サルモネラ、リステリア感染症を説明できる。

３．真菌感染症と寄生虫症

１）カンジダ症、クリプトコックス症、アスペルギルス症、ムーコル症の症候と診断と治療を説明できる。

２）ニューモシスチス肺炎の症候と診断と治療を説明できる。

３）主な蠕虫感染症（糞線虫症、アニサキス症、エキノコックス症）を説明できる。

４）主な原虫感染症（アメーバ赤痢、ランブル鞭毛虫症）を説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．講義は配布テキストとスライドを利用して行う。

２．講義中または講義の最後に講義内容に関する小テストを実施する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．配布テキストを事前に読み、わからないことを調べておくこと。(30分)

【復習】

１．配布テキスト、教科書を見て、講義内容を復習し、小テストの見直しを行うこと。(30分)

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

本試験として感染症学の理解を確認するための記述式の筆記試験と多肢選択問題を実施する。

Ⅵ．教科書

福岡大学腫瘍・血液・感染症内科学作成：配布テキスト

矢﨑義雄　監修：新臨床内科学　第10版　医学書院　2020

福井次矢・他　監修：ハリソン内科学　第５版　メディカル・サイエンス・インターナショナル　2017

深山正久・他　編：組織病理アトラス　第６版　文光堂　2015

矢﨑義雄　総編集：内科学　第11版　朝倉書店　2017

Ⅶ．参考書・文献

Mandell GL 他　編著：Mandell　Douglas and Bennett's Principles and practice of infectious diseases　9th ed.　Churchill Livingstone　2020

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	6	火	3	髙田	E-2	1)	感染症の概念と病態	敗血症の症候、診断、治療、市中感染症、院内(病院)感染症、コロナイゼーションと感染症発症、コンプロマイストホスト、日和見感染症	講義
2				4	〃	E-2	2)	感染症の診断・治療(総論)、院内感染対策	医療器具関連感染症、術後感染症、手術部位感染症、薬剤耐性〈AMR〉、院内感染の予防策	〃
3		13	火	3	戸川	E-2	1)2)	感染症学序論	ワンヘルス、新興・再興感染症、人獣共通感染症、ワクチン	〃
4				4	〃	E-2	4)(1)〜(3)	臓器別感染症１	菌血症、発熱性好中球減少症、感染性心膜炎	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
5	9	20	火	3	鍋島	E-2	4)(1)	ウイルス感染症１	ヘルペスウイルス属ウイルス感染症、インフルエンザ、風邪症候群、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、COVID-19	講義
6				4	〃	E-2	4)(1)	ウイルス感染症２	HIV感染症、日本脳炎、その他のウイルス感染症、ウイルス性皮膚疾患	〃
7		27	火	3	髙田	E-2	4)(2)	細菌感染症１	黄色ブドウ球菌、A群β溶血性レンサ球菌、肺炎球菌、インフルエンザ桿菌	〃
8				4	〃	E-2	4)(2)	細菌感染症２	緑膿菌、大腸菌、結核、非結核性抗酸菌、レジオネラ	〃
9	10	4	火	3	〃	E-2	4)(3)	臓器別感染症２	腹腔内感染症、尿路感染症、中枢神経感染症	〃
10				4	非常勤講師 下野	E-2	2)	感染症の治療	感染症の化学療法	〃
11		11	火	3	戸川	E-2	4) (1)～(3)	臓器別感染症３	急性気道感染症、深部頭頚部感染症、皮膚軟部組織感染症	〃
12				4	〃	E-2	4) (1)～(3)	臓器別感染症４	骨関節感染症、感染性下痢症、性感染症	〃
		20	木	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

放　射　線　科　学

Ⅰ．担当教員名

放射線医学	教　　授	吉　満　研　吾（科目責任者）
	〃	長　町　茂　樹（副責任者）（放射線部）
	准　教　授	高　野　浩　一（筑紫病院）
	講　　師	高　山　幸　久
	〃	浦　川　博　史
	助　　教	赤　井　智　春
	〃	伊　東　絵　美
	非常勤講師	納　冨　昭　弘（九州大学大学院医学研究院保健学部門准教授）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．放射線物理、放射線生物学、放射線診断学（MRI 含む）、IVR（インターベンショナルラジオロジー）、核医学、放射線治療の知識を習得し、診療に応用できる。(A-1)
2．今日の放射線医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。(A-2)
3．放射線医学の各原理、適応、画像所見を理解し、解決に取り組む事ができる。(A-3)
4．自己の放射線医学に対する到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．放射線とは何かを理解し、説明できる。
2．放射線の種類、単位、物質との相互作用について理解する。
3．放射線の生物作用の機序、細胞、組織、人体への影響について理解する。
4．放射線防護に関する法令、防護の基本、個人と公衆の被曝防止について理解する。
5．医療における放射線管理について理解し、説明できる。
6．放射線治療の物理学的および生物学的基礎について理解する。
7．核医学検査および RI 内用療法の基礎について理解する。
8．IVR について理解し、説明できる。
9．放射線基礎医学の CT および超音波の原理をさらに詳しく理解し、臨床的応用の実際について説明できる。
10．頭蓋の X 線投影法、その正常および病的像について述べることができる。
11．血管造影の一般的手技を説明し全身の血管造影診断時に腹部血管造影について説明できる。
12．インターベンショナルラジオロジーの原理、手技を説明し、臨床的応用について述べることができる。
13．脳血管の正常像、各種疾患の脳血管造影所見について述べることができる。
14．全身の CT、MRI 診断、特に肝について説明し、動態機能検査の原理について説明できる。
15．頭部の CT、MRI 診断、正常像、および各種疾患について述べることができる。
16．超音波診断法の概要ならびに各種臓器の正常像および各種疾患について説明できる。
17．放射線治療の生物学的基礎、正常および腫瘍組織の放射線感受性について説明できる。

18. 放射線治療可能比、放射線治療技術、線量の評価、線量分布について述べることができる。
19. TNM 分類、病期分類、治療成績の評価について述べることができる。
20. 頭頸部腫瘍の放射線治療について述べ、ウエッジフィルタ、運動照射、密封小線源の応用について説明できる。
21. 中枢神経腫瘍、食道癌、乳癌、肺癌などの放射線治療について述べることができる。
22. 悪性リンパ腫、性器癌などについて述べ、特に子宮頸癌の放射線外照射、腔内照射について説明することができる。
23. 核医学診断（シンチグラフィおよび PET）と RI 内用療法の実際について述べることができる。
24. 腫瘍、脳、心臓、骨、内分泌、その他臓器の核医学診断について適応と代表的疾患の画像所見を説明できる。
25. RI インビトロ検査（検体測定）の原理と測定法について説明することができる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．レスポンスアナライザーを使って授業をする場合がある。

２．全て講義（初日に独自テキスト Radiology2022 を配布・Moodle にも事前に掲載予定）

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．指定した教科書の該当項目を事前に読んでおくこと。(30 分)

２．次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を調べて理解しておくこと。(60 分)

【復習】

１．講義後、Radiology2022 を全体的に読み直して理解する。(60 分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．出席状況（2/3 以上の出席を必須とする）遅刻厳禁。（ただしコロナ禍の状況に応じて変更あり）
※（掲示板・Moodle を確認してください）

２．筆記試験

Ⅵ．**教科書**

独自テキスト（Radiology2022）（同データは Moodle にも掲載決定）

Ⅶ．**参考書・文献**

西谷・遠藤・松井・伊東　編：標準放射線医学　第７版　医学書院

上原周三　著：放射線物理学　改訂４版　南山堂

佐々木雅之、馬場眞吾：核医学検査技術学　改訂４版　南山堂

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	7	水	3	非常勤講師 納　冨	E-6		放射線物理学Ⅰ	放射線の種類、電磁波と放射線同位元素、崩壊	講　義
2				4	〃					
3		14	水	3	長　町	E-6		放射線生物学Ⅰ	放射線の生物作用	〃
4				4	〃	E-6		放射線生物学Ⅱ	放射線の人体に与える影響	〃
5		21	水	3	〃	E-6		核　医　学	放射線医薬品、装置、脳神経、内分泌、循環器、呼吸器	〃
6				4	〃	D-2 E-6	2) 	〃	PET, RI内用療法、RIA	〃
7		28	水	3	浦　川	E-6		Angio、IVR Ⅰ	IVR総論	〃
8				4	〃	E-6		Angio、IVR Ⅱ	IVR各論	〃
9	10	4	火	1	赤　井	E-6		放射線治療学基礎 Ⅰ・Ⅱ	生物学的基礎・物理学的基礎	〃
10				2	伊　東	F-2 D-4	7) 2)	放射線診断学基礎Ⅰ・超音波診断学	超音波診断の原理・超音波診断の実際	〃
11		5	水	3	高　山	E-6		Angio、IVR Ⅲ	救急、腫瘍の診断と治療	〃
12				4	長　町	E-6		放射線管理学	関連法令、教育訓練、健康診断、線量制限、被曝管理	〃
13		11	火	1	吉　満	D-4 E-6	2) 	総合画像診断Ⅰ	CT, Angio, MRIを中心に	〃
14				2	〃	E-6		総合画像診断Ⅱ	CT, Angio, MRIを中心に	〃
15		12	水	3	高　野	D-2	2)	放射線診断学基礎Ⅱ	CR装置および検査、CT装置および検査	〃
16				4	〃	D-2 E-6	2) 2)	放射線診断学基礎Ⅲ	MRI診断原理、各疾患のMRI診断	〃
17		18	火	1	赤　井	E-6		放射線治療学	中枢神経腫瘍、頭頸部腫瘍、小線源療法	〃
18				2	〃	E-6		〃	肺癌、縦隔腫瘍、乳癌、消化器腫瘍、泌尿器腫瘍、婦人科腫瘍、悪性リンパ腫、緩和照射	〃
	11	2	水	1	試　験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

腎・泌尿器・膠原病学

Ⅰ．担当教員名

腎臓・膠原病内科学	教　　授	升　谷　耕　介（科目責任者）
	准　教　授	三　宅　勝　久
	〃	安　野　哲　彦
	講　　師	伊　藤　建　二
	助　　教	冷牟田　浩　人
腎泌尿器外科学	教　　授	羽　賀　宣　博（副責任者）
	准　教　授	松　岡　弘　文
	〃	石　井　　龍（筑紫病院　臨床医学研究センター）
	講　　師	中　村　信　之
	〃	宮　島　茂　郎（筑紫病院）
	〃	松　﨑　洋　吏
	助　　教	岡　部　　雄
	〃	宮　﨑　　健
	〃	平　　浩　志（筑紫病院）
病　理　学	准　教　授	上　杉　憲　子

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．腎臓病・膠原病において出現する異常所見を列挙できる。(A-2)
2．症状や所見を呈する機序を考察することができる。(A-2)
3．病態から疾患に対する治療を考察することができる。(A-3)
4．腎・尿路系および男性生殖器系疾患の正常な解剖と機能、病態生理、診断法および治療に関する知識を習得する。(A-1)
5．腎・尿路系および男性生殖器系疾患を正しく診断し、問題点を考察し、適切な治療法を提示することができる。(A-2)
6．腎・尿路系および男性生殖器系疾患について自ら積極的に学ぶことができる。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

〈腎疾患〉

1．腎臓の役割を述べることができる。
2．腎臓と循環器系、内分泌系、免疫系疾患と腎障害の関連を述べることができる。
3．原発性・続発性糸球体腎炎の病態、診断、治療を述べることができる。
4．尿細管間質障害、間質性腎炎の病態、病理所見、診断、治療を述べることができる。
5．急性・慢性腎不全の病態、診断、治療を述べることができる。
6．末期慢性腎不全、尿毒症に対する処置、血液浄化療法を述べることができる。
7．薬物、化学物質による腎障害について述べることができる。

〈膠原病〉

１．炎症の発症機序を理解することができる。

２．自然免疫・獲得免疫の面から免疫の異常を述べることができる。

３．膠原病の病像から病態を考察することができる。

〈泌尿器〉

１．腎血管性疾患の原因を述べ、診断法とその病態生理学的根拠、治療法を説明できる。

２．腎・泌尿器・男性性器の循環障害疾患を列挙し、病態生理、診断、治療について説明できる。

３．膀胱尿管逆流・逆流性腎症の原因、病態生理、診断、治療について説明できる。

４．腎・泌尿器・男性性器の感染性疾患を列挙し、原因、病理、診断、治療について述べることができる。

５．尿路閉塞の原因疾患を列挙し、閉塞による腎障害の病態生理を説明できる。

６．閉塞性尿路疾患を部位別に列挙し、それぞれの症状、診断、治療について述べることができる。

７．腎・泌尿器・男性性器の腫瘍を列挙し、それぞれの原因、頻度、好発年齢、病理、病期分類、腫瘍型、転移経路、腫瘍マーカー、症状、診断、進展度判定法、治療方針、具体的な治療方法について述べることができる。

８．腎・泌尿器・男性性器の主たる先天異常を列挙し、それぞれの発生機序、症状、合併症、診断法、治療法について述べることができる。

９．腎・泌尿器・男性性器の臓器損傷を列挙し、症状、診断、治療、特に初期治療および後遺症について述べることができる。

10．正常の排尿機構を述べ、排尿機能検査法とその意義について説明できる。

11．神経因性膀胱を分類し、その原因、病態、症状、合併症、診断と治療について述べることができる。

12．腎・尿路結石症の原因、症状、診断、合併症、治療法および再発予防について説明できる。

13．性の分化と性成熟およびその異常について原因、病態、症状、診断、治療について述べることができる。

14．男性性腺の発生と生理、性機能不全について定義、病態、診断および治療を述べることができる。

15．泌尿器科に関連する内分泌疾患の手術適応の決定、術前・術後の管理について述べることができる。

16．泌尿器科領域悪性腫瘍の化学・内分泌療法について薬剤の選択と使用法、治療効果、合併症とその対策について述べることができる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．Ｍ３の日常学習は講義用テキスト・参考書（後述）による予習・復習を原則とする。

２．休暇中（夏・春）の研修は歓迎する。カンファレンス、抄読会、腎泌尿器外科の検査、及び腎臓・膠原病内科の処置、手術あるいは実験等に参加することができる。

３．学習方法について具体的な要望があれば内容により個別に相談に応じる。

４．遅刻・欠席をした講義内容については各自責任を持って修得することとする。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．講義範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。(30分)

【復習】

１．講義の最初に前回講義内容に係わる小テストを実施することがあるので、復習しておくこと。(15分)

２．講義テキストを中心に、参考図書も利用して、泌尿器科学の要点を復習すること。(15分)

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

１．理解度をより詳細に評価するために主として記述試験を行う。

２．講義時間帯に医学用語を中心に小テストを行うことがある。

３．講義への出席回数については学則に従うが、出席点を考慮することもある。

４．試験は講義範囲とし、事前の問い合わせには応じない。

５．講義時間には制約があるので、講義で述べられなくとも教科書等に記述されている通常理解が必要な内容は試験の範囲に含まれる。

６．試験の成績に関わらず、講義中の態度不良のみで不合格となる場合がある。

Ⅵ．教科書

腎臓・膠原病内科では、内科全体で指定されたものを教科書とする。

１．矢崎義雄・小室一成　総編集：内科学　第12版　朝倉書店　2022

２．高久史麿　他　監修：新臨床内科学　第10版　医学書院　2020

腎泌尿器外科では、教科書は特に指定しない。下記の参考書あるいは市販のものから選択してよい。ポケットサイズ、試験対策本、まとめ等は不適。

Ⅶ．参考書・文献

１．日本腎病理協会 / 日本腎臓学会　編：腎生検病理アトラス改定版　東京医学社　2017

２．下条文武・齋藤　康　監修：ダイナミック・メディシン　６巻　西村書店　2003

３．Brenner B M . ed.：The Kidney　11th ed. Saunders　2020

４．現代免疫物語　岸本忠三／中嶋　彰　ブルーバックス　講談社　2007

５．新・現代免疫物語 「抗体医薬」と「自然免疫」の驚異　岸本忠三／中嶋　彰　ブルーバックス　講談社　2009

６．並木幹夫　監修：市川智彦、久米春喜　編：標準泌尿器科学　第10版　医学書院　2021

７．吉田　修　監修：ベッドサイド泌尿器科学　改訂第４版　南江堂　2013

８．日本臨床腫瘍学会　編：新臨床腫瘍学　改訂第６版　南江堂　2021

９．医療情報科学研究所　編：病気がみえる　vol. 8　腎・泌尿器　第３版　Medic Media　2019

10. McAninch, J. W. et al : Smith & Tanagho's General Urology（第19版）McGraw-Hill　2020

11. A. J. Wein. et al : Campbell-Walsh Urology（第12版）Elsevier　2020

12. Pollack, H. M. et al : Clinical Urography（第２版）W. B. Saunders　2000

13. Docimo, S. G. et al : The Kelalis-King-Belman Textbook of Clinical Pediatric Urology (第6版）CRC PRESS　2019

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	11	7	月	3	升谷	D-8	1) ①～⑧	腎疾患総論 腎臓の解剖と生理	腎疾患の重要性、診療の意義と問題点 腎の構造・機能およびその異常、尿量・尿の性状の異常	講義
				4	（予備）					
2		9	水	3	伊藤	D-8	2)①④	主要な検査－1	腎糸球体機能検査、尿細管機能検査	講義
3				4	〃	D-8	2)②③	主要な検査－2	糸球体腎炎の検査、腎の画像診断	〃
4		10	木	1	升谷	D-8	4)(2) ①⑤	原発性糸球体疾患－1	急性糸球体腎炎、急速進行性腎炎（ANCA関連腎炎、Goodpasture症候群を含む）	〃
5				2	〃	D-8	4)(2) ②④	原発性糸球体疾患－2	慢性糸球体腎炎（IgA腎症、膜性増殖性糸球体腎炎、膜性腎症）	〃
6		14	月	3	〃	D-8	4)(2)③	原発性糸球体疾患－3	ネフローゼ症候群1	〃
7				4	〃	D-8	4)(2)③	原発性糸球体疾患－4	ネフローゼ症候群2	〃
8		16	水	3	伊藤	D-8	4)(3)	腎血管障害	良性・悪性腎硬化症、腎血管性高血圧症、腎梗塞、腎動脈血栓症、悪性高血圧	〃
9				4	安野	D-8	4)(5)	間質性腎炎	急性・慢性間質性腎炎、鎮痛剤性腎症、急性・慢性腎盂腎炎	〃
10		17	木	1	伊藤	D-8	4)(9)①-6 ①～③	続発性糸球体疾患－1	糖尿病性腎症、アミロイド腎症、痛風腎、紫斑病性腎炎、骨髄腫腎、悪性腫瘍	〃
11				2	〃	D-8	4)(3)② (6)④⑤	続発性糸球体疾患－2	感染症、肝疾患、血液疾患などによる腎障害、溶血性尿毒症性症候群、妊娠中毒症、腎疾患患者の妊娠	〃
12		21	月	3	安野	D-8	3)(1) (2) 4)(4)	尿細管間質障害	腎皮質壊死、腎性糖尿、腎性尿崩症、Fanconi症候群、尿細管性アシドーシス、Bartter症候群、Gitelman症候群、その他	〃
13				4	冷牟田	D-8	4)(1) ⑤⑥	保存期腎不全の治療血液浄化療法	一般療法、食事療法、薬物療法、血液透析、腹膜透析、腎臓移植、血漿交換	〃
14		24	木	1	〃	D-8	4)(1)①	急性腎不全	腎前性、腎性、腎後性、乏尿性、非乏尿性	〃
15				2	〃	D-8	4)(1) ②～④	慢性腎不全	保存期、末期、尿毒症、代行期、置換期、高窒素血症	〃
16		28	月	3	上杉	D-8	4)(2) ①～③	腎病理－1	一次性糸球体腎炎、二次性糸球体腎炎、膠原病、糸球体腎炎の組織像	〃
17				4	〃	D-8	4)(4)	腎病理－2	ループス腎炎、糖尿病性腎症、骨髄腫腎、アミロイドーシス、アルポート症候群、菲薄基底膜病	〃
18		30	水	3	安野	D-8	4)(7)①	遺伝性腎疾患	家族性遺伝性腎炎（Alport症候群、良性家族性血尿）、嚢胞腎	〃
19				4	三宅	E-4	3)(2) ①② (4)④	膠原病各論－1	関節リウマチ、シェーグレン症候群、成人スチル病　他	〃
20	12	1	木	1	〃	E-4	3)(3) ①②	膠原病各論－2	SLE 他	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
21	12	1	木	2	三宅	E-4	3)(4)①～③	膠原病各論－3	全身性硬化症、皮膚筋炎/多発筋炎、混合性結合織病　他	講義
22		5	月	3	〃	E-4	3)(5)①	膠原病各論－4	血管炎の分類と臨床的意義、大動脈炎症候群、巨細胞動脈炎、結節性多発動脈炎　他	〃
23				4	〃	E-4	3)(5)②③	膠原病各論－5	多発血管炎性肉芽腫症、顕微鏡的多発動脈炎、ベーチェット病他	〃
24		7	水	3	松崎	D-8	2)①④	腎・尿路・男性生殖器外科の解剖・手術・検査総論	腎・後腹膜腔・膀胱・前立腺・精巣・陰茎の解剖、尿路の内視鏡、腎・尿路・男性生殖器の開放手術・内視鏡手術・ロボット支援手術、UFM・CMG・UDS、カテーテルの種類とサイズ	講義スライド・資料併用
						D-9	1)①～⑤			
						E-3	3)②			
25				4	松岡	D-8	4)(7)①	腎・尿路先天異常(1)	腎・尿管の発生、腎形成異常、馬蹄鉄腎、海綿腎、腎嚢胞性疾患、重複尿管、尿管瘤、尿管異所開口	〃
26		8	木	1	羽賀	D-8	4)(9)①	腎細胞癌	腎細胞癌、画像診断、腹腔鏡手術	〃
27				2	石井	D-8	4)(8)①	尿路結石・副甲状腺外科	成因、結石組成、高カルシウム尿症、感染結石、上皮小体機能亢進症、代謝結石、治療と疾病予防	〃
						D-12	4)(3)②			
28		12	月	3	松岡	D-8	4)(7)①	腎・尿路先天異常(2)	下部尿路の発生、膀胱外反症、尿膜管開存、 尿道下裂、停留精巣、陰嚢水瘤、精索捻転症、小児尿路性器腫瘍	〃
						D-9	4)(1)③			
						D-12	4)(10)③			
29				4	宮島	D-8	1)②⑧ 2)④ 3)(3)④ 4)(8)③	神経因性膀胱	排尿機構と神経学、排尿機能検査と排尿管理学	〃
						F-1	28)			
30		14	水	3	中村	D-8	4)(1)⑥	腎不全と腎移植	自家腎・同種腎移植、ドナー、レシピエント、組織適合性、拒絶反応、免疫抑制剤、臓器移植法、生命倫理	〃
						F-2	13)⑤			
31				4	松崎	D-8	1)② 4)(9)②	尿路上皮癌(腎盂・尿管・膀胱)	尿細胞診、手術、尿路変向術、化学療法	〃
32		15	木	1	羽賀	D-9	2)(1) 4)(1)②	前立腺肥大症	前立腺肥大症、前立腺触診、経直腸超音波検査、手術方法と術中・術後合併症	〃
33				2	〃	D-9	4)(3)①	前立腺癌	前立腺癌、前立腺生検、PSA、ホルモン療法	〃
34		19	月	3	松岡	D-9	1) ①～④ 3)(1)②	性分化異常	性分化と内性器・外性器の異常、性別不明瞭児と性の決定	〃
						D-12	4)(4)④			

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
35	12	19	月	4	岡部	D-9	1)③～⑤ 3)(1)	男性性機能	男性性腺の生理、男性性機能不全	講義 スライド・資料併用
36		21	水	3	中村	D-8 D-9	4)(7)② 3)(1)①	腎・尿路・性器損傷	腎損傷、尿管損傷、膀胱損傷、膀胱腟瘻、尿道損傷、男子性器損傷、持続勃起症	〃
37				4	石井	D-9	4)(3)②	精巣腫瘍・陰茎癌・後腹膜腫瘍	組織分類、マーカー、化学療法、後腹膜リンパ節郭清	〃
38		22	木	1	松岡	D-8	4)(7)①	膀胱尿管逆流　他	膀胱尿管逆流、逆流性腎症の病理	〃
39				2	羽賀	D-8	4)(5)① 4)(8)②	尿路性器感染症(1)	単純性と複雑性尿路感染症、前立腺炎	〃
40		26	月	3	松﨑	D-8 D-9 F-1	1)② 2)① 3)(2)③ 4)(1)③ 29)	腎・性器循環障害	血尿、精索静脈瘤、ナットクラッカー現象	〃
41				4	平	D-8	1)②～⑦ 2)① 4)(1)①②	尿路閉塞	閉塞性疾患と腎障害	〃
42	1	11	水	3	中村	E-2	4)(4)	尿路性器感染症(2)	性感染症(STI)と特異的感染症、感染制御	〃
43				4	宮﨑	C-4 D-8	4)①② 1)②	腎血管性疾患	腎梗塞、腎動脈瘤、腎動静脈瘻	〃
		18	水	3	（予　備）					
				4	〃					
		30	月	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

第３学年

法　　医　　学

Ⅰ．担当教員名

法　医　学	教　　授	久　保　真　一（科目責任者）
	准　教　授	柏　木　正　之（副責任者）
	講　　師	松　末　　綾
	助　　教	ウォーターズ　ブライアン
	〃	髙　山　み　お
医療安全管理部	講　　師	中　村　伸理子

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

法医学とは、医学的解明助言を必要とする法律上の案件、事項について、科学的で公正な医学的判断を下すことによって、個人の基本的人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的とする医学である。

この法医学の目的を達成するために、法医学の重要な３分野（法医病理学、法医中毒学、法医血清遺伝学）の内容を理解する。様々な死因および死に至る過程を理解する。症例供覧、剖検・検案の見学を通じて、「死者（体）」を診る（死体検案）ために必要な知識と手技を修得する。医療と法の係わりを理解し、医師としての基本的姿勢を習得する。

１．血液型、DNA 型、白骨、指紋・掌紋等からの個人識別、医と法の係わりを理解する。(A-1)
２．医学・医療の倫理的背景について理解する。(A-2)
３．死因・死亡の種類、死亡診断書・死体検案書の書き方、考え方を理解する。(A-3)
４．剖検・検案の見学を通じて、自ら学ぶ機会を持つ。(A-4)
５．死者に対する畏敬の念を身につける。(C-1)
６．時代とともに変化する医学における法医学の意義を理解し、学び続けることができる。(C-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．死体の正しい観察方法を説明できる。
２．様々な死因およびその死に至る過程を説明できる。
３．死因・死亡の種類に対する考え方を説明できる。
４．死亡診断書・死体検案書の書き方、考え方を説明できる。
５．血液型、DNA 型、白骨、指紋・掌紋等からの個人識別について説明できる。
６．医と法の係わりを説明できる。
７．医療事故の原因、種類、予防と対策を説明できる。
８．医学・医療の倫理的背景について説明できる。
９．剖検・検案の見学を通じて、自ら学ぶ機会を持つことができる。
10．死亡診断書・死体検案書が作成できる。
11．白骨からの個人識別ができる。
12．指紋、掌紋を判定できる。
13．死者に畏敬の念と科学者としての信念をもって、冷静に接することができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．講義：テキスト、スライドをもとに学習する。各講義では実例を供覧する。

２．講義ごとに課題（レスポン）に回答する。

３．演習：さまざまな死因の死亡診断書・死体検案書を作成・提出する。

４．実習：個人識別の方法を実際に体験する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．講義テキストの次回講義部分を事前に読み、講義の概略を理解する。(30分)

２．指定した教科書の次回講義範囲を事前に読み、わからないことを調べておく。(30分)

３．実習書の次回実習部分を事前に読み、実習の概略を理解する。(30分)

４．指定した教科書の次回実習範囲を事前に読み、わからないことを調べておく。(30分)

【復習】

１．講義テキストの講義部分を読み、講義の内容を復習する。特に、供覧した症例をもとに、理解を深める。(20分)

２．指定した教科書の講義範囲を読み、講義でわからなかったところを理解する。(20分)

３．演習課題について、死亡診断書・死体検案書を作成・提出する。(20分)

４．実習書を読み、実習の内容を復習する。(30分)

５．指定した教科書の実習範囲を読み、実習でわからなかったところを理解する。(30分)

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

客観試験および死亡診断書・死体検案書作成試験で評価する。

Ⅵ．教科書

講義プリントを冊子にして配布予定。

共同執筆（久保真一他）:「学生のための法医学」 改訂第６版　2007　南山堂

共同執筆（久保真一他）:「NEW 法医学・医事法」 初版　2008　南江堂

共同執筆（久保真一他）:「標準法医学」 第８版　2022　医学書院

日本法医学会・教育研究委員会：死体検案マニュアル　2017年版　2017　日本法医学会

Ⅶ．参考書・文献

今井　大　監訳：カラーアトラス　マクロ病理学　第３版　2005　西村書店

今井　大　編訳：カラーアトラス　基礎組織病理学　第４版　2004　西村書店

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	11	8	火	1	久保	A-1	1)	法医学概論	歴史、異状死、人の死、死因	講義
						B-2	1)			
2				2	〃	E-9	1)①	死体現象	早期死体現象(死斑、死後硬直、直腸内温度、乾燥)晩期死体現象(死ろう化、腐敗、ミイラ、白骨化)	〃
3				3	〃	E-9	1)①③	医と法Ⅰ	死因究明制度と関連法規	〃
						B-2	1)			

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
4	11	8	火	4	久保	B-2 E-9	1) 1)①	法医診断学Ⅰ	死亡診断書・死体検案書①	講義
5		15	火	1	柏木	E-9	1)③	損傷Ⅰ	総論 鈍器損傷(表皮剥脱、皮下出血、挫創、裂創)	〃
6				2	〃	E-9	1)③	損傷Ⅱ	鋭器損傷(切創、刺創、割創) 銃器損傷	〃
7				3	久保	E-9 D-2	1)③ 4)(4)	損傷Ⅲ	特論：頭部外傷	〃
8				4	〃	E-7 E-9	3)⑥ 1)③	損傷Ⅳ	特論：交通外傷・虐待	〃
9		22	火	1	柏木	E-9	1)③	窒息Ⅰ	総論 頚部圧迫(縊頚、絞頚、扼頚)	〃
10				2	〃	E-9	1)③	窒息Ⅱ	溺死、その他の窒息	〃
11				3	髙山	E-5 E-9	3)(2)(3) 1)③	異常環境	焼死・凍死・感電死	〃
12				4	久保	E-7 B-9	2)④ 1)③	周産期障害	嬰児殺人(特殊性、死亡時期、死因)、乳幼児突然死症候群	〃
13		29	火	1	〃	E-5 E-9	3)(1) 1)③	法中毒学Ⅰ	総論・作用・分類・分析	〃
14				2	〃	E-5 E-9	3)(1) 1)③	法中毒学Ⅱ	症例提示	〃
15				3	ウォーターズ	E-5 E-9	3)(1) 1)③	法中毒学Ⅲ	各論(アルコール・覚せい剤)	〃
16				4	〃	E-5 E-9	3)(1) 1)③	法中毒学Ⅳ	各論(CO・農薬・自然毒)	〃
17	12	6	火	1	松末	B-2	1)④	個人識別	総論、白骨(年齢・性別・身長)、歯牙(デンタル・チャート)、血液型	〃
18				2	〃	B-2	1)④	法医遺伝学	DNA多型・遺伝子診断・物体検査(血痕検査、尿検査、毛髪検査、精液検査)	〃
19				3	髙山	B-2 E-9	1)⑤ 1)③④	内因性急死	内因性急死の取扱いと死因(心・血管、呼吸器、消化器、その他)	〃
20				4	久保	B-2	1)③	法医診断学Ⅱ	死体の診かた・診察方法	〃
21		13	火	1	柏木	B-2	1)④	法医診断学Ⅲ	死亡診断書・死体検案書②	〃
22				2	〃	B-2 E-9	1) 1)①	演習(文書作成)	死亡診断書・死体検案書③	課題学習
23				3	久保・柏木 松末 ウォーターズ 髙山	B-2	1)④	実習Ⅰ	白骨からの性別・身長・年齢の推定	実習
24				4						

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
25	12	20	火	1	中村	A-1	1)～3)	医と法 II	医事法制・医療裁判	講義
						A-6	1)～3)			
26				2	久保	A-1	1)～3)	医と法 III	生命倫理・医療倫理・研究倫理	〃
						A-4	2)			
						E-9	1)⑨			
27				3	久保・柏木 松末 ウォーターズ 髙山	B-2	1)④	実習 II	指紋・掌紋からの個人識別	実習
28				4						
	1	23	月	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

腫　瘍・血　液　学

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　　授	髙　松　　泰（科目責任者）
	准 教 授	田　中　俊　裕（副責任者）
	〃	磯　部　泰　司
	講　　師	佐々木　秀　法
	助　　教	茂　木　　愛
	〃	中　島　勇　太
	非常勤講師	柴　田　隆　夫（村上華林堂病院内科部長）
衛生・公衆衛生学	教　　授	有　馬　久　富
放射線部	教　　授	長　町　茂　樹
輸　血　部	准 教 授	熊　川　みどり
看　護　部	看 護 師	小　田　真由美
薬　学　部	教　　授	緒　方　憲太郎

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．腫瘍・血液疾患の基礎医学（血液・造血器・リンパ系の構造と機能、加齢、死）、臨床医学（病因、診断、治療）、社会医学（医療安全、疫学、予防、保健・医療・福祉制度、医療経済）の知識を修得する。(A-1)

2．腫瘍・血液疾患に対する薬物療法や輸血の副作用を学び、安全で効果的に治療を行うために必要な医療者の役割を理解する。(A-1)

3．腫瘍・血液疾患の診断・治療に関する最新の情報を収集し、論理的・批判的に評価できる技能を学ぶ。(A-2)

4．腫瘍・血液疾患の診断・治療に関する未解決な問題点を理解し、解決に取り組む技能を学ぶ。(A-3)

5．自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ態度を身につける。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．臨床腫瘍学概論

1）悪性腫瘍の定義と病態を説明できる。

2）悪性腫瘍の症候を説明できる。

3）悪性腫瘍の診断と治療を概説できる。

4）悪性腫瘍の集学的治療を概説できる。

2．悪性腫瘍の疫学

1）悪性腫瘍の疫学を概説できる。

2）悪性腫瘍の発生要因（生活習慣、感染症、遺伝的要因など）を説明できる。

3）悪性腫瘍の予防（検診を含む）を概説できる。

3．悪性腫瘍の発症と進展の機序

1）悪性腫瘍における遺伝要因と環境要因の関係を概説できる。

２）癌の原因や遺伝子変化を説明できる。
３）自律性の増殖と、良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。
４）癌の転移を説明できる。

４．悪性腫瘍の診断
１）腫瘍の病理所見や診断を説明できる。
２）腫瘍の画像所見や診断を説明できる。
３）腫瘍のステージを概説できる。
４）病態を推察する基本的検査と確定診断のための検査の意義・相違点を理解・説明できる。
５）腫瘍の検査所見、腫瘍マーカーを説明できる。
６）染色体・遺伝子検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。
７）フローサイトメトリの意義を説明できる。

５．悪性腫瘍の治療
１）腫瘍の薬物療法（殺細胞性抗癌薬、生物学的療法）を概説できる。
２）抗腫瘍薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。
３）薬物動態的相互作用について例を挙げて説明できる。
４）腫瘍における支持療法を概説できる。

６．緩和医療
１）緩和ケア（緩和ケアチーム、ホスピス、緩和ケア病棟、在宅緩和ケアを含む）を概説できる。
２）全人的苦痛を説明できる。
３）腫瘍における緩和ケアを概説できる。
４）腫瘍の診療における生命倫理（バイオエシックス）を概説できる。
５）緩和ケアにおいて頻度の高い身体的苦痛、心理社会的苦痛を列挙することができる。
６）疼痛のアセスメント、疼痛緩和の薬物療法、癌疼痛治療法を説明できる。
７）オピオイドの適応と課題を説明できる。
８）麻薬性鎮痛薬・鎮静薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。

７．高齢者のがん治療
１）老化学説、老化制御、加齢に伴う臓器の構造的・機能的変化を説明でき、これによる予備能の低下等患者にもたらされる生理的変化を説明できる。
２）高齢者総合機能評価（comprehensive geriatric assessment <CGA>）を実施できる。
３）老年症候群（歩行障害・転倒、認知機能障害、排泄障害、栄養障害、摂食・嚥下障害等）の概念を説明できる。
４）フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの概念、その対処法、予防が説明できる。
５）加齢に伴う薬物動態の変化、高齢者に対する薬物療法の注意点を説明でき、ポリファーマシーの是正等適切な介入が実施できる。
６）高齢者の人生の最終段階における医療（エンド・オブ・ライフ・ケア）を説明できる。

８．サバイバーシップ（晩期毒性、妊孕性、就労支援）
１）腫瘍性疾患をもつ患者の置かれている状況を深く認識できる。
２）健康（健康の定義）、障害と疾病の概念と社会環境（機能障害、活動制限、生活の質〈QOL〉

等）を説明できる。

３）社会構造（家族、コミュニティ、地域社会）と健康・疾病との関係（健康の社会的決定要因（social determinant of health））を概説できる。

４）各ライフステージの健康問題（産業保健、成人・高齢者保健）を説明できる。

９．チーム医療

１）腫瘍の診療におけるチーム医療を概説できる。

２）腫瘍性疾患をもつ患者の置かれている状況を深く認識できる。

10．輸血療法

１）血液製剤及び血漿分画製剤の種類と適応を説明できる。

２）血液型（ABO、RhD）検査、血液交差適合（クロスマッチ）試験、不規則抗体検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。

３）輸血の適正使用、成分輸血、自己血輸血、緊急時の輸血を説明できる。

４）輸血副反応、輸血使用記録保管義務、不適合輸血の防止手順を説明できる。

11．造血器の構造と機能

１）造血幹細胞から各血球への分化と成熟の過程を説明できる。主な造血因子（エリスロポエチン、granulocyte-colony stimulating factor <G-CSF>、トロンボポエチン）を説明できる。

２）骨髄検査（骨髄穿刺、骨髄生検）を説明できる。

３）末梢血の血球数の基準値とその変化の意義を説明できる。

４）赤血球とヘモグロビンの構造と機能を説明できる。

５）貧血を分類し、鑑別に有用な検査を列挙できる。

６）貧血の原因と病態生理を説明できる。

７）白血球の種類と機能を説明できる。

８）血小板の機能と止血や凝固・線溶の機序を説明できる。

９）出血傾向の病因、病態、症候と診断を説明できる。

10）脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃と Peyer 板の構造と機能を説明できる。

11）リンパ節腫脹

12）リンパ節腫脹の原因と病態生理を説明できる。

13）脾腫をきたす疾患を列挙し、鑑別の要点を説明できる。

12．造血器疾患

①赤血球系疾患

１）鉄欠乏性貧血、二次性貧血の病因、病態、診断と治療を説明できる。

２）再生不良性貧血・夜間発作性血色素尿症（paroxysmal nocturnal hemoglobinuria〈PNH〉）の病因、病態、診断、治療と予後を説明できる。

３）溶血性貧血の病因、病態、診断と治療を説明できる。

４）巨赤芽球性貧血の病因、病態、診断と治療を説明できる。

②白血球系疾患

１）急性白血病の病態、症候、病理所見、治療と予後を説明できる。

２）急性白血病の French-American-British〈FAB〉分類、WHO 分類を概説できる。

３）慢性骨髄性白血病の病態、症候、病理所見、治療と予後を説明できる。

４）骨髄異形成症候群（myelodysplastic syndromes〈MDS〉）の臨床像と病理所見を説明できる。
５）真性赤血球増加症・本態性血小板血症、骨髄線維症の病因、病態、診断と治療を説明できる。
６）成人Ｔ細胞白血病の病因、疫学、臨床所見、病理所見を説明できる。
７）悪性リンパ腫の分類を概説し、病態、症候、病理所見、治療と予後を説明できる。
８）多発性骨髄腫の病態、症候、診断、治療と予後を説明できる。

③血小板・凝固線溶系疾患
１）免疫性血小板減少性紫斑病（immune thrombocytopenic purpura〈ITP〉）の病態、症候、診断と治療を説明できる。
２）血友病の病態、症候、診断、治療と遺伝形式を説明できる。
３）播種性血管内凝固（disseminated intravascular coagulation〈DIC〉）の基礎疾患、病態、診断と治療を説明できる。
４）溶血性尿毒症症候群（hemolytic-uremic syndrome〈HUS〉）の基礎疾患、病態、診断と治療を説明できる。
５）IgA 血管炎（Schönlein-Henoch 紫斑病）を概説できる。
６）血栓性血小板減少性紫斑病（thrombotic thrombocytopenic purpura〈TTP〉）を概説できる。

13．乳腺腫瘍
１）乳房腫瘤の画像診断（乳房撮影、超音波検査、磁気共鳴画像法〈MRI〉）を概説できる。
２）乳房腫瘤に対する細胞・組織診断法を概説できる。
３）乳癌の危険因子、症候、病理所見、診断、治療と予後を説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies）

〈学習方略〉
１．講義は配布テキストとスライドを利用して行う。
２．講義の最後に講義内容に関する小テストを実施する。

〈事前事後学習の方法〉
【予習】
１．配布テキストを事前に読み、わからないことを調べておくこと。(30分)

【復習】
１．配布テキスト、教科書を見て、講義内容を復習し、小テストの見直しを行うこと。(30分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

理解を確認するための記述式の筆記問題と多肢選択肢問題を実施する。

Ⅵ．**教科書**

福岡大学腫瘍・血液・感染症内科学作成：腫瘍・血液学テキスト
矢﨑義雄　総編集：内科学　第11版　朝倉書店　2017
矢﨑義雄　監修：新臨床内科学　第10版　医学書院　2020
日本臨床腫瘍学会　監修：入門腫瘍内科学　改訂第３版　南江堂　2020

Ⅶ. 参考書・文献

日本臨床腫瘍学会　編：新臨床腫瘍学　改訂第６版　南江堂　2021
日本血液学会　編：血液専門医テキスト　改訂第３版　南江堂　2019

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	11	9	水	1	髙松	C-4	6)⑤	臨床腫瘍学概論	集学的治療	講義
						E-3	1)①②			
						E-3	3)①			
2				2	有馬	B-1	4)⑤	悪性腫瘍の疫学	発生要因、疫学、予防、検診	〃
							5)①⑤			
3		16	水	1	田中	C-4	1)⑥	悪性腫瘍の発症機序	発癌のメカニズム	〃
							6)①②⑥			
4				2	長町	E-3	2)②	悪性腫瘍の診断１	画像診断	〃
5		25	金	3	田中	E-3	2)①	悪性腫瘍の診断２	病理、検査	〃
						F-2	3)⑨⑩			
6				4	緒方	E-3	3)④⑤	悪性腫瘍の治療１	細胞傷害性抗がん薬	〃
						F-2	8)⑥⑩			
7		30	水	1	田中	E-3	3)④⑤	悪性腫瘍の治療２	生物学的療法、免疫療法	〃
						F-2	8)⑥			
8				2	中島	E-3	3)⑥	悪性腫瘍の治療３	支持療法	〃
9	12	2	金	3	田中	D-11	2)①②	乳癌１	診断、検査、手術	〃
						D-11	4)(2)①			
10				4	茂木	D-11	4)(2)①	乳癌２	薬物療法	〃
11		7	水	1	磯部	D-1	1)⑥	赤血球１	赤血球の構造と機能	〃
						D-1	4)(1)①			
						F-1	26)①			
12				2	〃	D-1	4)(1)②③④⑤	赤血球２	貧血の鑑別	〃
13		9	金	3	非常勤講師 柴田	E-3	3)⑦	緩和医療１	生命倫理、終末期医療	〃
						E-3	4)②			
						F-2	16)①②③			
14				4	佐々木	F-2	8)⑦	緩和医療２	疼痛緩和	〃
						F-2	16)④⑤			
15		14	水	1	熊川	F-2	3)⑪	輸血１	血液製剤の種類・適応、血液型、交差試験	〃
							13)①②④			
16				2	〃	F-2	13)③	輸血２	輸血副作用、不適合輸血防止	〃
17		16	金	3	佐々木	D-1	1)⑧	血小板・凝固線溶１	止血、凝固・線溶の機序	〃
						D-1	4)(2)①			

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
18	12	16	金	4	佐々木	D-1	4)(2)②～⑦	血小板・凝固線溶2	血小板減少症、血友病、DIC	講義
19		21	水	1	髙松	D-1	1)④	白血球1	白血球の種類と機能、リンパ節、脾臓	〃
						D-1	4)(3)①			
						F-1	26)①			
						F-1	27)①			
20				2	〃	D-1	4)(4)①②③④	白血球2	白血病と類縁疾患	〃
						D-1	4)(4)①			
21		23	金	3	〃	D-1	4)(4)⑤⑧⑨	白血球3	悪性リンパ腫と類縁疾患	〃
22				4	佐々木	D-11	4)(2)①～④⑨⑫	高齢者のがん治療	高齢者機能評価	〃
23	1	10	火	1	緒方・小田	E-3	4)①③	チーム医療	チーム医療	〃
24				2	髙松	B-1	6)①②④	サバイバーシップ	晩期毒性、妊孕性、就労支援	〃
						E-3	4)③			
25		13	金	3	緒方・小田 田中	E-3	4)①③	症例問題1	チーム医療	学生参加型
26				4	磯部	F-1	26)②③	症例問題2	貧血	〃
27		17	火	1	髙松	F-1	1)①②③	症例問題3	発熱	〃
28				2	茂木	D-11	3)	症例問題4	乳腺腫瘍	〃
						D-11	4)(2)①			
29		20	金	3	佐々木	D-1	4)(2)①	症例問題5	出血傾向	〃
30				4	磯部	F-1	27)②③	症例問題6	リンパ節腫脹	〃
		27	金	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

皮膚・形成外科学

Ⅰ．担当教員名

皮膚科学	教　　授	今　福　信　一	（科目責任者）
	講　　師	古　賀　文　二	
	〃	内　藤　玲　子	
	〃	佐　藤　絵　美	
	助　　教	清　水　裕　毅	
	〃	筒　井　啓　太	
	〃	松　田　絵　奈	
	非常勤講師	伊　藤　宏太郎	（伊藤皮膚科）
	〃	野　口　博　光	（のぐち皮ふ科）
	〃	鶴　田　紀　子	（八幡病院）
形成外科学	教　　授	髙　木　誠　司	（副責任者）
	講　　師	大　山　拓　人	
	助　　教	森　田　　愛	
	〃	鈴　木　翔太郎	
	〃	岡　本　理　沙	
	〃	小　柳　俊　彰	
	非常勤講師	牧　野　太　郎	（牧野美容クリニック院長）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

〈皮膚科学〉

1．基礎（正常構造と機能）、臨床（病因、構造と機能の異常、診断、治療）等の知識を習得し、診療に応用できる。(A-1)

2．医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。(A-2)

3．未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。(A-3)

〈形成外科学〉

4．解剖学的基礎知識をもとに形成外科疾患の臨床（病因、構造の異常）を理解し、診療に応用できる。(A-1)

5．体表創傷の種類や治療法について最新の医学情報を収集し、正しく応用できる。(A-2)

6．自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

〈皮膚科学〉

1．皮膚の正常構造と機能を充分に習得し、器官としての皮膚の重要性を認識した上で、皮膚の病態学を履修する。

2．皮膚疾患の診断学・治療学を理解する。

3．内臓疾患と皮膚疾患との関連性など他科領域疾患の病態の理解を通じて皮膚疾患を更に深く理解する。

４．病理組織標本の講義を通して基本的な皮膚病理学を理解できる。
５．皮膚科学的及び美容皮膚科学的治療を理解し、光線療法、外用療法の原則を理解できる。
６．皮膚の良性、悪性腫瘍の性質を理解し、治療法を理解できる。
〈形成外科学〉
１．形成外科の概念を説明できる。
２．形成外科と他科との関わりについて説明できる。
３．創傷治癒のメカニズム・湿潤療法・陰圧閉鎖湿潤療法を説明できる。
４．急性創傷・慢性創傷の種類や病態や治療を説明できる。
５．熱傷の重症度と治療法を説明できる。
６．顔面骨骨折の症状・検査・治療を説明できる。
７．ケロイド・肥厚性瘢痕・瘢痕・瘢痕拘縮の鑑別と、その原因・病態・治療が説明できる。
８．形成外科の基本手技を説明できる。
９．マイクロサージャリーや皮弁を用いた再建外科の基本概念を説明できる。
10．頭蓋顔面領域および体幹・四肢の体表先天異常を説明できる。
11．美容外科・美容医療・抗加齢医療について説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies）
〈学習方略〉
〈皮膚科学〉
１．スライド・教科書・プリントによる講義。
２．臨床写真をスライド供覧し、皮膚疾患に対する理解を深める。
〈形成外科〉
１．パワーポイントを用いた講義を行い、その一部はハンドアウトとして講義前に配布する。
２．講義内容に適宜医師国家試験過去問題を引用し、その解説を行う。
〈事前事後学習の方法〉
〈皮膚科学〉
【予習】
１．指定した教科書の割当部分を事前に読み、わからないことを調べておくこと。(30分)
２．次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(60分)
【復習】
１．事後に講義スライド集を復習して記憶を定着させる。(60分)
〈形成外科〉
【予習】
１．講義範囲のハンドアウトを読み、流れを掴んでおく。(15分)
２．指定教科書の講義範囲を事前に読んでおく。(15分)
３．講義内容に医師国家試験過去問題の引用がある場合は、事前に解いて講義に臨む。(15分)
【復習】
１．ハンドアウト及び教科書を用いて講義内容を復習し、習熟度を高める。(30分)
２．講義内容で理解できない点、不明点があれば教員に対して積極的に質問する。(教員室への訪問も可)（10分）

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

１．論述試験および／または客観試験による。

２．講義への出席状況・学習態度も評価の対象とする。

Ⅵ．**教科書**

〈皮膚科学〉

１．清水　宏　著：あたらしい皮膚科学　第３版　中山書店　2018

２．大塚藤男　著・編：DERMATOLOGY　皮膚科学　第11版　金芳堂　2020

〈形成外科学〉

平林慎一　監修：標準形成外科学　第７版　医学書院　2019

Ⅶ．**参考書・文献**

〈皮膚科学〉

富田　靖　監修：標準皮膚科学　第11版　医学書院　2020

〈形成外科学〉

特になし。

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	11	10	木	3	今　福	D-3	1）	皮膚の構造、機能	表皮・真皮・皮下組織・皮膚付属器、角化・メラニン形成	講　義
2				4	〃	D-3	4）(8)	皮膚疾患の病理組織学	炎症性皮膚疾患、良性・悪性腫瘍	〃
3		11	金	1	〃	F-1 D-3	12） 2）	皮膚疾患の診断、治療	原発疹、続発疹、アレルギー検査法、内服療法、外用療法、理学的療法	〃
4				2	佐　藤	D-3	4）(5)	水疱症、膿疱症	自己免疫性水疱症、遺伝性水疱症、掌蹠膿疱症、角層下膿疱症、好酸球性膿疱性毛包炎	〃
5		17	木	3	内　藤	E-4	3）(2) (3) (4)	膠原病、血管炎	エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、関節リウマチ、リベド血管症、血管炎	〃
6				4	非常勤講師 野　口	D-3	4）(7)	真菌感染症	白癬、癜風、カンジダ症、スポロトリコーシス、クロモミコーシス、褐色菌糸症	〃
7		18	金	1	古　賀	D-3	4）(8)	悪性リンパ腫関連疾患	菌状息肉症、ATL、未分化大細胞リンパ腫、リンパ腫様丘疹症	〃
8				2	松　田	D-3	4）(8)	美容皮膚科学	レーザー治療、ケミカルピーリング、美白剤	〃
9		24	木	3	非常勤講師 伊　藤	D-3	4）(1) (2)	湿疹・皮膚炎・蕁麻疹・痒疹	接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、痒疹、食物アレルギー	〃
10				4	〃	D-3	4）(2) (4)	紅斑症、薬疹、中毒疹	多形紅斑、結節性紅斑、環状紅斑、皮膚粘膜眼症候群、ベーチェット病、スイート病、成人スチル病、中毒性・アレルギー性薬疹、Stevens-Johnson症候群、TEN	〃
11	12	1	木	3	今　福	D-3	4）(7)	ウイルス感染症	帯状疱疹、単純疱疹、疣贅	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
12	12	1	木	4	今　福	D-3	4)(7)	細菌感染症、性行為感染症	膿痂疹、蜂窩織炎、壊死性筋膜炎、梅毒	講　義
13		8	木	3	佐　藤	D-3	4)(7)	肉芽腫症、抗酸菌感染症、寄生虫症	サルコイドーシス、環状肉芽腫、皮膚結核、ハンセン病、リケッチア、原虫、寄生虫	〃
14				4	内　藤	D-12 D-3	4)(6) 4)(9)	代謝異常症、物理的・化学的皮膚障害、汗腺・脂腺疾患、毛髪疾患、爪疾患、萎縮症、形成異常	アミロイドーシス、黄色腫症、ポルフィリン症、光線皮膚障害、放射線皮膚障害、温熱皮膚障害、汗疹、多汗症、酒さ様皮膚炎、脱毛症、陥入爪、爪囲炎	〃
15		15	木	3	古　賀	D-3	4)(8)	皮膚良性腫瘍、色素異常症、母斑、母斑症	上皮性・間葉系腫瘍、色素脱失、色素増加、色素性母斑、プリングル病、レックリングハウゼン病	〃
16				4	筒　井	D-3	4)(8)	皮膚悪性腫瘍	上皮性・間葉系腫瘍	〃
17		22	木	3	清　水	D-3	4)(3)	紫斑・血行障害・壊疽	レイノー病、下腿潰瘍、褥瘡、糖尿病に伴う皮膚症状	〃
18				4	非常勤講師 鶴　田	D-3	4)(6)	角化症	遺伝性・炎症性角化症	〃
19	1	12	木	1	髙　木	G-4 F-3	2) 6)	形成外科学概論	形成外科の定義、歴史、対象疾患、卒後教育、精神病理、美の基準	〃
20				2	森　田	F-2 G-3	10) 3)	形成外科基本手技	切開縫合、局所皮弁、組織移植術、マイクロサージャリー	〃
21				3	鈴　木	C-4	5)	創傷と創傷治癒学	創傷の種類、創傷管理の歴史、創傷治癒のメカニズム	〃
22				4	岡　本	C-4	5)	創傷管理と創感染	湿潤環境理論、感染創の病態と治療	〃
23		13	金	1	鈴　木	F-1	37)	急性創傷	急性の体表外傷・熱傷、顔面骨骨折	〃
24				2	大　山	F-2	15)	慢性創傷	褥瘡、難治性潰瘍	〃
25		19	木	1	髙　木	E-7	1)	先天異常Ⅰ	先天異常概論、頭蓋・顔面、眼瞼、耳介、口唇・口蓋	〃
26				2	大　山	E-7 G-4	1) 2)	先天異常Ⅱ・顔面神経麻痺	躯幹、四肢、顔面神経麻痺	〃
27				3	髙　木	G-4	2)	再建外科学Ⅰ	概論、頭頸部	〃
28				4	森　田	G-4	2)	再建外科学Ⅱ	乳房再建、殿部・陰部、性同一性障害、四肢	〃
29		20	金	1	小　柳	E-3	5)	皮膚および皮下疾患	皮膚皮下腫瘍、脈管系疾患(血管腫)、ケロイドと肥厚性瘢痕	〃
30				2	非常勤講師 牧　野	G-4	2)	美容外科学・抗加齢医学	老化のメカニズム、抗加齢医学の基礎、美容外科、美容皮膚科	〃
	2	1	水	1	試　験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

臨 床 医 学 入 門 Ⅱ

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　　授	川　浪　大　治（科目責任者）
医学教育推進講座	教　　授	安　元　佐　和（副責任者）
	准 教 授	八　尋　英　二
	講　　師	武　岡　宏　明
	非常勤講師	伊　藤　大　樹（あおばクリニック院長）
小　児　科	准 教 授	井　上　貴　仁（筑紫病院）
臨床検査医学	准 教 授	大久保　久美子
産 婦 人 科	講　　師	倉　員　正　光
脳神経内科	講　　師	三　嶋　崇　靖

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．遺伝学を臨床的視点から理解し、遺伝情報・ゲノム情報に基づいた診断と治療、未発症者を含む患者・家族の支援を学ぶ。(A-1)
2．最新の遺伝子検査法について学習し、実臨床での応用やその必要性について理解できる。(A-2)
3．次世代シークエケンス（NGS）の今後の医療応用への可能性について考えることができる。(A-3)
4．生涯にわたる自己研鑽を通じ人の命に深く関わる医師の職責を理解し、患者中心の医療について学ぶ。(A-4)
5．基本的な身体診察と臨床手技を身に付ける。(B-1)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．医師の倫理に関する規範を概説できる。
2．患者の基本的権利を説明できる。
3．患者やその家族のもつ価値観や社会的背景が多様であり得ることを認識し、そのいずれにも柔軟に対応できる。
4．集団遺伝学の基礎を概説できる。
5．家系図を作成できる。
6．遺伝学的検査の目的と意義を概説できる。
7．遺伝カウンセリングの意義と方法を説明できる。
8．心音と心雑音の聴診ができる。
9．呼吸音と副雑音の聴診ができる。
10．腹部の視診、聴診ができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

1．医療者プロフェッショナリズムについてグループ学習を行う。
2．臨床遺伝学の概念を講義で学ぶ。
3．シミュレーターを使って胸部および腹部の身体診察の技能を学ぶ。

４．客観的臨床能力試験 (OSCE: Objective Structured Clinical Examination) の動画を視聴し、福岡大学医学部編「診断学テキストブック」を熟読する。

5.　持参するもの：聴診器

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

各講義の予習（30分）

【復習】

各講義の復習（30分）

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

小テスト、レポート、出席状況、授業態度など総合的に判断する。

Ⅵ．**教科書**

１．福岡大学医学部編：診断学テキストブック

Ⅶ．**参考書・文献**

１．福嶋義光訳：トンプソン＆トンプソン遺伝医学　メディカル・サイエンス・インターナショナル　第２版　2017

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	11	11	金	3	井上	E-1	1)	臨床遺伝学	遺伝カウンセリング、メンデル遺伝	講義
2				4	大久保	C-1 E-1 F-2	1) (2) 1) 3)⑨	〃	遺伝学的検査、ファーマコゲノミクス	〃
3		18	金	3	三嶋	E-1	1)	〃	発症前診断、保因者診断、トリプレットリピート病	〃
4				4	倉員	E-1	1)	〃	家系図の書き方、出生前診断、再発率の計算	〃
5	1	10	火	3	武岡			腹痛	腹痛の鑑別	〃
6				4	〃			〃	腹部診察	スキルスラボ
7		11	水	1	八尋	D-5	1)	胸部診察(心臓)	心臓の解剖・生理	講義
8				2	〃	F-3	5) (4)	〃	心音と心雑音	スキルスラボ
9		17	火	3	安元			プロフェッショナリズム	チーム医療・臨床倫理4原則	ＴＢＬ
10				4	非常勤講師 伊藤			〃	医療倫理、集団規範・個人規範	〃
11		18	水	1	八尋	D-6	1)	胸部診察(肺)	肺の解剖・生理	講義
12				2	〃	F-3	5) (4)	〃	呼吸音と副雑音	スキルスラボ

第４学年講義要目

福岡大学医学部医学科 卒業時コンピテンシー達成レベル表

レベル（達成度）	Advanced	Applied	Basic			
Ⅰ．プロフェッショナリズム						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。	診療の場で医師としての態度・価値観を示すことができる	医師としての態度・価値観を模擬的に示すことができる	基盤となる態度・価値観を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅱ．医学的知識						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。	実践の場で問題解決に応用できる	問題解決に応用できる知識を示すことができる	模擬症例の問題リストを抽出できる知識を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	修得する機会があるが、単位認定に関係ない	修得する機会がない
Ⅲ．診療技術・患者ケア						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅳ．コミュニケーションとチーム医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅴ．グローバルな視野と地域医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。	実践できる	理解と計画立案ができる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅵ．科学的探究心と自律学習能力						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。	実践できる	理解と計画立案ができる	計画された研究の見学、基盤となる技術・態度を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない

科目名と卒業時コンピテンシー達成レベル【M4】		脳神経病学	精神医学	医療情報社会学	CBT演習	循環器病学	麻酔科学	検査診断学	頭頸部病学	救命救急医学	症候・病態学演習	産科婦人科学	小児医学	再生・移植医学	整形外科学	行動科学Ⅲ	臨床修練入門（診断学実習・スキルスラボ演習・病棟実習）	臨床修練入門（クリニカルクラークシップ）
Ⅰ．プロフェッショナリズム																		
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。																		
1	医療者として法的責任、規則を遵守できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	B	B	A
2	生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C	B	A
3	他者を尊重し、利他的な態度で行動できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C	B	A
4	患者の個人情報保護を遵守できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C	B	A
5	多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C	B	A
6	患者、社会、医療者に対して説明責任を果たすことができる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C	B	A
7	医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C	B	A
8	患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C	B	A
Ⅱ．医学的知識																		
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。																		
1	正常構造と機能	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
2	発達、成長、加齢、死	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
3	心理、行動	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
4	病因、構造と機能の異常	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
5	診断、治療	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
6	医療安全	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
7	疫学、予防、公衆衛生	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
8	保健・医療・福祉制度	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
9	医療経済	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
Ⅲ．診療技術・患者ケア																		
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。																		
1	患者から病歴を的確に聴取できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	B	A
2	成人、小児の基本的な身体診察と基本的臨床手技を実践できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	B	A
3	患者の病歴、診察所見から臨床推論ができる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	B	A
4	診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	B	A
5	頻度の高い疾患について、EBM（Evidence-Baced Medicine）に基づいた診断、治療方針について説明できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	B	A
6	患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	B	A
7	POS（Problem-Oriented System）を用いて診療録を記載し、適切にプレゼンテーションができる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	B	A
8	患者に必要な病状説明・意思決定の場に参加できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	B	A
Ⅳ．コミュニケーションとチーム医療																		
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。																		
1	患者とその家族の個人的背景、文化、社会的背景を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	B	A
2	多職種の医療チーム内で信頼関係を築き、患者中心の医療のために情報を共有し、説明伝達ができる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	B	A
3	他の医療者に、手順を守り適切にコンサルテーションできる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	B	A
4	患者の医学情報を診療録に的確に記載し、医療チーム内で情報を共有できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	B	A
5	医療の国際化を認識し、英語で医療面接ができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	B	A
Ⅴ．グローバルな視野と地域医療																		
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。																		
1	医療制度、社会福祉制度を正しく理解した診療を実践できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	B
2	地域の医療機関、保健、福祉、行政等の関連機関と適切な連携がとれる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	B
3	行政への届け出や社会福祉制度の必要書類を適切に作成できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	B
4	地域医療に参加し、プライマリケアが実践できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	B
5	海外からの患者の診療、医療者との交流が行える。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	B
6	国際保健や医療の社会的問題の情報を収集できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	B
Ⅵ．科学的探究心と自律学習能力																		
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。																		
1	基礎研究、臨床研究の理論と方法を理解することができる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C
2	最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C
3	ICTを適切に利用し情報セキュリティ管理ができる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	A
4	未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C
5	自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	A
6	診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C
7	学生、後輩、同僚に対し教育者として貢献できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C

脳　神　経　病　学

Ⅰ．担当教員名

脳神経内科学	教　　授	坪　井　義　夫	（科目責任者）
	准　教　授	藤　岡　伸　助	
	〃	津　川　　潤	（筑紫病院 脳卒中センター）
	講　　師	合　馬　慎　二	
	〃	三　嶋　崇　靖	
	助　　教	井　上　賢　一	
	〃	西　田　明　弘	
	〃	竹　下　　翔	（筑紫病院 脳卒中センター）
	非常勤講師	赤　松　直　樹	（国際医療福祉大学医学部教授）
	〃	神　田　　隆	（山口大学大学院医学研究科教授）
脳神経外科学	教　　授	安　部　　洋	（副責任者）
	〃	東　　登志夫	（筑紫病院）
	准　教　授	野　中　　将	
	〃	新　居　浩　平	（筑紫病院）
	講　　師	森　下　登　史	
	〃	小　林　広　昌	
	助　　教	榎　本　年　孝	
	〃	天　本　宇　昭	
	〃	堀　尾　欣　伸	
	〃	福　本　博　順	
	〃	河　野　　大	
	〃	入　江　由希乃	
病　理　学	講　　師	青　木　光希子	
放射線科	准　教　授	高　野　浩　一	（筑紫病院）
救命救急医学	准　教　授	岩　朝　光　利	
スポーツ科学部	教　　授	重　森　　裕	

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．医師として必要な神経学の基礎知識（正常と異常）を理解する。（A-1）
2．最新の医学情報を収集し正しく応用できる。（A-2）
3．主要な神経系疾患の病院、病態生理、症候、鑑別疾患、診断を学ぶ。（A-3）
4．各疾患に対し適切な対応を行うための問題解決の能力を身に着ける。（A-4）

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．症候学と検査

到達目標

１）意識とその中枢、大脳高次機能：運動中枢、感覚中枢、言語中枢、視覚中枢、辺縁系などの局在を理解し、病態、症候を説明できる。
２）脳神経、脳幹の解剖、機能を理解し、病態、症候を説明できる。
３）脊髄の伝道路：錐体路、錐体外路、感覚路の解剖、機能を理解し、病態、症候、局所診断を説明できる。
４）小脳の解剖、機能を理解し、病態、症候を説明できる。
５）意識障害、脳ヘルニアの病態を理解し、診断と治療を説明できる。
６）電気生理学的検査：脳波、神経伝達速度、筋電図、SEP（体性感覚誘発電位）、ABR（聴性脳幹誘発電位）の目的、適応とその主な所見を説明できる。
７）放射線学的検査；単純Ｘ線撮影、CT，MRI，脳血管撮影、脳血流検査、脳代謝検査、頚部エコーの基本的な画像所見と見方について説明できる。

２．変性疾患

到達目標

１）変性疾患の肉眼的・顕微鏡的病理所見を説明できる。
２）Parkinson 病の病態、症状、診断と治療を説明できる。
３）Huntington 病の病態、症状、診断と治療を説明できる。
４）進行性核上性麻痺の病態、症状、診断と治療を説明できる。
５）脊髄小脳変性症：オリーブ橋小脳萎縮症（OPCA）、Friedreich 失調症、脊髄小脳変性症（SCA）の病態、症状、診断と治療を説明できる。
６）運動ニューロンを侵す変性疾患：筋萎縮性側索硬化症（ALS）の病態、症状、診断と治療を説明できる。

３．認知症疾患

到達目標

１）認知症の原因を鑑別できる。
２）Alzheimer 病の病理、臨床所見、診断と検査を説明できる。
３）血管性認知症の臨床所見、認知症患者の対策を説明できる。
４）Lewy 小体型認知症、前頭側頭型認知症の病理、臨床所見、診断と検査を説明できる。

４．末梢神経疾患

到達目標

１）ニューロパチーの病態を分類し、鑑別できる。
２）Guillain － Barré 症候群の臨床所見、鑑別診断と検査計画を説明できる。
３）圧迫性ニューロパチーを診断できる。

５．内科疾患に伴う神経障害

到達目標

１）糖尿病性神経症の臨床所見、鑑別診断を説明できる。
２）膠原病に合併する神経徴候を説明できる。
３）肝性昏睡、尿毒症性ニューロパチーを説明できる。
４）腫瘍関連症候群の病因、症状、検査、診断を説明できる。

６．機能的脳外科

到達目標

１）てんかんの分類、診断と治療を説明できる。

２）てんかんの外科的治療を説明できる。

３）不随意運動の分類を説明できる。

４）顔面痙攣、三叉神経痛、舌咽神経痛の症状、病態、治療を説明できる。

７．脱髄性、免疫性神経疾患

到達目標

１）脱髄疾患の肉眼的・顕微鏡的病理所見を説明できる。

２）多発性硬化症の症状、検査と治療を説明できる（視神経脊髄炎との鑑別ができる）。

３）急性散在性脳脊髄炎の症状、検査と治療を説明できる。

８．感染性疾患

到達目標

１）感染性疾患の肉眼的・顕微鏡的病理所見を説明できる。

２）脳炎の原因、臨床所見、鑑別診断を説明できる。

３）髄膜炎の原因、臨床所見、鑑別診断を説明できる。

４）脳膿瘍の臨床所見、検査と治療を説明できる。

５）HTLV-1 関連ミエロパチーの臨床所見、検査を説明できる。

６）AIDS 脳症の病態、臨床所見、診断を説明できる。

７）遅発性ウイルス感染症（Creutzfeldt-Jakob 病（CJD）、亜急性硬化性全脳炎）の臨床所見、診断、治療を説明できる。

８）神経梅毒の診断と治療を説明できる。

９．神経・筋接合部、筋疾患

到達目標

１）重症筋無力症の病態、臨床所見、検査と治療を説明できる。

２）多発筋炎の臨床所見と検査を説明できる。

３）進行性筋ジストロフィーの臨床所見と検査を説明できる。

４）周期性四肢麻痺の臨床所見、検査と治療を説明できる。

10．脳腫瘍

到達目標

１）脳腫瘍の分類、疫学、好発部位、病理を説明できる。

２）神経膠腫（グリオーマ）の分類、診断と治療を説明できる。

３）髄膜腫、聴神経腫瘍、松果体腫瘍の診断、検査と治療を説明できる。

４）傍トルコ鞍部腫瘍：下垂体腺腫 、頭蓋咽頭腫、ラトケ嚢腫の症状、画像所見により鑑別でき、治療について説明できる。

５）転移性脳腫瘍の疫学、治療を説明できる。

６）悪性リンパ腫の画像所見、治療を説明できる。

７）先天性脳腫瘍、母斑症に伴う腫瘍について臨床所見、画像所見を説明できる。

８）頭蓋骨腫瘍：ラングルハンス組織球症、多発性骨髄腫、転移性骨腫瘍などについて、鑑別でき、治療を説明できる。

11．脳血管障害

到達目標

１）脳血管の肉眼的・顕微鏡的病理所見を説明できる。

２）脳梗塞の分類、症状、検査、診断と治療を説明できる。

３）脳血管性認知症の症状、検査、診断と治療を説明できる。

４）高血圧性脳症の症状、検査と治療を説明できる。

５）脳出血の原因、症状、検査、診断と治療を説明できる。

６）クモ膜下出血の原因、症状、検査、診断と治療を説明できる。

12．頭部外傷

到達目標

１）頭部外傷の分類を説明できる。

２）急性硬膜外・硬膜下血腫の症状、検査、診断と治療を説明できる。

３）慢性硬膜下血腫の症状、検査、診断と治療を説明できる。

４）重症頭部外傷の治療を説明できる。

５）頭部外傷後遺症の病態、診断と治療を説明できる。

13．脊髄疾患

到達目標

１）血管障害、感染性疾患の分類、症状、検査、診断と治療を説明できる。

２）腫瘍の分類、好発部位、症状、検査、診断と治療を説明できる。

３）変性疾患：頚椎症、黄色靭帯骨化症、後縦靭帯骨化症の好発部位、症状、検査、診断と治療を説明できる。

４）頭蓋頚椎移行部奇形：環軸椎亜脱臼、頭蓋底陥入症の症状、検査、診断と治療を説明できる。

14．周産期、脳脊髄障害

到達目標

１）水頭症の種類、症状、診断と治療を説明できる。

２）二分脊椎症を概説できる。

３）頭蓋骨早期癒合症の分類、症状と治療を説明できる。

４）頭蓋頚椎移行部奇形（アーノルド・キアリ奇形、脊髄空洞症）を説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．配布する教科書に基づいて講義を行う。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．指定した教科書の講義の項目・キーワードを事前に読んで、専門用語の意味等を理解しておくこと。(30分)

【復習】

１．講義内容を復習し、理解を深めること。(30分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

全講義終了後に試験を行う。講義担当者が出題し、理解度を判定する。

Ⅵ. 教科書

1．田崎義昭、斎藤佳雄：ベッドサイドの神経の診かた　第18版　南山堂　2016

2．児玉南海雄：標準脳神経外科学　第15版　医学書院　2021

Ⅶ. 参考書・文献

1．水野美邦：神経内科ハンドブック　第５版　鑑別診断と治療　医学書院　2016

2．医療情報科学研究所：病気がみえる　vol.7　脳・神経　メディックメディア　2017

3．平山惠造　編：臨床神経内科学　第６版　南山堂　2016

4．太田富雄　編：脳神経外科学　改訂13版　金芳堂　2021

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	4	月	1	坪井	D-2	1)(1)	序論	神経病学概説	講義
2				2	〃	D-2	1)(4)	症候学Ⅰ	意識、大脳高次機能、脳幹部機能、小脳系	〃
3		6	水	3	安部	D-2	4)(1)(4)	神経外科序論	脳神経外科概説	〃
4				4	天本	D-2	1)(3)	症候学Ⅱ	脳神経、脳幹の局在、顔面痙攣、三叉神経痛、神経眼科症候、微小外科解剖	〃
5		8	金	1	藤岡	D-2	4)(6)	運動ニューロン疾患	筋萎縮性側索硬化症、脊髄性進行性筋萎縮症	〃
6				2	竹下	D-2	4)(1)	脳血管障害Ⅰ	脳梗塞、分類、原因、治療	〃
7		11	月	1	坪井	D-2	1)(2)	症候学Ⅲ	錐体路、感覚路、反射、脊髄	〃
8				2	〃	D-2	1)(3)	症候学Ⅳ	錐体外路系、パーキンソニズム、不随意運動	〃
9		13	水	3	榎本	D-2	4)(10)	脳腫瘍Ⅰ	分類、発生、症候、診断、治療、良性脳腫瘍、髄芽腫、転移性腫瘍	〃
10				4	野中	D-2	4)(10)	脳腫瘍Ⅱ	神経膠腫（グリオーマ）、頭蓋咽頭腫、下垂体線腫、悪性リンパ腫、その他の脳腫瘍	〃
11		15	金	1	東	D-2	4)(1)	脳血管障害Ⅱ	脳血管内治療（出血性疾患、DAVF）、脳動脈瘤	〃
12				2	堀尾	D-2	4)(1)②	脳血管障害Ⅲ	脳血管内治療（閉塞性疾患、頚動脈狭窄、血栓溶解）	〃
13		18	月	1	三嶋	D-2	1)(2)	脱髄疾患	多発性硬化症(視神経脊髄炎)、ADEM	〃
14				2	青木	D-2	1)4)	神経病理	脳組織の見方、感染症、変性、脱髄疾患	〃
15		19	火	3	入江	D-2	1)(2)	脊髄疾患Ⅰ	脊椎脊髄外科、末梢神経の外科	〃
16				4	福本	D-2	4)(3)①	感染性疾患Ⅰ	脳膿瘍、硬膜下膿瘍、硬膜外膿瘍、脳結核腫、肥厚性硬膜炎	〃
17		20	水	3	野中	D-2	4)(1)	脳血管障害Ⅳ	SAH、AVM、もやもや病、閉塞性脳血管障害、脳神経外科手術	〃
18				4	藤岡	D-2	1)(5)②	脊髄小脳性変性	孤発性・遺伝性脊髄小脳変性症、痙性対麻痺	〃
19		22	金	1	〃	D-2	4)(2)	錐体外路系疾患	パーキンソン病、進行性核上性麻痺、多系統萎縮症	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
20	4	22	金	2	新居	D-2	3)(4)	頭蓋内圧亢進	脳ヘルニアの病態、意識障害、脳浮腫、脳循環、脳代謝	講義
21		25	月	1	小林	D-2	4)(9)	水頭症・先天性奇形	水頭症、頭蓋骨早期癒合症、頭蓋破裂、脊椎破裂、キアリ奇形、脊髄空洞症	〃
22				2	西田	D-2	1)(2)	脊髄疾患Ⅱ	解剖、症候学	〃
23		26	火	3	非常勤講師 赤松	D-2	4)(7)	機能性疾患	てんかん、神経生理検査、脳波	〃
24				4	合馬	D-2 F-1	4)(2) 32)	認知症性疾患	アルツハイマー病、前頭側頭型認知症、レビー小体型認知症、脳血管性認知症、正常圧水頭症	〃
25		27	水	3	高野	D-2	2)①②	臨床検査Ⅰ	画像診断：頭蓋単純、CT、MRI、脳血管撮影	〃
26				4	森下	D-2	1)(4) (5)③ (6) 3)(1)③ 4)(7)	機能外科	機能外科、てんかん、ボトックス、末梢神経の外科	〃
27	5	2	月	1	河野	D-2	4)(4)	頭部外傷Ⅰ	分類、骨折、脳挫傷、頭蓋内血腫、(急性・慢性)	〃
28				2	重森	D-2	4)(4)	頭部外傷Ⅱ	重症頭部外傷の治療、頭部外傷後後遺症（合併病態）、小児頭部外傷	〃
29		6	金	1	井上	D-2	1)(2) 4)(6)	神経・筋疾患	神経・筋接合部、筋疾患	〃
30				2	非常勤講師 神田	D-2	4)(5)	末梢神経疾患	末梢神経障害、神経痛	〃
31		9	月	1	西田	E-2	4)(1)	感染性疾患Ⅱ	中枢神経感染症総論、脳炎、髄膜炎	〃
32				2	〃	E-2	4)(1)	感染性疾患Ⅲ	神経梅毒、HAM、AIDS、遅発性ウイルス疾患、プリオン病	〃
33		10	火	3	津川	D-2	2)②	臨床検査Ⅱ	筋電図、神経伝導検査、誘発筋電図	〃
34				4	合馬	D-2	3)4)	内科疾患に伴う神経障害	代謝性脳症、腫瘍関連症候群	〃
35		11	水	3	竹下	D-2 F-1	4)(8) 33)	頭痛	病態、分類、診断、治療	〃
36				4	岩朝	D-2	4) (1)～(7) (9)	脳神経外科疾患のプライマリケア	基本的処置、初期治療、手術手技、PNLS	〃
		24	火	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

精　神　医　学

Ⅰ．担当教員名

精神医学	教　授	川　嵜　弘　詔	（科目責任者）
	講　師	堀　　輝	
	〃	衞　藤　暢　明	（副責任者）
	助　教	飯　田　仁　志	
	〃	原　田　康　平	
	〃	箱　田　浩　介	（筑紫病院　腫瘍・緩和ケアセンター）
	〃	畑　中　聡　仁	
	〃	田　口　公　之	
	〃	北　井　良　和	
	〃	林　　礼　雄	
	〃	吉　村　裕　太	
	臨床心理士	矢　野　里　佳	
	非常勤講師	杠　　岳　文	（国立病院機構肥前精神医療センター　病院長）
	〃	西　村　良　二	（医療法人恵愛会　福間病院　理事長）
	〃	尾　籠　晃　司	（福岡国際医療福祉大学　教授）
	〃	小曽根　基　裕	（久留米大学医学部神経精神医学講座　教授）
	〃	木　村　豪　雄	（桜十字福岡病院）
	〃	川　口　貴　子	（福岡市精神保健福祉センター　所長）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

精神病理現象の多次元的理解（原因）と問題解決の方法（治療）を発見するための学習をすることを目標とする。

1．症状記載にとどまらず、ライフ・サイクルあるいは生活様式との関連で、病因となる身体因、心因、社会因を理解する。(A-1)
2．症状、疾病の多次元的理解が治療に直結することを会得させる。(A-2)
3．診断と治療におけるチーム医療の必要性ならびに治療者患者関係が患者に与える影響について理解させる。(A-3)
4．精神疾患にとどまらず、一般診療に必要な精神医学を会得させる。(A-4)
5．精神身体医学的視点を学習させる。(C-3)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

No.1

⑴　正常と異常、精神の病の定義について説明することができる。
⑵　精神医学の歴史について説明することができる。
⑶　精神医学・精神医療の最近の発達について説明することができる。
⑷　伝統的慣用分類の特徴と問題点を説明することができる。

⑸　疾患の成因については、古典的モデルから Bio-Psycho-Social モデルに至るまで、いくつかの考え方がある。精神医学の歴史をふりかえるとともにそれぞれの説明とそれにもとづく治療論までの説明をすることができる。

⑹　心因から身体因、外因、内因に至る成因論を説明することができる。

No.2

⑴　意識・意識障害、せん妄について説明できる。

⑵　見当識・見当識障害について説明できる。

⑶　記憶・記憶障害について説明できる。

⑷　知能・知能障害について説明できる。

No.3

⑴　知覚・知覚の異常について説明できる。

⑵　思考・思考障害について説明できる。

⑶　感情・感情の異常について説明できる。

⑷　意思・欲動・行動・自我意識とそれらの異常について説明できる。

No.4

⑴　面接の背景にある診断基準が説明できる。

⑵　面接への導入において注意すべき点を説明できる。

⑶　面接で聴取すべきことを説明できる。

⑷　面接で観察すべきことを説明できる。

⑸　面接を円滑に進める技法について説明できる。

No.5

⑴　心理アセスメントの１つとしての心理検査を説明することができる。

⑵　被検者、検査者、心理検査の目的に応じて、検査が影響を受けることを説明することができる。

⑶　知能検査、人格検査、その他の心理検査について説明することができる。

⑷　自分での実施を通して、心理検査の内容の把握を行うことができる。

No.6

⑴　精神療法の定義、形態、介入技法について説明できる。

⑵　治療関係を説明できる。

⑶　各種の精神療法（行動療法、認知行動療法、精神分析、精神力動的精神療法）の内容について説明できる。

No.7

⑴　精神科臨床における身体的検査法とその意義を説明することができる。

⑵　脳波記録法の概略を説明することができる。

⑶　正常脳波（睡眠、年齢による変化）を説明することができる。主な脳波異常について説明することができる。

No.8

⑴　向精神薬療法の歴史について概略を説明することができる。

⑵　向精神薬の種類と作用特性について説明することができる。

⑶　向精神薬の作用の一般的特性について説明することができる。
⑷　向精神薬の副作用について説明することができる。
⑸　各種状態像に対する向精神薬療法の概略を説明することができる。
⑹　向精神薬療法の功績とそれへの反省について説明することができる。
⑺　精神外科、光療法などその他の身体的療法について説明することができる。
⑻　電気ショック療法については、創始、病理、治療の実際、適応、禁忌、偶発事故、副作用、看護について説明することができる。

No.9

⑴　ACT（Assertive Community Treatment）について説明できる。
⑵　DPAT（Disaster Psychiatric Assistance Team）について説明できる。
⑶　MHFA（Mental Health First Aid）について説明できる。
⑷　クロザピンについて説明できる。
⑸　ECT（electroconvulsive therapy）について説明できる。
⑹　rTMS（Repetitive transcranial magnetic stimulation）について説明できる。
⑺　スポーツ精神医学について説明できる。

No.10

⑴　精神作用物質とは何か、その使用障害（乱用、依存）と後遺障害について説明することができる。
⑵　アルコール依存症の症状とその治療および予防的介入について説明することができる。
⑶　依存症当事者の体験談を聞き追体験することができる。

No.11

⑴　不安障害（パニック障害、恐怖症性あるいは全般性不安障害）に関して、疫学、原因、症状、経過、療育について説明できる。
⑵　解離性＜転換性＞障害に関して、疫学、原因、症状、経過、療育について説明できる。
⑶　身体表現性障害に関して、疫学、原因、症状、経過、治療について説明できる。

No.12

⑴　ストレスによる視床下部・下垂体・副腎系の反応を理解することができる。
⑵　情動の脳内メカニズムを理解することができる。
⑶　うつ病の病因を科学的に説明することができる。
⑷　うつ病の治療について説明することができる。
⑸　気分障害はどのような病気で、どのような症状を呈するかを説明することができる。
⑹　単極型、双極型それぞれの罹病危険率、有病率を説明することができる。
⑺　躁病、うつ病それぞれの精神症状、身体症状を説明することができる。
⑻　単極型、双極型それぞれの経過を分類し、その特徴を説明することができる。
⑼　診断の進め方およびDSM-5、ICD-10の概略を説明することができる。
⑽　従来から使われてきた分類のうち特別な名前のついた亜型を説明することができる。
⑾　病因に関する代表的な仮説を説明することができる。
⑿　病前性格、遺伝、発症の誘因・状況因を説明することができる。
⒀　基本的な治療法を説明することができる。

⒁　再発予防の方略を説明することができる。

No.13

⑴　精神保健福祉法の概念、入院形態、人権擁護のためのしくみ、インフォームドコンセント、社会復帰促進のための制度について説明できる。

⑵　地域精神医療（精神科リハビリテーション、精神科救急）について説明できる。

⑶　司法精神医学（精神障害者と刑法、医療観察法、成年後見制度）について説明できる。

⑷　学校精神保健、産業精神保健（産業医の役割、ストレスチェック制度など）について説明できる。

No.14

⑴　多動性障害に関して、疫学、原因、症状、経過、療育について説明できる。

⑵　小児自閉症に関して、疫学、原因、症状、経過、療育について説明できる。

⑶　Asperger 症候群、高機能自閉症について説明できる。

⑷　知的障害（精神遅滞）に関して、疫学、原因、症状、経過、療育について説明できる。

⑸　チック障害に関して、疫学、原因、症状、経過、治療について説明できる。

⑹　現代青少年の心理社会的特徴について説明できる。

⑺　不登校（登校拒否）に関して、疫学、原因、症状、経過、治療について説明できる。

⑻　社会不安障害（対人緊張症）に関して、疫学、原因、症状、経過、治療について説明できる。

No.15

⑴　器質性精神障害と症状性精神病障害の概念について説明することができる。

⑵　主な器質性精神障害を列記し、それぞれの病像を説明することができる。

⑶　せん妄や通過症候群などについて説明することができる。

No.16

⑴　精神腫瘍学の概念について説明できる。

⑵　がん患者に多く見られる精神症状を説明できる。

⑶　緩和医療における患者・家族の心理を説明できる。

No.17, 18

⑴　認知症の概念について説明することができる。

⑵　認知症およびせん妄の鑑別診断をすることができる。

⑶　認知症における中核症状と行動・心理症状について説明することができる。

⑷　脳血管性認知症とアルツハイマー型認知症の鑑別をおこなうことができる。

⑸　レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症などを説明することができる。

No.19

⑴　統合失調症の概念が説明できる

⑵　統合失調症の疫学、病前性格が説明できる。

⑶　統合失調症の病因・病態仮説を想起できる。

⑷　統合失調症の症状の特徴を陽性症状と陰性症状に分けて想起できる。

No.20

⑴　統合失調症の治療の進め方の基本と、薬物療法、精神療法、電気けいれん療法、社会復帰療法について説明できる。

⑵　統合失調症の再発予防の方略を説明できる。
⑶　統合失調症の近縁疾患について説明できる。

No.21

⑴　ストレス関連疾病（外傷後ストレス障害＜ PTSD ＞を含む）に関して、疫学、原因、症状、経過、療育について説明できる。
⑵　心身症（摂食障害を含む）に関して、疫学、原因、症状、経過、療育について説明できる。

No.22

⑴　睡眠覚醒障害の原因・診断や治療法について説明することができる。

No.23

⑴　パーソナリティ障害がどのような障害かを説明できる。
⑵　パーソナリティ障害の大分類と諸類型を説明できる。
⑶　パーソナリティ障害を合併しやすい精神障害を説明できる。
⑷　パーソナリティ障害が医療機関にどのような形で登場するのか説明できる。
⑸　境界性パーソナリティ障害の病態と治療について説明できる。
⑹　性行動の異常がどのような障害かを説明できる。

No.24

⑴　東洋医学の視点を理解することができる。

No.25

⑴　コンサルテーション・リエゾン精神医学（CLP）が臨床精神医学の一分野であることを理解し、説明できる。
⑵　CLP の定義、歴史、課題について理解し、コンサルテーションとリエゾンの違いを説明できる。
⑶　CLP の臨床的実践の具体的内容について理解し、説明できる。

No.26

⑴　わが国の自殺の現状、対策とそれに関わる法律が説明できる。
⑵　自殺の危険因子を説明できる。
⑶　多くの自殺に精神疾患が関わっていることを理解し、精神保健との関係を説明できる。
⑷　自殺の危険の高い人への対応の方法を実践できる。
⑸　自殺で遺された家族・医療者へのケア、支援について説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．印刷物、パワーポイントを使って講義を行う。
２．映画、テレビ（VTR）を情報センターにて視聴し学習を促進する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．キーワード、行動目標を確認して講義にのぞむ。（30分）

【復習】

１．指定教科書を読み、講義の内容を確認する。（30分）講義後小テストを実施する。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

１．期末の論述試験により評価する。

２．指定した課題についてのレポートにより評価する。

Ⅵ．**教科書**

野村総一郎、樋口輝彦　編：標準精神医学　第８版　医学書院

Ⅶ．**参考書・文献**

大熊輝雄：現代臨床精神医学　改訂第12版　金原出版

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	4	月	3	川　嵜	D15	1)②③	精神医学とは何か	ヒポクラテス、ピネル、クレペリン、ブロイラー、フロイド、成因論、内因、外因、身体因、心因、性格、家族、文化、Bio-Psyco-Socialモデル	講　義
2				4	北　井	D15	2)②	精神機能とその異常１	意識障害、せん妄、見当識、記憶障害、知能障害	〃
3		8	金	3	〃	D15	2)	精神機能とその異常２	妄想、強迫、錯覚、幻覚、思考障害、抑うつ、両価性、緊張病症候群、自我意識	〃
4				4	林	D15	1)①②	精神医学的診断１	操作的診断基準、傾聴、共感、精神症状測定、評価尺度	〃
5		11	月	3	川　嵜 （矢　野）	D15	1)⑤	精神医学的診断２ 心理検査	心理アセスメント、ラポール、検査バッテリー、知能検査、人格検査（質問紙法、投映法、作業検査法）	〃
6				4	非常勤講師 西　村	C5	2)①3)④5)②8)②③	精神科治療学１ 精神療法	行動療法、認知行動療法、精神分析的精神療法、精神分析、転移、防衛機制	〃
7		15	金	3	林	D2	2)	精神医学的診断３	身体面の検査、検査と意義、脳波記録の意義と記録法、正常脳波（成人、小児、覚醒、睡眠）と異常脳波（非突発性、突発性）	〃
8				4	吉　村	D15 F2	3)③～⑦ 1)2)8)①～④⑧～⑩	精神科治療学２ 薬物療法	抗精神病薬、抗うつ病薬、抗躁薬、抗不安薬、抗けいれん薬、薬の作用特性と副作用、電気ショック療法、精神外科、光療法	〃
9		18	月	3	畑　中	A9	1)②	精神医学のトピックス	ACT（Assertive Community Treatment）、DPAT（Disaster Psychiatric Assistance Team）、MHFA（Mental Health First Aid）、クロザピン、ECT（electroconvulsive therapy）、rTMS（Repetitive transcranial magnetic stimulation）、スポーツ精神医学	〃
10				4	非常勤講師 杠	D15	3)③	アルコール、薬物依存	アルコール、覚せい剤、危険ドラッグ、物質使用障害、離脱症状、ブリーフインターベンション	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
11	4	21	木	1	原田	D15	3)⑦⑨	神経症	心因、葛藤、防衛、浮動性不安、ストレス、心身相関、心因反応、急性ストレス反応、外傷後ストレス障害（PTSD）、性別違和、行動科学	講義
12				2	吉村	D15	3)⑤⑥	気分障害	ストレス、うつ病、脳科学、治療単極型、双極型、循環気質、執着性格、メランコリー親和型、抑うつ気分、精神運動制止、思考制止、仮面うつ病、急速交代型、季節性感情障害、モノアミン欠乏仮説、モノアミン受容体過感受性仮説、抗うつ薬、気分安定薬、電気けいれん療法、支持的精神療法、認知療法	〃
						F1	31)			
						F2	8)③			
13		22	金	3	非常勤講師 川口	D15	1)③	精神医療と社会	精神保健福祉法、精神科リハビリテーション、精神科救急、成年後見制度、メンタルヘルス対策	〃
14				4	田口	C5	5)②	児童、思春期、精神医学	広汎性発達障害、Kanner、学習障害、チック障害、被虐待児症候群、行動科学、青年期の発達課題、不登校、社会不安障害（対人緊張症）、行動科学	〃
						D15	3)⑪⑫			
15		25	月	3	飯田	D15	3)①	器質性精神障害および症状性精神障害	認知症、器質性精神病、症状性精神病、せん妄、外因（外因反応型）精神障害、通過症候群、てんかん	〃
16				4	箱田	F2	16)	緩和ケアとサイコオンコロジー（精神腫瘍学）	Quality of life、せん妄、適応障害、うつ病、死にゆく患者の心理、緩和ケア研修会	〃
17		28	木	1	飯田	D15	3)②	認知症 1	脳血管性認知症、Alzheimer型認知症、Lewy小体型認知症、前頭側頭型認知症	〃
18				2	非常勤講師 尾籠	D15	3)②	認知症 2	脳血管性認知症、Alzheimer型認知症、Lewy小体型認知症、前頭側頭型認知症	〃
19	5	2	月	3	堀	D15	3)④	統合失調症 1	早発性痴呆、Bleulerの４徴候、ドーパミン仮説、Schneiderの一級症状、陽性症状、陰性症状、抗精神病薬、心理社会療法	〃
20				4	〃	D15	3)④	統合失調症 2	早発性痴呆、Bleulerの４徴候、ドーパミン仮説、Schneiderの一級症状、陽性症状、陰性症状、抗精神病薬、心理社会療法	〃
21		6	金	3	畑中	D15	2)③ 3) ⑦～⑨	心身症	心因、葛藤、防衛、浮動性不安、ストレス、心身相関、心因反応、急性ストレス反応、外傷後ストレス障害（PTSD）、行動科学、摂食障害	〃
22				4	非常勤講師 小曽根	D15	2)②	睡眠覚醒障害	睡眠覚醒障害、生体リズム、睡眠薬	〃
23		9	月	3	原田	D15	3)⑩	パーソナリティ障害と行動異常	分裂気質、多軸評定、反社会性パーソナリティ障害、境界性パーソナリティ障害、薬物依存、行動科学	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
24	5	9	月	4	非常勤講師 木村	F2	8)⑬	漢方精神医学	証、陰陽、虚実、気・血・水理論	講義
25		12	木	1	衞藤	D15	1)④	コンサルテーション、リエゾンサービス	コンサルテーション精神医学、リエゾン精神医学	〃
26				2	〃	B1	5)④	自殺予防	自殺に関する統計、自殺に関わる法律、自殺率、自殺の危険因子、自殺と精神疾患、自殺の危険の高い人への対応、TALKの原則、自殺行動に関連した心理状態、自死遺族	〃
		27	金	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

頭　頸　部　病　学

Ⅰ．担当教員名

耳鼻咽喉科学	教　　授	坂田俊文（科目責任者）
	講　　師	末田尚之
	〃	田浦政彦
	助　　教	妻鳥敬一郎
	〃	打田義則
	〃	宮﨑　健
	〃	前原宏基
	言語聴覚士	永田里恵
	非常勤講師	山野貴史（福岡歯科大学教授）
歯科口腔外科学	教　　授	近藤誠二（副責任者）
	准教授	梅本丈二
	講　　師	瀬戸美夏
	〃	喜多涼介
	〃	吉野　綾

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．頭頸部領域（耳、鼻、副鼻腔、口腔、咽頭、喉頭、気管、食道、頸部）の正常解剖と生理機能、加齢変化、疾患、診断、治療について習得することができる。(A-1)
2．頭頸部領域について、最新の医学情報を収集し、理論的に評価し、習得することができる。(A-2)
3．頭頸部領域について、未解明な医学的、科学的課題を発見し、解明の道筋を考察することができる。(A-3)
4．頭頸部領域について、自己の学習到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。(A-4)
5．社会における耳鼻咽喉科・歯科口腔外科の存在意義を学ぶことができる。(A-2)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．耳、鼻、副鼻腔、口腔、咽頭、喉頭、気管、食道、頸部の正常解剖と生理機能を説明できる。
2．上記1. の領域に起こる加齢変化とその対応を説明できる。
3．聴覚、平衡、嗅覚、味覚、音声、嚥下の基本検査を説明できる。
4．難聴、耳鳴、めまい、鼻閉、鼻漏、嗄声、呼吸困難、顔面神経麻痺、頸部腫脹を起こす主要疾患とその特徴を説明できる。
5．画像診断で上記1. の領域に起こる病変を説明できる。
6．上記1. の領域で行う外科的治療、内科的治療、精神科的治療の内容と適応を列記できる。
7．耳鼻咽喉科・歯科口腔外科の社会的存在意義を、聴覚障害や音声・言語障害などのコミュニケーション障害や嚥下障害などから説明できる。
8．口腔常在菌の重要性を理解し、口腔ケアの意義を説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．講義へ出席し、聴講する。

２．授業開始時に配布した用紙に予習で生じた疑問点を１つ記載し、授業終了後に解答を簡潔に記し提出する。

３．配布した講義テキストと購入した指定参考書で自主学習する。

４．用意された臨床症例からシミュレーション学習で知識を補完する。

５．復習する過程で生じた疑問点を信頼できる情報源によって解決する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．配布した講義テキストと指定参考書※で該当講義のキーワードについて自主学習し、疑問点があればまとめておく。(40分)

※イヤーノートは簡略化されているのでＭ４講義の主教材とは認めない。

【復習】

１．講義の内容を確認し、自分で理解し記憶しやすいようまとめる。たとえば指定参考書への書き込みなども有用である。(40分)

２．講義の内容について理解できなかった部分を、次回の講義で質問するためにまとめる。(20分)

Ⅴ．**成績評価の基準および方法**（Evaluation）

１．論述試験、客観試験により評価する。

２．講義への出席状況、学習態度も評価の対象とする。

Ⅵ．**教科書**

洲崎春海他：SUCCESS 耳鼻咽喉科　第２版　2017

※Ｍ６まで使用するので必ず購入すること

Ⅶ．**参考書・文献**

１．森満　保：イラスト耳鼻咽喉科　第４版　2012

２．野村恭也他：新耳鼻咽喉科学　改訂11版　2013

３．全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議：口の中がわかる　ビジュアル 歯科口腔科学読本

４．才藤栄一・植田耕一郎他：摂食嚥下リハビリテーション　第３版　2016

※上記以外の教科書、参考書についても、2010年以降の出版物に限る。

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード (教科書対応ページ)	授業形態
1	4	5	火	1	坂田	D-14		耳鼻咽喉科 頭頸部外科	耳鼻咽喉科概説、脳神経	講義
2				2	〃	D-14	1)2)①	聴覚耳科基礎・聴力検査	聴器の形態と生理　聴力検査 (3－20、23－32)	〃
3		12	火	1	妻鳥	D-14	1)①4)	耳科学各論１	外耳、中耳疾患１(47－64)	〃
4				2	〃	D-14	1)①4)	耳科学各論２	外耳、中耳疾患２(47－64)	〃
5		19	火	1	坂田	D-14	2)①4)	耳科学各論３	聴力検査、感音難聴 (23－32、65－80)	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード（教科書対応ページ）	授業形態
6	4	19	火	2	坂田	D-14	1)3)4)	耳科学各論４	小児難聴と言語の発達、人工内耳（23－32、42－46、65－80）	講義
7		26	火	1	打田	D-14	1)2)4)	鼻・副鼻腔基礎	鼻・副鼻腔の解剖、生理（95－143）	〃
8				2	〃	D-14	1)2)4)	鼻・副鼻腔各論	鼻・副鼻腔疾患と腫瘍、鼻アレルギー（95－143）	〃
9	5	10	火	1	宮崎	D-14	1)～4)	平衡基礎、検査	平衡器官の解剖・生理、平衡検査と聴覚検査（3－9、17－19、42－46）	〃
10				2	〃	D-14 F-1	1)～4) 9)	平衡各論、顔面神経	平衡障害、顔面神経の解剖と検査、麻痺、リハビリ（10、74－80、85－91）	〃
11		31	火	1	田浦	D-14 F-1	1)3)4) 19)	音声、嚥下基礎	音声、嚥下の解剖、生理と検査（156－159、163－164、179－188）	〃
12				2	非常勤講師 山野	D-14 F-1	1)3)4) 19)	音声、嚥下各論	音声、嚥下障害（156－159、163－164、179－188）	〃
13	6	3	金	3	坂田 （永田）	D-14	1)3)4)	言語聴覚士について	言語聴覚士の役割	〃
14				4	坂田	D-14	1)3)4)	音声、嚥下障害の言語聴覚療法	音声、嚥下障害の言語聴覚療法、リハビリテーション	〃
15		7	火	1	〃	D-14	1)～4)	聴覚各論	難聴者の聴覚管理	〃
16				2	前原	D-14 F-1	3)(1) 4)(1) 15)	救急疾患	鼻出血、呼吸困難、異物、急性炎症（106－108、182－188）（104、117－119、203－212）	〃
17		10	金	3	田浦	D-14	1)4)	頭頸部疾患１	口腔咽頭唾液腺の解剖、生理（149－178）	〃
18				4	〃	D-14	1)4)	頭頸部疾患２	口腔咽頭唾液腺疾患、味覚障害（149－178）	〃
19		14	火	1	末田	D-14	1)4)(2)	頭頸部腫瘍総論	化学療法、再建外科	〃
20				2	〃	D-14	1)4)(2) 4)(2)	頭頸部腫瘍各論１	咽頭、喉頭腫瘍、口腔悪性腫瘍（174－178、197－200、228－235）	〃
21		17	金	3	〃	D-14	1)4)(2) 4)(2)	頭頸部腫瘍各論２	甲状腺腫瘍、頸部腫瘍、その他悪性腫瘍（174－178、197－200、228－235）	〃
22				4	〃	D-14	1)4)(2) 4)(2)	頭頸部腫瘍各論３	口腔唾液腺腫瘍、悪性リンパ腫（174－178、197－200、228－235）	〃
23		21	火	1	坂田	D-14		耳鼻咽喉科の最近のトピック	耳鼻咽喉科と心身医学	〃
24				2	〃	D-14		〃	耳鼻咽喉科領域の先端科学	〃
25		24	金	3	〃	D-14		〃	一般臨床に必要な耳鼻咽喉科の知識	〃
26				4	〃	D-14		〃	〃	〃
27		28	火	1	〃	D-14		〃	〃	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード (教科書対応ページ)	授業形態
28	6	28	火	2	梅本	D-7	1)	摂食・嚥下障害	摂食嚥下障害、誤嚥性肺炎、嚥下機能検査、摂食嚥下リハビリテーション、栄養サポートチーム	講義
						D-14				
						E-8				
						F-1	19)			
29	7	1	金	3	〃	D-6	4)	睡眠時無呼吸症候群	睡眠時無呼吸症候群、歯ぎしり、口腔内装置、睡眠時無呼吸症候群検査	〃
30				4	近藤	C-2	4)⑧	歯科口腔外科学総論	口腔顎顔面の発生、解剖と機能、口腔腫瘍、唾液腺疾患、顎骨疾患	〃
						D-4	1)			
						D-14	4)			
						E-3				
						E-4				
31		5	火	3	瀬戸	A-6	1)	歯科の麻酔、内科疾患と歯科外科治療	局所麻酔、歯科治療に伴う全身への影響	〃
						D-6	4)			
						D-14	4)			
						F-2	10)			
32		8	金	3	吉野	D-7	1)	内因性の感染源としての口腔	う蝕と歯周病・口腔粘膜疾患・歯性感染症・顎骨壊死・周術期口腔機能管理	〃
						D-14	1)～4)			
						E-2				
33				4	喜多	C-4	5)	外傷、顎変形症	歯の外傷、顎骨骨折、顎関節脱臼、不正咬合、顎変形症	〃
						D-14	1)3)			
		22	金	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

麻　酔　科　学

Ⅰ．担当教員名

麻酔科学	教　授	秋吉浩三郎（科目責任者）
	准教授	重松研二（手術部）
	講　師	楠本　剛
	〃	若崎るみ枝（筑紫病院）
	助　教	柴田志保
	〃	岩下耕平（手術部）
	〃	佐藤聖子
	〃	三股亮介
	非常勤講師	山浦　健（九州大学大学院医学研究院麻酔・蘇生学分野教授）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

１．麻酔の知識を習得し、診療に応用できる。(A-1)
２．麻酔関連の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。(A-2)
３．未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組むことができる。(A-3)
４．自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．全身麻酔と局所麻酔の違いについて説明できる。
２．全身麻酔について鎮静との違いも含めて説明できる。
３．気道・呼吸管理について説明できる。
４．循環管理、輸液・輸血について説明できる。
５．バイタルサイン・生体情報モニタリングについて説明できる。
６．止血・凝固および深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症について説明できる。
７．全身麻酔薬・鎮静薬・筋弛緩薬・オピオイドについて説明できる。
８．局所麻酔について方法、麻酔薬、合併症を説明できる。
９．各科麻酔について説明できる。
10．アナフィラキシーショックについて説明できる。
11．集中治療について説明できる。
12．痛みについて急性痛、慢性痛、がん性疼痛について説明できる。
13．周術期の医療安全について説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．配布する教科書に基づく講義

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(30分)

【復習】

１．テキストの授業範囲を確認し、関連する医師国家試験の既出問題を確認する。(30分)

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

１．客観試験

Ⅵ．教科書

１．指定無し

Ⅶ．参考書・文献

１．Miller's Anesthesia　第9版
ガイトン生理学　第13版
標準麻酔科学　第7版
周術期管理チームテキスト　第3版

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	5	火	3	秋吉	F-2	9)(2)10)	麻酔科学概説	麻酔の概念、生体防御	講義
2				4	重松	F-2	10)	気道・呼吸管理	気管確保法、人工呼吸、呼吸モニタリング	〃
3		7	木	3	秋吉	D-5	1)	循環管理	臓器の循環調節、血圧調節、心機能曲線、心拍出量、循環モニタリング	〃
						F-2	10)			
4				4	岩下	D-6	4)(4)	体液・代謝管理	輸液、輸血、危機的出血、肺血栓塞栓症、栄養、蛋白異化、低体温	〃
						F-2	9)(2)13)			
5		12	火	3	三股	F-2	9)(2)10)	バイタルサインモニタリング	安全な麻酔のためのモニタリング	〃
6				4	楠本	F-2	9)(2)10)	術前評価	周術期のリスク、服薬管理の必要性とそれに伴うリスク、ERAS	〃
7		14	木	3	岩下	F-2	10)	全身麻酔	麻酔薬（吸入麻酔と静脈麻酔）筋弛緩薬、悪性高熱症	〃
8				4	若崎	F-2	10)	局所麻酔	局所麻酔薬、末梢神経ブロック、神経叢ブロック、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、局所麻酔薬中毒	〃
9		21	木	3	佐藤	F-2	10)	各科手術の麻酔	心臓血管外科手術、脳外科手術、産科手術	〃
10				4	重松	E-2	1)	集中治療	敗血症、アナフィラキシーショック	〃
						F-2	9)(2)			
11		28	木	3	柴田	F-2	10)16)	ペインリニック緩和ケア	術後痛、慢性痛、緩和ケア	〃
12				4	非常勤講師 山浦	A-6	1)～3)	周術期の医療安全	医療安全、感染対策、電気安全、医療ガス	〃
						F-2	10)			
	5	17	火	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

C　B　T　演　習

Ⅰ．担当教員名

医学教育推進講座　教　　授　安元佐和（科目責任者）
　　准教授　八尋英二
　　講　　師　武岡宏明

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．臨床実習に臨むにあたり、これまでの行動科学、基礎医学、社会医学と臨床系臓器別講義で学んだ知識を統合できる。(A-1)
2．最近の基礎医学、臨床医学の知識を用いて、問題解決ができる。(A-2)
3．主要な臓器の正常構造と疾病の病態から鑑別診断・治療までの概要を説明できる。(A-3)
4．CBT に向けて自己の目標を定め、自律的に学習できる。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．モデル・コア・カリキュラムで求められている臨床実習前に必要な知識が習得できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

1．モデル・コア・カリキュラムの項目別に出題される演習問題を e-learning で受験する。
2．モデル・コア・カリキュラムの内容を確認して受験する。受験後は習得不十分な部分を復習する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

1．出題される範囲を予習する。(60分)

【復習】

1．e-learning 受験後、習得不十分な部分を復習する。(60分)

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

60点以上で合格、割合は下に記す。
全演習の受講　70%、最終テスト　30%。合計100点満点。
演習受講が3分の2に満たない場合、原則として全国共用試験（CBT）再試験を受けることができない。

Ⅵ．教科書

関連授業科目の教科書を参照

Ⅶ．参考書・文献

関連授業科目の教科書を参照

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	授業形態
1	4	5	火	5	全員			オリエンテーション 体験受験	講義 C B T
2		12	火	5	〃	A1～9		医師として求められる基本的な資質・能力	C B T
						B-1		社会と医学・医療	
						B-2	2)		
						B-3			
						B-4			
3		19	火	5	〃	C-1		生命現象の科学	〃
						C-2	1)～3)	個体の構成と機能　(1)細胞の構成と機能 (2)組織・各臓器の構成、機能と位置関係 (3)個体の調節機構とホメオスタシス	
4		26	火	5	〃	C-2	4)5)	個体の構成と機能　(4)個体の発生 (5)生体物質の代謝	〃
						E	1	遺伝医療・ゲノム医療	
5	5	31	火	5	〃	C-3	1)2)	個体の反応　(1)生体と微生物 (2)免疫と生体防御	〃
6	6	7	火	5	〃	C-3	3)	個体の反応　(3)生体と薬物	〃
						C-4		病因と病態	
						C-5		人の行動と心理	
7		14	火	5	〃	C D		多選択肢形式 「病態の背景となる医科学的基盤を問う」	〃
8		21	火	5	〃	D-3		皮膚系	〃
						D-6		呼吸器系	
9		28	火	5	〃	D-7		消化器系	〃
						D-13		眼・視覚系	
10	8	23	火	5	〃	D-8		腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む）	〃
						E-4		免疫・アレルギー系	
11		30	火	5	〃	D-12		内分泌・栄養・代謝系	〃
						B-2	1)	死と法	
						E-9		人の死	
12	9	6	火	5	〃	D-2		神経系	〃
						E-8		加齢と老化	
13		13	火	5	〃	D-5		循環器系	〃
						E-2		感染症	
14		20	火	5	〃	D-14		耳鼻・咽喉・口腔系	〃
						D-15		精神系	
15		27	火	5	〃	E-5		物理・化学的因子による疾患	〃
						E-6		放射線の生体影響と放射線障害	
						E-7		成長と発達	
16	10	17	月	1	〃	D-9		生殖機能	〃
						D-10		妊娠と分娩	〃
						D-11		乳房	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	授業形態
17	10	17	月	2	全員	D-1		血液・造血器・リンパ系	CBT
						D-4		運動器（筋骨格）系	
						E-3		腫瘍	
				3					自習
				4					〃
18		18	火	1	全員	F-1		症候・病態からのアプローチ 多選択肢形式「症候から診断を問う」	CBT
						F-2		基本的診療知識	
						F-3		基本的診療技能	
19				2	〃	D E		順次解答４連問形式	〃
				3					自習
				4					〃
20		19	水	1	全員	A～F		最終テスト	CBT
				2					自習
				3					〃
				4					〃
		20	木	1					〃
				2					〃
				3					〃
				4					〃
		21	金	1					〃
				2					〃
				3					〃
				4					〃
		24	月	1					〃
				2					〃
				3					〃
				4					〃
		25	火	1					〃
				2					〃
				3					〃
				4					〃
		26	水	1					〃
				2					〃
				3					〃
				4					〃
		27	木	1					〃
				2					〃
				3					〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項　　目	授業形態
	10	27	木	4					自　　習
		28	金	1					〃
				2					〃
				3					〃
				4					〃
		31	月	1					〃
				2					〃
				3					〃
				4					〃

医療情報社会学

Ⅰ．担当教員名

総合診療部	教　　授	鍋島茂樹（科目責任者）
医療情報部	准教授	吉田陽一郎（副責任者）
臨床研究支援センター	教　　授	野田慶太
感染制御部	教　　授	髙田　　徹
臨床医学研究センター	教　　授	志村英生
腫瘍・血液・感染症内科学	准教授	田中俊裕
腎臓・膠原病内科学	准教授	安野哲彦
放射線科	助　　教	谷　　知允
	非常勤講師	谷原真一（久留米大学医学部　教授）
	〃	小河原　　悟

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．診療録の記載、利用方法を習得する。(A-1)
2．最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。(A-2)
3．診療や病院情報の分析と情報の管理の方法を理解する。(A-3)
4．自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。(A-4)
5．生命倫理に基づいた医療を遂行できる。(C-1)
6．病院の各種システムを理解し、安全かつ効率的に利用できるようになる。(C-2)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．診療録の記載ができる。
2．診療録（電子カルテ）の扱いがわかる。
3．カルテの電子化（デジタル化）の意義が説明できる。
4．情報のセキュリティについて脅威と対策を理解し実行できる。
5．病院の情報システムの概要を説明できる。
6．他診療科や多職種の連携の実際と意義を説明できる。
7．診療情報や病院情報の秘匿の必要性を説明し実行できる。
8．患者の権利の尊重、個人情報保護の重要性を説明し実行できる。
9．保健医療制度および診療費請求のしくみを説明できる。
10．病診連携、病病連携を説明できる。
11．病院情報の二次利用の仕組みを理解し有効性と危険性を説明できる。
12．地域における病院の役割、質の評価と情報公開の意義を説明できる。
13．医療経済の現状と将来を概説できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．資料を用いて各テーマの講義を行う。

２．臨床現場での提示実例を検討する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること。(30分)

【復習】

１．当日の授業内容を復習し、専門用語の意味を理解すること。(30分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

出席を考慮した筆記試験・口頭試験を実施して評価する。

Ⅵ．**教科書**

１．診療情報学　第２版　日本診療情報管理学会　2015

２．医療情報　医療情報システム編　第６版　篠原出版新社　2020

３．医療情報　医学医療編　第６版　篠原出版新社　2019

４．医療情報　情報処理技術編　第６版　篠原出版新社　2019

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	6	水	1	吉田	B2	2)	診療録と電子カルテ	医療法規、診療録、電子カルテ、個人認証、POM、SOAP、処方、指示と指示受け、サマリー、診断書・証明書、改ざん防止、履歴管理	講義
						F3	1)3)			
2				2	非常勤講師 小河原	B2	2)	病院システム	診療科、中央部門、事務部門、各科各部連携、部門システムとHIS連結、診療情報管理士	〃
3		7	木	1	非常勤講師 谷原	B1	8)	日本の保険医療	診断群分類包括評価（DPC)、診療報酬明細書（レセプト)、電子レセプト、保険医療養担当規則，保険審査、NDBとその利用	〃
4				2	髙田	A6	1)3)	チーム医療(1) 感染制御	医療関連感染症、院内感染、ICT、感染防止策、院内感染対策マニュアル、輸入感染症、感染対策と感染症診療の病診・病病連携	〃
5		13	水	1	谷	A6	1)	情報セキュリティ	個人情報保護法、コンピュータウイルス、ハッキング、暗号化技術、ネットワークのセキュリティ、クラウドサービス、アクセスログ	〃
6				2	安野	A1	1)2)	インフォームドコンセント	医療倫理、患者の権利、説明責任、情報開示、医療訴訟	〃
7		14	木	1	田中	A5	1)	チーム医療(2) 概説とがんの治療戦略	病院の構成職種、縦割りと横串、チーム医療、多職種連携、がん診療拠点病院、キャンサーボード、がん登録、がんデータベース、がん治療連携パス、緩和ケア、国のがんの撲滅戦略	〃

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
8	4	14	木	2	野田	B3	1)	臨床研究支援、治験システム	臨床研究や治験のしくみ、GCP、カルテ情報のスクリーニング、データ分析，COI	講義
9		20	水	1	谷	B2	2)	電子カルテ情報とデータベース	データ標準化と正規化、ICD-10、Kコード、HOT、HL7、DICOM、2次分析、NCD、マイナンバー	〃
10				2	志村	A6	1)2)	チーム医療(3)医療安全管理	ひやりはっと、インシデント報告、インシデント情報の解析と対策、医療事故調査制度、実例での討論	〃
11		27	水	1	安野	A5	1)	チーム医療(4)クリニカルパス	診療計画、診療過程の標準化と情報の共有、アウトカムとバリアンス、パス導入の有効性	〃
12				2	志村	A7	1)	クリニカルインディケータ	CI（QI）、診療の質評価、情報可視化、戦略と戦術、KPI、病院機能評価、病院の社会性、DPCベンチマーク	〃
13	5	11	水	1	鍋島	A7 B1	1) 7)	地域連携	病病連携、病診連携、前方後方連携、遠隔医療、地域完結型医療、地域包括ケアシステム、カルテ情報共用	〃
14				2	志村	B4	1)	医療における地域と国の役割	日本経済、医療経済、少子高齢化、医療と福祉財源、地方と中央、医師の働き方改革	〃
		20	金	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

小　児　医　学

Ⅰ．担当教員名

小児科学	教　授	永光信一郎	（科目責任者）
	〃	小川　厚	（筑紫病院）
	准教授	井上貴仁	（　〃　）
	〃	太田栄治	（総合周産期母子医療センター）
	講　師	吉兼由佳子	
	〃	藤田貴子	（副責任者）
	〃	八ツ賀秀一	
	助　教	林　仁美	
	〃	瀬戸上貴資	（総合周産期母子医療センター）
	〃	宮本辰樹	（　〃　）
	〃	加倉寛也	（筑紫病院）
	〃	伊東和俊	
	〃	佐々木聡子	
	〃	後藤綾子	
	〃	川野裕康	（総合周産期母子医療センター）
	〃	久保田　慧	
	〃	音田泰裕	
	〃	古賀信彦	
	非常勤講師	寺町昌史	（てらまちキッズクリニック院長）
	〃	中山秀樹	（九州がんセンター小児科部長）
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	准教授	廣瀬龍一郎	（総合周産期母子医療センター）
	助　教	渋井勇一	（　〃　）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．総合的臨床医学としての小児診療の基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。(A-1)
2．最新の小児医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。(A-2)
3．小児医学における未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。(A-3)
4．小児医学を学ぶにあたり、自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。(A-4)
5．小児診療を実践するにあたり、常に患者家族の立場にたった他者の尊重、利他的な態度・行動、患者の個人情報保護の遵守を習得できる。(C-2)
6．患者と家族、後輩、同僚、他職種医療者を尊重できる。(C-5)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．小児疾患の主な症候を理解し、症候から考えられる診断名をあげることができる。
2．主な疾患の病態生理を説明することができる。

３．主な疾患の治療方針を述べることができる。
４．疾患と心理、社会的問題との関係について実例をあげることができる。
５．発達と疾患との関係を説明することができる。
６．臓器相互間の関係を説明することができる。
７．新生児の生理、発達を理解し、主な疾患の診断、治療、予後を述べることができる。
８．主な外科的疾患をあげることができる。
９．外科療法をおこなう疾患について、その適用と治療の概略を述べることができる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉
１．教科書中心の講義とする。
２．指定した教科書を事前に読んでおくこと。
３．授業の最後に授業内容に係わる小テストを実施する場合があるので、復習をしておくこと。

〈事前事後学習の方法〉
【予習】
１．シラバスで授業範囲の内容を確認する。(15分)
２．標準小児科学で授業範囲の内容を確認する。(15分)
３．内容の疑問点を書き留めておく。(10分)
【復習】
１．授業内容の疑問点が解決できたか確認する。(10分)
２．病態生理など理解できなかった点を整理する。(10分)
３．各授業で示された重要点を箇条書きにまとめておく。(15分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

論述試験＋客観試験

Ⅵ．**教科書**（必ず持参すること）

森川昭廣、内山　聖、原　寿郎　編：標準小児科学　第８版　医学書院

Ⅶ．**参考書・文献**

Kliegman RM.：Nelson Textbook of Pediatrics 21st edition. ELSEVIER

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	5	30	月	1	永　光	E-7	1)～4)	成長・保健・診断	発育・成長、病歴のとり方・診察法	講義
						F-1				
2				2	林	E-7	2)③ 3)②	栄養・脱水	母乳・人工栄養、離乳、ビタミン欠乏症、電解質	〃
						F-1	10)			
						F-2	11)⑤			
3	6	1	水	3	〃	E-7	2)①～③ 3)①	発達	精神・運動発達、反射	〃
4				4	加倉	E-2	2)	感染 (1)	小児期感染症の特徴、予防接種	〃
5		3	金	1	伊東	E-2	4) (2) ①～⑥	感染 (2)	細菌感染症	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
6	6	3	金	2	伊東	E-2	4)(1)①～⑧	感染(3)	ウイルス感染症	講義
7		6	月	1	久保田	D-6	1)2)3)(1)4)(2)	呼吸器	症候学、上気道炎、下気道炎	〃
8				2	後藤	E-4	3)(6)	アレルギー	分類、診断、アトピー性疾患、気管支喘息	〃
9		8	水	3	小川	C-4	1)①⑦	先天異常(1)	遺伝、染色体異常	〃
10				4	井上	C-4	1)	先天異常(2)	奇形、奇形症候群	〃
11		10	金	1	吉兼	D-5	4)(6)	循環器(1)	先天性心臓病	〃
12				2	宮本	D-5	4)(5)①～④4)(3)①～⑤	循環器(2)	後天性心臓病、不整脈、川崎病	〃
						E-4	3)(5)③			
13		13	月	1	久保田	F-1	5)6)15)	小児救急	心肺蘇生、中毒	〃
						E-5	1)～3)			
14				2	後藤	E-4	3)(1)～(5)	膠原病	若年性関節リウマチ、皮膚筋炎、全身性エリテマトーデス、リウマチ熱	〃
15		15	水	3	廣瀬龍	D-7	4)(3)⑨	小児外科(1)	総論、頸部、肺疾患、横隔膜ヘルニア、食道閉鎖、腸閉鎖、直腸肛門奇形、臍帯ヘルニア、腹壁破裂、鼠径ヘルニア、臍ヘルニア	〃
						E-7	1)①②			
16				4	〃	D-7	4)(4)④(7)②③	小児外科(2)	腸回転異常、ヒルシュスプルング病、胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、小児固形がん（神経芽腫、ウィルムス腫瘍、肝芽腫、奇形腫）	〃
						D-12	4)(10)③			
						E-3	5)⑭			
17		17	金	1	渋井	D-7	4)(1)②(2)⑧(3)①②⑧⑩⑪⑫	消化器	胃食道逆流症、肥厚性幽門狭窄症、腸重積、虫垂炎、血管性紫斑病、下痢症	〃
18				2	古賀	D-12	4)(9)	先天代謝異常	マス・スクリーニング	〃
						E-7	1)			
19		20	月	1	八ツ賀	D-12	4)(5)	代謝	糖尿病、周期性嘔吐症、低血糖症	〃
20				2	佐々木	D-12	3)(1)4)(1)～(4)	内分泌	下垂体、甲状腺、副腎、性腺	〃
21		22	水	3	非常勤講師寺町	D-8	1)～3)4)(1)(2)(6)	腎(1)	症候学、腎炎	〃
22				4	〃	D-8	4)(2)(3)	腎(2)	ネフローゼ症候群、腎血管疾患	〃
23		24	金	1	瀬戸上	E-7	1)	新生児(1)	分類、新生児の生理	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
24	6	24	金	2	音田	E-7	1)	新生児 (2)	診察、症候学	講義
25		27	月	1	太田	E-7	1)⑦	新生児 (3)	黄疸、感染症	〃
26				2	川野	E-7	1)⑤⑧	新生児 (4)	仮死、呼吸器疾患	〃
27		29	水	3	非常勤講師 寺町	D-8	4) (5) (7) (8)	腎 (3)	尿路奇形	〃
28				4	伊東	E-4 E-7	3) (7) 3)③	免疫	免疫系の発達、免疫疾患	〃
29	7	1	金	1	非常勤講師 中山	D-1	4) (1) (4)	血液 (1)	赤血球・白血球系疾患	〃
30				2	〃	D-1 E-3	4) (2) 5) ①⑫⑭	血液 (2)	出血性疾患、腫瘍	〃
31		4	月	1	小川	D-15	3)⑪⑫	精神疾患	知的障害、自閉症、ADHD	〃
32				2	藤田	D-2 F-1	3) ①②④ 8)	神経 (1)	症候学、けいれん性疾患、脳性麻痺	〃
33		6	水	3	井上	D-2	4) (1)① 4) (10)	神経 (2)	神経皮膚症候群、脳腫瘍、変性疾患	〃
34				4	永光	D-2	4) (3)	神経 (3)	脳炎、脳症、中枢神経感染症	〃
35		8	金	1	八ツ賀	D-2	3) 4) (6)	神経 (4)	筋疾患	〃
36				2	永光	E-7	3) 4)	成育医療	思春期医学、子どもの心の診療、児童虐待	〃
		19	火	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

循　環　器　病　学

Ⅰ．担当教員名

心臓・血管内科学	教　　授	三　浦　伸一郎	（科目責任者）
	〃	河　村　　彰	（筑紫病院）
	准　教　授	西　川　宏　明	（西新病院）
	〃	北　島　　研	（卒後臨床研修センター）
	〃	杉　原　　充	
	〃	池　　周　而	（筑紫病院）
	講　　師	桑　野　孝　志	
	〃	森　井　誠　士	（西新病院）
	〃	志　賀　悠　平	
	〃	末　松　保　憲	
	非常勤講師	廣　畑　　聡	（岡山大学大学院保健学研究科検査技術科学分野生体情報科学領域教授）
	〃	福　田　佑　介	（医療法人ふくだ内科循環器・糖尿病内科院長）
臨床検査医学	教　　授	小　川　正　浩	
心臓血管外科学	教　　授	和　田　秀　一	（副責任者）
	講　　師	桑　原　　豪	
	助　　教	松　村　　仁	
	〃	林　田　好　生	
	非常勤講師	安　永　　弘	（雪の聖母会　聖マリア病院副院長　心臓血管外科診療部長）
小　児　科	講　　師	吉　兼　由佳子	

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．循環器疾患の総合的な臨床診断を下す。(A-1)
2．循環器病学の基本概念・病態生理、臨床症状、一般検査および循環器検査（心電図、心臓超音波など）の方法を理解する。(A-2)
3．検査の結果の評価を修得し、治療方針を立てる。(A-3)
4．循環器疾患理解のための自己の到達目標を設定する。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．循環器疾患の疫学
　1）主要循環器疾患の概念・病態生理・病型分類を説明し、症状・徴候・検査所見を総合的に評価・統合し、鑑別診断までの過程を説明できる。
　2）循環器疾患の頻度や予後を説明できる。
　3）循環器疾患の一次予防、二次予防の重要性を説明できる。
2．循環器疾患の病態生理
　1）心不全の病態生理とその対策を説明できる。
　2）不整脈の発生機序と分類を列挙できる。
　3）心筋虚血の病態生理とその臨床像を説明できる。

３．主要循環器疾患の治療

１）主要循環器疾患の原因的治療・合併症とその対策・予後・予防について説明できる。

２）循環器疾患は他の臓器疾患との関連が深いので、臓器相関を考慮しながら、診断・治療を行うことの重要性を理解し、要点を列挙できる。

３）循環器疾患の薬物療法と薬物の作用機序を説明できる。

４）心臓手術の基本手技について説明できる。

５）心・脈管疾患の手術適応を理解し、手術法を説明できる。

６）術前・術後管理の基本について述べることができる。

７）心臓移植に関する医学的知識の概略を述べることができる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．講義内容をまとめたプリント、スライド・ビデオ提供。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味や基本事項を理解しておくこと。(60分)

【復習】

１．講義内容をプリントなどを用いて復習し、習熟度を高めること。(60分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

期末の客観形式の試験

Ⅵ．**教科書**

１．高久史麿・尾形悦郎　監修：新臨床内科学　第10版　医学書院　2020

２．矢崎義雄　編：内科学　第11版　朝倉書店　2017

３．内山　聖　監修：標準小児科学　第８版　医学書院　2013

４．高松英雄・福澤正洋　監修：標準小児外科学　第７版　医学書院　2017

Ⅶ．**参考書・文献**

１．清水　渉　監修：最新主要文献とガイドラインでみる循環器内科学レビュー 2022－’23　総合医学社　2021

２．伊藤　浩・山下武志　編集：循環器疾患最新の治療　2020－2021　南江堂　2021

３．種村　正・高橋秀一　編集：心臓超音波テキスト第３版　医歯薬出版　2021

４．三浦　大・前田　潤　編集：はじめて学ぶ小児循環器　改定第２版　診断と治療社　2020

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	5	30	月	3	三浦	D-5	1)①⑥	循環器診断学総論	症候学、身体所見、総合診断	講義
2				4	北島	D-5 B-1 4)	4)(7)①	循環器疾患の疫学、危険因子	疫学と予防医学、動脈硬化	〃
3	6	2	木	1	桑野	D-5	4)(1)	心不全	左心不全、右心不全	〃
4				2	〃	〃	〃	〃	心不全の治療	〃
5		6	月	3	森井	D-5	1)③④ 4)(3)	心電図	心筋の興奮とイオンチャネル、興奮伝播、心電図の成り立ち、電気生理学的検査、正常心電図、心電図異常	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
6	6	6	月	4	和田	D-5	4)(7)②③⑤	大動脈の外科	解離性大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、マルファン症候群、高安病	講義
7		9	木	1	杉原	D-5	4)(2)	心筋虚血、狭心症	診断、治療	〃
8				2	〃	D-5	2)	心臓血管カテーテル法	心内圧、心血管造影	〃
						D-5	4)(2)(4)	心臓カテーテル検査シュミレーション	〃	〃
9		13	月	3	小川	D-5	4)(3)	臨床不整脈-1	不整脈疾患の分類と治療 徐脈性不整脈	〃
10				4	〃	D-5	4)(3)	臨床不整脈-2	不整脈疾患の分類と治療 頻脈性不整脈	〃
11		16	木	1	吉兼	D-5	4)(6)	児、胎児循環、新生児	胎児期循環、先天性心疾患総論	〃
12				2	非常勤講師 福田	D-5	4)(5)	心筋・心膜疾患-1	肥大型心筋症、拡張型心筋症	〃
13		20	月	3	桑原	F-2	12)①	体外循環	人工心肺、PCPS、IABP	〃
14				4	西川	D-5	4)(2)	心筋梗塞	診断、冠動脈形成術、薬物療法	〃
15		23	木	1	吉兼	D-5	4)(6)	先天性心疾患-1	非チアノーゼ性先天性心疾患	〃
16				2	〃	D-5	4)(6)	先天性心疾患-2	チアノーゼ性先天性心疾患	〃
17		27	月	3	非常勤講師 廣畑	D-5	4)(1)②(2)①②⑤	循環器臨床検査値異常	心負荷、心筋逸脱酵素指標	〃
18				4	桑原	D-5	4)(2)①③⑥	虚血性心疾患の外科	CABG	〃
19		30	木	1	三浦	D-5	4)(9)	血圧異常-1	高血圧の成因と診断	〃
20				2	〃	D-5		血圧異常-2	高血圧の治療、低血圧	〃
21	7	4	月	3	河村	D-5	4)(4)	後天性弁膜症	MS、MR、TS、TR、AS、AR	〃
22				4	非常勤講師 安永	D-5	4)(6)	先天性心疾患	先天性心疾患の手術適応	〃
23		5	火	1	志賀	D-5	2)②	各種疾患の循環器異常	内分泌疾患、貧血、妊娠、高齢者	〃
24				2	〃	D-5		循環器画像診断法	Ｘ線診断、ＣＴ、ＭＲ、シンチ、心エコー、ドップラー法	〃
25		7	木	1	末松	D-5	4)(1)(2)	心臓リハビリテーション	運動負荷試験、運動療法	〃
26				2	松村	D-5	4)(7)④(8)①～③	末梢血管疾患	バージャー病、下肢静脈瘤、深部静脈血栓症、閉塞性動脈硬化症	〃
27		11	月	3	林田	D-5	4)(4)	後天性弁膜症の外科	弁膜症の手術適応と術式	〃
28				4	池	D-5	4)(5)④	心筋・心膜疾患-2	心膜炎・感染性心内膜炎	〃
						D-5	4)(5)	心筋炎、心臓腫瘍	〃	〃
		27	水	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

症候・病態学演習

Ⅰ．担当教員名

総合診療部	教　　授	鍋島茂樹	（科目責任者）
	助　　教	坂本篤彦	
	〃	日吉哲也	
	〃	崎原永志	（地域医療管理学講座）
	〃	加藤禎史	
内分泌・糖尿病内科	助　　教	牟田芳実	
呼吸器内科学	准教授	井上博之	
脳神経内科	准教授	津川　潤	（筑紫病院　脳卒中センター）
	講　　師	三嶋崇靖	
精神医学	講　　師	衞藤暢明	
	助　　教	飯田仁志	
皮膚科学	講　　師	佐藤絵美	
医学教育推進講座	教　　授	安元佐和	
	准教授	八尋英二	
	講　　師	武岡宏明	
総合周産期母子医療センター	助　　教	瀬戸上貴資	

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．今まで学習した基礎・臨床医学の知識を発展させ、より実践的な診断・治療の過程を習得する。(A-1)
2．未解決の問題点に対して参考書等を用い解決に取り組むことができる。(A-3)
3．Evidence based Medicine（EBM）に基づいて、情報収集し問題解決できる。(A-5)
4．病歴と身体所見の情報を統合し、鑑別診断を提示することができる。(B-1)
5．得られた情報を基に、その症例の問題点を抽出できる。(B-2)
6．主要疾患の症例に関して、診断・治療計画を立案できる。(B-3)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．症候学・内科診断学・臨床推論の概念を説明できる。
2．主な症候・病態生理を説明できる。
3．症候・病態から診断に至るまでの過程を推論することができる。
4．鑑別診断とその根拠を列挙することができる。
5．診断に必要な身体診察・検査を実施することができる。
6．診断後の治療・処置等について的確に述べることができる。
7．精神科領域の症候学について概説できる。
8．診療現場での診療態度に配慮することができる。
9．東洋医学的症候・病態を概説できる。
10．小児の症候・病態について概説できる。

11．高齢者医療における症候・病態について概説できる。
12．皮膚科の症候・病態について概説できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．各テーマの１限目：各症候・病態に関する講義
２．各テーマの２限目：Problem-based learning によるグループワーク
　１）教室内に班ごとに集まって座る。
　２）講師はテーマに関連する症例を、主訴・病歴・身体所見…というように実際の診療の流れに沿って提示する。その過程でどのように症候・病態・治療を考えるか、班ごとにディスカッションし、発表をすることにより、実際の診療の流れを理解する。
　３）場合によってはロールプレイや模擬患者によるシミュレーションを行うこともあり得る。
　４）講師は最後にその症例に関連する症候・病態・治療について説明する。
　５）以上は、講義の第１日目「概論」において詳述する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解すること。(30分)
２．グループワークを中心に授業をすすめるため、あらかじめテーマに則した資料をまとめておくこと。(30分)

【復習】

１．当日の授業内容を復習し、専門用語の意味を理解すること。(30分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

客観試験＋論述試験。小テストも参考にする。

Ⅵ．**教科書**

１．福井次矢・他　監修：ハリソン内科学　第5版　メディカル・サイエンス・インターナショナル　2017
２．高久史麿・他　監修：新臨床内科学　第10版　医学書院　2020
　(以上、いずれか必ず持参すること)
３．杉本恒明、矢崎義雄　総編集：内科学　第11版　朝倉書店
４．内山　聖　監修：標準小児科学　第８版　医学書院

Ⅶ．**参考書・文献**

１．内科救急診療指針　2016　日本内科学会
２．福井次矢・他　監修：ベイツ診察法　第２版　メディカル・サイエンス・インターナショナル　2015
３．金城紀与史・他　監修：身体診察シークレット　メディカル・サイエンス・インターナショナル　2009
４．田崎義昭・他：ベッドサイドの神経の診かた　第18版　南山堂　2016
５．加藤裕久・他：ベッドサイドの小児神経・発達の診かた　改訂４版　南山堂　2017
　(以上、講義内容に応じて持参することが望ましい)

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	5	31	火	3	鍋島	G-1		概論	内科診断学、症候学、オスラー博士、Problem-based lerning	講義
2				4	〃	F-1	19)～23)25)	腹痛 (1) (2)	内臓痛、疝痛、関連痛、腹膜炎、急性腹症	TBL
3	6	7	火	3	武岡	F-1	1) 36)	発熱・関節痛(1)	不明熱、感染症、悪性疾患、膠原病、内分泌疾患、リウマチ性疾患	〃
4				4	〃	F-1	1) 36)	発熱・関節痛(2)	〃	〃
5		14	火	3	三嶋	D-2	3) (1) (2)	歩行障害・不随意運動・運動失調障害(1)	錐体外路系疾患、小脳性疾患	〃
6				4	〃	D-2	3) (1) (2)	歩行障害・不随意運動・運動失調障害(2)	〃	〃
7		21	火	3	加藤	F-1	5)	救急症候 (1)	ABCDE、敗血症、プライマリ・サーベイ	〃
8				4	〃	F-1	5)	救急症候 (2)	〃	〃
9		28	火	3	坂本	B-4 E-8 F-2	1) 1) 8)	老年医学症候	Activitis of Daily Living（ADL）、Flailty（フレイル）、Polypharmacy、不顕性徴候、敬老	〃
10				4	〃	D-8 F-2	1)3) 8)	水・電解質異常	水バランスと高/低Na血症、Naバランスと脱水/浮腫、高/低K血症、薬剤の有害事象	〃
11	8	23	火	3	〃	C,F		東洋医学症候(1)	補完代替医療、寒熱、気血水、漢方診療の役割	〃
12				4	〃	C,F		東洋医学症候(2)	〃	〃
13		25	木	3	日吉	F-1	7)	失神・意識障害(1)	不整脈、中枢神経疾患、内分泌代謝疾患、精神科疾患、感染症	〃
14				4	〃	F-1	7)	失神・意識障害(2)	〃	〃
15		30	火	3	瀬戸上	F-1	1) 12)	小児科症候Ⅰ(1)	乳児、発熱、発疹	〃
16				4	〃	F-1	15)	小児科症候Ⅰ(2)	新生児、呼吸障害	〃
17	9	1	木	3	井上	F-1	(13)～(15)	咳・痰・呼吸困難・血痰(1)	気管支炎、肺炎、心不全、気管支喘息、COPD、喀血	〃
18				4	〃	F-1	(13)～(15)	咳・痰・呼吸困難・血痰(2)	〃	〃
19		6	火	3	安元	F-1	8)	小児科症候Ⅱ(1)	発熱、けいれん	〃
20				4	〃	E-2		小児科症候Ⅱ(2)	熱性けいれん、髄膜炎	〃
21		8	木	3	崎原	F-1	11)	浮腫 (1)	全身性浮腫、局所性浮腫、脈管性浮腫、心不全	〃
22				4	〃	F-1	11)	浮腫 (2)	〃	〃
23		13	火	3	津川	D-2	1) (5) (6) 3) (1) (3)	運動・感覚障害、脊髄疾患、脳血管障害(1)	末梢神経・筋疾患・脳血管障害による症候	〃

第4学年

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
24	9	13	火	4	津川	D-2	1) (5)(6) 3) (1)(3)	運動・感覚障害、脊髄疾患、脳血管障害(2)	末梢神経・筋疾患・脳血管障害による症候	T B L
25		15	木	3	八尋	F-1	16)17)	胸痛・動悸(1)	胸痛のCase Based Learning	〃
26				4	〃	F-1	16)17)	胸痛・動悸(2)	動悸のCase Based Learning	〃
27		20	火	3	佐藤	D-3	4) (1)～(7)	皮膚科症候(1)	丘疹、紅斑、紫斑、水疱、色素沈着、皮膚潰瘍	〃
28				4	〃	D-3	4) (1)～(7)	皮膚科症候(2)	〃	〃
29		22	木	3	牟田	D-12	4) (4)～(6)	血圧・血糖・脂質異常(1)	メタボリック症候群、低・高血糖、高脂血症	〃
30				4	〃	D-12	4) (4)～(6)	血圧・血糖・脂質異常(2)	〃	〃
31		26	月	3	衞藤	D-15	2)② 3)① ⑨	精神科症候(1)	意識障害の鑑別、救急の精神疾患、自殺の問題への対応	〃
32				4	飯田	D-15	3)②	精神科症候(2)	認知症、器質性精神障害、せん妄	〃
33		27	火	3	鍋島	F-1	7)9) 33)	頭痛・めまい・嘔気(1)	急性頭痛、慢性頭痛、耳性めまい、中枢性めまい、上部消化管疾患	〃
34				4	〃	F-1	7)9) 33)	頭痛・めまい・嘔気(2)	〃	〃
	10	11	火	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

検　査　診　断　学

Ⅰ．担当教員名

臨床検査医学	教　　授	小　川　正　浩（科目責任者）
	准　教　授	大久保　久美子
	講　　師	髙　田　耕　平
	助　　教	小　柳　尚　子
	非常勤講師	松　本　直　通（伊都まつもと循環器内科・内科　院長）
総合医学研究センター	教　　授	松　永　　彰
総合診療部	教　　授	鍋　島　茂　樹
腫瘍・血液・感染症内科	准　教　授	磯　部　泰　司

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．臨床検査の方法、適応と解釈を学び、診療に応用できる。(A-1)
2．臨床検査の最新情報を収集し、比較検討して正しく応用できる。(A-2)
3．未解決な問題点を発見し、臨床検査を応用して解決に取り組むことができる。(A-3)
4．臨床検査応用の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．臨床検査の基準範囲、病態識別値の意味を説明できる。
2．検査の特性（感度、特異度、偽陽性、偽陰性、検査前確率、陽性的中率、尤度比）を説明できる。
3．尿検査の方法、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
4．糞便検査の方法、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
5．末梢血液検査の方法、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
6．血液凝固検査の方法、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
7．血液生化学検査項目を列挙し、主たる項目につき、検査方法を説明できる。
8．血液生化学検査診断の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
9．免疫血清学的検査の主たる項目につき、検査方法を説明できる。
10．免疫血清学的検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
11．ホルモンの構造・機能、分泌動態、疾患との関連を説明できる。
12．腫瘍マーカー検査の目的、適応、感度、特異度を説明できる。
13．一般細菌の塗沫・培養法、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
14．ウイルス検査、抗体検査を説明できる。
15．遺伝子検査の概要を説明し、主たる項目の目的、適応を述べ、結果を解釈できる。
16．心電図検査および心臓超音波検査の基本事項を説明できる。
17．検査の誤差、生理的変動を説明できる。
18．正しい検体採取方法と、不適切な採取を行ったときの検査値の異常を判断できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．教科書、講義テキスト、プリントによる講義

２．検査値の判読演習

３．Reversed clinico-pathological conference

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．指定した教科書の該当項目を事前に読んで理解する。(30分)

２．講義テキストで毎回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を含めて理解する。(30分)

【復習】

１．講義後、教科書、講義テキスト、プリントを読み直して理解する。(60分)

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．出席、授業態度

２．講義中のレポートおよび小テスト

３．筆記試験

筆記試験にて60点以上を可とする。出席、授業態度、レポート、小テストの状況にて適時減点する。

Ⅵ．**教科書**

河合　忠　監修；山田俊幸、本田孝行　編集：異常値の出るメカニズム　第７版　医学書院

高木　康、山田俊幸　編集：標準臨床検査医学　第４版　医学書院

内科学の教科書（いずれでもよい）

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	6	1	水	1	小川	F-2	3)①～⑧	検査の基本	検査の特性、尿検査	講義
2				2	松永	F-2	3)⑧	血液化学検査(1)	血清蛋白、窒素化合物	〃
3		8	水	1	磯部	F-2	3)⑧	血液・骨髄検査(1)	血算、血球形態、染色法	〃
4				2	〃	F-2	3)⑧～⑩	血液・骨髄検査(2)	フローサイトメトリー、染色体検査、血小板機能・凝固系検査	〃
5		15	水	1	大久保	F-2	3)⑦⑧	酵素検査(1)	トランスアミナーゼ、ALPと骨代謝マーカー	〃
6				2	〃	F-2 F-3	3)⑦⑧ 4)①	酵素検査(2) 血液化学検査(2)	LD、CK、アミラーゼ、糖代謝	〃
7		22	水	1	髙田	F-2	3)⑭⑮	血液化学検査(3)	血清電解質と血液ガス検査	〃
8				2	〃	F-2	3)⑧⑪	血液化学検査(4)	免疫血清検査、脂質	〃
9		29	水	1	大久保	F-2	3)⑧⑫	ホルモン検査(1)	ペプチドホルモン	〃
10				2	〃	F-2	3)⑧⑫	ホルモン検査(2)	甲状腺ホルモン、ステロイドホルモン	〃
11		30	木	3	小柳	F-2	3)⑫	循環器検査(1)	心臓超音波検査	〃
12				4	非常勤講師 松本	F-2	3)⑫	循環器検査(2)	心電図、心電図判読	〃
13	7	6	水	1	鍋島	F-2	3)⑬	微生物検査(1)	検体採取、細菌培養、抗菌剤感受性	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
14	7	6	水	2	鍋島	F-2	3)⑬	微生物検査(2)	結核検査、ウイルス検査、抗体検査	講義
15		7	木	3	大久保	C-4	1)①～⑦	遺伝学的検査（遺伝医療）	遺伝学的検査（遺伝医療）	〃
						E-1	1)①～⑥			
						F-2	3)⑨			
16				4	小柳	F-2	3)⑦	検査値の変動 検査診断	Reversed clinico-pathological conference	〃
						F-3	4)①			
		14	木	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

再 生 ・ 移 植 医 学

Ⅰ．担当教員名

再生・移植医学	教　　授	小　玉　正　太（科目責任者）
	准 教 授	坂　田　直　昭（副責任者）
	〃	吉　松　軍　平（再生医療センター）
	講　　師	田　中　智　子
	非常勤講師	八　木　孝　仁（岡山大学病院　教授）
臓器移植医療センター	教　　授	白　石　武　史
腎泌尿器外科	講　　師	中　村　信　之

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

１．様々な医学領域から成り立つ再生医学という学問分野を理解する。(A-1)

２．再生医学の現状を学ぶ。同時に得られた知識に対する自分なりの評価を行うことで、論理的思考を身につける。(A-2)

３．再生医学を学ぶことを契機に、この領域の最新知見とその課題を自ら学ぶ姿勢を身につける。(A-3)

４．移植医学の現状と最新の知見を学ぶ。同時に今後の方向性を理解し、その是非を自分なりに評価する。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．再生・移植医療の現状を説明できる。

２．組織・細胞移植の現状を説明できる。

３．胎生・体性幹細胞の臨床実例を説明できる。

４．組織工学的な再生医療の実例を説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．病態生理に沿った基礎医学知識の統合的な理解ができる。

２．横断的治療から適応疾患の病態生理が理解できる。

３．生命予後の改善やＱＯＬに合致した最善の治療選択ができる。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．講義予定の解剖・生理・生化学・免疫学的な背景を理解する。(30分)

２．講義予定疾患対象の病態生理を理解する。(30分)

【復習】

1.　講義内容について配布資料を参考に、各項目の理解を再確認する。(60分)

2.　内容の理解が乏しい場合、再度撮影動画にて理解の程度を確認する。(90分)

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

１．期末試験により評価する。

２．講義の出席状況ならびに学習態度も評価の対象とする。

Ⅵ. 教科書

特にないが、幅広い学習を必要とする。

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	6	2	木	3	小玉	A-1 E-9	1)	移植医療の概要	移植医療、臓器提供、移植ネットワーク、脳死、臓器移植法	講義
2				4	〃	C-3 F-2	2) 12)13)	臓器移植概論(適応と成績)、移植免疫学	心臓移植、肺移植、肝移植、腎移植、膵臓移植、移植免疫	〃
3		9	木	3	吉松	D-12 F-2	1)4)(5) 7)	組織・細胞移植概論(適応と成績)	骨髄移植、角膜移植、骨移植、皮膚移植、膵島移植	〃
4				4	白石・中村	D-6 D-8 F-2	1)4) 1)4) 13)	肺移植・腎移植	肺移植の実例、腎移植の実例	〃
5		16	木	3	非常勤講師 八木	D-7 F-2	1)4)(5) 13)	肝移植	肝移植の実例	〃
6				4	田中	A-8 C-2	1) 2)4)	幹細胞移植と組織工学	iPS細胞、胎生幹細胞、体性・組織幹細胞、組織工学	〃
7		23	木	3	坂田	D-2 D-4	4)(2) 4)(1)⑩	神経の再生医療 角膜の再生医療	脊髄損傷および脳梗塞の治療、角膜再生治療	〃
8				4	〃	D-7 D-8 F-2	1)2)4) (5) 4)(1) 6)	消化器の再生医療、腎・泌尿器、脂肪組織	肝硬変症への細胞治療、食道疾患、膵島再生、膀胱・尿道の再生治療、脂肪幹細胞の臨床応用	〃
9	7	11	月	1	〃	B-1 D-5 D-6	8) 4)(1) (7) 4)(1)	心・血管の再生医療 骨・軟骨、歯の再生医療	心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症の治療	〃
10				2	小玉	D-5 F-1	4)(1) (5)(7) 28)	体性幹細胞移植	骨髄由来幹細胞と脂肪由来幹細胞	〃
		25	月	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

第4学年

産 科 婦 人 科 学

Ⅰ．担当教員名

産科婦人科学	教　　授	宮　本　新　吾（科目責任者）
	准 教 授	四　元　房　典
	〃	宮　田　康　平
	講　　師	倉　員　正　光
	〃	漆　山　大　知
	〃	伊　東　智　宏
	〃	井　槌　大　介（総合周産期母子医療センター）
	〃	野　口　幸　子
	助　　教	讃　井　　絢子（総合周産期母子医療センター）
	〃	清　島　千　尋
	〃	吉　川　賢　一
	〃	平　川　豊　文
	〃	重　川　浩一郎
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	准 教 授	吉　永　康　照
	非常勤講師	加　藤　聖　子（九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学教授）
	〃	詠　田　由　美（IVF 詠田クリニック院長）
	〃	小　濱　大　嗣（井槌病院）
	〃	長　沼　康　子（長沼医院）
	〃	高　橋　庸　子（宮崎クリニック）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．基礎（正常構造と機能、発達、成長、加齢、死、心理、行動）、臨床（病因、構造と機能の異常、診断、治療）、社会医学（医療安全、疫学、予防、保健・医療・福祉制度、医療経済）等の知識を習得し、診療に応用できる。(A-1)

2．最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。(A-2)

3．未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。(A-3)

4．自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．構造と機能

到達目標：

1）生殖腺の発生と性分化の過程を説明できる。

2）女性生殖器の発育と過程を説明できる。

3）女性生殖器の位置と形態を図示できる。

4）卵巣の組織構造と排卵のメカニズムを説明できる。

5）性周期発現の機序と子宮内膜の性周期変化を説明できる。

6）乳癌の診断について説明でき、病態にあった治療法を説明できる。

２．妊娠・分娩・産褥

①正常妊娠・分娩・産褥

到達目標：

１）妊娠、分娩と産褥での母体の解剖学的および生理学的変化を説明できる。

２）胎児・胎盤系の発達過程での機能・形態的変化を説明できる。

３）正常妊娠の経過を説明できる。

４）正常分娩の経過を説明できる。

５）子宮復古の過程を説明できる。

６）乳房・乳腺の妊娠中と授乳期での変化を説明できる。

②異常妊娠・分娩・産褥

到達目標：

１）代表的な異常妊娠（流産、子宮外妊娠、胞状奇胎、妊娠中毒症）の病態を説明できる。

２）代表的な異常分娩（早産、前置胎盤、常位胎盤早期剥離）の病態を説明できる。

３）代表的な異常産褥（子宮復古不全、乳腺炎）の病態を説明できる。

③産科的検査法

到達目標：

１）妊娠の診断法を説明できる。

２）胎児の発達と異常をモニターする超音波検査法の所見を説明できる。

３）胎児・胎盤検査法の意義と異常所見を説明できる。

４）分娩監視装置による検査法の意義と異常所見を説明できる。

５）羊水検査法の意義と異常所見を説明できる。

④産科手術

到達目標：

１）帝王切開術の適応と要約を説明できる。

２）子宮内容除去術の方法と合併症を説明できる。

３）人工妊娠中絶の適応を説明できる。

４）鉗子・吸引分娩術の適応と要約を説明できる。

５）骨盤位牽出術の方法と合併症を説明できる。

６）産科麻酔の特徴を概説できる。

３．女性性器疾患

①診断と検査の基本

到達目標：

１）腹部、外陰部の視診、触診所見を説明できる。

２）基礎体温の所見を説明できる。

３）血中ホルモン（FSH、LH、プロラクチン、hCG、エストロゲン、プロゲステロン）測定値を評価できる。

４）月経異常を病態から分類し、その原因を説明できる。

５）月経異常を呈する患者に必要な問診と診察と検査の要点を列挙し、診断のプロセスを説明できる。

６）骨盤内臓器と腫瘍の画像診断（超音波断層法、Ｘ線 CT、MRI、子宮卵管造影）所見を概説できる。
７）膣分泌物の所見を説明できる。
８）子宮頸部、内膜の細胞診、組織診の所見を概説できる。
９）腫瘍マーカーの測定値の意味を説明できる。
10）更年期指数とその意義を説明できる。
11）思春期発現の機序と性徴を説明できる。

②疾患

到達目標：

１）卵巣と内外性器の先天異常を説明できる。
２）卵巣機能障害の原因、症候、身体所見と検査所見を説明できる。
３）不妊症の系統診断と治療を説明できる。
４）子宮腫瘍の症候、検査と治療を概説できる。
５）卵巣腫瘍の分類と症候、検査と治療を概説できる。
６）子宮内膜症の症状、検査と治療を説明できる。
７）外陰、膣、骨盤内感染症の症候、検査と治療を説明できる。
８）不正性器出血の鑑別診断、検査と治療を説明できる。
９）子宮頸癌と子宮体癌の症候、臨床進行期分類と治療を説明できる。
10）卵巣悪性腫瘍の症候、臨床進行期分類と治療を説明できる。
11）絨毛性疾患（胞状奇胎、絨毛癌）の診断、治療と管理を説明できる。
12）性行為感染症を列挙し、診断、治療と予防法を説明できる。

４．乳腺疾患

到達目標：

１）乳房の診察の要点を説明し、診察の手順を提示できる。
２）腋窩リンパ節の触診の手順を提示できる。
３）乳房の画像診断（マンモグラフィ、エコー、MRI）について所見を説明できる。
４）乳房と乳腺疾患について説明できる。
５）乳腺疾患の病理所見を説明できる。
６）乳癌の診断プロセスを理解し、確定診断の方法を説明できる。
７）乳癌の多様性を理解し、個別化した治療法を説明できる。
それぞれの病態にあった治療法を説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．生殖内分泌学、周産期医学、婦人科腫瘍学および乳腺疾患について、病理学や外科学を含めたそれぞれの専門医が各専門領域の講義を担当する。
２．講義にはシラバス、スライド、教科書などを内容に則して効果的に使用し、実際の臨床現場での体験を含めて要点を教授する。
３．各疾患の病態を生理機序と対比させて理解を深めさせる。
４．より専門的で印象に残る充実した講義にするために、専門家による特別講義を設ける。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．参考書や配布するテキストの産科・婦人科領域について事前に読み、わからないことを調べておくこと（30分）

【復習】

１．帰宅後復習し、重要な用語を英語で覚えること（30分）

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

各講義担当者による選別された筆記試験により、学習者の到達度を評価する。

Ⅵ．教科書

指定しない。

Ⅶ．参考書・文献

１．石塚文平ら編：NEW CONSENSUS 新撰産婦人科診療、永井書店（2006年）

２．綾部琢哉・板倉敦夫　編集：標準産科婦人科学第５版、医学書院（2021年）

３．Cunningham ら編：Williams Obstetrics 25th Edition，Appleton & Lange（2018年）

４．日本乳癌学会編：乳癌診療ガイドライン、金原出版（2018年）

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	22	月	1	非常勤講師 長沼	D-9	1）	婦人科内分泌学総論1 女性の性機能	女性の加齢変化（思春期～更年期）、卵巣とその機能、避妊法	講義
2				2	〃	D-9	1）	婦人科内分泌学総論2	基礎体温と性周期、生殖臓器の周期性変化、思春期の無月経、１度、２度無月経、卵子の老化と不妊	〃
3		25	木	1	四元	D-9	2)3）	月経異常 1	視床下部・下垂体性無月経、ホルモン検査、高プロラクチン血症	〃
4				2	〃	D-9	2)3）	月経異常 2	原発性・続発性無月経、月経周期の異常、PCO、子宮内膜症、月経困難症	〃
5		26	金	3	伊東	D-9	4）	女性生殖器の病理1 (外陰、腟、子宮頸部)	外陰・腟の感染症と腫瘍、子宮頸癌、異形成	〃
6				4	重川	D-9	4）	女性生殖器の病理2 （子宮体部）	子宮筋腫、子宮内膜症、子宮内膜過形成、子宮内膜癌	〃
7		29	月	1	伊東	D-9	4）	女性生殖器の病理3 （卵巣腫瘍）	卵巣腫瘍（漿液性腫瘍、粘液性腫瘍、奇形腫、未分化胚細胞腫瘍、卵黄嚢腫瘍、卵巣間質腫瘍、顆粒膜細胞腫、莢膜細胞腫）	〃
8				2	重川	D-9	4）	外陰と腟の腫瘍 子宮良性疾患の診断と治療	外陰腫瘍、腟腫瘍、子宮内膜症、子宮筋腫、ホルモン療法、手術療法	〃
9	9	1	木	1	吉川	D-9	4）	子宮頸部腫瘍の診断と治療	子宮腟部びらん、子宮頸部異形成、子宮頸癌、進行期、手術療法、放射線療法、化学療法	〃
10				2	宮田	D-9 A-1	4） 1）	産婦人科診療と生命倫理	生殖補助医療の進歩、生命の誕生、バイオエシックス、生命倫理、医療倫理、法律と倫理	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
11	9	2	金	3	宮本	D-9	4)	婦人科腫瘍の診断と治療	骨盤臓器の解剖、手術療法、化学療法、放射線療法、卵巣腫瘍、腫瘍マーカー、画像診断（超音波検査、CT、MRI）、進行期、手術療法、化学療法、医療経済	講義
12				4	非常勤講師 泳田	D-9	4)	不妊症	不妊症、排卵誘発、生殖補助、医療（ART）	〃
13		5	月	1	非常勤講師 加藤	D-9	4)	子宮体部腫瘍の診断と治療	子宮内膜増殖症、子宮内膜癌、進行期、手術療法、化学療法	〃
14				2	重川	E-2	1)2)	感染症の診断と治療	性行為感染症、淋病、梅毒、クラミジア、外陰ヘルペス、尖圭コンジローマ、HIV感染症、後天性免疫不全症候群（AIDS）、化学療法	〃
15		6	火	1	倉員	D-9	4)	産科学（周産期学）総論	周産期医療、新生児医療、周産期母子医療センター、MFICU、NICU、母体搬送	〃
16				2	清島	D-9	1)	発生・生殖生理	性分化と生殖器奇形・生殖系の生理	〃
17		8	木	1	吉永	D-11	1)～3)	乳房 1	乳腺の解剖、乳腺の病理、乳腺疾患の診断	〃
18				2	〃	D-11	4)	乳房 2	乳腺の良性・悪性疾患	〃
19		9	金	3	非常勤講師 高橋	D-10	1)～5)	絨毛性疾患の病理、診断と治療	絨毛性腫瘍（胞状奇胎、絨毛癌）、胞状奇胎の管理、侵入奇胎、存続絨毛症	〃
20				4	非常勤講師 小濱	D-10	3)	妊娠・分娩・産褥の生理とその管理(1)	妊娠の成立と維持、妊娠の診断と管理、胎児の発育、胎児付属物の役割、妊娠性母体変化、妊娠経過図	〃
21		12	月	1	野口	D-10	3)	妊娠・分娩・産褥の生理とその管理(2)	分娩の３要素、児頭の回旋、分娩進行の診断、分娩および産褥経過、分娩経過図、子宮復古、乳汁分泌機序、初乳、成乳、悪露、新生児の評価	〃
22				2	平川	D-10	3)4)	妊娠の異常	妊娠悪阻、流産、子宮外妊娠、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、癒着胎盤、羊水過多症、羊水過少症、臍帯の付着部異常	〃
23		13	火	1	漆山	D-10	3)4)	子宮収縮と早産管理	子宮収縮のメカニズム、陣痛発来機序、陣痛モニター、切迫早産、前期破水	〃
24				2	井槌	D-10	4)	偶発合併症妊娠(1)	糖尿病合併妊娠、妊娠糖尿病、甲状腺機能異常合併妊娠	〃
25		15	木	1	清島	D-10	4)	偶発合併症妊娠(2)	子宮筋腫、卵巣腫瘍、子宮頸癌、心疾患、血液疾患、精神疾患	〃
26				2	漆山	D-10	4)	妊娠高血圧症候群と胎児・胎盤機能不全	妊娠高血圧症候群の定義、分類、病因、管理、胎盤機能不全、子宮内発育遅延、胎児機能不全と新生児仮死、脳神経後遺症	〃
27		16	金	3	平川	D-10	4)	多胎妊娠	多胎妊娠、分娩、双胎間輸血症候群	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
28	9	16	金	4	讃井	D-10	4)	母子感染、血液型不適合妊娠	TORCH症候群、B型肝炎、成人T細胞白血病、AIDS、血液型不適合妊娠、新生児重症黄疸	講義
29		20	火	1	〃	D-10	4)	陣痛・産道の異常	微弱陣痛、過強陣痛、児頭骨盤不均衡（CPD）	〃
30				2	平川	D-10	4)	難産と分娩異常	難産の診断と管理、胎位・胎勢の異常、進入の異常、回旋の異常	〃
31		22	木	1	倉員	E-7	1)	胎児異常	胎児診断、胎児治療、周産期医療、臨床遺伝、産婦人科	〃
32				2	井槌	D-10	4)5)	分娩時の母体損傷と異常出血	子宮破裂、子宮内反、頸管裂傷、弛緩出血、癒着胎盤、産科ショックとDIC	〃
33		26	月	1	宮田	D-10	4)	産褥・新生児の異常	子宮復古不全、産褥熱、乳汁分泌不全、産褥期精神機能不全、ハイリスク新生児、先天異常	〃
34				2	野口	D-10	4)	胎児・胎盤系とその機能検査法	胎児心拍数モニタリング、超音波断層法、胎児バイオフィジカルプロファイル　スコア	〃
35		27	火	1	倉員	D-10	1)3)5)	染色体異常	染色体異常	〃
36				2	〃	D-10	3)5)	産科治療学と母子保健	産科における薬物療法、頚管拡張術、子宮内容除去術、母体保護法、吸引分娩、鉗子分娩、帝王切開術、産科麻酔、母子保健	〃
	10	7	金	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

整　形　外　科　学

Ⅰ．担当教員名

整形外科学	教　　授	山本卓明	（科目責任者）
	准教授	前山　彰	（副責任任者）
	〃	鎌田　聡	（リハビリテーション部）
	講　　師	木下浩一	
	〃	田中　潤	
	〃	萩尾友宣	
	〃	三宅　智	
	〃	村岡邦秀	
	助　　教	塩川晃章	
	〃	瀬尾　哉	
	〃	石松哲郎	
	〃	松永大樹	
	〃	中山鎮秀	
	非常勤講師	井上敏生	（福岡鳥飼病院・整形外科）
	〃	尾上英俊	（福岡徳洲会病院・整形外科主任部長）
	〃	原　正文	（久恒病院・理事長）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

【知識・理解】

１．主要な運動器系疾患の基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。(A-1)

２．主要な運動器系疾患の医学情報を収集し、正しく応用できる。(A-2)

３．未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組むことができる。(A-3)

４．自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

構造と機能

１．骨・軟骨・関節・靱帯の構造と機能を説明できる。

２．脊柱（環椎、軸椎、頸椎、胸椎、腰椎、椎間板）の構造を説明できる。

３．姿勢と体幹の運動に関わる筋群とその運動と神経支配を説明できる。

４．四肢の骨・関節、関節可動域を説明できる。

５．四肢の主要筋群の運動と神経支配を説明できる。

６．手の機能を説明できる。

７．骨盤の構成と性差を説明できる。

８．骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。

９．運動／安静の骨・筋への影響を説明できる。

診断と検査の基本

1．徒手検査（関節可動域検査、徒手筋力検査、知覚検査）を説明できる。
2．画像診断〔エックス線（骨病変)、MRI（骨、軟部病変)、脊髄造影（脊柱管病変)、骨塩定量（骨粗鬆症)〕を説明できる。
3．生理学的検査〔筋電図（針および表面筋電図)、電気生理学的検査（脊髄および筋誘発電位、神経伝導速度)〕を説明できる。
4．関節鏡検査を概説できる。

症候

1．関節痛と関節腫脹の原因を列挙できる。
2．関節痛と関節腫脹を呈する患者に必要な問診と診察の要点を列挙できる。
3．関節痛と関節腫脹を呈する患者に必要な検査を列挙し、診断のプロセスを説明できる。
4．腰背部痛の原因を列挙できる。
5．腰背部痛を呈する患者に必要な問診と診察の要点を列挙できる。
6．腰背部痛を呈する患者に必要な検査を列挙し、診断のプロセスを説明できる。
7．筋運動の発生機序と関連させて筋力低下が生じる機序を説明できる。
8．筋力低下の原因を列挙できる。
9．筋力低下を訴える患者に必要な問診と診察の要点を列挙できる。
10．筋力低下を訴える患者に必要な検査を列挙し、診断のプロセスを説明できる。

疾患

1．骨折の定義（単純と複雑)、臨床所見、画像所見、関連する神経血管合併の対処法、ギプス固定中の合併症と対処法を説明できる。
2．骨粗鬆症が原因となる骨折を列挙できる。
3．関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靱帯損傷の定義、分類、診断と治療を説明できる。
4．変形性関節症を列挙し、症候と治療を説明できる。
5．骨関節炎の症候と治療を説明できる。
6．原発性四肢骨軟部腫瘍を列挙し、基本的な治療を説明できる。
7．頸椎症性脊髄症（脊柱靱帯骨化を含む）の神経症候を説明できる。
8．腰部脊柱管狭窄症の症候と治療を説明できる。
9．腰椎椎間板ヘルニアの症候と治療を説明できる。
10．腰椎分離・すべり症の症候と治療を説明できる。
11．脊椎・脊髄損傷の症候と治療を説明できる。
12．転移性脊椎腫瘍の好発部位と診断を説明できる。
13．脊柱管内腫瘍のタイプと代表的な疾患を列挙できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

1．講義

1）配布する講義テキスト（M4整形外科学　2022年）およびパワーポイント・プレゼンテーションにより、代表的疾患について、原因から病態までをわかりやすく行う。
2）暗記型でなく考え方を重視し、双方向性をもった講義を行う。

３）講義の後に時々小テストを行い、緊張感を持たせる。

２．視聴覚教育

１）動画を使った診察方法の学習（適宜講義の中に組み込まれる）。

２）代表的疾患の画像診断（適宜講義の中に組み込まれる）。

３．臨床教育

Simulated Patient を用いた基本的な診療手技実施（適宜講義の中に組み込まれる）。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．講義テキスト（M4 整形外科学　2022年）、Moodle、FU-BOX にアップロードされた資料および参考書により、次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。（60分）

【復習】

１．授業後は講義テキスト、Moodle、FU-BOX にアップロードされた資料および参考書を読み復習し、理解を深めること。（60分）

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

１．論述試験および客観試験

全講義終了後の試験で論述問題および客観問題を出題する。

２．シミュレーションテスト、実地試験

Simulated Patient を用いた基本的な診療手技実施の時に行う。

３．レポート

論述試験および客観試験で学力が劣る場合に行う。

４．最終評価の方法

論述試験および客観試験を中心に評価する。

Ⅵ．教科書

特になし。

Ⅶ．参考書・文献

TEXT 整形外科学　改訂第５版　南山堂、標準整形外科学　第14版　医学書院

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	22	月	3	前山	D-4	1)①、③～⑧ 2)	整形外科基礎科学	骨・軟骨・関節・靭帯の構造と機能、骨の成長・形成・吸収、四肢の主要筋群の運動と神経支配、骨・関節・関節可動域運動／診断と検査の基本（徒手検査、画像診断、脊髄造影、骨塩定量）	講義
2				4	木下	D-4	1)①、③～⑧ 2)～4)	整形外科学総論	四肢、脊椎、運動器疾患	〃
3		24	水	3	村岡	D-4	1)①	手の外科	手の機能と解剖、手関節および手指の疾患	〃
							4)(1)②～⑥⑧			
4				4	〃	F-1	36)	末梢神経損傷	末梢神経絞扼障害	〃
5		26	金	1	三宅	D-4	2)4)(1)②③⑥⑭	肩関節・肩甲帯の疾患	肩甲帯の疾患、肩関節障害の診断、脱臼・腱板断裂	〃
						F-1	34)36)			
6				2	〃	D-4	4)(1)⑥(2)	骨・関節感染症	骨・関節感染症の病態と治療	〃
						E-2	2)①⑤ 4)(2)			
7		29	月	3	田中	D-4	1)③④ 2)3) 4)(1)①⑨～⑮(2)②	脊椎総論	脊柱の構造、姿勢と体幹の運動、骨盤の構造と性差	〃
8				4	〃	F-1	34)35)	脊椎各論、脊椎・脊髄損傷	腰背部痛、頸椎症性脊髄症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離・すべり症、脊椎・脊髄損傷の症候、画像診断、治療	〃
9		31	水	3	非常勤講師 尾上	D-4	4)(1)①～⑤	骨折、脱臼	関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靭帯損傷の定義、分類、診断と治療、骨折に関連する神経・血管損傷の対処法、ギプス固定中の合併症	〃
10				4	松永	D-4	2)4)(1)①～③⑩	整形外科的急性外傷	緊急処置を要する整形外科的外傷疾患	〃
						G-2	37)			
11	9	2	金	1	塩川	D-4	4)(1)⑤⑥	骨代謝疾患、骨系統疾患	骨の系統的な障害、骨粗鬆症、変形性関節症	〃
						D-12	4)(3)①②(7)②			
12				2	石松	D-4	2)3)4)②	膝関節の外傷、膝関節の変性疾患	脱臼、骨折、靭帯損傷、半月板損傷、膝の解剖と生体力学に基づく病態把握と治療	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
13	9	5	月	3	中山	D-4	2)②3)②4)(3)	骨・軟部腫瘍	骨腫瘍の画像診断・症候・治療、原発性四肢骨軟部腫瘍、転移性脊椎腫瘍、脊柱管内腫瘍	講義
						E-3	1)2)5)④			
14				4	〃	D-4	2)②3)②4)(3)	〃	骨・軟部腫瘍の治療	〃
15		7	水	3	非常勤講師 井上	D-4	3)①②4)(1)②③⑥	小児の運動器疾患Ⅰ	小児整形外科総論、骨・関節の先天性疾患	〃
16				4	非常勤講師 原	D-4	4)(1)①～③⑥⑮	肘関節の疾患、前腕、スポーツ障害	上腕骨顆上骨折、投球肩、運動器のスポーツ障害（上肢）	〃
17		9	金	1	萩尾	D-4	1)①④2)	足の外科Ⅰ	外傷を含む足関節疾患	〃
							3)①②4)(1)			
							②～④			
18				2	〃	F-1	36)	足の外科Ⅱ	〃	〃
19		12	月	3	瀬尾	D-4	2)3)①②	小児の運動器疾患Ⅱ	小児整形外科各論、幼小児の運動器疾患、小児の下肢疾患	〃
							4)(1)⑥			
						F-1	34)36)			
20				4	〃	D-4	4)(1)①④	下腿と足の外傷	コンパートメント症候群などの下腿と足部の外傷	〃
						F-1	34)36)37)			
21		14	水	3	鎌田	D-4	1)④⑦⑧	リハビリテーション総論	障害、チーム医療、評価	〃
							4)(1)⑮			
						F-2	14)			
22				4	前山	D-4	2)4)(1)②⑥⑭	リウマチとその類縁疾患	関節リウマチ、関節痛、関節腫脹、骨・関節の化膿性疾患	〃
						E-4	3)(2)			
						F-1	34)36)			
23		16	金	1	木下	D-4	1)①④～⑧2)3)4)(1)①～③⑤⑦	骨盤と股関節外傷、股関節外科Ⅰ	骨盤環骨折、大腿骨頸部骨折、股関節外科、成人の股関節疾患、変形性股関節症、大腿骨頭壊死症	〃
						F-1	36)			
24				2	鎌田	D-4	1)④⑦⑧	リハビリテーション各論	パラプレジア、テトラプレジア、コルセット、車椅子、切断	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
25	9	21	水	3	木下	D-4	1)①④～⑧ 2)3)4)(1)①～③⑤⑦	骨盤と股関節外傷、股関節外科Ⅱ	骨盤環骨折、大腿骨頸部骨折、股関節外科、成人の股関節疾患、変形性股関節症、大腿骨頭壊死症	講義
						F-1	36)			
26				4	三宅			整形外科学総括	講義全般のまとめ、CBT試験および国家試験の概説	〃
	10	5	水	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

救 命 救 急 医 学

Ⅰ．担当教員名

救命救急医学	教　　授	石　倉　宏　恭（科目責任者）
	准 教 授	岩　朝　光　利
	〃	喜多村　泰　輔
	〃	松　尾　邦　浩（筑紫病院）
	講　　師	仲　村　佳　彦
	〃	星　野　耕　大
	助　　教	鯉　江　めぐみ
	〃	村　西　謙太郎
	〃	松　岡　優　太
	〃	森　本　紳　一
	〃	泉　谷　義　人
	非常勤講師	友　尻　茂　樹（福岡赤十字病院　救急部・集中治療部　部長）
	〃	梅　村　武　寛（琉球大学医学研究科救急医学講座　教授）
	〃	西　田　武　司（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター・救命救急センター　センター長）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．救命救急疾患の基礎（正常構造と機能、発達、成長、加齢、死、心理、行動）、臨床（病因、構造と機能の異常、診断、治療）、社会医学（医療安全、疫学、予防、保険・医療・福祉制度、医療経済）等の知識を習得し、診療に応用できる。(A-1)

2．最新の重症救急疾患における侵襲と生体反応の生理と管理についての医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。(A-2)

3．重症救急患者の初期管理や集中治療管理について理解し、未解決の医学的、科学的問題の発見や解決に取り組む事ができる。(A-3)

4．集団災害医療における医師の役割について理解し、自己の到達目標を設定し学ぶ機会を持つことができる。(A-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．わが国と諸外国の救急医療システムについて説明できる。

2．重症救急疾患における侵襲と生体反応の生理と管理について説明できる。

3．重症救急患者の初期管理、集中治療管理について説明できる。

4．集団災害医療における医師の役割について説明できる。

5．各種救命救急疾患の管理について説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

1．教科書に基づく議論を行う。

2．スライド、ビデオを使用する。

3．講義テーマ毎にシラバスを配付する。

4．学生との質疑応答を取り入れた講義を中心とする。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．指定した教科書を事前に読んでおく。(30分)

【復習】

１．スライドの不明点をテキスト等を用いて調べる。(30分)

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

多肢選択および記述式試験による。

Ⅵ．教科書

日本救急医学会　監修：標準救急医学　第５版　医学書院　2014

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	23	火	1	石倉	B-1	7)	救急医学と救急医療システム	初期救急医療施設、第二次救急医療施設、第三次救急医療施設、救命救急センター、救急救命士、特定行為、ラリンゲルマスク、高規格救急車、一次搬送、二次搬送、ヘリ搬送、メディカルコントロール	講義
2				2	森本	G-3	4)	救急初療に必要な処置	気管挿管、静脈路の確保、中心静脈カテーテルの挿入、動脈カニュレーション 、胃チューブ・ 胃 洗 浄、Sengstaken-Blakemore (S-B)チューブ、イレウス管、尿道留置カテーテル、心嚢穿刺、胸腔穿刺・胸腔ドレナージ 、腰椎穿刺（髄液検査)、腹腔穿刺・腹腔洗浄、膀胱穿刺・膀胱瘻造設、止血、小切開、排膿、縫合、輸液・輸血、救急医薬品	〃
3		24	水	1	非常勤講師 西田	C-4	4)	栄養	ショック 敗血症 DIC 免疫 栄養	〃
4				2	松岡	D-5		心血管系救急疾患、救急疾患の循環管理	急性冠症候群、心不全、致死性不整脈、急性動脈塞栓症、胸腹部大動脈救急疾患、高血圧緊急症、スワンガンツカテーテル、PCWP、CO、IABP、 高 度 電解質異常、PCPS	〃
5		30	火	1	松尾	G-3	4)	心 肺 蘇 生 法	Asystole (心静止)、PEA (無脈性電気活動)、VF (心室細動)、VT (心室粗動)、BLS、ACLS、除細動、5H 5T、心肺蘇生薬剤	〃
6				2	岩朝	D-2		中枢神経系の救急疾患	意識障害・JCS・GCS、 脳卒中・脳血管障害、中枢神経系感染症、けいれん、頭部外傷、被虐待児症候群とドメスティックバイオレンス	〃
7		31	水	1	星野	D-7		消化器系救急疾患	急性腹症、消化管出血、腹部外傷	〃
8				2	石倉	F-1	5)	敗血症性ショック、侵襲、生体反応、鎮静疼痛管理	SIRS、SEPSIS、DIC、サイトカイン、ストレス反応、体液変化、異化、先制鎮痛	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
9	9	7	水	1	非常勤講師 梅村	B-1	7）	市中病院の救急医療・集団災害医療、病院前救護体制（プレホスピタルケア）、救急医療に関する法律	一次・二次救急医療の現状、自然災害、人為災害、NBC災害、除染、災害拠点病院、トリアージ、DMAT、病院前診療、救急救命士、メディカルコントロール、救急医療に関する各種法律	講義
10				2	村西	D-6		呼吸器系救急疾患、救急疾患の呼吸管理	低酸素血症、高炭酸ガス血症、急性呼吸不全、ALI、ARDS、肺炎、重症喘息、肺水腫、肺塞栓症、気胸、無気肺、フレイルチェスト、外傷性血気胸、肺挫傷、緊張性気胸、開放性気胸、心タンポナーデ	〃
11		14	水	1	非常勤講師 友尻	E-5		急性中毒	胃洗浄、活性炭、血液浄化、拮抗薬、アルカリ化、農薬・医薬品中毒・家庭用品中毒	〃
12				2	鯉江	E-5		環境異常、溺水、窒息、その他	熱中症、偶発性低体温、凍傷、急性放射線障害、減圧症、窒息、溺水、高山病、酸欠症	〃
13		21	水	1	仲村	F-1	5）	ショックの全身管理	循環血液量減少性ショック、心原性ショック、感染性ショック、神経原性ショック、アナフィラキシーショック	〃
14				2	〃	F-2		集中治療医学の原則	多臓器不全、酸素運搬能、APACHE、肺保護療法、下位変曲点、ウィーニング	〃
15		28	水	1	喜多村	G-3	4）	外傷患者の初期治療	一次検索 primary surveyと二次検索 secondary survey、JATEC、Preventable Trauma Death（防ぎえた外傷死）、高エネルギー外傷、チーム医療、受傷機転と損傷部位、多発外傷	〃
16				2	泉谷	E-5		熱傷、化学損傷、電撃傷	熱傷の深度と範囲・初期輸液公式・全身管理・栄養管理・局所管理、化学損傷、電撃傷	〃
	10	14	金	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

臨床修練入門（診断学実習・スキルスラボ演習・病棟実習）

Ⅰ．担当教員名

臨床系教授、准教授、講師、助教

心臓・血管内科学	教　　授	三　浦　伸一郎（科目責任者）
医学教育推進講座	教　　授	安　元　佐　和（副責任者・実務責任者）
看　護　部	看護部長	甲　斐　純　美

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．基礎医学、臨床医学、社会医学の知識や EBM（Evidence-Based Medicine）を症例の問題解決に応用できる。(A-1)
2．病歴聴取、身体診察から得た情報をもとに、問題リスト、鑑別診断をあげることができる。(A-3)
3．患者を尊重した態度で医療面接、基本的臨床手技を正しく実施できる。(B-1)
4．患者の病歴、診察所見から臨床推論ができ、診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。(B-2)
5．患者の安全と感染防止を理解し、チームの一員として診療に参加できる。(B-4)
6．POS にもとづく診療録の書き方を説明できる。(B-5)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．医療面接：患者–医師関係の構築と患者理解のための情報収集ができる。
2．バイタルサインをとり、動脈触診の診察ができる。
3．頭頸部の診察ができる。
4．眼底鏡、耳鏡の使用法を習得し眼底、外耳道、鼓膜の観察ができる。
5．胸部（胸郭、心臓、肺）の診察ができる。
6．腹部・鼠径・下肢の診察ができる。
7．神経系の診察ができる。
8．採血、小手術、縫合結紮ができる。
9．心肺蘇生が実際にできる。
10．手術に必要な手洗いができる。
11．模擬患者から得た情報をまとめ問題リストをあげることができる。
12．鑑別診断をあげ診療録を作成し発表、討論ができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

1．ビデオ、スライド、指導者によるデモンストレーション
2．学生自身、学生同士による実習
3．模擬患者から得た情報を診療録に記載し、問題リストを作成する。
4．割当症例に関し電子カルテを熟読し、M5病棟診療を見学し、ポートフォリオを作成する。
5．持参するもの：聴診器、ペンライト、名札ケーシー白衣、黒のスラックス（スカートやジーンズ禁止）、音の出ない黒の無地のスニーカー。白の不織布マスクを着用すること。
6．実習中から医師にふさわしい身なりを整える。現在、多くの患者さんはまだ茶〜金髪、無精髭、

長い爪、派手なマニキュアを認めていない。またサンダル・クロックス・ハイカット・泥靴履きは禁止。毎食後歯磨きを行うなど口臭には気をつける。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．診断学実習概説講義の内容を理解し、実習に備えること。(30分)

２．「診療参加型臨床実習に必要な技能と態度　教育・学習用 DVD」は Moodle（2022　OSCE 自習用動画）で視聴しておくこと。(30分)（この動画を外部へ提供した場合は不正と判断され、共用試験の受験資格を取り消す。）

【復習】

１．実習内容を、講義プリントや Moodle 等を用いて復習し、習熟度を高めること。(60分)

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

ポートフォリオ、出席状況、授業態度等、総合的に判断する。

評価は合否で行う。

Ⅵ．教科書

診断学実習概説に同じ。

Ⅶ．参考書・文献

診断学実習概説に同じ。

行　動　科　学　Ⅲ

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　　授	川　浪　大　治（科目責任者）
感染制御部	教　　授	髙　田　　徹
医療情報部	准　教　授	吉　田　陽一郎
心臓血管外科学	教　　授	和　田　秀　一
医学系研究・生命医療倫理部門	准　教　授	今　泉　　聡
衛生・公衆衛生学	教　　授	有　馬　久　富
医学教育推進講座	教　　授	安　元　佐　和（副責任者）
	准　教　授	八　尋　英　二
薬　学　部	教　　授	神　村　英　利
	〃	緒　方　憲太郎
看　護　部	看護部長	甲　斐　純　美
	非常勤講師	三ツ角　直　正（三ツ角法律事務所）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．処方箋記載事項と処方監査について説明できる。(A-2)
2．クリニカル・クラークシップの学習方略、到達目標を説明できる。(A-4)
3．臨床実習前に習得すべき技能、態度について説明できる。(B-1)
4．臨床研究に必要な統計学的手法を説明できる。(B-3)
5．生命倫理、医療倫理にも続いて臨床修練に参加できる。(C-1)
6．国際誌の文献を検索し、EBM の実践に活用できる。(C-4)

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．生命倫理、医療倫理に基づいて臨床実習に参加できる。
2．クリニカル・クラークシップに相応しい身なりを整えることが出来る。
3．OSCE の医療面接、身体診察、基本的臨床手技について説明できる。
4．処方の組み立て、処方箋の書き方、適正処方、薬剤師との連携について説明できる。
5．臨床研究に用いる統計について説明できる。
6．POS にもとづく診療録の書き方を説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

1．クリニカルクラークシップに必要な医療全般の知識を学ぶ。
2．医療安全、医療情報、感染対策、チーム医療について学習する。
3．EBM や診療ガイドラインが日常診療にどのように活用されているかを学習する。
4．文献検索の方法を身につける。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

1．各講義の予習（30分）

【復習】

１．各講義の復習（30分）

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

出席状況、課題提出、授業態度で総合的に判断する。評価は合否で行う。

Ⅵ．**教科書**

１）診断学テキストブック　第21版　福岡大学医学部

２）OSCE 学習用動画 Moodle　(OSCE 自習用動画2021)

Ⅶ．**参考書・文献**

１）箕岡真子 . 日本臨床倫理学会監修：臨床倫理入門 へるす出版 2017

２）車谷典男、古屋仁 監修：OSCE/Post-CC OSCE に役立つ医学生のための基本的臨床手技　診断と治療社　2018

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	1	30	月	1	神村	B3	1）	医薬品の概念・臨床開発	薬機法、剤形、先発・後発医薬品、薬剤経済、治験、漢方薬	講義
2				2	〃	F2	8）	医薬品使用時の留意事項	禁忌、小児、高齢者、静脈内投与、副作用救済制度	〃
3				3	緒方	F2	8）	処方箋記載事項と処方監査	処方箋記載事項、監査、調剤、疑義照会	〃
4				4	安元	A1	6）	プロフェッショナリズム	St. Dr. 医師法改正	ＴＢＬ
5		31	火	1	今泉	A1	1)～3)	医療倫理	生命倫理、臨床倫理、患者の自己決定、インフォームドコンセント	講義
6				2	有馬	B1	1)～3)	臨床研究と統計学	統計学、臨床研究、研究デザイン	〃
7				3	安元	B1	3）	ＥＢＭ	文献検索　PICO（医学情報課）	ＰＣ教室
8				4	川浪	B1	3）	ＥＢＭ	5-step 、診療ガイドライン推奨レベル	講義
9	2	1	水	1	吉田	B2	2）	診療情報	診療情報、情報保護、情報開示診療録、電子カルテ	〃
10				2	非常勤講師三ッ角	A1	3）	医療と法	医師の責務、医師法、医療法、医療訴訟	〃
11				3	和田	A6	1)～6)	医療安全	医療の質と安全、医療事故、医療従事者の健康と安全、医療安全マニュアル	〃
12				4	髙田	A6	6）	感染制御	標準予防策、針刺し事故、予防接種	〃
13		2	木	1	川浪	G		臨床実習	クリニカル・クラークシップ	〃
14				2	甲斐	A5	1）	チーム医療	患者中心の医療、多職種連携	〃
15				3	安元・八尋	G		クリニカルクラークシップ	e-Portfolio, mini-CEX,	ＰＣ教室
16				4	〃	G	2）	カルテ記載	P.O.S.、Post CC-OSCE	〃
17		3	金	1	全員	G	2）	〃	臨床推論ワークショップ	ワークショップ
18				2	〃	G	2）	〃	臨床推論ワークショップ	〃
19				3	〃	A1			白衣授与式	〃
20				4	〃	A1			Student Dr. 認証式	〃

臨床修練入門（クリニカルクラークシップ）

第４学年２月から開始される臨床修練入門は、第５学年の臨床修練Ｉに連結する実習である。臨床修練入門を含む卒業前臨床実習の目的は、これまでに学んだ基礎および臨床医学知識を統合させ、実際の臨床の場に出て患者さんの診療を通して、医師になるために必要な知識・技能・態度を学ぶことである。

出来るだけ患者さんや検査データに接し、個々の問題点をピックアップして、その解決のために何をすればよいかを具体的に考え、指導医と議論することが大切である。

Ｉ．目　　標

1．これまで学んできた医学を、医療の現場で実際に応用し、活用する。
2．病む人それぞれに病態や問題点が異なっていることを理解し、全人的にケアすることを学ぶ。
3．患者さんや医療チームとの関係を通して、医師としての基本的な態度を身につける。
4．FU-RIGHT のコンピテンスを達成できる。

II．実 習 内 容

各科の実習スケジュールに従う。

III．一般的心得および実習時の注意事項

クリニカルクラークシップＩシラバス参照

IV．評　　価

目標に達したかどうかを確認するために、各科毎に実習態度と到達度の評価を行う。

第５学年のクリニカルクラークシップＩと総合して合否を判定する。

アンプロフェッショナルな学生として報告された場合は、実習の継続を審議する。

臨床修練入門（クリニカルクラークシップ）日程表

週	担当科	祝日	内科クリニカルクラークシップ							基本診療科クリニカルクラークシップ							クリニカルクラークシップ・地域医療																	
			内科 腫瘍・血液・感染症	循環器内科	消化器内科	腎臓・膠原病内科	脳神経内科	内分泌・糖尿病内科	呼吸器内科	消化器外科	呼吸器・乳線内分泌・小児外科	救命救急センター	産婦人科	小児科	精神神経科	筑紫病院	放射線科	臨床検査・輸血	麻酔科	整形外科	病院A	病院B	心臓血管外科	腎泌尿器外科	皮膚科	眼科	病院C	病院D	耳鼻咽喉科	脳神経外科	病理部	形成外科・薬剤部	病院E	病院F	歯科・臨研・リハビリ	総合診療部	病院G
1	R05.2. 6（月）～ 10（金）		1・2	3・4	5・6	7・8	9・10	11・12	13・14	15・16	17・18	19・20	21・22	23・24	25・26	27・28	29	30	31・32				33	34	35	36			37	38	39	40			41	42	
2	2.13（月）～ 17（金）																30	29		31・32			34	33	36	35			38	37	40	39			42	41	
3	2.20（月）～ 24（金）	2/23（木）	29・30	31・32	33・34	35・36	37・38	39・40	41・42	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10	11・12	13・14	15	16	17・18				19	20	21	22			23	24	25	26			27	28	
4	2.27（月）～ 3.3（金）																16	15		17・18			20	19	22	21			24	23	26	25			28	27	
5	3. 6（月）～ 10（金）		15・16	17・18	19・20	21・22	23・24	25・26	27・28	29・30	31・32	33・34	35・36	37・38	39・40	41・42	1	2	3・4				5	6	7	8			9	10	11	12			13	14	
6	3.13（月）～ 17（金）																2	1		3・4			6	5	8	7			10	9	12	11			14	13	
7	3.20（月）～ 24（金）	3/21（火）	13・14	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10	11・12	27・28	15・16	17・18	19・20	21・22	23・24	25・26	41	42	29・30				31	32	33	34			35	36	37	38			39	40	
8	3.27（月）～ 31（金）																42	41		29・30			32	31	34	33			36	35	38	37			40	39	

※スケジュール等、変更が生じた場合は、別途お知らせします。

第５学年講義要目

福岡大学医学部医学科 卒業時コンピテンシー達成レベル表

レベル（達成度）	Advanced	Applied	Basic			
Ⅰ．プロフェッショナリズム						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。	診療の場で医師としての態度・価値観を示すことができる	医師としての態度・価値観を模擬的に示すことができる	基盤となる態度・価値観を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅱ．医学的知識						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。	実践の場で問題解決に応用できる	問題解決に応用できる知識を示すことができる	模擬症例の問題リストを抽出できる知識を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	修得する機会があるが、単位認定に関係ない	修得する機会がない
Ⅲ．診療技術・患者ケア						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅳ．コミュニケーションとチーム医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅴ．グローバルな視野と地域医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。	実践できる	理解と計画立案ができる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅵ．科学的探究心と自律学習能力						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。	実践できる	理解と計画立案ができる	計画された研究の見学、基盤となる技術・態度を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない

科目名と卒業時コンピテンシー達成レベル【M5】		臨床修練Ⅰ	統合講義
Ⅰ. プロフェッショナリズム			
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。			
1	医療者として法的責任、規則を遵守できる。	A	C/D
2	生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。	A	C/D
3	他者を尊重し、利他的な態度で行動できる。	A	C/D
4	患者の個人情報保護を遵守できる。	A	C/D
5	多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。	A	C/D
6	患者、社会、医療者に対して説明責任を果たすことができる。	A	C/D
7	医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。	A	A
8	患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。	A	A
Ⅱ. 医学的知識			
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。			
1	正常構造と機能	A	B
2	発達、成長、加齢、死	A	B
3	心理、行動	A	B
4	病因、構造と機能の異常	A	B
5	診断、治療	A	B
6	医療安全	A	B
7	疫学、予防、公衆衛生	A	B
8	保健・医療・福祉制度	A	B
9	医療経済	A	B
Ⅲ. 診療技術・患者ケア			
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。			
1	患者から病歴を的確に聴取できる。	A	A
2	成人、小児の基本的な身体診察と基本的臨床手技を実践できる。	A	A
3	患者の病歴、診察所見から臨床推論ができる。	A	A
4	診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。	A	A
5	頻度の高い疾患について、EBM(Evidence-Baced Medicine)に基づいた診断、治療方針について説明できる。	A	A
6	患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。	A	A
7	POS(Problem-Oriented System)を用いて診療録を記載し、適切にプレゼンテーションができる。	A	A
8	患者に必要な病状説明・意思決定の場に参加できる。	A	A
Ⅳ. コミュニケーションとチーム医療			
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。			
1	患者とその家族の個人的背景、文化、社会的背景を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。	A	A
2	多職種の医療チーム内で信頼関係を築き、患者中心の医療のために情報を共有し、説明伝達ができる。	A	A
3	他の医療者に、手順を守り適切にコンサルテーションできる。	A	A
4	患者の医学情報を診療録に的確に記載し、医療チーム内で情報を共有できる。	A	A
5	医療の国際化を認識し、英語で医療面接ができる。	A	A
Ⅴ. グローバルな視野と地域医療			
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。			
1	医療制度、社会福祉制度を正しく理解した診療を実践できる。	B	E
2	地域の医療機関、保健、福祉、行政等の関連機関と適切な連携がとれる。	B	E
3	行政への届け出や社会福祉制度の必要書類を適切に作成できる。	A	E
4	地域医療に参加し、プライマリケアが実践できる。	A	E
5	海外からの患者の診療、医療者との交流が行える。	A	E
6	国際保健や医療の社会的問題の情報を収集できる。	A	E
Ⅵ. 科学的探究心と自律学習能力			
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。			
1	基礎研究、臨床研究の理論と方法を理解することができる。	A	C/D
2	最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。	A	C/D
3	ICTを適切に利用し情報セキュリティ管理ができる。	A	A
4	未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。	A	C/D
5	自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。	A	A
6	診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。	A	C/D
7	学生、後輩、同僚に対し教育者として貢献できる。	A	A

臨　床　修　練　Ⅰ

実施期間

第４学年の２月から開始し、第５学年の３月までの 52 週間をあてる。

到達目標（Learning Outcome)

１．基礎医学、臨床医学、社会医学の知識を統合させて症例を把握することが出来る。(A-1)
２．個々の症例に対し文献的考察を行い、論理的かつ批判的に評価することが出来る。(A-2)
３．適切な臨床推論に基づいた検査計画を立て、内分泌代謝疾患の病態を評価出来る。(B-2)
４．科学的根拠に基づいて内分泌代謝疾患の診断や治療方針を説明することが出来る。(B-3)
５．時間を守り、礼儀を重んじて医療チームの一員として行動することが出来る。(B-4)
６．利他的な態度で行動し、患者の個人情報保護を遵守出来る。(C-2)

コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies)

１．学生相互の討議等により、実習をさらに充実させる。
２．学び得たことを、その都度記録・整理・体系化・蓄積できる。
３．医療チームの一員としての責任を自覚して行動できる。

学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶ。
２．学生は、上級医のみならず、広い意味では患者および看護師、薬剤師等の診療スタッフ全員から医師としての基本的な知識・思考法・技能・態度を学ぶ。
３．教科書文献的知識だけでなく医療現場で必要となる思考法（臨床推論、臨床判断、診療計画の立案等）や、医療面接、身体診察、基本的臨床手技、診療録その他の文書作成等の技能、診療上の態度（医師のプロフェッショナリズム）及び学修上の態度も含めて医師としての能力（コンピテンシー）を総合的に学ぶ。
４．福岡大学病院の医療安全教育（医療安全実習セミナーを含む）を必ず受講する。
　・安全２回
　・感染２回

〈事前事後学習の方法〉

【予習】翌日の臨床実習における行動計画を立案し、そのために必要な知識を予習する。（30 分）
【復習】本日の実習の振り返りと必要事項の復習をする。（60 分）

成績評価および方法（Evaluation）

１．学生は、主体的に学修目標を設定し、担当した症例のサマリー、学修した内容をポートフォリオに記録する。指導医や他の職種に多面的に評価を受ける。

２．指導医は、学生の知識・技能・態度（マナー等）・実習参加状況等から実習評価を行う。知識や臨床推論、臨床判断等だけではなく、診察や基本的臨床手技等の技能、医師のプロフェッショナリズム等の態度を評価する。

3. 技能の評価は、評価表を用いた簡易版臨床能力評価法（mini-CEX）を使用する。その内容は、学生へフィードバックを行う。

4. 実習中の態度の評価は、同じチームの研修医、看護スタッフの意見を積極的に取り入れる（360°評価）。

5. 実習中における知識獲得達成度を確認するために、全国模擬試験を受験する。

6. 臨床実習の評価は、合否で行う。

7. 第６学年への進級には、全ての科で合格の評価を受けることが必要である。

8. 診療業務に参加する学生を観察し、指導医が「無責任」あるいは「自己改善能力が低い」と判断した場合は、Unprofessional な学生として記録を残す。

教科書

全科共通で指定する教科書はない。各診療科の指示に従う。

統　合　講　義

Ⅰ．担当教員名

生化学	教授	安永晋一郎	
薬理学	教授	岩本隆宏	
	准教授	根本隆行	
病理学	教授	濵﨑慎	
	准教授	上杉憲子	
	講師	青木光希子	
法医学	教授	久保真一	
腫瘍・血液・感染症内科学	教授	髙松泰	
	准教授	戸川温	（感染制御部）
	講師	佐々木秀法	
内分泌・糖尿病内科学	教授	川浪大治	（科目責任者）
心臓・血管内科学	教授	三浦伸一郎	
	准教授	杉原充	
消化器内科学	講師	石橋英樹	
呼吸器内科学	教授	藤田昌樹	
	助教	春藤裕樹	
腎臓・膠原病内科学	教授	升谷耕介	（副責任者）
脳神経内科学	教授	坪井義夫	
	准教授	藤岡伸助	
精神医学	講師	堀輝	
小児科学	教授	永光信一郎	
放射線医学	准教授	高野浩一	（筑紫病院）
消化器外科学	助教	松本芳子	
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	教授	佐藤寿彦	
	准教授	廣瀬龍一郎	（総合周産期母子医療センター）
心臓血管外科学	教授	和田秀一	
脳神経外科学	教授	安部洋	
	助教	堀尾欣伸	
リハビリテーション部	准教授	鎌田聡	
麻酔科学	教授	秋吉浩三郎	
救命救急センター	講師	星野耕大	

Ⅱ．**到達目標**（Learning Outcome)

１．様々な基本的疾患を題材にして、これまでに学んだ基礎医学（正常構造と機能、発達・成長・加齢・死、心理・行動)、臨床医学（病因、構造と機能の異常、診断、治療)、社会医学（医療安全、疫学・予防・公衆衛生、保健・医療・福祉制度、医療経済）の知識を統合し、診療に応用する基本的能力を修得する。(A-1)

２．基本的疾患に関する最新の医学情報を収集し、論理的・批判的に評価できる技能を学ぶ。(A-2)

３．基本的疾患に関する未解決な問題点を理解し、解決に取り組む技能を学ぶ。(A-3)

４．自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ態度を身につける。(A-4)

５．患者の病歴・診察所見から臨床推論ができ、診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。(B-2)

６．EBM (Evidence-Based Medicine) に基づいて診断、治療方針を説明できる技能を修得する。(B-3)

Ⅲ．**コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）**（Competencies)

１．悪性リンパ腫の分類、病因、病態、血液学的診断（染色体異常、FISH など)、病理、治療法やその副作用を理解し、癌治療に伴うリハビリテーションの意義を理解できる。

２．脳腫瘍の種類、画像診断、病理、治療法を理解できる。

３．虚血性心臓病の病因、病態、病理、画像診断、内科的治療法、血管内治療、外科的治療法と問題点について理解できる。

４．消化器系疾患の病因、病態、病理、画像診断、内科的治療法、外科的治療法と問題点について理解できる。

５．脳卒中の病因、病態、画像診断、内科的治療法、外科的治療法について理解できる。

６．糖尿病の成因、病態、治療法について理解できる。

７．呼吸器感染症の疫学、病態、診断、治療法について理解できる。

８．ループス腎炎並びにそれ以外の糸球体疾患の成因、病態、診断、病理、治療法について理解できる。

９．小児急性腹症の鑑別診断を理解できる。また治療について内科的・外科的方法に整理し理解できる。

10．エイズの病因、病態、診断（病理診断含む)、治療およびメンタルヘルスについて理解できる。

11．患者の術前評価と手術術式に応じて、適切な麻酔方法の選択について理解できる。区域麻酔施行時の合併症とその診断、治療方法について理解できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．基礎医学と臨床医学の知識を融合させ疾患を理解する。

２．疾患の病態生理を解剖学、法医学、生化学、薬理学の観点から理解する。

３．病理学がどのように診断や治療に応用されるかを理解する。

４．疾患に対する内科的アプローチ、外科的アプローチを駆使した治療戦略を理解する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．各講義の予習（30分）

【復習】

１．各講義の復習（30分）

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

原則全講義出席を進級要件とする。また、進級判定試験の出題範囲とする。

評価は合否で行う。

Ⅵ．教科書

関連各科の推薦教科書（関連各科の系統講義のページを参照）

Ⅶ．参考書・文献

同上

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	29	月	1	三浦・杉原 上杉・和田	D-5	4)(2)①～③(7)	３枝病変の狭心症患者	1. 内科から症例呈示（リスクを含めて） 2. カテーテルインターベンション 3. 病理学から、プラークの病理 4. 冠動脈バイパス手術 5. 総括	講義
2				2	安部・青木	D-2	4)(10)	脳腫瘍	1. 脳神経外科から症例呈示 2. 脳神経外科から手術呈示 3. 病理学から病理解説 4. 治療等まとめ:脳神経外科	〃
3				3	秋吉・久保 岩本・根本	F-2 G-3	10)①⑥ 4)①～③	区域麻酔と合併症	1. 症例提示 2. 区域麻酔の実際 3. 局所麻酔薬の作用機序 4. 局所麻酔薬中毒とは 5. 血液中の局所麻酔薬定量 6. 治療	〃
4				4	石橋・松本	D-7 F-2	4) 6)9)	消化器疾患治療	1. 症例呈示　上部腫瘍・下部腫瘍 2. 内視鏡治療 3. 外科治療	〃
5	9	12	月	1	坪井・藤岡 堀尾・高野	D-2	4)(1)	脳卒中	1. 症例呈示 2. 内科的治療 3. 外科的治療 4. 脳卒中の画像	〃
6				2	藤田昌・濵﨑 星野・佐藤 春藤	D-6	4)(2)②～⑤⑦	呼吸器感染症	1. 症例呈示 2. 放射線診断 3. 病理診断 4. 外科療法 5. 呼吸管理 6. まとめ	〃
7				3	川浪・安永	D-12	4)(5)	糖尿病	1. 症例提示 2. 糖尿病の病態と診断 3. 糖代謝の生化学 4. 病態に応じた糖尿病の治療	〃
8				4	永光・廣瀬龍	D-7	3)(2) 4)(3)	小児急性腹症	1. 新生児の急性腹症・外科疾患の提示 2. 小児科サイドより 3. 小児外科サイドより	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
9	9	27	火	1	髙松・佐々木 青木・鎌田	D-1	4)(4)⑧	悪性腫瘍の治療	1. 症例呈示 2. 診断　病理組織診断、染色体異常、FISH検査、がん化のメカニズム 3. 治療・支持療法　悪性腫瘍の治療概念、がん薬物療法の副作用 4. リハビリテーション　がん患者へのリハビリテーションの目的・意義、実際	講義
10				2	升谷・上杉	D-8	4)(2)③ (6)②	糸球体疾患	1. 症例呈示（内科） 2. 病理診断 3. 治療（内科）	〃
				3						自習
11				4	戸　川・堀	E-2	4)(1)⑥ (2)⑧	エイズ	1. 症例提示（内科） 2. エイズの診断と治療（内科） 3. セクシャルマイノリティーについて（精神科）	講義
						C-5	6)⑤			

第 6 学 年 講 義 要 目

福岡大学医学部医学科 卒業時コンピテンシー達成レベル表

レベル（達成度）	Advanced	Applied	Basic			
Ⅰ．プロフェッショナリズム						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。	診療の場で医師としての態度・価値観を示すことができる	医師としての態度・価値観を模擬的に示すことができる	基盤となる態度・価値観を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅱ．医学的知識						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。	実践の場で問題解決に応用できる	問題解決に応用できる知識を示すことができる	模擬症例の問題リストを抽出できる知識を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	修得する機会があるが、単位認定に関係ない	修得する機会がない
Ⅲ．診療技術・患者ケア						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅳ．コミュニケーションとチーム医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅴ．グローバルな視野と地域医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。	実践できる	理解と計画立案ができる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅵ．科学的探究心と自律学習能力						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。	実践できる	理解と計画立案ができる	計画された研究の見学、基盤となる技術・態度を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない

科目名と卒業時コンピテンシー達成レベル【M6】		臨床修練Ⅱ	領域別集中講義Ⅰ・Ⅱ
Ⅰ．プロフェッショナリズム			
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。			
1	医療者として法的責任、規則を遵守できる。	A	C/D
2	生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。	A	C/D
3	他者を尊重し、利他的な態度で行動できる。	A	C/D
4	患者の個人情報保護を遵守できる。	A	C/D
5	多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。	A	C/D
6	患者、社会、医療者に対して説明責任を果たすことができる。	A	C/D
7	医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。	A	C/D
8	患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。	A	C/D
Ⅱ．医学的知識			
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。			
1	正常構造と機能	A	B
2	発達、成長、加齢、死	A	B
3	心理、行動	A	B
4	病因、構造と機能の異常	A	B
5	診断、治療	A	B
6	医療安全	A	B
7	疫学、予防、公衆衛生	A	B
8	保健・医療・福祉制度	A	B
9	医療経済	A	B
Ⅲ．診療技術・患者ケア			
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。			
1	患者から病歴を的確に聴取できる。	A	C/D
2	成人、小児の基本的な身体診察と基本的臨床手技を実践できる。	A	C/D
3	患者の病歴、診察所見から臨床推論ができる。	A	C/D
4	診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。	A	C/D
5	頻度の高い疾患について、EBM（Evidence-Baced Medicine）に基づいた診断、治療方針について説明できる。	A	C/D
6	患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。	A	C/D
7	POS（Problem-Oriented System）を用いて診療録を記載し、適切にプレゼンテーションができる。	A	C/D
8	患者に必要な病状説明・意思決定の場に参加できる。	A	C
Ⅳ．コミュニケーションとチーム医療			
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。			
1	患者とその家族の個人的背景、文化、社会的背景を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。	A	C/D
2	多職種の医療チーム内で信頼関係を築き、患者中心の医療のために情報を共有し、説明伝達ができる。	A	C/D
3	他の医療者に、手順を守り適切にコンサルテーションできる。	A	C/D
4	患者の医学情報を診療録に的確に記載し、医療チーム内で情報を共有できる。	A	C/D
5	医療の国際化を認識し、英語で医療面接ができる。	A	C/D
Ⅴ．グローバルな視野と地域医療			
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。			
1	医療制度、社会福祉制度を正しく理解した診療を実践できる。	B	C/D
2	地域の医療機関、保健、福祉、行政等の関連機関と適切な連携がとれる。	B	C/D
3	行政への届け出や社会福祉制度の必要書類を適切に作成できる。	B	C/D
4	地域医療に参加し、プライマリケアが実践できる。	A	C/D
5	海外からの患者の診療、医療者との交流が行える。	A	C/D
6	国際保健や医療の社会的問題の情報を収集できる。	A	C/D
Ⅵ．科学的探究心と自律学習能力			
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。			
1	基礎研究、臨床研究の理論と方法を理解することができる。	A	C/D
2	最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。	A	C/D
3	ICTを適切に利用し情報セキュリティ管理ができる。	A	A
4	未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。	A	C/D
5	自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。	A	A
6	診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。	A	C/D
7	学生、後輩、同僚に対し教育者として貢献できる。	A	A

臨　床　修　練　Ⅱ

実施期間

４月４日㈪～７月１日㈮の期間

到達目標（Learning Outcome）

臨床修練Ⅰからさらに発展した診療参加型実習を行う。

１．自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ態度を身につける。(A-4)

２．患者の秒益、診察所見から臨床推論を行い、検査計画と治療計画を立てる技能を習得する。(B-1)

３．医療安全に配慮し、多職種の医療チームで信頼関係を築き、患者中心の医療を実践する態度を学ぶ。(B-4)

４．他者を尊重し、利他的な態度を身につける。(C-2)

５．Student Doctor としての自尊心と向上心を身につける。(C-4)

コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．患者の立場を尊重し、信頼を得ることができる。

２．患者のプライバシー、羞恥心、苦痛に配慮し、個人情報等を守秘できる。

３．挨拶、身だしなみ、言葉遣い等に気を配ることができる。

４．基本的診療知識に基づき、個々の症例に関する情報を収集・分析できる。

５．得られた情報をもとに、その症例の問題点を抽出できる。

６．病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診療ができる。

７．感度・特異度等を考慮して、診断に必要十分な検査を挙げることができる。

８．科学的根拠に基づいた治療法を述べることができる。

９．問題志向型診療録記載方式で診療録を記載できる。

学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶ。

２．学生は、上級医のみならず、広い意味では患者および看護師、薬剤師等の診療スタッフ全員から医師としての基本的な知識・思考法・技能・態度を学ぶ。

３．教科書文献的知識だけでなく医療現場で必要となる思考法（臨床推論、臨床判断、診療計画の立案等）や、医療面接、身体診察、基本的臨床手技、診療録その他の文書作成等の技能、診療上の態度（医師のプロフェッショナリズム）及び学修上の態度も含めて医師としての能力（コンピテンシー）を総合的に学ぶ。

４．福岡大学病院の医療安全教育（医療安全実習セミナーを含む）を必ず受講する。

・安全１回

・感染１回

〈事前事後学習の方法〉

【予習】翌日の臨床実習における行動計画を立案し、そのために必要な知識を予習する。（30 分）

【復習】本日の実習の振り返りと必要事項の復習をする。（60 分）

成績評価および方法（Evaluation）

1．学生は、主体的に学修目標を設定し、担当した症例のサマリー、学修した内容をポートフォリオに記録する。指導医や他の職種に多面的に評価を受ける。

2．指導医は、学生の知識・技能・態度（マナー等）・実習参加状況等から実習評価を行う。知識や臨床推論、臨床判断等だけではなく、診察や基本的臨床手技等の技能、医師のプロフェッショナリズム等の態度を評価する。

3．技能の評価は、評価表を用いた簡易版臨床能力評価法（mini-CEX）を使用する。その内容は、学生へフィードバックを行う。

4．実習中の態度の評価は、同じチームの研修医、看護スタッフの意見を積極的に取り入れる（360°評価）。

5．臨床実習の評価は、実施責任者および担当医が行う。

6．総合評価は、実施責任者が合否で行う。

7．診療業務に参加する学生を観察し、指導医が「無責任」あるいは「自己改善能力が低い」と判断した場合は、Unprofessional な学生として記録を残す。

教科書

全科共通で指定する教科書はない。各診療科の指示に従う。

実習科目の選択方法

各診療科から提案されたクリニカルクラークシップまたはその他のプログラムの中から選択し希望するものを届け出て調整する。

臨床実習科一覧

1．福岡大学病院

腫瘍・血液・感染症内科
内分泌・糖尿病内科
循環器内科
消化器内科
呼吸器内科
腎臓・膠原病内科
脳神経内科
精神神経科
小児科
皮膚科
放射線科
消化器外科
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科
心臓血管外科
脳神経外科
整形外科
形成外科
眼科
耳鼻咽喉科
腎泌尿器外科
産婦人科
麻酔科
救命救急センター
病理部
総合診療部
総合周産期母子医療センター
（新生児部門）

２．福岡大学筑紫病院
循環器内科
呼吸器内科
内分泌・糖尿病内科
消化器内科
小児科
外科
呼吸器・乳腺外科
整形外科
脳神経外科
泌尿器科
眼科
耳鼻いんこう科
放射線科
麻酔科
病理部
内視鏡部
炎症性腸疾患センター

３．福岡大学西新病院
循環器内科
消化器内科

４．学外実習病院

１）啓明大学コース（新型コロナウイルス感染症の影響により中止）

実習病院：啓明大学付属病院（韓国大邱市）

臨床実習科：2018年度実績

消化器内科（Gastoroenterology and Hepatology）、呼吸器内科（Respiratory Medicine）、神経内科（Neurology）、小児科 (Pediatrics)、脳神経外科（Neurosurgery）、心臓血管外科 (Cardiovascular Surgery)、整形外科（Orthopaedic Surgery）、小児外科 (Pediatric Surgery)、形成外科 (Plastic Surgery)、救急科 (Emergency Medicine)、麻酔科 (Anesthesiology)

実習の目標：

海外の教育病院で臨床実習をすることにより、国際的な視野に立った臨床医学を学ぶ。

実習の方法：啓明大学５年生の臨床実習に参加し、共に学ぶ。

評価：啓明大学の評価方法に準じて評価を受ける。

２）離島実習コース

実　習　病　院：対馬病院

受け入れ期間：Ⅱ期、Ⅲ期

第Ⅱ期：5/9～6/3　　第Ⅲ期：6/13～7/1

受け入れ人数：各期１名

実習の目標：

実際の診療業務に参加しながら、基本的臨床技能と患者さんとのコミュニケーション能力、そしてチーム医療の実践能力を高めるとともに、地域医療についての基本的な考え方を学ぶ。また、地域に密着した医療に深く関連する保健・福祉活動についても学習し、地域包括ケアについての理解を深める。

実 習 方 法：クリニカルクラークシップ

評　　価：学内の評価方法に準じて評価を受ける。

３）学外の卒後臨床研修指定病院等での実習

卒後研修予定病院等での臨床実習を希望する場合は、学外実習希望届けを提出し許可を得た上で実施する。修了後は実施確認書と評価表を提出する。

・学外実習として選択できる期間は、Ⅲ期のうち２期までとする。

・学外実習の期間は、２週間以上の実習が可能な施設とする。ただし、１つの病院で、２週間を異なる診療科に分ける場合は認めない。３週間の受入が可能な場合が望ましい。
学外実習が２週間の場合は、残りの実習については、原則学内の臨床実習に配置する。
また、期をまたぐ学外実習は、認めない。

※第Ⅲ期での学外実習については、6/9(木)～6/10(金)に本学で実施する第１回模擬試験を必ず受験することを条件とする。

医療安全教育

福岡大学病院の医療安全教育（医療安全実習セミナーを含む）を必ず受講する。

・安全１回

・感染１回

Ｍ６　領域別集中講義Ⅰ，Ⅱ

Ⅱ．**到達目標**（Learning Outcome）

これまでに修得した基礎、社会医学および臨床系の知識と技能を臓器・機能単位で系統的に総括する。臓器・機能単位は下表のとおり３つの領域別Ⅰ、Ⅱに分けて集中講義を行う。

領域別集中講義Ⅰ

１．基礎（正常構造と機能、発達、成長、加齢、死、心理、行動）、臨床（病因、構造と機能の異常、診断、治療）、社会医学（医療安全、疫学、予防、保健・医療・福祉制度、医療経済）等の知識を学ぶ。(A-1)

２．最新の医学情報を収集し、臨床応用できる知識を学ぶ。(A-2)

３．未解決の医学的問題を発見し、解決に取り組む方法を理解する。(A-3)

４．自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ態度を身につける。(A-4)

日　程	講義科目（責任者）
７月７日、７月８日	循環器病学（三浦・和田）
７月11日、７月12日	内分泌・代謝病学（川浪）
７月14日、７月15日	腎・泌尿器・膠原病学（升谷・羽賀）
７月19日、７月20日	消化器病学（平井・長谷川）
７月22日、７月25日	腫瘍・血液・感染症学（髙松）
７月28日、７月29日	呼吸器病学（藤田昌・佐藤）
８月１日、８月２日	脳神経病学（坪井・安部）

領域別集中講義Ⅱ

１．基礎（正常構造と機能、発達、成長、加齢、死、心理、行動）、臨床（病因、構造と機能の異常、診断、治療）、社会医学（医療安全、疫学、予防、保健・医療・福祉制度、医療経済）等の知識を学ぶ。(A-1)

２．最新の医学情報を収集し、臨床応用できる知識を学ぶ。(A-2)

３．未解決の医学的問題を発見し、解決に取り組む方法を理解する。(A-3)

４．自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ態度を身につける。(A-4)

５．頻度の高い疾患について、EBM（Evidence-Based Medicine）に基づいて診断、治療方針を決定する技能を習得する。(B-3)

日　程	講義科目（責任者）
８月29日、８月30日	産科婦人科学（宮本）
９月１日、９月２日	小児医学（永光）
９月６日	精神医学（川嵜）
９月８日	麻酔科学・救命救急医学（秋吉・石倉）
９月12日	整形外科学（山本）
９月14日	眼科学（内尾・尾﨑）
９月16日	皮膚科学・形成外科学（今福・髙木）
９月20日	耳鼻咽喉・口腔系（坂田俊・近藤）
９月22日	放射線科学・臨床検査医学（吉満・小川）
９月26日～９月28日	公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント(有馬・久保)

Ｖ．**成績評価および方法**（Evaluation）

総合試験Ⅰの結果を用いて評価する。評価は合否で行う。

以下のページにはそれぞれ講義科目毎のコンピテンシー、学習方略や日程表があるので熟読すること。

領域別集中講義Ⅰ（循環器病学）

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　授	川　浪　大　治（評価責任者）
心臓・血管内科学	教　授	三　浦　伸一郎（責任者）
	講　師	志　賀　悠　平
	〃	加　藤　悠　太
	助　教	小　牧　　智
心臓血管外科学	教　授	和　田　秀　一（責任者）
小　児　科	講　師	吉　兼　由佳子

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．循環器の検査法を説明し判読できる。

２．先天性心疾患、後天性心疾患、虚血性心疾患、ショック・心不全の血行動態を説明し、その診断と治療法を述べる。

３．不整脈、動・静脈疾患、心膜疾患、心筋疾患、心臓の腫瘍、血圧異常の種類と機序を列挙し、診断と治療法を述べる。

４．循環器疾患患者の病歴、診察所見から臨床推論ができ、診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．国家試験問題解説

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味や基本事項を応用できるようにしておくこと。(60分)

【復習】

１．プリントやスライドで呈示された症例の病歴、身体所見、検査所見を判読し、診断や治療方針を討論し各自の知識の整理をする。(30分)
講義内容を、プリントなどを用いて復習し、習熟度を高めること。(30分)

Ⅵ．教科書

１．高久史麿・尾形悦郎　監修：新臨床内科学　第10版　医学書院　2020

２．矢崎義雄　編：内科学　第11版　朝倉書店　2017

３．内山　聖　監修：標準小児科学　第８版　医学書院　2013

４．高松英雄・福澤正洋　監修：標準小児外科学　第７版　医学書院　2017

Ⅶ．参考書・文献

１．清水　渉　監修：最新主要文献とガイドラインでみる循環器内科学レビュー 2022－’23　総合医学社　2021

２．伊藤　浩・山下武志　編集：循環器疾患最新の治療　2020－2021　南江堂　2021

３．種村　正・高橋秀一　編集：心臓超音波テキスト第３版　医歯薬出版　2021
４．三浦　大・前田　潤　編集：はじめて学ぶ小児循環器　改定第２版　診断と治療社　2020

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	7	7	木	1	加藤	D-5	2) 4)(1) (2)(4) (5)	診断法	症例検討	講義
2				2	志賀	D-5	1)～3) 4) (1)(4) (5)(9)	脈管総論、心不全、弁膜症、心筋症	問題解説	〃
3				3	三浦	D-5	4) (1)(2) (5)	虚血性心疾患、心膜疾患	症例検討、心血管病予防	〃
4		8	金	1	小牧	D-5	1)③④	不整脈	症例検討	〃
5				2	和田	D-5	4)(7) ②～④	動・静脈疾患	大動脈解離、急性動脈閉塞、肺塞栓	〃
6				3	吉兼	D-5	4)(6)	小児期心疾患の診断と特徴､川崎病とその合併症		〃

領域別集中講義Ⅰ（内分泌・代謝病学）

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　授	川浪大治（評価責任者・責任者）
	講　師	髙士祐一
	〃	横溝　久
	助　教	牟田芳実
総合医学研究センター	教　授	松永　彰

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．糖尿病の病因、病態生理、分類、症候、診断を説明できる。
２．糖尿病の急性合併症と慢性合併症を説明できる。
３．糖尿病の食事療法、運動療法と薬物療法を説明できる。
４．視床下部・下垂体疾患の成因、診断と治療について説明できる
５．甲状腺・副甲状腺疾患の成因、診断と治療について説明できる
６．副腎および関連疾患の成因、診断、治療について説明できる
７．高脂血症の分類、診断と治療を説明できる。
８．尿酸代謝とその異常を説明できる。
９．ビタミンの欠乏症と過剰症を説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

1．過去の医師国家試験問題から予想される出題ポイントを学習する。
2．内分泌・代謝疾患の最新トピックスを理解し、医師国家試験に備える。
3．関連する基礎医学、臨床医学の知識を統合し内分泌・代謝疾患の病態生理を包括的に理解する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

1．各講義の予習（30分）

【復習】

1．各講義の復習（30分）

Ⅵ．教科書

特になし

Ⅶ．参考書・文献

１．矢﨑義雄　総編集：内科学　第11版　朝倉書店
２．寺本民生、片山茂裕　編集：講義録　内分泌・代謝学　メジカルビュー社
３．日本糖尿病学会編：糖尿病治療ガイド　2020～2021　文光堂

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	7	11	月	1	川　浪	D-12	4)(4)	副腎疾患・性腺	副腎疾患、性腺機能低下症、性分化異常症	講　義
2				2	松　永	D-12	1)⑨4)(6)(7)②(8)	脂質代謝異常・尿酸代謝	脂質異常症、痛風、その他の異常	〃
3				3	髙　士	D-12	4)(3)	副甲状腺疾患・骨代謝異常	カルシウム代謝とその異常	〃
4		12	火	1	川　浪	D-12	4)(2)	甲状腺疾患	甲状腺疾患の診断と治療	〃
5				2	牟　田	D-12	4)(1)	視床下部・下垂体	間脳・下垂体疾患	〃
6				3	横　溝	D-12	4)(5)	糖代謝異常	糖尿病	〃

領域別集中講義Ⅰ（腎・泌尿器・膠原病学）

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　　授	川　浪　大　治（評価責任者）
腎臓・膠原病内科学	教　　授	升　谷　耕　介（責任者）
	助　　教	冷牟田　浩　人
腎泌尿器外科学	教　　授	羽　賀　宣　博（責任者）
	准　教　授	松　岡　弘　文
	〃	石　井　　龍（筑紫病院　臨床医学研究センター）
	講　　師	中　村　信　之

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．原発性及び続発性の糸球体疾患並びに尿細管間質病変について、病因、病理、病態の面からその特徴を列記し、臨床症状、検査所見、治療と治療成績と関係づける。
2．腎不全について、急性と慢性の特徴を比較し、その病因と病態、治療について説明する。
3．膠原病に属するそれぞれの疾患の診断、治療、合併症について、説明できる。
4．主要な泌尿器科疾患について、画像を供覧しながら必修の基本項目について解説することができる。
5．腎・尿路結石症の原因、症状、診断法、合併症、治療法および再発予防について説明することができる。
6．腎血管疾患・尿路性器外傷の症状、診断法、合併症、治療法について述べることができる。
7．前立腺肥大症と閉塞による腎障害の病態生理を説明できる。
8．神経因性膀胱・尿失禁の原因、病態、症状、合併症、診断法および治療法について述べることができる。
9．腎・尿路・男性性器の先天異常の主たるものを列挙し、それぞれの発生機序、症状、合併症、診断法および治療法について述べることができる。
10．腎・尿路・男性性器の感染性疾患を列挙し、それぞれの原因、病態、合併症、診断法および治療法について説明することができる。
11．腎・尿路・男性性器の腫瘍を列挙し、それぞれの頻度、好発年齢、病理、病期分類、転移経路、腫瘍マーカー、症状、進展度判定法および治療法についての知識を整理して述べることができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

1．画像およびまとめのスライドを使用して解説する。特に腎疾患では腎組織所見が重要であるので、それぞれの組織写真および各種画像を用い、各疾患を概説する。
2．質問形式・テスト形式で問いかけることもある。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

1．事前にＭ３の講義テキストを復習し、最近の国試問題に目を通しておくこと。（30分）

【復習】

１．今回の講義プリントとＭ３の講義テキストで泌尿器科学の要点を整理すること。そして国試問題や予習問題を利用して繰り返し学習すること。(30分)

Ⅵ．教科書

腎臓・膠原病内科では、Ｍ３各科講義の教科書に準じる。

腎泌尿器外科では、教科書は特に指定しない。Ｍ３各科講義参考書あるいは市販のものから選択してよい。

Ⅶ．参考書・文献

Ｍ３各科講義の参考図書に準じる。

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	7	14	木	1	羽賀	D-9	2)-(1)① 4)-(1)②、(3)①	尿路性器腫瘍(1) 前立腺肥大症	副腎腫瘍、前立腺癌、 前立腺肥大症	講義・資料 スライド
2				2	石井	D-8	4)-(8)①、(9)①②	尿路性器腫瘍(2) 腎尿路結石症	腎腫瘍、腎盂尿管癌、膀胱癌、 陰茎腫瘍、精巣腫瘍、 腎尿路結石、上皮小体	〃
						D-9	4)(3)②			
						D-8	4)-(8)①、(9)①②			
						D-9	4)(3)②			
					松岡	D-8	4)(7)①	尿路性器先天異常	水腎症、膀胱尿管逆流、尿管瘤、 異所開口尿管、尿道下裂、停留精巣、性分化異常	〃
						D-9	1)①～④3)(1)②4)(1)③			
						D-12	4)(4)④			
3				3	中村	D-8	4)(5)①、(7)②、(8)②③	尿路性器感染症 他の腎泌尿器疾患	腎尿路性器損傷、腎移植、 神経因性膀胱、尿路閉塞、尿失禁、 尿路性器感染症、性感染症	〃
						E-2	4)(4)			
4				4	升谷	F-3	6)-(2)①	腎疾患	腎病理、尿検査	講義
						D-8	2)②			
5		15	金	1	冷牟田	D-8	4)(1)	〃	急性・慢性腎不全　他	〃
6				2	升谷	E-4	3)(1)～(4)	膠原病	関節リウマチ、SLE、皮膚筋炎他	〃

領域別集中講義Ⅰ（消化器病学）

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　　授	川　浪　大　治（評価責任者）
消化器内科学	教　　授	平　井　郁　仁（責任者）
	〃	植　木　敏　晴（筑紫病院）
	准　教　授	釈迦堂　　敏
	講　　師	石　橋　英　樹
消化器外科学	教　　授	長谷川　　傑（責任者）
	講　　師	山　田　哲　平

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．上部、下部消化管疾患の病態生理、画像診断を理解し、的確な診断と治療を選択する事ができる。

２．慢性肝疾患の病因、発生機序、病態を理解し、適切な診断と治療法を選択することができる。

３．肝臓の生理機能と肝腫瘍の疫学、成因、病態、画像診断を理解し、適切な診断と治療が選択できる。

４．胆道疾患の病態生理、画像診断を理解し、適切な診断と治療法の選択ができる。

５．膵疾患の病態生理、画像診断を理解し、適切な診断と治療法の選択ができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．国家試験問題解説

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく。（60分）

【復習】

１．講義資料、講義スライド、教科書を見て講義内容を復習し、不正解であった問題の見直しを行うこと。（60分）

Ⅵ．教科書

M3 各科講義の教科書に準じる。

Ⅶ．参考書・文献

M3 各科講義の参考図書に準じる。

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
	7	19	火	1						自習
1				2	平井	D-7	4)(3)(8)⑥⑦⑫	下部消化管疾患	腸炎、感染、食中毒、腸腫瘍、ポリポーシス	講義
2				3	釈迦堂	D-7	4)(5)(8)⑨	肝炎、肝硬変、肝癌、自己免疫性疾患など	急性肝炎、Ｂ型肝炎、Ｃ型肝炎、肝硬変の合併症、治療、肝癌の診断と治療、自己免疫性肝疾患、代謝性肝疾患など	〃
3				4	植木	D-7	1)⑨ 2)③ 4)(6)(8)⑩⑪	膵疾患とそのまとめ	膵疾患の病態と画像診断、国試問題に関連して	〃
4				5	山田	D-7	4)(4)～(6)(8)⑧⑨	消化器疾患の外科治療	消化器疾患の外科治療、国試問題に関連して	〃
5		20	水	1	石橋	D-7	4)(1)(2)(8)①～⑤	上部消化管疾患	食道疾患、胃腫瘍、消化性潰瘍、消化と吸収	〃

領域別集中講義Ⅰ（腫瘍・血液・感染症学）

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　　授	川　浪　大　治（評価責任者）
腫瘍・血液・感染症内科学	教　　授	髙　松　　泰（責任者）
	〃	髙　田　　徹（実務責任者）（感染制御部）
	准　教　授	戸　川　　温（感染制御部）

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．腫瘍・血液学

１）血液・悪性腫瘍疾患にみられる主訴、病歴、身体診察、生体検査、画像検査の特徴について概説できる。

２）がんの病因、がん遺伝子について説明できる。

３）がん細胞の特徴について説明できる。

４）診断、病期決定、腫瘍マーカーについて概説できる。

５）がん患者を治療するにあたって必要な要件ならびに目的を述べることができる。

６）局所療法、全身療法について概説できる。

７）がん薬物療法について概説できる。

８）緩和医療について説明できる。

９）貧血の分類、鑑別診断および病態、原因に応じた治療について説明できる。

10）白血球増多、減少する疾患を挙げ鑑別することができる。

11）白血病の分類、病態、治療を説明できる。

12）骨髄増殖症候群、骨髄異形成症候群について説明できる。

13）リンパ節腫脹、脾腫をきたす疾患の鑑別診断を説明できる。

14）悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などのリンパ網内系腫瘍の分類、病態、治療を説明できる。

15）出血傾向の鑑別診断の要点を説明できる。

16）血小板減少をきたす疾患の鑑別診断および病態、原因に応じた治療について説明できる。

17）凝固異常症についてその病態、および治療について説明できる。

２．輸血学

１）輸血に必要な検査を説明できる。

２）適正な輸血療法を説明できる。

３）輸血の副作用をあげ、その予防法、治療法について説明できる。

４）輸血過誤（ABO 不適合輸血）の原因と発生時の対応を説明できる。

３．感染症学

１）医療器具関連感染症、術後感染症、術部位感染症を説明できる。

２）各病原微生物、各感染症臓器の診断の手がかりとなる病歴と身体所見を説明できる。

３）細菌感染症診断における直接塗沫、Gram 染色、培養検査、抗原検査、核酸増幅検査、毒素検出検査、血清抗体検査を説明できる。

４）病原微生物及び感染臓器ごとの適切な抗微生物薬を説明できる。
５）院内感染とその予防策を説明できる。
６）薬剤耐性＜ AMR ＞や主要な薬剤耐性菌を説明できる。
７）敗血症の症候、診断と治療を説明できる。
８）主要なウイルス感染症の病態、診断、治療について説明できる。
９）HIV 感染症の感染経路、自然経過、症状、診断、治療と感染対策を説明できる。
10）主要な深部真菌感染症を概説できる。
11）マラリアの症候、診断と治療を説明できる。
12）免疫不全患者に生じる感染症を説明できる。
13）クラミジア、マイコプラズマ、リケッチア感染症の症候、診断、治療について説明できる。
14）渡航医学について説明できる。
15）予防接種について、適応と意義、種類とそれぞれの投与方法を説明できる。
16）性感染症について説明できる。
17）感染症法を概説できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．国家試験に出題された問題を中心に作成した講義資料を、FU_box にアップロードする。
２．講義では、スライドを使って講義資料の解説を行い、腫瘍、血液、感染症学の分野で修得すべき重要な知識を整理する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．講義資料を事前にダウンロードし、問題の解答を考える。わからないことを M3、M4 で使用した「感染症学テキスト」「腫瘍・輸血・血液学テキスト」、教科書を見て調べておくこと。（60 分）

【復習】

１．講義資料、講義スライド、教科書を見て講義内容を復習し、不正解であった問題の見直しを行うこと。（60 分）

Ⅵ．教科書

福岡大学腫瘍・血液・感染症内科学作成：感染症学テキスト、腫瘍・輸血・血液学テキスト
矢﨑義雄　総編集：内科学　第 11 版　朝倉書店　2017
矢﨑義雄　監修：新臨床内科学　第 10 版　医学書院　2020
日本臨床腫瘍学会　監修：入門腫瘍内科学　改訂第 3 版　南江堂　2020

Ⅶ．参考書・文献

日本臨床腫瘍学会　編：新臨床腫瘍学　改訂第 6 版　南江堂　2021
日本血液学会　編：血液専門医テキスト　改訂第 3 版　南江堂　2019

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
	7	22	金	1					課題を提示（FU_box）	自習
1				3	髙松	D-1	1）	赤血球疾患、出血傾向 白血球系疾患、緩和医療	貧血の鑑別と治療、出血性疾患の診断と治療、血栓症の鑑別と治療 血液腫瘍、リンパ節腫脹、輸血、緩和ケア、終末医療	講義
2				4	〃	D-1	4）（1）（2）（3）（4）			
						F-2	16）①②④⑤			
		25	月	1					課題を提示（FU_box）	自習
3				3	髙田	E-2	1）～3）	感染症	検査、治療、症候、院内感染、敗血症、細菌感染症	講義
							4）（2）（5）			
4				4	戸川	E-2	1）～4）	〃	感染症の診断・治療、予防接種、渡航医学	〃

領域別集中講義Ⅰ（呼吸器病学）

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　　授	川　浪　大　治（評価責任者）
呼吸器内科学	教　　授	藤　田　昌　樹（責任者）
	准　教　授	井　上　博　之
	〃	濵　田　直　樹
	講　　師	海　老　規　之
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	教　　授	佐　藤　寿　彦（責任者）

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．主たる呼吸器疾患の画像と呼吸生理学的特徴の説明ができる。

２．主たる呼吸器疾患の内科的・外科的治療法および管理についてその概要を把握し、適切な対策を立てることができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．プリントやスライドで呈示された疾患の病歴、身体所見、検査所見を理解し、診断や治療方針を整理させる。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．呼吸器病学講義に使用したシラバスを読んでおき、次回の講義を予習すること。(30分)

【復習】

１．「呼吸器病学の2022」、講義プリント、moodle または FU―box にアップロードされた資料を用い、本日の講義の振り返りと必要事項の復習すること。(30分)

Ⅵ．教科書

１．新臨床内科学　第10版　医学書院　2020

２．南学正臣　編：内科学書　改訂第９版　中山書店　2019

３．杉本恒明・矢崎義雄　編：内科学　第11版　朝倉書店　2017

４．門脇　孝・永井良三　編：カラー版　内科学　西村書店　2012

５．金澤一郎・北原光夫・山口　徹・小俣政男　編：内科学　医学書院　2006

６．正岡　昭　編：呼吸器外科学　第４版　南山堂　2009

７．渡辺洋宇　編：臨床呼吸器外科　第２版　医学書院　2003

Ⅶ．参考書・文献

１．金澤　實・永田　真・前野敏孝　編：呼吸器病学　丸善出版　2012

２．Fishman's Pulmonary diseases and disorders（5thed）　MacGraw-Hill 2015

３．Shields T W　編：General thoracic surgery（7thed）　Lippincott Williams & Wilkins　2009

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	7	28	木	1	佐藤	D-6	4)(8)(9)	肺腫瘍	肺癌、良性腫瘍、転移性腫瘍、縦隔腫瘍	講義
2				2	海老	D-6	4)(9)	進行肺がん	集学的治療（薬物療法、放射線治療）	〃
3				3	藤田	D-6	1)～3)4)(3)(6)	呼吸器疾患総説/気管支喘息・ＣＯＰＤ	病歴・身体所見・胸部画像/気管支喘息・ＣＯＰＤ	〃
4				4	井上	D-6	4)(9)	進行肺がん	緩和医療・臨床研究	〃
				5						自習
5		29	金	1	濵田	D-6	4)(3)(5)(7)	びまん性肺疾患	間質性肺炎・じん肺・サルコイドーシス、他	講義
				2						自習
6				3	藤田	D-6	4)(1)(3)(4)(6)	呼吸不全	呼吸不全・肺循環障害	講義
7				4	〃	D-6	4)(2)	呼吸器感染症	肺結核症・肺炎、他	〃
				5						自習

領域別集中講義Ⅰ（脳神経病学）

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　授	川浪大治（評価責任者）
脳神経内科学	教　授	坪井義夫（責任者）
	講　師	合馬慎二（実務責任者）
	助　教	井上賢一
脳神経外科学	教　授	安部　洋（責任者）
	准教授	野中　将
	講　師	森下登史
	助　教	堀尾欣伸
スポーツ科学部	教　授	重森　裕

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

スライド、ビデオを活用し、問題演習等を行う。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．配布する資料に基づいて講義を行う。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．講義の項目・キーワードを事前に読んで、専門用語の意味等を理解しておくこと。（30 分）

【復習】

１．講義内容を復習し、理解を深めること。（30 分）

Ⅵ．教科書

特に指定しない。

Ⅶ．参考書・文献

田崎義昭、斎藤佳雄：ベッドサイドの神経の診かた　改訂 18 版　南山堂　2016

平山惠造　他訳：神経内科治療マニュアル　メディカルサイエンスインターナショナル　1992

児玉南海雄　他：標準脳神経外科学　第 15 版　医学書院　2021

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	1	月	1	森下	D-2	1)(4) 1)(5)③ 3)(1)③ 1)(6) 4)(7)	脳外科疾患	機能的疾患、脊髄、感染、小児、他	講義
2				2	重森	D-2	4)(4) 2)①	頭部外傷・画像診断	頭部外傷(病態、分類、診断、治療)その他の脳外科疾患	〃
3				3	堀尾	D-2	4)(1)	脳血管障害	脳梗塞、くも膜下出血、高血圧性脳内出血、AVM、もやもや病	〃
4				4	野中	D-2	4)(10)	脳腫瘍	良性脳腫瘍、神経膠腫(グリオーマ)他	〃
5		2	火	1	合馬	D-2	4)(3) (5)	神経症候学・神経変性疾患	内科疾患に伴う神経症状、認知症疾患、Parkinson病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患	〃
6				2	〃	D-2 E-8	4)(3) 1)	感染、免疫、高齢者	脳炎、多発性硬化症、その他の神経疾患	〃
7				3	坪井	D-2	3)	神経症候学	神経症候、局在診断、必要な解剖	〃
8				4	井上	D-2	3)(1) (2)(3)	末梢神経、神経・筋、筋接合部、脊髄	重症筋無力症、筋疾患、脊髄疾患	〃

領域別集中講義Ⅱ（産科婦人科学）

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　授	川　浪　大　治（評価責任者）
産科婦人科学	教　授	宮　本　新　吾（責任者）
	講　師	倉　員　正　光
	助　教	讃　井　絢　子（総合周産期母子医療センター）
	非常勤講師	伊　東　裕　子

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．生殖内分泌臓器の構造と機能、性分化異常、不妊症の診断と治療について理解する。

２．外陰、子宮頸部、子宮体部、卵巣、絨毛性腫瘍の診断と治療について理解する。

３．乳腺疾患の診断と治療について理解する。

４．妊娠の成立と維持、分娩の３要素（産道、娩出物、娩出力）、正常分娩および産褥の経過について理解する。

５．出生前診断、産科感染症、妊娠の異常（流産、子宮外妊娠、早産、前期破水、妊娠中毒症、常位胎盤早期剥離と前置胎盤、羊水の過多症と過少症、多胎妊娠、双胎間輸血症候群、血液型不適合妊娠、過期妊娠、胎盤機能不全）について理解する。

６．分娩の異常（陣痛の異常、児頭骨盤不均衡、骨盤位、多胎分娩、胎児仮死、産科ショック）、産科救急医療、産褥の異常について理解する。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．講義を行い生殖内分泌、婦人科腫瘍、周産期関連の理解を再確認し、その後、国家試験問題形式による生殖内分泌、婦人科腫瘍、周産期関連の問題解答のコツを理解する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．事前に国家試験の過去問を解いて、理解度や疑問などを確認しておくこと。（60分）

【復習】

１．講義後はよく復習し、国家試験に備えること。（60分）

Ⅵ．教科書

指定しない。

Ⅶ．参考書・文献

１．石塚文平ら編：NEW CONSENSUS 新撰産婦人科診療、永井書店（2006年）

２．武谷雄二・中野仁雄・矢嶋　聰　編集：New 産婦人科学　改訂第２版　南江堂（2004年）

３．坂元正一、水野正彦、武谷雄二　編集　プリンシプル産科婦人科学２　第３版　Medical View（2014）

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	29	月	2	非常勤講師 伊東	D-9	1)2)	内分泌	性分化異常、生殖奇形、思春期、多嚢胞性卵巣症候群、不妊・不育、プロラクチン	講義
2				3	〃	D-9	1)2)	内分泌、婦人科	HRT（避妊（ピル）、早発閉経を含む）、子宮筋腫、子宮内膜症、その他	〃
3				4	宮本	D9	2)3)4)	婦人科腫瘍	子宮癌、卵巣癌、絨毛癌、外陰癌、その他	〃
4		30	火	2	讃井	D-10	1)4)	産科異常 1	妊娠高血圧症候群、子宮内発育遅延、合併症妊娠、ハイリスク妊娠	〃
5				3	〃	D-10	1)4)	産科異常 2	〃	〃
6				4	倉員	D-10	1)2)3)	産科正常 1	陣痛、産道、産褥、分娩監視、胎児発育	〃
7				5	〃	D-10	1)2)3)	産科正常 2	〃	〃

領域別集中講義Ⅱ（小 児 医 学）

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　　授	川　浪　大　治	（評価責任者）
小 児 科 学	教　　授	永　光　信一郎	（責任者）
	准 教 授	太　田　栄　治	（総合周産期母子医療センター）
	講　　師	吉　兼　由佳子	
	〃	藤　田　貴　子	
	〃	八ツ賀　秀　一	
	助　　教	林　　仁　美	
	〃	瀬戸上　貴　資	（総合周産期母子医療センター）
	〃	伊　東　和　俊	

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．講義を通じ、小児医学で重要な点が理解出来る。

２．一般講義で不明であった事項が理解出来る。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．医師国家試験の過去問を用いた講義による。

２．過去の医師国家試験中の小児科関連問題を解いておくこと。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．正常発育・正常発達についての知識を整理しておくこと。（15分）

２．新生児の呼吸・循態・栄養・黄疸等の正常生理について学習する。（15分）

３．過去５年間の既出問題から小児領域頻出問題について理解する。（15分）

【復習】

１．小児救急対応（けいれん、脱水、呼吸障害等）について理解する。（10分）

２．文章問題に記載されている子どもの発育・発達の評価を見直す。（10分）

３．広範囲な小児領域の問題の中で得意・不得意分野を自ら理解する。（10分）

Ⅵ．教科書

森川昭廣、内山　聖、原　寿郎　編：標準小児科学　第８版　医学書院

Ⅶ．参考書・文献

106～116回の医師国家試験問題集

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	1	木	1	林	E-7	2)	正常発育・発達	身体発育、精神	講義
2				2	藤田	F-1	8)	神経	けいれん、脳症、中枢神経感染症、筋疾患	〃
						G-2	8)			
						D-2	4) (3)① (6)			
3				3	太田	E-7	1)	新生児(1)	分類、新生児の生理、診察、症候学	〃
4				4	瀬戸上	E-7	1)	新生児(2)	黄疸、感染症、仮死、呼吸器疾患	〃
5				5	八ツ賀	E-7	2)	乳児の栄養、内分泌・代謝	栄養・脱水 下垂体、甲状腺、副腎、性腺疾患	〃
						D-12	3) (1) 4) (1)～(5)			
6		2	金	1	吉兼	F-1	5)6) 15)	救急、循環器	心肺蘇生、中毒 先天性心疾患、後天性心疾患、川崎病	〃
						D-5	4) (3)～(6)			
7				2	伊東	E-2	4) (1) ②～⑧ (2)①②	感染、ワクチン	細菌感染症、ウイルス感染症、予防接種	〃
8				3	永光	E-7	3) 4)	小児保健	児童虐待、思春期、子どもの心の診療	〃
				4						自習
				5						〃

領域別集中講義Ⅱ（精 神 医 学）

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　　授	川　浪　大　治（評価責任者）
精 神 医 学	教　　授	川　嵜　弘　詔（責任者）
	講　　師	衞　藤　暢　明（実務責任者）
	助　　教	飯　田　仁　志
	〃	田　口　公　之
	非常勤講師	楯　林　英　晴（福岡県精神保健福祉センター所長）

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

No．1

⑴　小児自閉症について説明できる。

⑵　Asperger 症候群について説明できる。

⑶　多動性障害について説明できる。

⑷　チック障害について説明できる。

⑸　睡眠覚醒障害の分類を理解し、その概念について述べることができる。

No．2

⑴　統合失調症と気分障害の概念を理解し、症状・診断・経過・治療について説明することができる。

⑵　シナプスにおける神経伝達物質の流れと、神経伝達の異常による統合失調症と気分障害の発症について説明することができる。

⑶　抗精神病薬と抗うつ薬の種類と作用機序について説明することができる。

⑷　抗精神病薬と抗うつ薬の適応について説明することができる。

⑸　抗精神病薬と抗うつ薬の副作用について説明することができる。

No．3

⑴　器質性精神障害、特に認知症について説明することができる。

⑵　精神作用物質とは何か、その摂取による乱用、依存、後遺障害について説明することができる。

⑶　依存症、後遺症に対する基本的な治療法について説明することができる。

No．4

⑴　パニック障害、PTSD、解離性障害について症状、病態、治療を説明することができる。

⑵　摂食障害など近年注目を浴びている病態について、症状、予後、治療について説明することができる。

No．5

⑴　精神保健福祉法に関連する入院形態を知り、症例に応じ選択することができる。

⑵　精神保健福祉法に関連する社会復帰施設について説明することができる。

⑶　精神科リハビリテーションの技法について説明することができる。

⑷　成年後見人制度について説明することができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

1．印刷物、パワーポイントを使って講義を行う。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

1．キーワード、行動目標を確認して講義にのぞむ。(30分)

【復習】

1．講義の内容を確認する。(30分)

Ⅶ．参考書・文献

厚生省精神保健福祉法規研究会＝監修：精神保健福祉法詳解　4訂　中央法規出版

野村総一郎、樋口輝彦　編：標準精神医学　第８版　医学書院

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	6	火	1	田口	D15	3)⑪⑫	児童精神医学、睡眠覚醒障害	広汎性発達障害、Kanner、学習障害、チック障害、被虐待児症候群、ADHD、REM睡眠、ナルコレプシー、睡眠時無呼吸症候群、n－CPAP、睡眠相遅延症候群	講義
2				2	川嵜	D15	1)⑤ 2)② 3)④	統合失調症、気分障害の診断と治療	統合失調症、ブロイラーの４徴候、シュナイダーの一級症状、幻覚、妄想、思考障害、陽性症状、陰性症状、気分障害、うつ病、躁うつ病、セロトニン、ノルアドレナリン、ドーパミン、セロトニン症候群、抗うつ薬、抗精神病薬、向精神薬	〃
						F2	8)④⑭			
3				3	飯田	D15	3) ①～③	器質性精神障害、アルコール、薬物依存	せん妄、認知症、症候性精神障害、器質性精神障害、精神作用物質、乱用、依存(精神、身体)、後遺障害、耐性、アルコール関連障害、抗不安薬、睡眠薬乱用、依存、有機溶剤関連障害、覚せい剤関連障害	〃
4				4	衞藤	D15	3) ⑦～⑨	ストレス反応と神経症性障害	不安障害、強迫性障害、急性ストレス反応、PTSD、認知行動療法、精神療法	〃
5				5	非常勤講師 楯林	D15	1)③	精神保健福祉法と精神科リハビリテーション	精神保健福祉法、任意入院、措置入院、医療保護入院、精神保健指定医、家族心理教育、生活技能訓練、ノーマライゼーション	〃

領域別集中講義Ⅱ（麻酔科学・救命救急医学）

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　授	川　浪　大　治（評価責任者）
麻 酔 科 学	教　授	秋　吉　浩三郎（責任者）
	准 教 授	重　松　研　二（手術部）
救命救急医学	教　授	石　倉　宏　恭（責任者）
	准 教 授	岩　朝　光　利

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．二次救命処置の必要性を判断し、対処できる。
２．二次救命処置の理論的根拠を説明できる。
３．急性中毒の症状、診断、治療法を述べることができる。
４．多発外傷患者の症状、診断、治療法を述べることができる。
５．厚生労働省脳死判定基準を述べることができる。
６．術前・術中の状態を正しく評価し、麻酔法を選択できる。
７．気道管理について説明できる。
８．アナフィラキーショックについて説明できる。
９．深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症について説明できる。
10．がん性疼痛の治療について、オピオイドも含めて説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．M4で使用した講義資料・教科書
２．医師国家試験問題

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．次回の授業科目について、臨床講義の内容を復習しておくこと（60分）

【復習】

1．授業科目の既出問題の復習（60分）

Ⅵ．教科書

特に指定しない。

Ⅶ．参考書・文献

弓削孟文　監修：古家　仁、稲田英一、後藤隆久　編集：標準麻酔科学　第7版　医学書院　2018
土肥修司・澄川耕二　編集：TEXT 麻酔・蘇生学　第4版　南山堂　2014
日本救急医学会：標準救急医学　第5版　医学書院　2014
矢崎義雄　総編集：内科学　第11版　朝倉書店　2017

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	8	木	1	秋吉	F-2	8)9) 10)16)	麻酔科学	国試既出問題の解説	講義
2				2	重松	F-2	8)9) 10)16)	〃	〃	〃
3				3	石倉	E-5		救命救急医学	〃	〃
						F-1	5)6) 37)			
						F-3	6)			
4				4	岩朝	E-5		〃	〃	〃
						F-1	5)6) 37)			
						F-3	6)			
				5						自習

領域別集中講義Ⅱ（整形外科学）

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　　授	川　浪　大　治（評価責任者）
整形外科学	教　　授	山　本　卓　明（責任者）
	准　教　授	前　山　　彰（実務責任者）
	〃	鎌　田　　聡（リハビリテーション部）
	講　　師	木　下　浩　一
	〃	田　中　　潤
	〃	萩　尾　友　宣
	〃	三　宅　　智
	〃	村　岡　邦　秀
	助　　教	瀬　尾　　哉
	〃	石　松　哲　郎
	〃	中　山　鎮　秀

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

構造と機能

1．骨・軟骨・関節・靱帯の構造と機能を説明できる。
2．脊柱（環椎、軸椎、頚椎、胸椎、腰椎、椎間板）の構造を説明できる。
3．姿勢と体感の運動に関わる筋群とその運動と神経支配を説明できる。
4．四肢の骨・関節、関節可動域を説明できる。
5．四肢の主要筋群の運動と神経支配を説明できる。
6．手の機能を説明できる。
7．骨盤の構成と性差を説明できる。
8．骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。
9．運動 / 安静の骨・筋への影響を説明できる。

診断と検査の基本

1．徒手検査（関節可動域検査、徒手筋力検査、知覚検査）を説明できる。
2．画像診断〔エックス線（骨病変）、MRI（骨、軟部病変）、脊髄造影（脊柱管病変）、骨塩定量（骨粗鬆症）〕を説明できる。
3．生理学的検査〔筋電図（針および表面筋電図）、電気生理学的検査（脊髄および筋誘発電位、神経電動速度）〕を説明できる。
4．関節鏡検査を概説できる。

症候

1．関節痛と関節腫脹の原因を列挙できる。
2．関節痛と関節腫脹を呈する患者に必要な問診と診察の要点を列挙できる。
3．関節痛と関節腫脹を呈する患者に必要な検査を列挙し、診断のプロセスを説明できる。

４．腰背部痛の原因を列挙できる。
５．腰背部痛を呈する患者に必要な問診と診察の要点を列挙できる。
６．腰背部痛を呈する患者に必要な検査を列挙し、診断のプロセスを説明できる。
７．筋運動の発生機序と関連させて筋力低下が生じる機序を説明できる。
８．筋力低下の原因を列挙できる。
９．筋力低下を訴える患者に必要な問診と診察の要点を列挙できる。
10．筋力低下を訴える患者に必要な検査を列挙し、診断のプロセスを説明できる。

疾患

１．骨折の定義（単純と複雑)、臨床所見、画像所見、関連する神経血管合併症の対処法、ギプス固定中の合併症と対処法を説明できる。
２．骨粗鬆症が原因となる骨折を列挙できる。
３．関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靱帯損傷の定義、分類、診断と治療を説明できる。
４．変形性関節症を列挙し、症候と治療を説明できる。
５．骨関節炎の症候と治療を説明できる。
６．原発性四肢骨軟部腫瘍を列挙し、基本的な治療を説明できる。
７．頚椎症候性脊髄症（脊柱靱帯骨化を含む）の神経症候を説明できる。
８．腰部脊柱管狭窄症の症候と治療を説明できる。
９．腰椎椎間板ヘルニアの症候と治療を説明できる。
10．腰椎分離・すべり症の症候と治療を説明できる。
11．脊椎・脊髄損傷の症候と治療を説明できる。
12．転移性脊椎腫脹の好発部位と診断を説明できる。
13．脊柱管内腫瘍のタイプと代表的な疾患を列挙できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．講義
　１）配布する講義プリントおよびパワーポイント・プレゼンテーションにより、代表的疾患について、原因から病態までをわかりやすく行う。
　２）暗記型でなく考え方を重視し、双方向性をもった講義を行う。

２．視聴覚教育
　１）動画を使った診察方法の学習（適宜講義の中に組み込まれる)。
　２）代表的疾患の画像診断（適宜講義の中に組み込まれる)。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．参考書および、Moodle、FU-BOX にアップロードされた資料により、次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。(60分)

【復習】

１．授業後は講義プリント、Moodle、FU-BOX にアップロードされた資料、および参考書を読み復習し、理解を深めること。(60分)

Ⅵ. 教科書

特になし

Ⅶ. 参考書・文献

TEXT 整形外科学　改訂第５版　南山堂、標準整形外科学　第14版　医学書院、
Ｍ４講義で配布したプリント、Ｍ４整形外科学テキスト

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	12	月	1	三宅・中山	D-4	4)(1)①～③⑤～⑦(3)	肩関節疾患・骨軟部腫瘍	肩関節疾患、骨軟部腫瘍	講義
						E-3	5)④			
2				2	木下・瀬尾	D-4	4)(1)①～③⑤～⑦(2)	股関節外科、股関節と骨盤の外傷・小児整形	股関節疾患、小児整形外科疾患	〃
3				3	田中・石松村岡	D-4	4)(1)①～⑭(2)②	脊椎疾患・足の外科・膝関節の外傷・手外科	脊椎疾患・外傷・障害、足関節疾患・外傷・障害、膝関節外傷、末梢神経損傷	〃
4				4	鎌田・萩尾前山	D-4	4)(1)①～③⑤～⑦⑮(2)①	リハビリテーション・関節リウマチ・膝関節障害、変性疾患	社会復帰、関節炎(感染を含む)、膝関節変性疾患	〃
						E-4	3)(2)			
						F-2	14)			
				5						自習

領域別集中講義Ⅱ（眼　科　学）

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　　授	川　浪　大　治（評価責任者）
眼　科　学	教　　授	内　尾　英　一（責任者）
	准　教　授	尾　﨑　弘　明（責任者・実務責任者）
	講　　師	髙　橋　理　恵
	助　　教	原　田　一　宏

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．医師国家試験出題ガイドラインの眼科関連項目を理解し説明できる。
２．必修項目については禁忌枝を判断できる。
３．必修項目はなぜ必修なのか理解し説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉
１．医師国家試験過去問を用いた講義となる
〈事前事後学習の方法〉
【予習】
１．過去の医師国家試験の眼科関連問題に目を通しておく。(60分)
【復習】
２．授業で行った国家試験問題の要点を整理し復習しておく。(60分)

Ⅵ．教科書

標準眼科学　第14版　医学書院
現代の眼科学　第13版　金原出版

Ⅶ．参考書・文献

特になし

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	14	水	1	原　　田	D-13	1)～2)	国　試　対　策	過去問解説	講　　義
2				2	髙　　橋	D-13	3)～4)	〃	〃	〃
3				3	尾　　﨑	D-13	3)～4)	〃	〃	〃
				4						自　　習
				5						〃

領域別集中講義Ⅱ（皮膚科学・形成外科学）

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　授	川　浪　大　治（評価責任者）
皮 膚 科 学	教　授	今　福　信　一（責任者）
	講　師	古　賀　文　二（実務責任者）
	〃	内　藤　玲　子
	〃	佐　藤　絵　美
形成外科学	教　授	髙　木　誠　司（責任者）
	助　教	鈴　木　翔太郎

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．炎症性皮膚疾患のうち一般的なものについて特徴を説明できる。
２．代表的な皮膚腫瘍の名称と特徴を説明できる。
３．皮膚疾患のいくつかを通して、皮膚科特有の検査法と治療法についてその対象疾患と方法について説明できる。
４．創傷治療のメカニズムを理解できる。
５．植皮、皮弁の特徴を説明できる。
６．切開、縫合法、Ｚ形成術、マイクロサージャリーを説明できる。
７．熱傷、顔面外傷、外表先天異常、再建外科を説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

〈皮膚科学〉

１．小テストによる要点の確認、スライド・教科書・プリントによる講義。
２．皮膚科は肉眼所見が第一であるので、豊富な臨床写真を各疾患の説明に呈示する。したがって、アトラスは推奨できる。
３．国家試験問題の解説をしつつ、臨床症例を提示して内容の理解を深める。

〈形成外科学〉

１．医師国家試験過去問題の提示と解説を行い、そして関連した症例を示して理解を深めてもらう。

〈事前事後学習の方法〉

〈皮膚科学〉

【予習】

１．小テストによる要点の確認をするので、事前に教科書の割当部分を読み復習しておくこと。（60分）

【復習】

１．事後に教科書・講義スライド集を復習して記憶を定着させる。（60分）

〈形成外科学〉

【予習】

１．指定教科書の講義範囲を事前に読んでおく。(15分)

【復習】

１．提示された試験問題と講義内容について、改めて教科書で復習し、習熟度を高める。(15分)

Ⅵ．教科書

清水　宏　著：あたらしい皮膚科学　第３版　中山書店　2018

大塚藤男　著・編：DERMATOLOGY　皮膚科学　第10版　金芳堂　2016

標準形成外科学　第7版（監修　平林慎一　医学書院　2019年1月発行　ISBN 978-4-260-03673-3）

Ⅶ．参考書・文献

１．富田　靖　監修：標準皮膚科学　第11版　医学書院　2020

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	16	金	1	鈴木	G-4	2)	形成外科学全般	創傷治癒、形成外科基本手技、熱傷、顔面外傷、先天異常	講義
2				2	古賀	D-3	4) (1)～(5)	紅斑症、膠原病、皮膚アレルギー疾患	紅斑症、膠原病、水疱症、膿疱症、血管炎、湿疹、蕁麻疹、薬疹	講義 小テスト
3				3	今福	D-3	1)2) 4) (6)(7)	皮膚科学総論、感染症、角化症	構造・機能、診断・治療、細菌、ウイルス・真菌・性感染症、遺伝性および炎症性角化症	〃
4				4	佐藤	D-3	4)(6)	肉芽腫症、口腔粘膜疾患、内科疾患と皮膚	サルコイドーシス、扁平苔癬、白板症、代謝異常症、糖尿病、神経皮膚症候群、デルマドローム	〃
5				5	内藤	D-3	4)(8)	皮膚腫瘍、母斑、悪性リンパ腫	悪性黒色腫、有棘細胞癌、色素性母斑、菌状息肉症	〃

領域別集中講義Ⅱ（耳鼻咽喉・口腔系）

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　　授	川　浪　大　治（評価責任者）
耳鼻咽喉科学	教　　授	坂　田　俊　文（責任者）
	講　　師	末　田　尚　之（実務責任者）
歯科口腔外科学	教　　授	近　藤　誠　二（責任者）
	准　教　授	梅　本　丈　二（実務担当者）

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．授業の予習を実施できている。
２．医師国家試験に必要な情報を述べることができる。
３．学習過程で生じた疑問点を授業中に解決できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．講義へ出席し、聴講する。
２．講義中の質疑応答。
３．既出の国家試験問題を事前に解き、講義での解説を聞いて、自分の知識を整理する。
４．M4で配布した講義テキストと指定参考書から医師国家試験に必要な情報を抽出する。

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

１．配布した講義テキストと指定参考書で該当講義のキーワードについて自主学習し、疑問点があればまとめておく。(40分)

【復習】

１．講義の内容を確認し、自分で理解し記憶しやすいようまとめる。たとえば参考書への書き込みなども有用である。(40分)
２．講義の内容について理解できなかった部分を、次回の講義で質問するためにまとめる。(20分)

Ⅵ．教科書

洲崎春海他：SUCCESS 耳鼻咽喉科　第２版　2017

Ⅶ．参考書・文献

１．森満　保：イラスト耳鼻咽喉科　第４版　2012
２．野村恭也　他：新耳鼻咽喉科学　改訂11版　2013
３．全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議：口の中がわかる　ビジュアル　歯科口腔科学読本
４．才藤栄一・植田耕一郎　他：摂食嚥下リハビリテーション　第３版　2016

※上記以外の教科書、参考書についても、2010年以降の出版物に限る。

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	20	火	1	梅本	D-14	1)～4)	歯科口腔外科学	医師国家試験既出問題の解説	講義
2				2	坂田	D-14	1)2) 3)(1) (2) 4)(1)	耳科学	外耳、中耳、内耳、めまい	〃
3				3	〃	D-14	1)2) 3)(1) (2) 4)(1)	鼻科学	鼻・副鼻腔	〃
4				4	末田	D-14 D-12	1) 4)(1) (2) 3)(2) 4)(10) ①	頭頸部腫瘍	頭頸部腫瘍、診断、治療	〃
5				5	〃	D-14	1) 3)(1) (2) 4)(1) (2)	咽頭喉頭学	咽頭喉頭、気管	〃

領域別集中講義Ⅱ（放射線科学・臨床検査医学）

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　授	川　浪　大　治（評価責任者）
放射線医学	教　授	吉　満　研　吾（責任者）
	〃	長　町　茂　樹（放射線部）
	准教授	高　野　浩　一（筑紫病院）
	助　教	伊　東　絵　美
臨床検査医学	教　授	小　川　正　浩（責任者）
腫瘍・血液・感染症内科	講　師	佐々木　秀　法
総合診療部	助　教	日　吉　哲　也

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．放射線のヒトへの影響と防護について理解し、説明できる。
2．核医学検査の適応と画像所見について説明できる。
3．臨床検査の基準範囲、病態識別値の意味を説明できる。
4．検査の特性（感度、特異度、偽陽性、偽陰性、検査前確率、陽性的中率、尤度比）を説明できる。
5．放射線治療の原理、治療法、適応について説明できる。
6．神経疾患の総合画像診断について述べることができる。
7．総合画像診断の役割について述べることができる。
8．尿検査の方法、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
9．末梢血液検査の方法、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
10．血液凝固検査の方法、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
11．血液生化学検査診断の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
12．免疫血清学的検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
13．一般細菌の塗沫・培養法、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
14．ウイルス検査、抗体検査を説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

1．教科書、プリントによる講義

〈事前事後学習の方法〉

【予習】

1．指定した教科書の該当項目を事前に読んで理解する。(60分)

【復習】

1．講義後、教科書、M3時に配布した講義テキスト（Radiology 2019)、Ｍ４講義テキスト（検査診断学)、プリントを読み直して理解する。(60分)

Ⅵ. 教科書

西谷・遠藤・松井・伊東　編：標準放射線医学　第７版　医学書院

河合　忠　他編集：異常値の出るメカニズム　第７版　医学書院

Ⅶ. 参考書・文献

高木　康、山田俊幸　編：標準臨床検査医学　第４版　医学書院

№.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	22	木	1	長町・高野 伊東	E-6		放射線管理・核医学・放射線治療	線量限度、被曝管理、シンチグラフィ、PET、放射線治療	講　　義
						F-2	5)			
2				2	〃	E-6		神経放射線学 胸部放射線診断	神経疾患、画像診断 画像診断の役割	〃
						D-2	2)			
3				3	吉　　満	D-7	2)	腹部疾患の画像診断	腹部疾患、画像診断	〃
4				4	小　　川	F-2	3)①～⑧⑪⑭⑮	検査の基本、尿検査・血液化学検査	検査診断、基準範囲、検体の採取と保存、尿一般、血清蛋白、糖、脂質	〃
						F-3	4)①			
5				5	日　　吉	F-2	3)⑧	微生物検査	細菌検査、ウイルス検査	〃
					佐々木	F-2	3)⑧	血液検査	血液一般、凝固・線溶系	

第６学年

領域別集中講義Ⅱ（公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント）

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　授	川浪大治（評価責任者）
衛生・公衆衛生学	教　授	有馬久富（責任者）
	准教授	吉村　力（実務責任者）
	講　師	佐藤　敦
	〃	阿部真紀子
法医学	教　授	久保真一（責任者）
臨床医学研究センター	教　授	志村英生

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．健康疾病の概念、公衆衛生や予防の考え方、健康の保持増進、環境保全、産業保健などの項目につき、それぞれの考え方を対比的に説明できるとともに、その社会的な意味を述べることができる。

2．医師の権利／義務、患者の権利／義務、医の倫理、介護、インフォームドコンセント、医療安全、地域医療などの項目につき、それぞれの概要を対比的に説明できると共に、一人の医師としてそれぞれの事柄が、どのような場合に意味を持ち得るかを、具体的にイメージできる。

3．感染症や生活習慣病、保健／医療／福祉の資源、母子保健や老人保健の現状、人口統計や疾病統計、学校保健や精神保健などの項目につき、それぞれの概要を対比的に説明できるとともにわが国の概要がどのようなものであるかを、大まかな数値を示して、指摘することができる。

4．人口統計や疾病統計、疫学研究方法、疫学指標などの項目につき、それぞれの概念を比較し、関係づけられるとともに、具体的な数値を示された場合には、そこから予測／関係付け／公式化などを行うことができる。

5．保健／医療／福祉の制度や関連法規、産業保健関連法規、などの項目につき、それぞれの制度や決まりの概要を説明できるとともに、それらの中でも重要な部分や利用に関して、具体的に述べることができる。

6．セーフティマネージメント、食品や作業環境の衛生管理、予防と介護などの項目につき、それぞれの考え方の特徴を指摘できるとともに、臨床医学の考え方との接点を、説明できる。

7．死亡診断書や死体検案書の書き方について、具体的に説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

＜学習方略＞

1．要点やキーワードをまとめたプリント、スライドなどを活用した講義により、理解の定着をはかる。

2．国家試験問題演習により、問題解答のコツを理解する。

3．数値などから推論することが必要な疫学と統計に関しては実際に手を動かして計算を行い、回答を得る。

＜事前事後学習の方法＞

【予習】

１．Ｍ３とＭ４のときに学習した教科書とノートに目を通す。(30分)

【復習】

１．授業中に出て来た重要項目を復習する。(30分)

Ⅵ．教科書

１．医療情報科学研究所　編：公衆衛生がみえる　2020－2021

２．国試対策問題編集委員会　編：CBT・医師国家試験のためのレビューブック公衆衛生　2022

Ⅶ．参考書・文献

１．厚生労働統計協会　編：図説国民衛生の動向　2021

２．厚生労働統計協会　編：国民衛生の動向　2021

３．対話からの社会医学・公衆衛生学マイクロレクチャー　http://social-med.blogspot.jp/

その他、必要に応じて授業中に助言する。

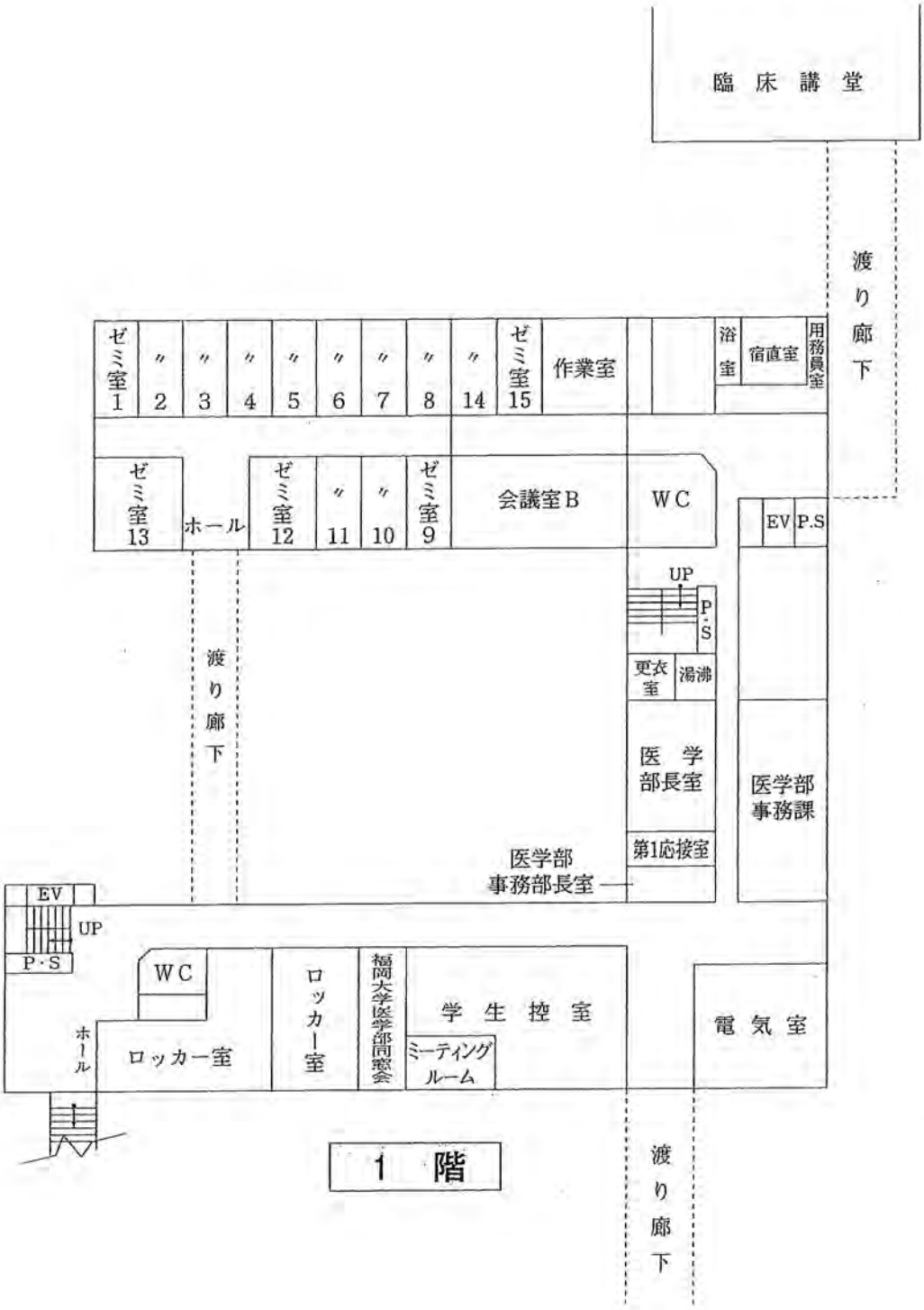
No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	26	月	1	吉村	A-1	1)～3)	医の倫理と法規	医療倫理、研究倫理、リスボン宣言、インフォームドコンセント、医療法規、情報セキュリティ、死亡診断書、終末医療、緩和ケア、生命倫理	講義プリント
						B-2	2)			
						B-3	1)			
						A-7	1)③	高齢者保健	高齢化社会、高齢者医療確保法、介護保険制度	
						B-1	8)③			
						B-1	8)⑫ 9)①	感染症対策	感染症法、予防接種法、検疫法、世界各国およびわが国の主要な感染症の現状と課題、輸入感染症、感染制御	
2				2	志村	A6	1)2)	セーフティマネージメント	医療事故、医療安全、医療安全管理、医療事故調査制度	〃
				3						自習
				4						〃
				5						〃
3		27	火	1	久保	B-3	1)	医師法・死亡診断書１	医師の権利・義務、医の倫理	講義プリント
4				2	〃	B-2	1)	医師法・死亡診断書２	死亡診断書・死体検案書の作成とその考え方	〃
5				3	有馬	A-5	1)	地域保健福祉医療	地域保健・地域医療、保健所、チーム医療、保健・医療・福祉との連携	〃
						B-1	7)			
						B-1	8)	社会保障と医療保障	社会保障制度、医療保険、公費医療、医療法、医療従事者	
				4						自習
				5						〃

第６学年

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
6	9	28	水	1	有馬	B-1	4)～5) 6)④	公衆衛生学概論	健康、公衆衛生、疾病予防、プライマリケア、ヘルスプロモーション、ライフサイクル、健康日本21、健康増進法、特定健康診査、特定保健指導、生活習慣病予防、メタボリックシンドローム、行動変容	講義 プリント
						B-1	8)9)	国際保健 精神保健	精神保健の考え方、精神保健福祉法、国際保健、世界保健機構、二国間協力、世界における保健問題	
						B-1	6)③④	産業保健	労働安全衛生法、産業医、労働衛生の3管理、過重労働対策、メンタルヘルス対策、労働災害、産業中毒	
						B-1	4)	疫学・生物統計	スクリーニング	
7				2	阿部	A-7	1)	母子保健 学校保健	母子保健法、母体保護法、児童福祉法、女性労働者の保護・子育て支援、児童虐待学校医の職務、学校保健安全法、健康診断、学校感染症、学校精神保健	〃
8				3	佐藤	B-1	4) ①～③	人口保健統計	人口転換、人口静態統計、人口動態統計、死因統計、平均寿命、健康寿命	〃
						B-1	3)4) ③～⑤	疫学・生物統計	疫学研究デザイン疫学とその応用	
				4						自習
				5						〃

案　内　図

医学部研究棟本館 （医学部）

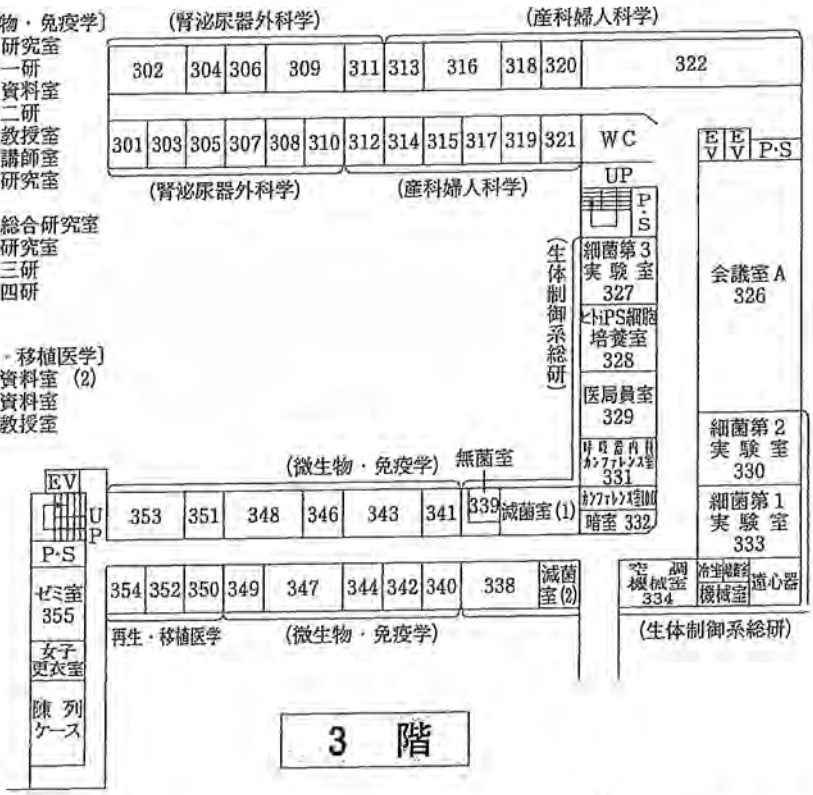


医学部研究棟本館 （医学部）

〔微生物・免疫学〕
340　研究室
341　一研
342　資料室
343　二研
344　教授室
346　講師室
347　研究室

348　総合研究室
349　研究室
351　三研
353　四研

〔再生・移植医学〕
350　資料室（2）
352　資料室
354　教授室

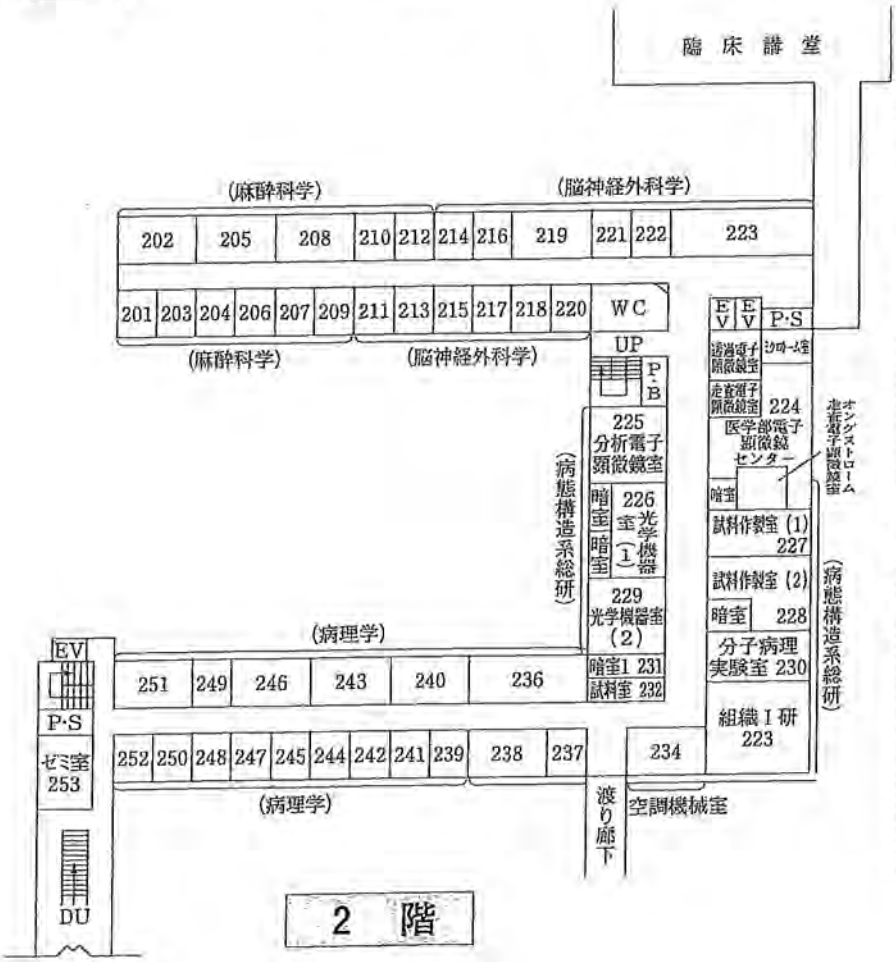


〔呼吸器内科学〕
329　呼吸器内科医局員室
331　呼吸器内科カンファレンス室

〔腎泌尿器外科学〕
301　医局員室（1）
302　医局
303　医局員室（2）
304　一研
305　准教授室
306　資料室
307　教授室
308　医局長室
309　二研
310　医局員室（4）
311　医局員室（3）

〔産科婦人科学〕
312　医局員室（1）
313　医局員室（2）
314　准教授室
315　医局長室
316　医局
317　教授室
318　医局員室（3）
319　教授室
320　医局員室（4）
321　准教授室（5）
322　一研

3　階



〔麻酔科学〕
201　准教授室
202　一研
205　教授室
203　資料室（2）
204　資料室（1）
206　講師室
207　医局員室（1）
208　二研
209　医局員室（2）
210　医局員室（3）
212　医局員室（4）

〔脳神経外科学〕
211　准教授室
213　医局長室
214　一研
215　七研
216　二研
217　教授室
218　資料室（1）
219　三研
220　資料室（2）
221　四研
222　五研
223　六研

〔病理学〕
236　院外診断部
237　病態構造系総研管理室
238　組織2研
239　教授室
240　二研
241　資料室（2）
242　准教授室
243　三研
244　研究室（3）
245　研究室（4）
246　保管室
247　OA室
248
249　四研
250　研究室（5）
251　五研
252　准教授室

2　階

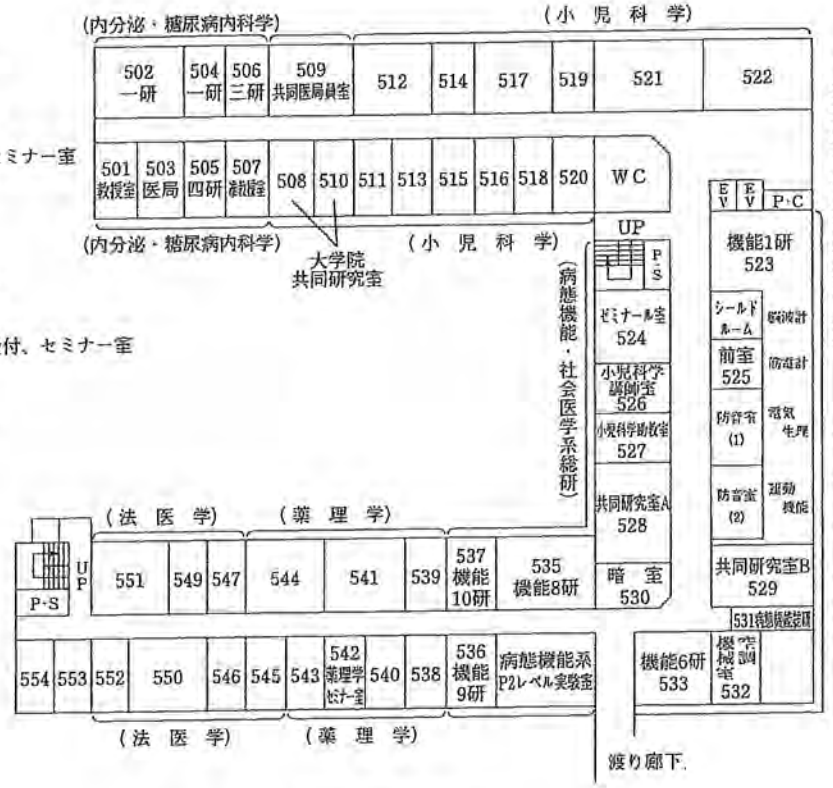
医学部研究棟本館 （医学部）

[薬理学]
538 教授室
539 一研
540 講師室
541 二研
542 薬理学セミナー室
543 培養室
544 三研

[法医学]
545 講師室
546 教授室
547 一研
550 法医学受付、セミナー室
549 二研
551 三研
552 助教室
553
554

[小児科学]
511 助教室
512 実験室
513 講師室
514 一研
515 准教授室
516 講師室
517 二研
518 教授室
519 三研
520 教授室
521 助手室
522 資料室

[内分泌・糖尿病内科学]
501 教授室
503 医局
502 } 一研
504 }
505 四研
506 三研
507 准教授室



5 階

[生化学]
440 一研
441 准教授室
442 資料室
443 二研
444 教授室
445 四研
446 三研

[総合医学研究センター]
447 資料室
448 教授室
449 教授室
450 教授室
452 教授室
454 教授室

[再生・移植医学]
451 研究室 (1)
453 研究室 (2)
456 研究室 (3)

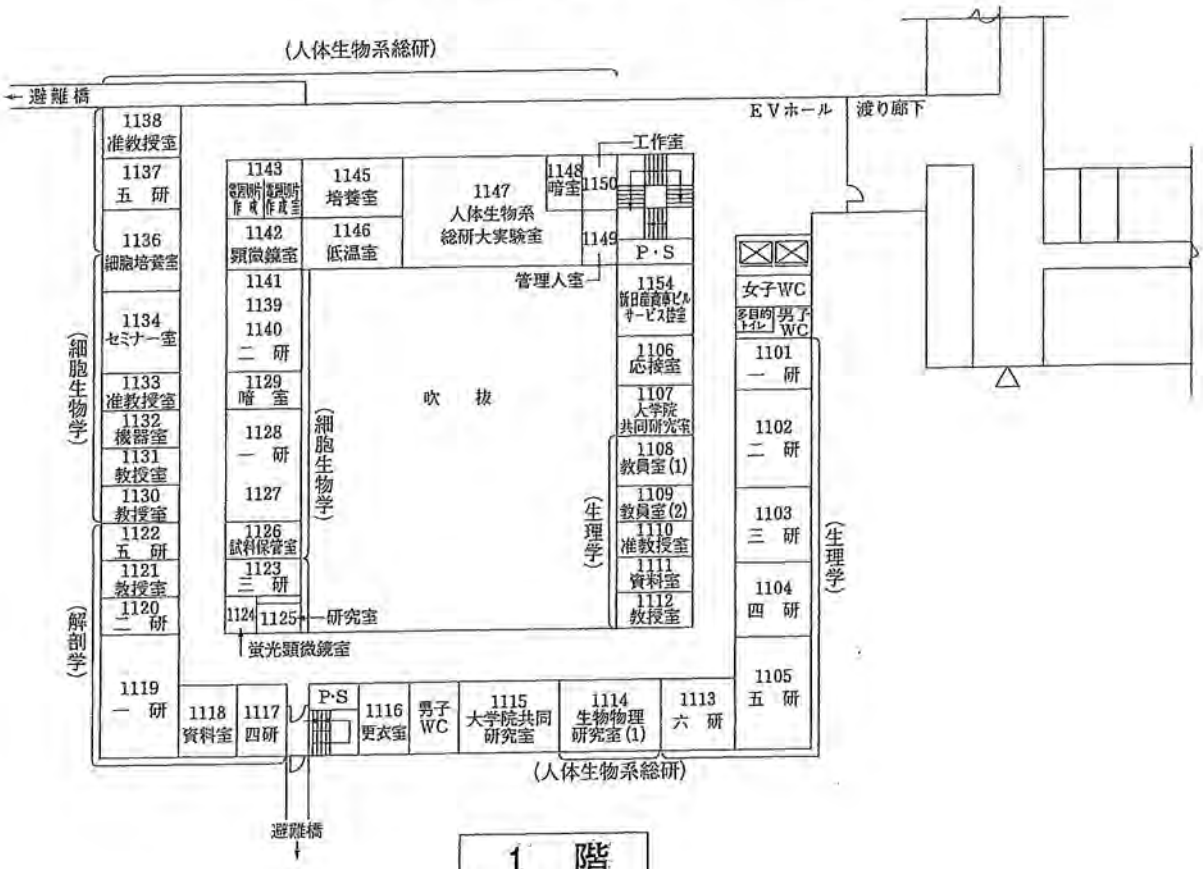
[心臓・血管内科学]
401 講師室 (3)
402 教授室
403 講師室 (1)
404 資料室 (1)
405 准教授室
406 講師室 (2)
407 医局員室 (2)
408 資料室 (2)
409 医局員室 (3)
410 医局員室 (4)
423 一研

[腎臓・膠原病内科学]
411 医局員室 (1)
412 講師室
414 医局員室 (2)
416 医局
417 教授室
419 資料室
421 准教授室
422 腎不全総合医療学講座

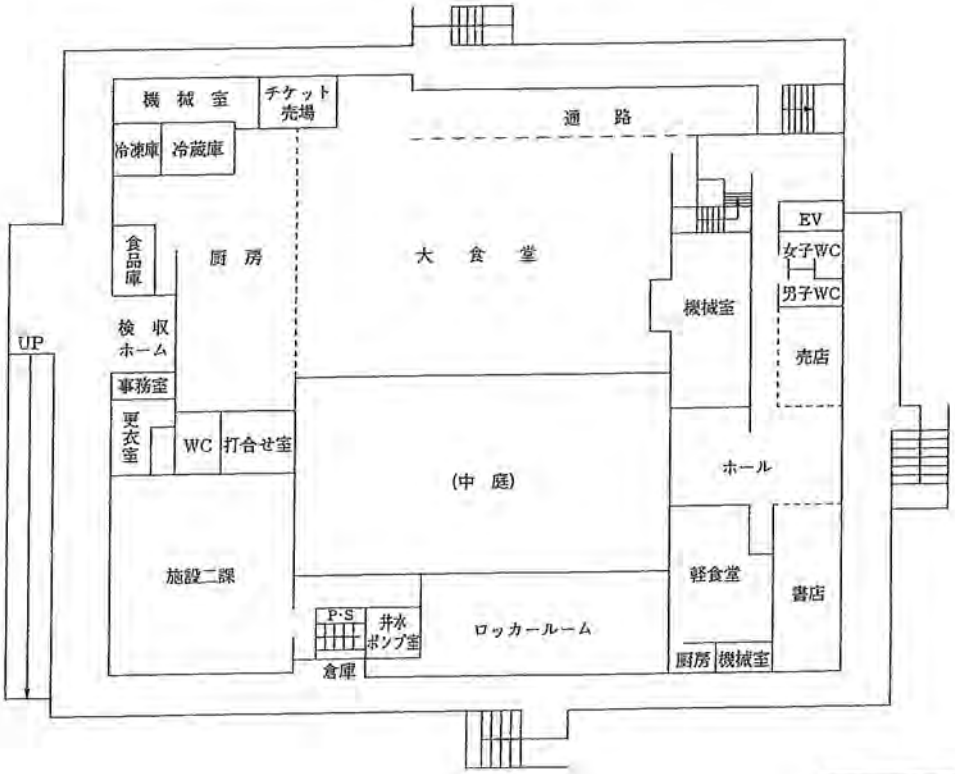
[呼吸器内科学]
413 教授室
415 教員室
418 医局
420 資料室

4 階

医学部研究棟別館 （医学部）

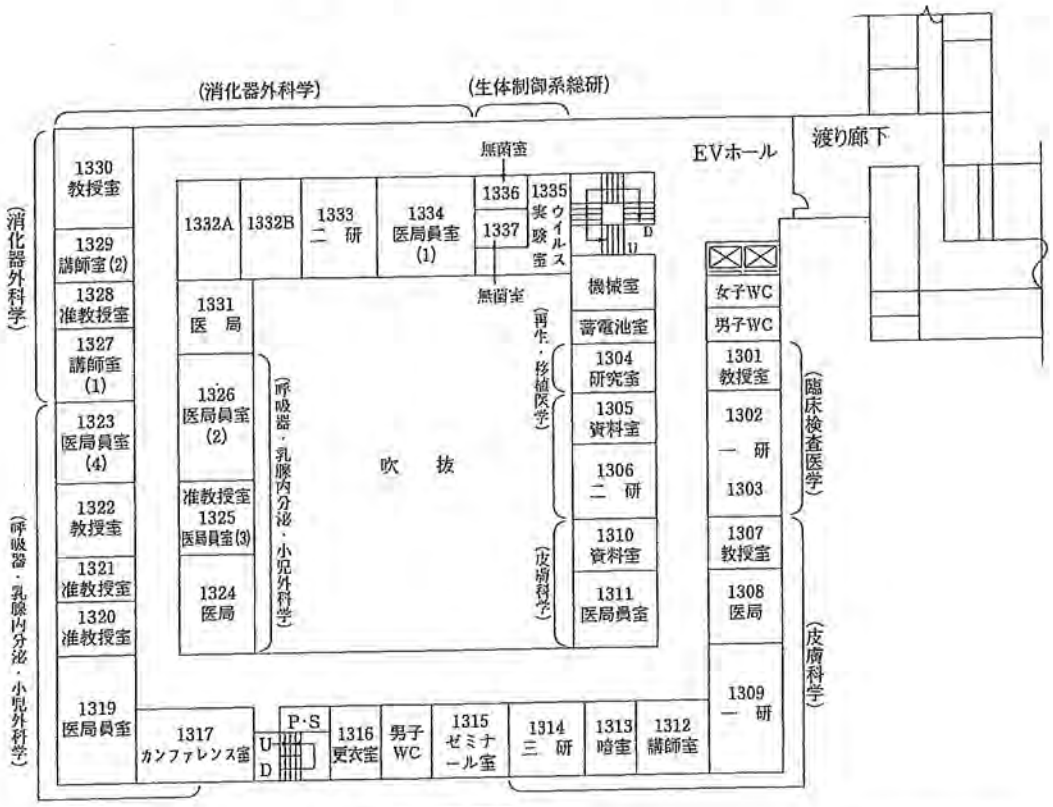


1 階

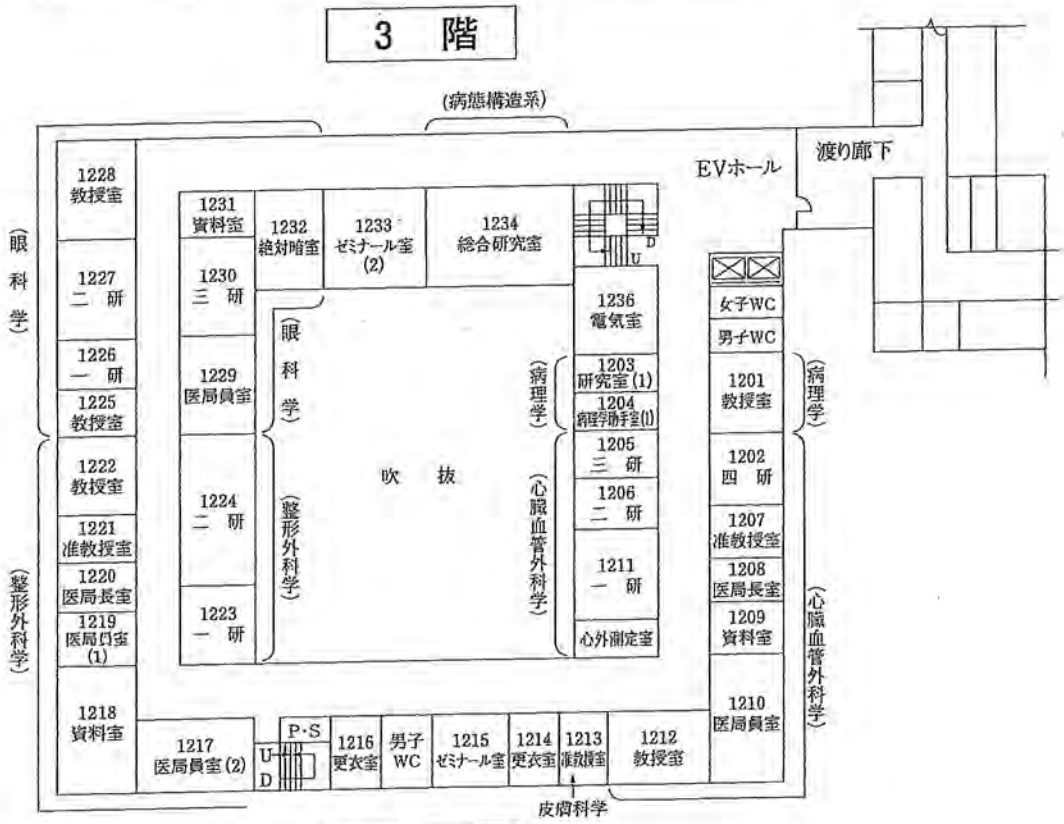


地下 1 階

医学部研究棟別館 （医学部）

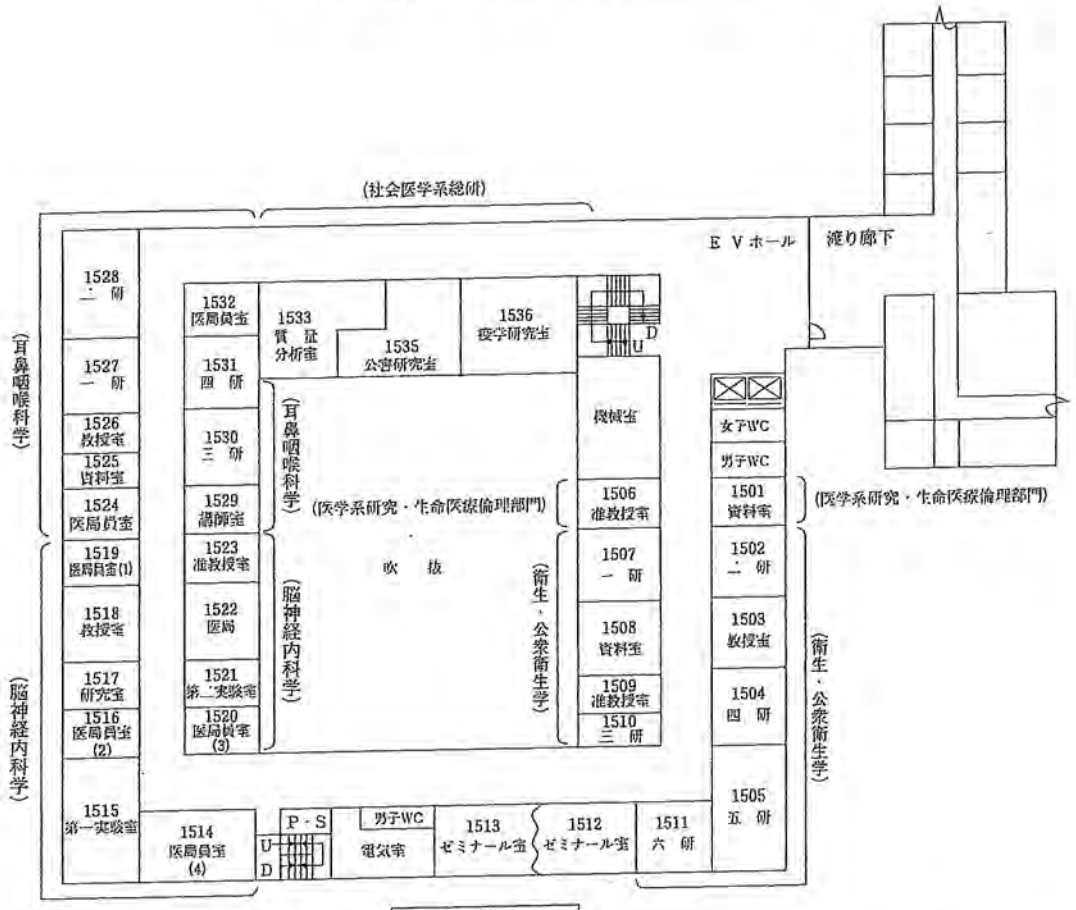


3 階



2 階

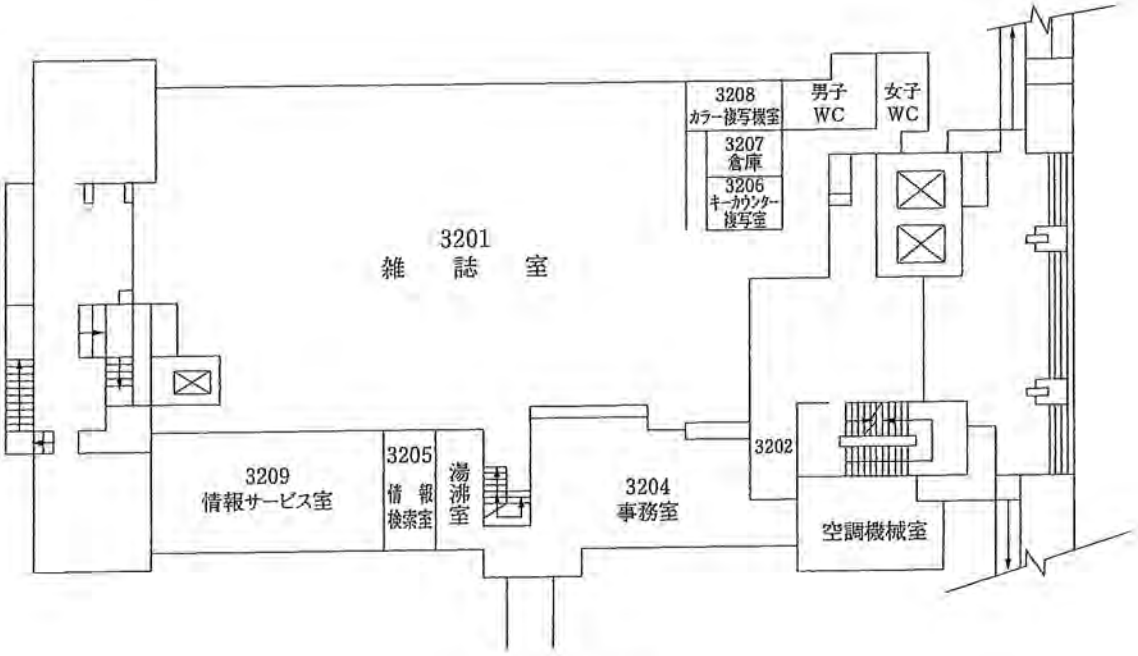
医学部研究棟別館 （医学部）



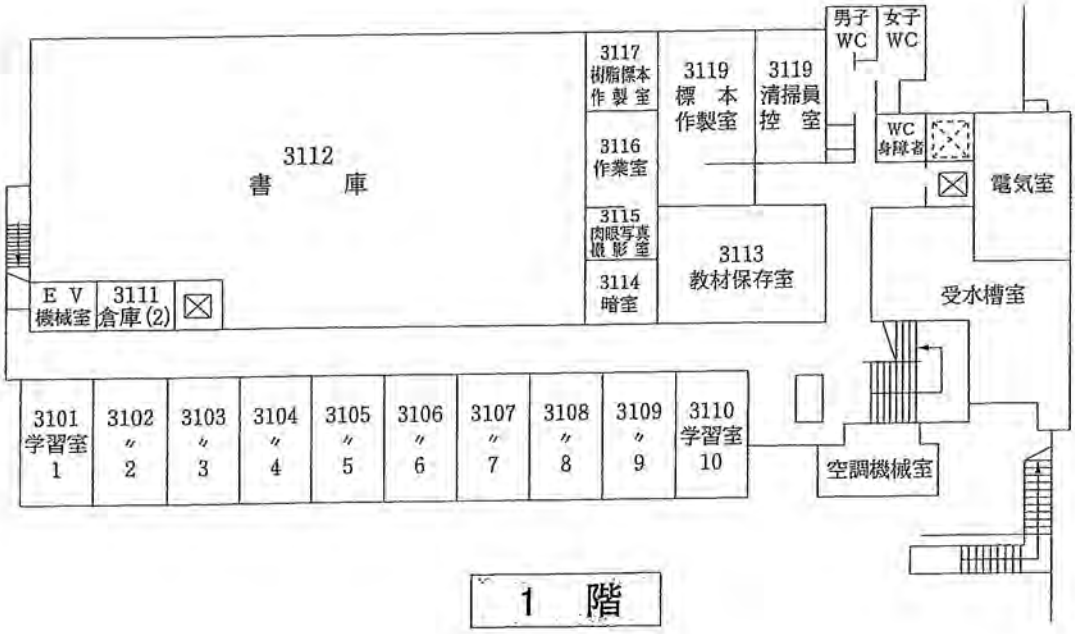
5 階

4 階

医学情報センター棟 （医学部）

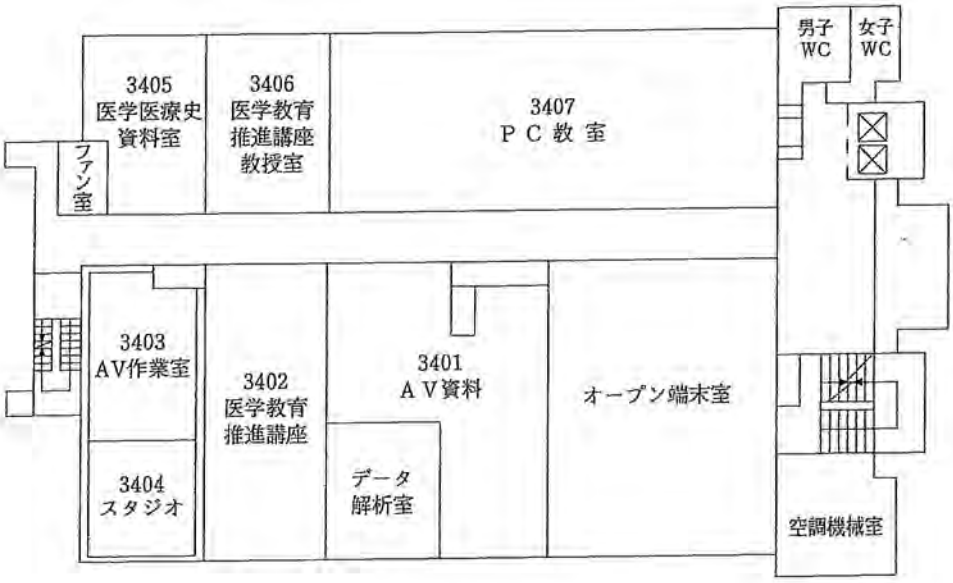


2　階

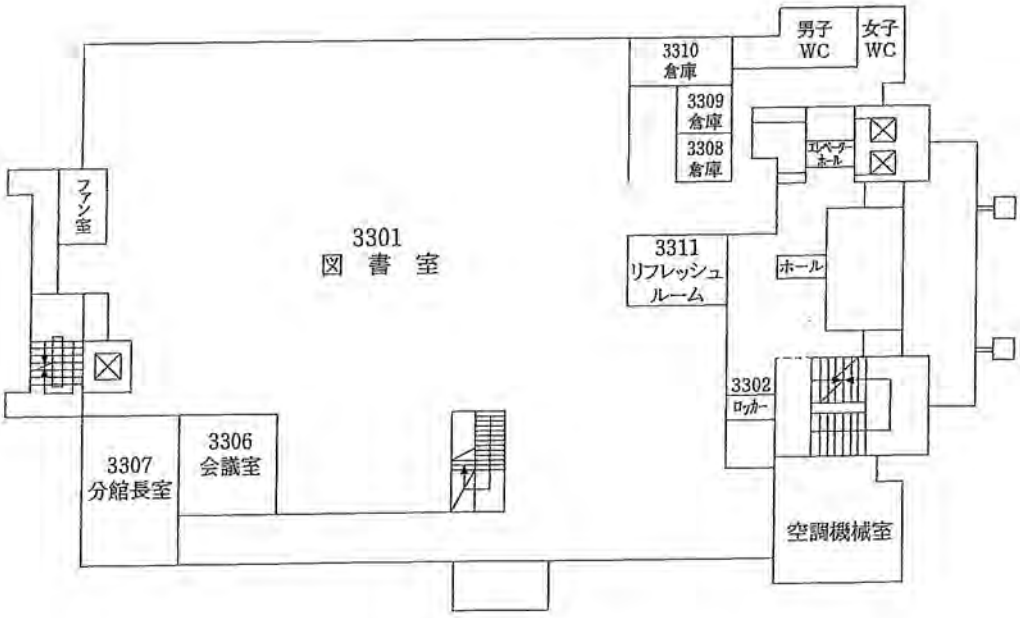


1　階

医学情報センター棟 （医学部）

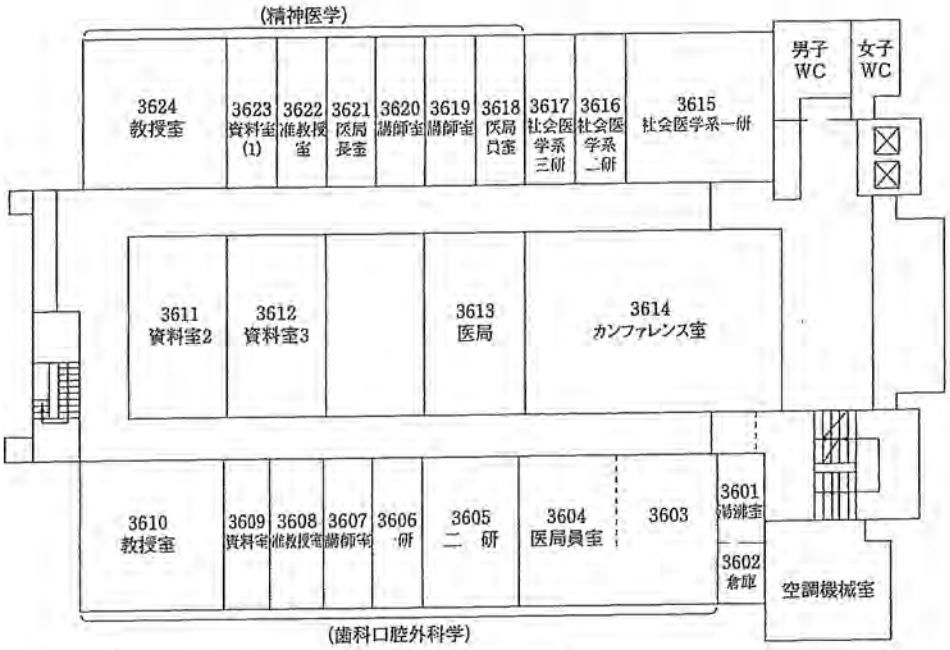


4　階

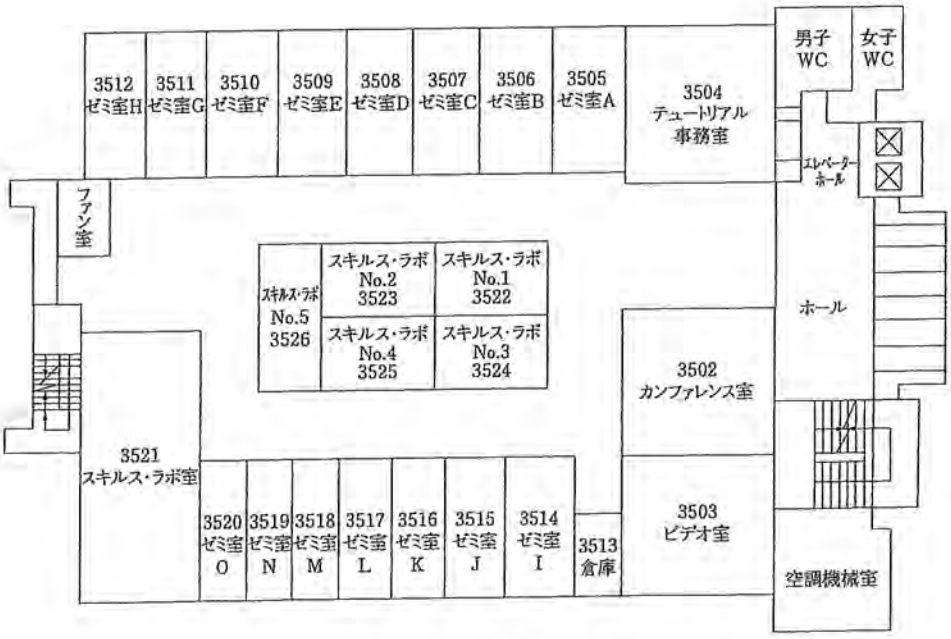


3　階

医学情報センター棟 （医学部）



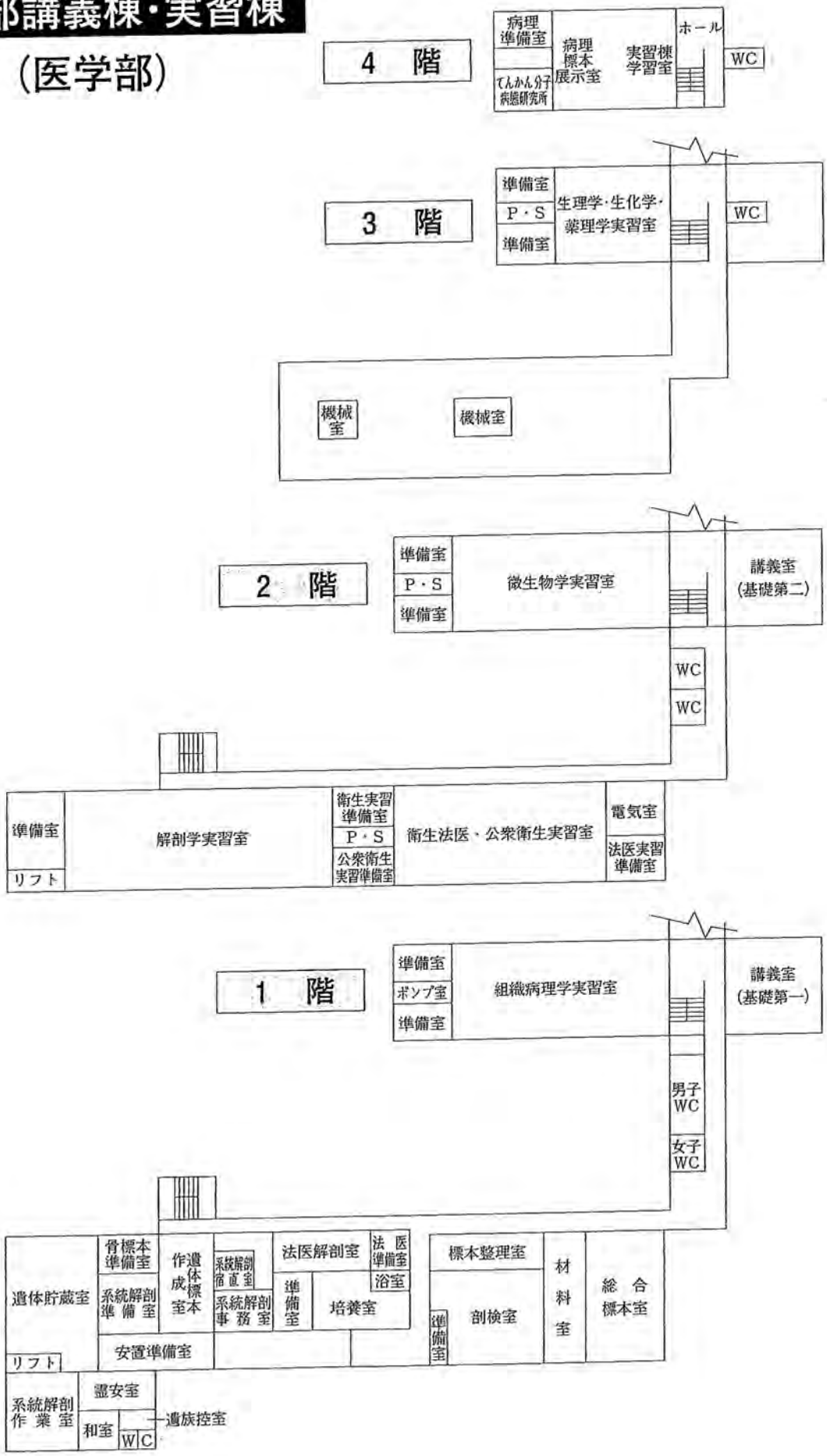
6 階



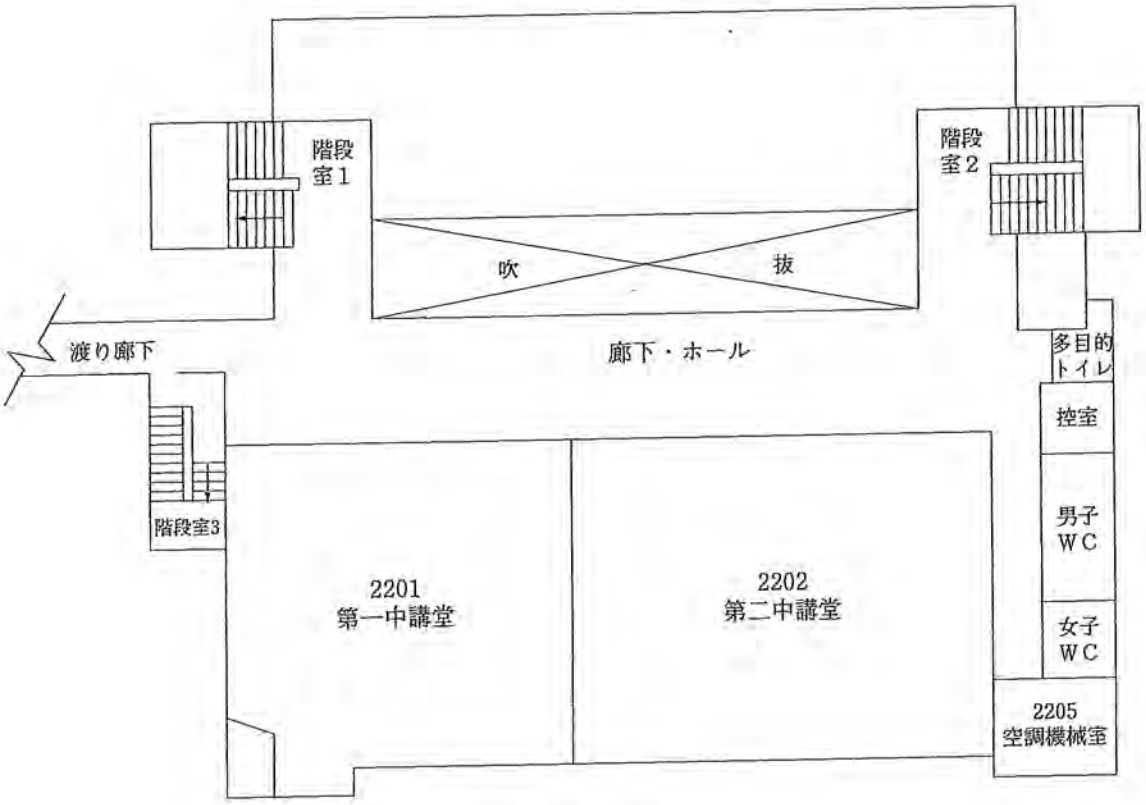
5 階

医学部講義棟・実習棟

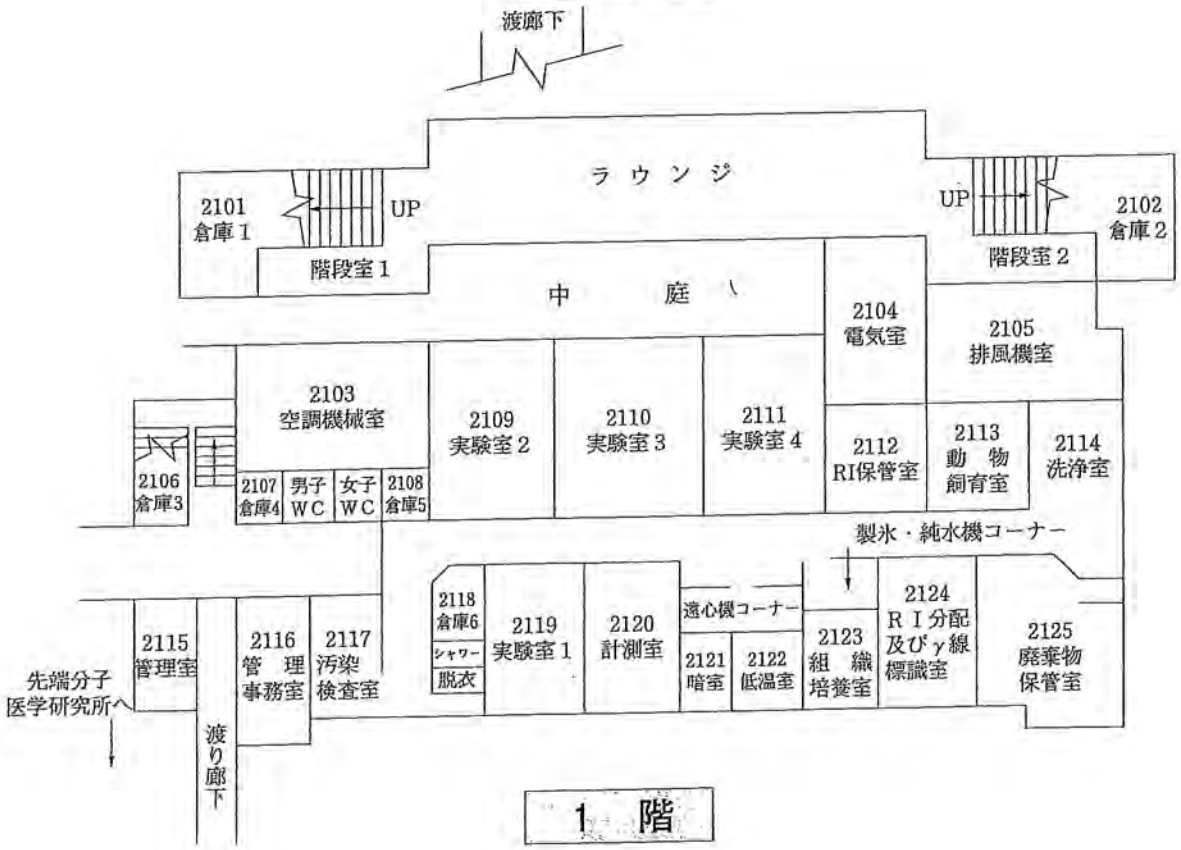
（医学部）



医学部ＲＩ講義棟 （医学部）

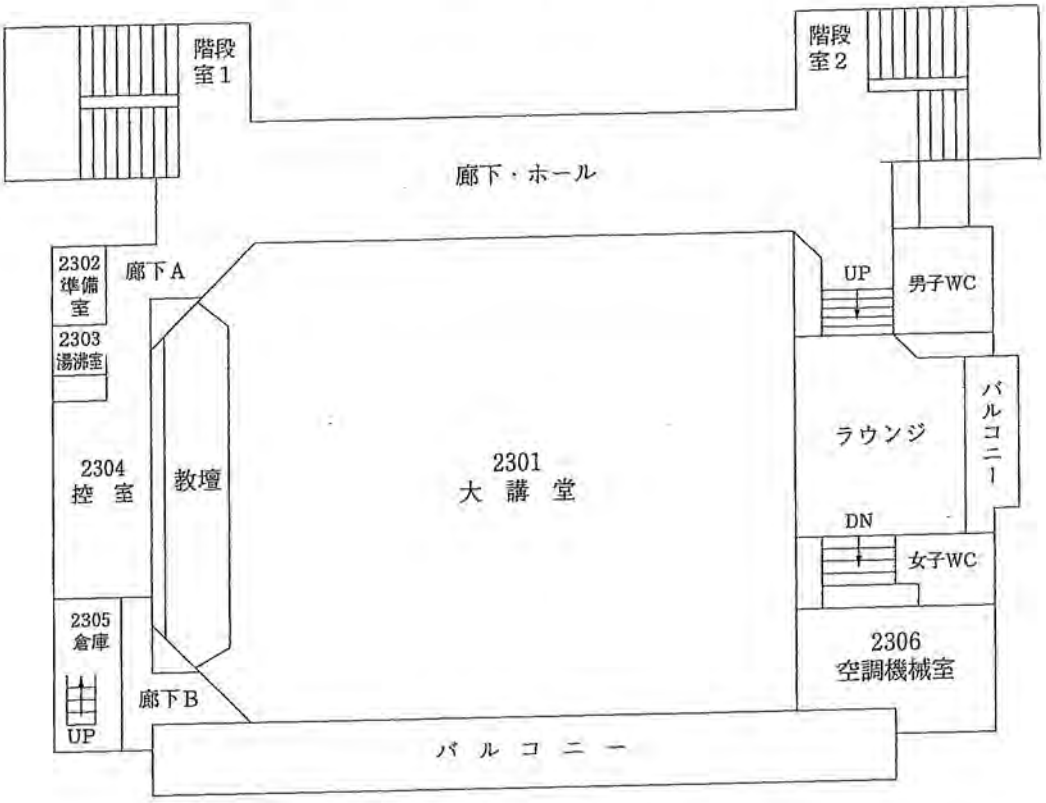


2　階



1　階

医学部ＲＩ講義棟 （医学部）



3 階

講 義 予 定 表

※3月30日（水）　M6　第1回特別講義（予定）

				M　1		M　2		M　3		M　4		M　6	
月	日	曜	限	科　目	担当者	科　目	担当者	科　目	担当者	科　目	担当者	科　目	担当者
3	31	木	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
4	1	金	1	入　学　式									
			2										
			3										
			4										
			5										
	2	土	1	ガイダンス（教務・学生部関係）									
			2										
			3										
			4										
			5										
	3	日	1	制限科目登録									
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
4	4	月	1	Web履修登録		組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	白澤 石倉	薬理学 II	岩本	脳神経病学	坪井	臨床修練 II（I期）	
			2			〃	〃	〃	喜多知	〃	〃		
			3			〃	〃	〃	〃	精神医学	川嵜		
			4			〃	〃	〃	〃	〃	北井		
			5										
	5	火	1	Web履修登録		免疫学	廣松	病理学総論	濵﨑	頭頸部病学	坂田		
			2			〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3			生理学 I	藤田	〃	〃	麻酔科学	秋吉		
			4			〃	〃	〃	〃	〃	重松		
			5							CBT演習	全員		
	6	水	1			生理学 I	藤田	公衆衛生学	有馬	医療情報社会学	吉田		
			2			〃	〃	〃	吉村	〃	非常勤講師 小河原		
			3			グローバル人材演習	全員	内分泌・代謝病学	川浪	脳神経病学	安部		
			4			〃	八尋	〃	〃	〃	天本		
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	7	木	1	フレッシュマンスタートアップミーティング		免疫学	廣松	病理学総論	濵﨑	医療情報社会学	非常勤講師 谷原	臨床修練 II (I期)	
			2			〃	〃	〃	濵﨑 青木	〃	髙田		
			3			生化学 II	安永	公衆衛生学	非常勤講師 西	麻酔科学	秋吉		
			4			〃	〃	〃	前田	〃	岩下		
			5										
	8	金	1			解剖学 II	立花	病理学総論	上杉	脳神経病学	藤岡		
			2			〃	解剖スタッフ全員 非常勤講師 小川	〃	〃	〃	竹下		
			3			〃	〃	公衆衛生学	佐藤	精神医学	北井		
			4			〃	〃	〃	〃	〃	林		
			5			〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
4	11	月	1	解剖学 I	立花	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	白澤 石倉	薬理学 II	根本	脳神経病学	坪井	臨床修練 II（I期）	
			2		〃	〃	〃	〃	篠田	〃	〃		
			3	医学概論	安元 八尋・武岡	〃	〃	〃	岩本	精神医学	川嵜 (矢野)		
			4	生化学 I	安永	〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 西村		
			5		〃								
	12	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		免疫学	廣松	病理学総論	上杉	頭頸部病学	妻鳥		
			2	総合教養科目／第2外国語 A		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習 II		生理学 I	本田	〃	上杉 古賀	麻酔科学	三股		
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	上杉	〃	楠本		
			5	総合教養科目						CBT演習	全員		
	13	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		生理学 I	本田	公衆衛生学	吉村	医療情報社会学	谷		
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	藤田	〃	〃	〃	安野		
			3	医学入門	朔	グローバル人材演習	全員	内分泌・代謝病学	川浪	脳神経病学	榎本		
			4	生化学 I	安永・白須 芝口	〃	〃	〃	非常勤講師 前田	〃	野中		
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	14	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		免疫学	廣松	病理学総論	自習	医療情報社会学	田中	臨床修練Ⅱ（Ⅰ期）	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃	〃	野田		
			3	総合教養科目		生化学Ⅱ	芝口・安永・瀬川・白須・大野・土井	公衆衛生学	阿部	麻酔科学	岩下		
			4			〃	〃	〃	（予備）	〃	若崎		
			5										
	15	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ全員	病理学総論	自習	脳神経病学	東		
			2	総合教養科目／第2外国語B		〃	〃	〃	〃	〃	堀尾		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	公衆衛生学	川添	精神医学	林		
			4	総合教養科目		〃	〃	〃	（予備）	〃	吉村		
			5			〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
4	18	月	1	解剖学 I	山崎	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	薬理学 II	篠田	脳神経病学	三嶋	臨床修練 II（I期）	
			2		〃	〃	〃	〃	〃	〃	青木		
			3	医学概論	今泉	〃	白澤 石倉	〃	非常勤講師 後藤	精神医学	畑中		
			4	生化学 I	芝口	〃	〃	〃	岩本	〃	非常勤講師 杠		
			5		安永								
	19	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		免疫学	廣松	病理学総論	上杉	頭頸部病学	坂田		
			2	総合教養科目／第2外国語 A		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習 II		生理学 I	藤田	〃	上杉 青木	脳神経病学	入江		
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	上杉	〃	福本		
			5	総合教養科目						CBT演習	全員		
	20	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		生理学 I	藤田	公衆衛生学	有馬	医療情報社会学	谷		
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃	〃	志村		
			3	医学入門	和田	グローバル人材演習	全員	内分泌・代謝病学	小林	脳神経病学	野中		
			4	医学概論（研究室配属）	各担当教員	〃	八尋	〃	〃	〃	藤岡		
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	21	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		免疫学	廣松	病理学総論	濵田	精神医学	原田	臨床修練Ⅱ（Ⅰ期）	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃	〃	吉村		
			3	総合教養科目		生化学Ⅱ	芝口・安永・瀬川・白須・大野・土井	公衆衛生学	（予備）	麻酔科学	佐藤		
			4			〃	〃	〃	〃	〃	重松		
			5										
	22	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ全員	病理学総論	濵田 上杉	脳神経病学	藤岡		
			2	総合教養科目／第2外国語B		〃	〃	〃	濵田	〃	新居		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	公衆衛生学	非常勤講師 向井	精神医学	非常勤講師 川口		
			4	総合教養科目		〃	〃	〃	有馬	〃	田口		
			5			〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
4	25	月	1	解剖学 I	山崎	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	薬理学 II	篠田	脳神経病学	小林	臨床修練 II (I期)	
			2	〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 西	〃	西田		
			3	医学概論	志村	〃	白澤 石倉	〃	柴田	精神医学	飯田		
			4	生化学 I	大野	〃	〃	〃	〃	〃	箱田		
			5		〃								
	26	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		免疫学	廣松	病理学総論	濵田	頭頸部病学	打田		
			2	総合教養科目／第2外国語 A		〃	〃	〃	上杉	〃	〃		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習 II		生理学 I	藤田	〃	〃	脳神経病学	非常勤講師 赤松		
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	濵田 上杉	〃	合馬		
			5	総合教養科目						CBT演習	全員		
	27	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		生理学 I	藤田	公衆衛生学	全員	医療情報社会学	安野		
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃	〃	志村		
			3	医学入門	髙松	グローバル人材演習	全員	内分泌・代謝病学	川浪	脳神経病学	高野		
			4	生化学 I	安永 芝口	〃	〃	〃	横溝	〃	森下		
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	28	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		免疫学	廣松	薬理学Ⅱ	小松	精神医学	飯田	臨床修練Ⅱ（Ⅰ期）	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 尾籠		
			3	総合教養科目		生化学Ⅱ	瀬川・安永・芝口・白須・大野・土井	公衆衛生学	全員	麻酔科学	柴田		
			4			〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 山浦		
			5										
	29	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		昭和の日							
			2	総合教養科目／第2外国語B									
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ									
			4	総合教養科目									
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
5	2	月	1	解剖学 I	貴田	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	薬理学 II	小松	脳神経病学	河野		
			2		〃	〃	〃	〃	非常勤講師 喜多紗	〃	重森		
			3	医学概論	武岡	〃	白澤 石倉	〃	〃	精神医学	堀		
			4	生化学 I	安永	〃	〃	〃	根本	〃	〃		
			5		〃								
	3	火	1	憲		法		記		念		日	
			2										
			3										
			4										
			5										
	4	水	1	み		ど		り		の		日	
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	5	木	1	こ		ど		も		の		日	
			2										
			3										
			4										
			5										
	6	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学 Ⅱ	解剖スタッフ 全員	病理学総論	濵崎	脳神経病学	井上	第２回特別講義（予定）	
			2	総合教養科目／第２外国語B		〃	〃	〃	二村	〃	非常勤講師 神田		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	公衆衛生学	全員	精神医学	畑中		
			4	総合教養科目		〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 小曽根		
			5			〃	〃						
	7	土	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ									
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ									
			3	総合教養科目									
			4										
			5										

※5月6日（金） M5 中間試験Ⅰ

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
5	9	月	1	解剖学 I	全員 非常勤講師 小川	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	薬理学 II	小松	脳神経病学	西田	臨床修練 II (II期)	
			2		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	医学概論	八尋	〃	白澤 石倉	〃	篠田	精神医学	原田		
			4	生化学 I	芝口	〃	白澤 角田	〃	〃	〃	非常勤講師 木村		
			5		〃								
	10	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		免疫学	全員	病理学総論	濵﨑 二村	頭頸部病学	宮﨑		
			2	総合教養科目／第2外国語 A		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習 II		生理学 I	本田	〃	濵﨑	脳神経病学	津川		
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	二村	〃	合馬		
			5	総合教養科目									
	11	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		生理学 I	本田	公衆衛生学	全員	医療情報社会学	鍋島		
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃	〃	志村		
			3	医学入門	宮本	グローバル人材演習	八尋	内分泌・代謝病学	髙士	脳神経病学	竹下		
			4	生化学 I	安永 大野	〃	全員	〃	〃	〃	岩朝		
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	12	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		免疫学	栗原	薬理学Ⅱ	根本	精神医学	衞藤	臨床修練Ⅱ（Ⅱ期）	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	総合教養科目		生化学Ⅱ	安永・大野・瀬川・芝口・白頃・土井	〃	小松				
			4			〃	〃	〃	〃				
			5										
	13	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ全員	病理学総論	濵﨑				
			2	総合教養科目／第2外国語B		〃	〃	〃	（予備）				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	公衆衛生学	全員				
			4	総合教養科目		〃	〃	〃	〃				
			5			〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
5	16	月	1	解剖学 I	全員 非常勤講師 小川	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	石倉 白澤	内分泌・代謝病学	松永			臨床修練 II (II期)	
			2		〃	〃	〃	〃	〃				
			3	医学概論	八尋	〃	非常勤講師 山本	薬理学 II	根本				
			4	生化学 I	芝口	〃	〃	〃	〃				
			5		安永								
	17	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		免疫学	廣松	公衆衛生学	全員	麻酔科学試験			
			2	総合教養科目／第2外国語 A		〃	〃	〃	〃				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習 II		生理学 I	本田	病理学総論	濵﨑 武藤				
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃				
			5	総合教養科目									
	18	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		生理学 I	本田	公衆衛生学	全員				
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃				
			3	医学入門	川浪	グローバル人材演習	全員	内分泌・代謝病学	松永				
			4	医学概論（研究室配属）	各担当教員	〃	八尋	〃	川浪				
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	19	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		免疫学	廣松	薬理学Ⅱ	根本			臨床修練Ⅱ（Ⅱ期）	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃				
			3	総合教養科目		生化学Ⅱ	白須・安永・瀬川・芝口・大野・土井	〃	岩本				
			4			〃	〃	〃	〃				
			5										
	20	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ全員	病理学総論	濵田	医療情報社会学試験			
			2	総合教養科目／第2外国語B		〃	〃	〃	〃				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	公衆衛生学	全員				
			4	総合教養科目		〃	〃	〃	〃				
			5			〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
5	23	月	1	解剖学 I	立花	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	消化器病学	釈迦堂			臨床修練 II (II期)	
			2		山崎	〃	〃	〃	〃				
			3	医学概論	八尋	〃	白澤 角田	薬理学 II	根本				
			4	生化学 I	安永	〃	石倉 白澤	〃	〃				
			5		〃								
	24	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		免疫学	廣松	公衆衛生学	全員	脳神経病学試験			
			2	総合教養科目／第2外国語 A		〃	〃	〃	〃				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習 II		生理学 I	内田	消化器病学	福永				
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃				
			5	総合教養科目									
	25	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		生理学 I	内田	公衆衛生学	全員				
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	非常勤講師 井上	〃	〃				
			3	医学入門	小玉	グローバル人材演習	全員	内分泌・代謝病学	非常勤講師 田邉				
			4	生化学 I	安永 芝口	〃	〃	〃	川浪				
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	26	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		免疫学	全員	薬理学Ⅱ	岩本 根本			臨床修練Ⅱ（Ⅱ期）	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃				
			3	総合教養科目		生化学Ⅱ	白須・安永・瀬川 芝口・大野・土井	〃	〃				
			4			〃	〃	〃	〃				
			5										
	27	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ全員 長谷川	病理学総論	濵田 古賀	精神医学試験			
			2	総合教養科目／第2外国語B		〃	〃	〃	上杉				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	公衆衛生学	全員				
			4	総合教養科目		〃	〃	〃	〃				
			5			〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
5	30	月	1	解剖学 I	立花	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	消化器病学	浦川	小児医学	永光	臨床修練 II (II期)	
			2		〃	〃	〃	〃	横山	〃	林		
			3	医学概論	八尋	〃	〃	薬理学 II	薬理学スタッフ 全員	循環器病学	三浦		
			4	生化学 I	安永	〃	〃	〃	〃	〃	北島		
			5		〃								
	31	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		免疫学	非常勤講師 原田	公衆衛生学	全員	頭頸部病学	田浦		
			2	総合教養科目／第2外国語A		〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 山野		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習 II		生理学 I	非常勤講師 井上	内分泌・代謝病学	自習	症候・病態学演習	鍋島		
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5	総合教養科目						CBT演習	全員		
6	1	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		生理学 I	非常勤講師 井上	公衆衛生学実習		検査診断学	小川		
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃			〃	松永		
			3	医学入門	坪井	グローバル人材演習	ウォーターズ			小児医学	林		
			4	医学概論（研究室配属）	各担当教員	〃	全員			〃	加倉		
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
6	2	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		免疫学	全員	公衆衛生学実習		循環器病学	桑野	臨床修練Ⅱ（Ⅱ期）	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃			〃	〃		
			3	総合教養科目		生化学Ⅱ	佐々木 安永			再生・移植医学	小玉		
			4			〃	四元 安永			〃	〃		
			5										
	3	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ全員 長谷川	病理学総論	（予備）	小児医学	伊東		
			2	総合教養科目／第2外国語B		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	公衆衛生学	全員	頭頸部病学	坂田 （永田）		
			4	総合教養科目		〃	〃	〃	〃	〃	坂田		
			5			〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
6	6	月	1	解剖学 I	立花	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	消化器病学	横山	小児医学	久保田	臨床修練 II (III期)	
			2		〃	〃	〃	〃	田中	〃	後藤		
			3	医学概論	安元 八尋・武岡	〃	〃	薬理学 II	薬理学スタッフ 全員	循環器病学	森井		
			4	生化学 I	安永	〃	〃	〃	〃	〃	和田		
			5		〃								
	7	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		微生物学	廣松	病理学各論	青木光	頭頸部病学	坂田		
			2	総合教養科目／第2外国語 A		〃	〃	〃	古賀	〃	前原		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習 II		生理学 I	藤田・胡	内分泌・代謝病学	横溝	症候・病態学演習	武岡		
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5	総合教養科目						CBT演習	全員		
	8	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		生理学 I	内田	公衆衛生学実習		検査診断学	磯部		
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃			〃	〃		
			3	医学入門	佐藤	グローバル人材演習	全員			小児医学	小川		
			4	生化学 I	安永 芝口	〃	〃			〃	井上		
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	9	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		微生物学	廣松	公衆衛生学実習		循環器病学	杉原	第1回模擬試験	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃			〃	〃		
			3	総合教養科目		生化学Ⅱ	横山 安永			再生・移植医学	吉松		
			4			〃	川浪 安永			〃	白石 中村		
			5										
	10	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ 全員	病理学各論	非常勤講師 青木	小児医学	吉兼		
			2	総合教養科目／第2外国語B		〃	〃	〃	〃	〃	宮本		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	公衆衛生学	全員	頭頸部病学	田浦		
			4	総合教養科目		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5			〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
6	13	月	1	解剖学Ⅰ	立花	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	消化器病学	田中	小児医学	久保田	臨床修練Ⅱ（Ⅲ期）	
			2		〃	〃	〃	〃	内藤	〃	後藤		
			3	医学概論	安元 八尋・武岡	〃	〃	薬理学Ⅱ	薬理学スタッフ 全員	循環器病学	小川		
			4	生化学Ⅰ	安永	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5		〃								
	14	火	1	フレッシュマン・イングリッシュⅠ		微生物学	清水	病理学各論	青木光 古賀	頭頸部病学	末田		
			2	総合教養科目／第2外国語A		〃	〃	〃	（予備）	〃	〃		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		生理学Ⅰ	生理学スタッフ 全員	内分泌・代謝病学	自習	症候・病態学演習	三嶋		
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5	総合教養科目						CBT演習	全員		
	15	水	1	フレッシュマン・イングリッシュⅡ		生理学Ⅰ	内田	公衆衛生学	全員	検査診断学	大久保		
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	医学入門	升谷	グローバル人材演習	全員	内分泌・代謝病学	非常勤講師 位藤	小児医学	廣瀬龍		
			4	医学概論（研究室配属）	各担当教員	〃	〃	〃	松﨑	〃	〃		
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	16	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		微生物学	廣松	薬理学Ⅱ	薬理学スタッフ 全員	循環器病学	吉兼	臨床修練Ⅱ（Ⅲ期）	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 福田		
			3	総合教養科目		生化学Ⅱ	安永	〃	〃	再生・移植医学	非常勤講師 八木		
			4			〃	〃	〃	〃	〃	田中		
			5										
	17	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ 全員	病理学各論	二村	小児医学	渋井		
			2	総合教養科目／第2外国語B		〃	〃	〃	〃	〃	古賀		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	公衆衛生学	全員	頭頸部病学	末田		
			4	総合教養科目		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5			〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
6	20	月	1	解剖学 I	立花	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	消化器病学	梶原	小児医学	八ツ賀	臨床修練 II (III期)	
			2		〃	〃	〃	〃	〃	〃	佐々木		
			3	医学概論	安元 八尋・武岡	〃	角田 白澤	薬理学 II	喜多知	循環器病学	桑原		
			4	生化学 I	安永	〃	〃	〃	〃	〃	西川		
			5		〃								
	21	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		微生物学	廣松	病理学各論	二村	頭頸部病学	坂田		
			2	総合教養科目／第2外国語A		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習 II		生理学 I	生理学スタッフ 全員	内分泌・代謝病学	牟田	症候・病態学演習	加藤		
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5	総合教養科目						CBT演習	全員		
	22	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		生理学 I	生理学スタッフ 全員	公衆衛生学	全員	検査診断学	髙田		
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	医学入門	前山	〃	〃	内分泌・代謝病学	野中	小児医学	非常勤講師 寺町		
			4	生化学 I	安永 芝口	〃	〃	〃	川浪	〃	〃		
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	23	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		微生物学	伊藤	薬理学Ⅱ	根本 岩本	循環器病学	吉兼	臨床修練Ⅱ（Ⅲ期）	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	総合教養科目		〃	〃	〃	非常勤講師 柳田	再生・移植医学	坂田		
			4			〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5										
	24	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ 全員	病理学各論	原岡	小児医学	瀬戸上		
			2	総合教養科目／第2外国語B		〃	〃	〃	〃	〃	音田		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	公衆衛生学	（予備）	頭頸部病学	坂田		
			4	総合教養科目		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5			〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
6	27	月	1	解剖学 I	遠藤	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員			小児医学	太田	臨床修練 II (III期)	
			2		〃	〃	〃			〃	川野		
			3	医学概論	安元・八尋 武岡・全員 非常勤講師 出石	〃	角田 白澤			循環器病学	非常勤講師 廣畑		
			4	生化学 I	大野	〃	〃			〃	桑原		
			5		〃								
	28	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		微生物学	廣松	病理学総論試験		頭頸部病学	坂田		
			2	総合教養科目／第2外国語A		〃	〃			〃	梅本		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習 II		生理学 I	生理学スタッフ 全員			症候・病態学演習	坂本		
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃			〃	〃		
			5	総合教養科目						CBT演習	全員		
	29	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		生理学 I	生理学スタッフ 全員			検査診断学	大久保		
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	藤田			〃	〃		
			3	医学入門	平井	生理学 II	藤田			小児医学	非常勤講師 寺町		
			4	医学概論（研究室配属）	各担当教員	〃	〃			〃	伊東		
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
6	30	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		微生物学	廣松	内分泌・代謝病学試験		循環器病学	三浦	臨床修練Ⅱ（Ⅲ期）	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃			〃	〃		
			3	総合教養科目		〃	全員			検査診断学	小柳		
			4			〃	〃			〃	非常勤講師 松本		
			5										
7	1	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ 全員			小児医学	非常勤講師 中山		
			2	総合教養科目／第2外国語B		〃	〃			〃	〃		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃			頭頸部病学	梅本		
			4	総合教養科目		〃	〃			〃	近藤		
			5			〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
7	4	月	1	解剖学 I	遠藤	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員			小児医学	小川		
			2		〃	〃	角田 白澤			〃	藤田		
			3	医学概論	安元 八尋・武岡	〃	〃			循環器病学	河村		
			4	生化学 I	安永	〃	〃			〃	非常勤講師 安永		
			5		〃								
	5	火	1	フレッシュマン・イングリッシュI		微生物学	全員	薬理学 II 試験		循環器病学	志賀	Post-CC OSCE	
			2	総合教養科目／第2外国語A		〃	〃			〃	〃		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習 II		組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	白澤 石倉			頭頸部病学	瀬戸		
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	白澤 角田						
			5	総合教養科目									
	6	水	1	フレッシュマン・イングリッシュII		生理学 II	内田			検査診断学	鍋島		
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃			〃	〃		
			3	医学入門	鍋島	〃	〃			小児医学	井上		
			4	医学概論（研究室紹介）	各担当教員	〃	本田			〃	永光		
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	7	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ全員	公衆衛生学試験		循環器病学	末松	領域別集中講義Ⅰ（循環器病学）	加藤
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃			〃	松村	〃	志賀
			3	総合教養科目		〃	〃			検査診断学	大久保	〃	三浦
			4			〃	〃			〃	小柳		
			5			〃	〃						
	8	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ全員 坂田			小児医学	八ツ賀	領域別集中講義Ⅰ（循環器病学）	小牧
			2	総合教養科目／第2外国語B		〃	〃			〃	永光	〃	和田
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃			頭頸部病学	吉野	〃	吉兼
			4	総合教養科目		〃	〃			〃	喜多		
			5			〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
7	11	月	1	解剖学 I	遠藤	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	白澤	行動科学 II	安元 八尋・武岡	再生・移植医学	坂田	領域別集中講義 I (内分泌・代謝病学)	川浪
			2		〃	〃	〃	〃	〃	〃	小玉	〃	松永
			3	医学概論	安元 八尋・武岡	〃	〃	〃	〃	循環器病学	林田	〃	髙士
			4	生化学 I	安永	〃	〃	〃	〃	〃	池		
			5		〃								
	12	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	白澤	行動科学 II 実習				領域別集中講義 I (内分泌・代謝病学)	川浪
			2	総合教養科目／第2外国語 A		〃	〃					〃	牟田
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習 II		〃	〃					〃	横溝
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃						
			5	総合教養科目									
	13	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		生理学 II	本田						
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃						
			3	医学入門	久保	〃	〃						
			4	生化学 I	安永 芝口	〃	〃						
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	14	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ全員 安部・坪井	行動科学Ⅱ実習		検査診断学試験		領域別集中講義Ⅰ (腎・泌尿器・膠原病学)	羽賀
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃					〃	石井 松岡
			3	総合教養科目		〃	〃					〃	中村
			4			〃	〃					〃	升谷
			5			〃	〃						
	15	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ全員 安部・坪井					領域別集中講義Ⅰ (腎・泌尿器・膠原病学)	冷牟田
			2	総合教養科目／第2外国語B		〃	〃					〃	升谷
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	解剖スタッフ全員 安部・坪井 非常勤講師 小川						
			4	総合教養科目		〃	〃						
			5			〃	解剖スタッフ全員 安部・坪井						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
7	18	月	1	海				の				日	
			2										
			3										
			4										
			5										
	19	火	1	フレッシュマン・イングリッシュⅠ		免疫学試験		行動科学Ⅱ	安元 八尋・武岡	小児医学試験		領域別集中講義Ⅰ (消化器病学)	自習
			2	総合教養科目／ 第2外国語A				〃	〃			〃	平井
			3	総合教養科目／ 生涯スポーツ演習Ⅱ				〃	〃			〃	釈迦堂
			4	総合教養科目／ 生涯スポーツ演習Ⅰ				〃	〃			〃	植木
			5	総合教養科目								〃	山田
	20	水	1	フレッシュマン・イングリッシュⅡ				行動科学Ⅱ	安元 中村			領域別集中講義Ⅰ (消化器病学)	石橋
			2	総合教養科目／ 生涯スポーツ演習Ⅰ				〃	看護部				
			3	医学入門	藤田孝			〃	〃				
			4	医学概論 (研究室紹介)	各担当 教員			〃	〃				
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	21	木	1					行動科学 II	安元 八尋・武岡				
			2					〃	〃				
			3					〃	〃				
			4					〃	〃				
			5										
	22	金	1	試験				行動科学 II	安元・八尋 武岡・担任	頭頸部病学試験		領域別集中講義 I (腫瘍・血液・感染症学)	自習
			2					〃	〃				
			3					〃	〃			領域別集中講義 I (腫瘍・血液・感染症学)	髙松
			4					〃	〃			〃	〃
			5										
	23	土	1					夏季休業					
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
7	25	月	1	試験				夏季休業		再生・移植医学試験		領域別集中講義Ⅰ(腫瘍・血液・感染症学)	自習
			2										
			3									領域別集中講義Ⅰ(腫瘍・血液・感染症学)	髙田
			4									〃	戸川
			5										
	26	火	1			生理学Ⅰ試験							
			2										
			3										
			4										
			5										
	27	水	1							循環器病学試験			
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	28	木	1	試験				夏季休業		CBT対策講義（予定）		領域別集中講義Ⅰ（呼吸器病学）	佐藤
			2									〃	海老
			3									〃	藤田
			4									〃	井上
			5									〃	自習
	29	金	1			組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学試験				夏季休業		領域別集中講義Ⅰ（呼吸器病学）	濵田
			2									〃	自習
			3									〃	藤田
			4									〃	〃
			5									〃	自習
	30	土	1			夏季休業							
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
8	1	月	1			夏季休業		夏季休業		夏季休業		領域別集中講義Ⅰ（脳神経病学）	森下
			2									〃	重森
			3									〃	堀尾
			4									〃	野中
			5										
	2	火	1									領域別集中講義Ⅰ（脳神経病学）	合馬
			2									〃	〃
			3									〃	坪井
			4									〃	井上
			5										
	3	水	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	4	木	1	夏季休業		夏季休業		夏季休業		夏季休業			
			2										
			3										
			4										
			5										
	5	金	1									総合試験Ⅰa	
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
8	8	月	1									Post-CC OSCE 再試験	
			2										
			3										
			4										
			5										
	9	火	1	夏季休業		夏季休業		夏季休業		夏季休業		夏季休業	
			2										
			3										
			4										
			5										
	10	水	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	11	木	1	夏季休業		夏季休業		夏季休業		夏季休業		夏季休業	
			2										
			3										
			4										
			5										
	12	金	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
8	15	月	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
	16	火	1										
			2										
			3	夏季休業		夏季休業		夏季休業		夏季休業		夏季休業	
			4										
			5										
	17	水	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	18	木	1	夏季休業		夏季休業		夏季休業		CBTネット模試		夏季休業	
			2										
			3										
			4										
			5										
	19	金	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
8	22	月	1	夏季休業		微生物学中間試験		病理学各論	二村	産科婦人科学	非常勤講師 長沼		
			2					〃	〃	〃	〃		
			3					消化器病学	内藤	整形外科学	前山		
			4					〃	石橋	〃	木下		
			5										
	23	火	1			微生物学	廣松	病理学各論	濵田	救命救急医学	石倉		
			2			〃	〃	〃	〃	〃	森本		
			3			生理学 II	藤田	〃	濵﨑	症候・病態学演習	坂本		
			4			〃	〃	〃	末松	〃	〃		
			5							CBT演習	全員		
	24	水	1			寄生虫学	石井	呼吸器病学	石井	救命救急医学	非常勤講師 西田	第2回模擬試験	
			2			〃	〃	〃	〃	〃	松岡		
			3			薬理学 I	岩本	眼科学	内尾	整形外科学	村岡		
			4			〃	喜多知	〃	〃	〃	〃		
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	25	木	1	夏季休業		組織細胞生物学各論	石倉 白澤	眼科学	原田	産科婦人科学	四元	第2回模擬試験	
			2			〃	角田 白澤	〃	〃	〃	〃		
			3			寄生虫学	石井	病理学各論	上杉	症候・病態学演習	日吉		
			4			〃	全員	〃	〃	〃	〃		
			5										
	26	金	1			生理学Ⅱ	藤田	病理学各論	濵田	整形外科学	三宅		
			2			〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3			臨床医学入門Ⅰ	安元 八尋・武岡	呼吸器病学	藤田	産科婦人科学	伊東		
			4			〃	〃	〃	〃	〃	重川		
			5										

※8月26日（金） M5 中間試験Ⅱ

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
8	29	月	1	夏季休業		組織細胞生物学各論	白澤 石倉	病理学各論	濵崎	産科婦人科学	伊東		
			2			〃	〃	〃	〃	〃	重川	領域別集中講義Ⅱ (産科婦人科学)	非常勤講師 伊東
			3			生理学Ⅱ	藤田	消化器病学	石橋	整形外科学	田中	〃	〃
			4			〃	〃	〃	石田	〃	〃	〃	宮本
			5										
	30	火	1			微生物学	廣松	消化器病学	中島	救命救急医学	松尾		
			2			〃	〃	〃	〃	〃	岩朝	領域別集中講義Ⅱ (産科婦人科学)	讃井
			3			生理学Ⅱ	藤田	〃	植木	症候・病態学演習	瀬戸上	〃	〃
			4			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	倉員
			5							CBT演習	全員	〃	〃
	31	水	1			寄生虫学	石井	呼吸器病学	早稲田	救命救急医学	星野		
			2			〃	〃	〃	井形	〃	石倉		
			3			薬理学Ⅰ	篠田	眼科学	非常勤講師 近藤	整形外科学	非常勤講師 尾上		
			4			〃	〃	〃	久冨	〃	松永		
			5										

※8月29日（月） M5 統合講義

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
9	1	木	1	夏季休業		組織細胞生物学各論	全員	眼科学	上野	産科婦人科学	吉川	領域別集中講義Ⅱ（小児医学）	林
			2			〃	〃	〃	非常勤講師 園田	〃	宮田	〃	藤田
			3			寄生虫学	全員	病理学各論	非常勤講師 加藤	症候・病態学演習	井上	〃	太田
			4			〃	〃	〃	（予備）	〃	〃	〃	瀬戸上
			5									〃	八ツ賀
	2	金	1			生理学Ⅱ	藤田	病理学各論	濵田 上杉	整形外科学	塩川	領域別集中講義Ⅱ（小児医学）	吉兼
			2			〃	〃	〃	〃	〃	石松	〃	伊東
			3			臨床医学入門Ⅰ	安元 八尋・武岡	呼吸器病学	藤田	産科婦人科学	宮本	〃	永光
			4			〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 詠田	〃	自習
			5									〃	〃

※9月1日（木） M1 前期成績発表開始（WEB）

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
9	5	月	1	行動科学 I (看護実習・C.C 体験)		組織細胞生物学各論	白澤 石倉	消化器病学	高田	産科婦人科学	非常勤講師 加藤		
			2			〃	〃	〃	〃	〃	重川		
			3			生理学 II	藤田	〃	宮岡	整形外科学	中山		
			4			〃	〃	〃	小野	〃	〃		
			5										
	6	火	1			微生物学	廣松	消化器病学	吉村	産科婦人科学	倉員	領域別集中講義 II (精神医学)	田口
			2			〃	〃	〃	石橋	〃	清島	〃	川嵜
			3			生理学 II	藤田	感染症学	髙田	症候・病態学演習	安元	〃	飯田
			4			〃	本田	〃	〃	〃	〃	〃	衞藤
			5							CBT 演習	全員	〃	非常勤講師 楯林
	7	水	1			微生物学	栗原	呼吸器病学	宮原	救命救急医学	非常勤講師 梅村		
			2			〃	〃	〃	〃	〃	村西		
			3			薬理学 I	根本	放射線科学	非常勤講師 納冨	整形外科学	非常勤講師 井上		
			4			〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 原		
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	8	木	1	行動科学 I（看護実習・C.C 体験）		組織細胞生物学各論	全員	眼科学	髙橋	産科婦人科学	吉永	領域別集中講義 II（麻酔科学・救命救急医学）	秋吉
			2			〃	〃	〃	内尾	〃	〃	〃	重松
			3			寄生虫学	石井	病理学各論	濵﨑	症候・病態学演習	崎原	〃	石倉
			4			〃	全員	〃	濵﨑 武藤	〃	〃	〃	岩朝
			5									〃	自習
	9	金	1			生理学 II	本田	病理学各論	上杉	整形外科学	萩尾	第 3 回特別講義（予定）	
			2			〃	〃	〃	上杉 青木光	〃	〃		
			3			臨床医学入門 I	安元 八尋・武岡	呼吸器病学	藤田	産科婦人科学	非常勤講師 高橋		
			4			〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 小濱		
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
9	12	月	1	夏季休業		組織細胞生物学各論	白澤 石倉	消化器病学	八尾	産科婦人科学	野口	領域別集中講義Ⅱ (整形外科学)	三宅 中山
			2			〃	〃	〃	渡部	〃	平川	〃	木下 瀬尾
			3			生理学Ⅱ	胡	〃	久部	整形外科学	瀬尾	〃	田中・石松 村岡
			4			〃	本田	〃	〃	〃	〃	〃	鎌田・萩尾 前山
			5									〃	自習
	13	火	1			微生物学	清水	消化器病学	長谷川	産科婦人科学	漆山		
			2			〃	尾鶴	〃	平井	〃	井槌		
			3			生理学Ⅱ	藤田	感染症学	戸川	症候・病態学演習	津川		
			4			〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5							CBT演習	全員		
	14	水	1			微生物学	尾鶴	呼吸器病学	佐藤	救命救急医学	非常勤講師 友尻	領域別集中講義Ⅱ (眼科学)	原田
			2			〃	全員	〃	上田	〃	鯉江	〃	髙橋
			3			薬理学Ⅰ	非常勤講師 喜多紗	放射線科学	長町	整形外科学	鎌田	〃	尾﨑
			4			〃	〃	〃	〃	〃	前山	〃	自習
			5									〃	〃

※9月12日（月） M5 統合講義

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	15	木	1			組織細胞生物学各論	全員	眼科学	尾崎	産科婦人科学	清島		
			2			〃	〃	〃	川村	〃	漆山		
			3			寄生虫学	石井	病理学各論	濵崎	症候・病態学演習	八尋		
			4			〃	〃	〃	濵崎 古賀	〃	〃		
			5										
	16	金	1			生理学 II	内田	病理学各論	伊東	整形外科学	木下	領域別集中講義 II (皮膚科学・形成外科学)	鈴木
			2			〃	〃	〃	武藤	〃	鎌田	〃	古賀
			3			臨床医学入門 I	安元 田中	呼吸器病学	藤田	産科婦人科学	平川	〃	今福
			4			〃	〃	〃	〃	〃	讃井	〃	佐藤
			5									〃	内藤

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
9	19	月	1	解剖学Ⅰ	山崎	敬老の日							
			2		〃								
			3	医学生のための生命科学	白澤 角田								
			4	生化学Ⅰ	安永								
			5		〃								
	20	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		微生物学	伊藤	消化器病学	平井	産科婦人科学	讃井	領域別集中講義Ⅱ(耳鼻咽喉・口腔系)	梅本
			2	総合教養科目／第2外国語A		〃	〃	〃	高橋	〃	平川	〃	坂田
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		生理学Ⅱ	内田	感染症学	鍋島	症候・病態学演習	佐藤	〃	〃
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	末田
			5	総合教養科目						CBT演習	全員	〃	〃
	21	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		微生物学	全員	呼吸器病学	佐々木	救命救急医学	仲村		
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	行動科学Ⅰ	安元	薬理学Ⅰ	根本	放射線科学	長町	整形外科学	木下		
			4	行動科学Ⅰ(心肺蘇生/研究室配属・研究室紹介)	喜多村 各担当教員	〃	〃	〃	〃	〃	三宅		
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	22	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		組織細胞生物学各論	全員	眼科学	尾崎	産科婦人科学	倉員	領域別集中講義Ⅱ（放射線科学・臨床検査医学）	長町・高野 伊東
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃	〃	井槌	〃	〃
			3	総合教養科目		寄生虫学	石井	病理学各論	武藤	症候・病態学演習	牟田	〃	吉満
			4			〃	廣松	〃	〃	〃	〃	〃	小川
			5									〃	日吉 佐々木
	23	金	1	秋分の日									
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
9	26	月	1	解剖学Ⅰ	山崎	組織細胞生物学各論	白澤	消化器病学	島岡	産科婦人科学	宮田	領域別集中講義Ⅱ (公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント)	吉村
			2		〃	〃	白澤 石倉	〃	高橋	〃	野口	〃	志村
			3	医学生のための生命科学	白澤 角田	生理学Ⅱ	非常勤講師 佐藤	〃	東	症候・病態学演習	衞藤	〃	自習
			4	生化学Ⅰ	安永	〃	内田	〃	薦野	〃	飯田	〃	〃
			5		〃							〃	〃
	27	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		微生物学	全員	消化器病学	船越	産科婦人科学	倉員	領域別集中講義Ⅱ (公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント)	久保
			2	総合教養科目／第2外国語A		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		生理学Ⅱ	内田	感染症学	髙田	症候・病態学演習	鍋島	〃	有馬
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	自習
			5	総合教養科目						CBT演習	全員	〃	〃
	28	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		微生物学	全員	呼吸器病学	濵田	救命救急医学	喜多村	領域別集中講義Ⅱ (公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント)	有馬
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	井上	〃	泉谷	〃	阿部
			3	行動科学Ⅰ	安元	薬理学Ⅰ	岩本	放射線科学	浦川			〃	佐藤
			4	生化学Ⅰ	安永・瀬川 白須	〃	根本	〃	〃			〃	自習
			5	総合教養科目								〃	〃

※9月27日（火） M5 統合講義

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	29	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		組織細胞生物学各論	全員	眼科学	髙橋	CBT直前対策講義（予定）			
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	海津				
			3	総合教養科目		寄生虫学	全員	病理学各論	（予備）				
			4			〃	〃	〃	〃				
			5										
	30	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		生理学Ⅱ	生理学スタッフ全員	病理学各論中間試験					
			2	総合教養科目／第2外国語B		〃	〃						
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		臨床医学入門Ⅰ	安元 田中						
			4	総合教養科目		〃	田中						
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
10	3	月	1	解剖学Ⅰ	山崎	組織細胞生物学各論	白澤 角田	消化器病学	小野				
			2		〃	〃	〃	〃	芦塚				
			3	医学生のための生命科学	白澤	生理学Ⅱ	生理学スタッフ全員	〃	八尾				
			4	生化学Ⅰ	安永・瀬川 白須	〃	〃	〃	久能				
			5		〃								
	4	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		微生物学	全員	放射線科学	赤井			総合試験Ⅰb	
			2	総合教養科目／第2外国語A		〃	〃	〃	伊東				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		生理学Ⅱ	生理学スタッフ全員	感染症学	髙田				
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	藤田	〃	非常勤講師 下野				
			5	総合教養科目									
	5	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		微生物学	廣松	呼吸器病学	非常勤講師 福山	整形外科学試験			
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	〃				
			3	行動科学Ⅰ	今泉	薬理学Ⅰ	喜多知	放射線科学	高山				
			4	行動科学Ⅰ (心肺蘇生／研究室配属・研究室紹介)	南原 各担当教員	〃	〃	〃	長町				
			5	総合教養科目									

※10月3日（月） M5 模擬試験（予定）

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
10	6	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		組織細胞生物学各論	全員	眼科学	尾崎				
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	内尾				
			3	総合教養科目		寄生虫学	全員	病理学各論	升谷				
			4			〃	〃	〃	上杉				
			5										
	7	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		生理学Ⅱ	藤田	病理学各論	上杉	産科婦人科学試験		第４回特別講義（予定）	
			2	総合教養科目／第２外国語B		〃	〃	〃	〃				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		臨床医学入門Ⅰ	安元 八尋・武岡	呼吸器病学	海老				
			4	総合教養科目		〃	〃	〃	井上				
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
10	10	月	1	スポーツの日									
			2										
			3										
			4										
			5										
	11	火	1	インターミディエイト・イングリッシュI		微生物学	廣松	放射線科学	吉満	症候・病態学演習試験			
			2	総合教養科目／第2外国語A		〃	〃	〃	〃				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習I		生理学II	生理学スタッフ全員	感染症学	戸川				
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習II		〃	〃	〃	〃				
			5	総合教養科目									
	12	水	1	インターミディエイト・イングリッシュII		微生物学	廣松	呼吸器病学	吉村				
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習II		〃	〃	〃	串間				
			3	行動科学I	徳永	薬理学I	喜多知	放射線科学	高野				
			4	生化学I	安永 大野	〃	岩本	〃	〃				
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	13	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		組織細胞生物学各論	全員	眼科学	上野				
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	小林				
			3	総合教養科目		寄生虫学	石井	〃	自習				
			4			〃	全員	〃	〃				
			5										
	14	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		生理学Ⅱ	藤田	病理学各論	上杉 青木光	救命救急医学試験			
			2	総合教養科目／第2外国語B		〃	本田 胡	〃	武藤 古賀				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		臨床医学入門Ⅰ	安元	呼吸器病学	藤田				
			4	総合教養科目		〃	安元 八尋・武岡	〃	赤木				
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
10	17	月	1	解剖学Ⅰ	山崎	組織細胞生物学各論	白澤 角田	消化器病学	久能	CBT演習	全員		
			2		〃	〃	〃	〃	二村	〃	〃		
			3	医学生のための 生命科学	白澤	生理学Ⅱ	生理学スタッフ 全員	〃	〃	〃	自習		
			4	生化学Ⅰ	安永	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5		〃								
	18	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		微生物学	廣松	放射線科学	赤井	CBT演習	全員		
			2	総合教養科目／ 第2外国語A		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	総合教養科目／ 生涯スポーツ演習Ⅰ		生理学Ⅱ	生理学スタッフ 全員			〃	自習		
			4	総合教養科目／ 生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃			〃	〃		
			5	総合教養科目									
	19	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		微生物学	廣松			CBT演習	全員	総合試験Ⅰ再試験	
			2	総合教養科目／ 生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃			〃	自習		
			3	行動科学Ⅰ	安元	薬理学Ⅰ	薬理学スタッフ 全員			〃	〃		
			4	行動科学Ⅰ (心肺蘇生/研究室配属)	喜多村 各担当教員	〃	〃			〃	〃		
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	20	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		組織細胞生物学各論	全員	感染症学試験		CBT演習	自習		
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ		〃	〃			〃	〃		
			3	総合教養科目						〃	〃		
			4							〃	〃		
			5										
	21	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		生理学Ⅱ	生理学スタッフ 全員			CBT演習	自習		
			2	総合教養科目／第2外国語B		〃	〃			〃	〃		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		臨床医学入門Ⅰ	非常勤講師 出石			〃	〃		
			4	総合教養科目		〃	安元 非常勤講師 出石			〃	〃		
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
10	24	月	1	解剖学Ⅰ	山崎					CBT演習	自習		
			2		〃					〃	〃		
			3	医学生のための生命科学	白澤					〃	〃		
			4	生化学Ⅰ	安永					〃	〃		
			5		〃								
	25	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ				眼科学試験		CBT演習	自習		
			2	総合教養科目／第2外国語A						〃	〃		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ						〃	〃		
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ						〃	〃		
			5	総合教養科目									
	26	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ						CBT演習	自習		
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ						〃	〃		
			3	行動科学Ⅰ	須長					〃	〃		
			4	生化学Ⅰ	安永 白須					〃	〃		
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	27	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		寄生虫学試験		呼吸器病学試験		CBT演習	自習		
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ						〃	〃		
			3	総合教養科目						〃	〃		
			4							〃	〃		
			5										
	28	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ						CBT演習	自習		
			2	総合教養科目／第2外国語B						〃	〃		
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		臨床医学入門Ⅰ	安元 八尋・武岡			〃	〃		
			4	総合教養科目		〃	〃			〃	〃		
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
10	31	月	1	解剖学Ⅰ	フェリル	組織細胞生物学各論	角田 白澤	消化器病学試験		CBT演習	自習		
			2		〃	〃	〃			〃	〃		
			3	医学生のための生命科学	白澤	〃	全員			〃	〃		
			4	生化学Ⅰ	安永	〃	〃			〃	〃		
			5		白須								
11	1	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		微生物学	栗原			全国共用試験（CBT）			
			2	総合教養科目／第2外国語A		〃	廣松						
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		生理学Ⅱ	生理学スタッフ 全員						
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃						
			5	総合教養科目									
	2	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		微生物学	廣松	放射線科学試験					
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃						
			3	行動科学Ⅰ	川嵜 (矢野)	薬理学Ⅰ	小松						
			4	行動科学Ⅰ (研究室紹介)	各担当教員	〃	〃						
			5	総合教養科目									

				M　1		M　2		M　3		M　4		M　6	
月	日	曜	限	科　目	担当者	科　目	担当者	科　目	担当者	科　目	担当者	科　目	担当者
	3	木	1	文		化		の		日			
			2										
			3										
			4										
			5										
	4	金	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

※11月4日（金）　M5　中間試験Ⅲ

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
11	7	月	1	解剖学Ⅰ	坂田	組織細胞生物学各論	全員	病理学各論	非常勤講師 竹下	成績発表①（予定）			
			2		〃	〃	〃	〃	〃				
			3	医学生のための 生命科学	白澤	生理学Ⅱ	生理学スタッフ 全員	腎・泌尿器・膠原病学	升谷				
			4	生化学Ⅰ	白須	〃	〃	〃	(予備)				
			5		〃								
	8	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		微生物学	廣松	法医学	久保	追・再試験		第3回模擬試験	
			2	総合教養科目／ 第2外国語A		〃	〃	〃	〃				
			3	総合教養科目／ 生涯スポーツ演習Ⅰ		生理学Ⅱ	生理学スタッフ 全員	〃	〃				
			4	総合教養科目／ 生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	〃				
			5	総合教養科目									
	9	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		微生物学	吉村	腫瘍・血液学	髙松				
			2	総合教養科目／ 生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	有馬				
			3	行動科学Ⅰ	安元	薬理学Ⅰ	薬理学スタッフ 全員	腎・泌尿器・膠原病学	伊藤				
			4	生化学Ⅰ	安永 白須	〃	〃	〃	〃				
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	10	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		薬理学Ⅰ	根本	腎・泌尿器・膠原病学	升谷	追・再試験			
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ		〃	非常勤講師 児島	〃	〃				
			3	総合教養科目		〃	薬理学スタッフ 全員	皮膚・形成外科学	今福				
			4			〃	〃	〃	〃				
			5										
	11	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		生理学Ⅱ	生理学スタッフ 全員	皮膚・形成外科学	今福				
			2	総合教養科目／第2外国語B		〃	〃	〃	佐藤				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ				臨床医学入門Ⅱ	井上				
			4	総合教養科目				〃	大久保				
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
11	14	月	1	解剖学 I	フェリル	組織細胞生物学各論	白澤	病理学各論	非常勤講師 竹下	追・再試験		総合試験 II	
			2		〃	〃	〃	〃	非常勤講師 竹下 武藤				
			3	医学生のための生命科学	白澤 角田	生理学 II	生理学スタッフ 全員	腎・泌尿器・膠原病学	升谷				
			4	生化学 I	白須	〃	〃	〃	〃				
			5		〃								
	15	火	1	インターミディエイト・イングリッシュ I		微生物学	吉村	法医学	柏木				
			2	総合教養科目／第2外国語 A		〃	〃	〃	〃				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		生理学 II	生理学スタッフ 全員	〃	久保				
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習 II		〃	〃	〃	〃				
			5	総合教養科目									
	16	水	1	インターミディエイト・イングリッシュ II		微生物学	全員	腫瘍・血液学	田中				
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習 II		〃	〃	〃	長町				
			3	行動科学 I	小玉 和田	薬理学 I	薬理学スタッフ 全員	腎・泌尿器・膠原病学	伊藤				
			4	行動科学 I (心肺蘇生／研究室配属・研究室紹介)	今給黎 各担当教員	〃	〃	〃	安野				
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	17	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		薬理学Ⅰ	薬理学スタッフ 全員	腎・泌尿器・膠原病学	伊藤	追・再試験			
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃				
			3	総合教養科目		〃	〃	皮膚・形成外科学	内藤				
			4			〃	〃	〃	非常勤講師 野口				
			5										
	18	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		生理学Ⅱ	藤田	皮膚・形成外科学	古賀			第５回特別講義（予定）	
			2	総合教養科目／第２外国語B		〃	〃	〃	松田				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ				臨床医学入門Ⅱ	三嶋				
			4	総合教養科目				〃	倉員				
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
11	21	月	1	解剖学 I	貴田	組織細胞生物学各論	白澤	病理学各論	非常勤講師 竹下	追・再試験			
			2		〃	〃	〃	〃	〃				
			3	医学生のための生命科学	白澤	生理学 II	生理学スタッフ 全員	腎・泌尿器・膠原病学	安野				
			4	生化学 I	安永	〃	〃	〃	冷牟田				
			5		〃								
	22	火	1	インターミディエイト・イングリッシュ I		微生物学	全員	法医学	柏木				
			2	総合教養科目／第2外国語 A		〃	〃	〃	〃				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I		生理学 II	生理学スタッフ 全員	〃	髙山				
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習 II		〃	〃	〃	久保				
			5	総合教養科目									
	23	水	1	勤労感謝の日									
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	24	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ				腎・泌尿器・膠原病学	冷牟田	CBT成績発表（予定）			
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ				〃	〃				
			3	総合教養科目				皮膚・形成外科学	非常勤講師 伊藤				
			4					〃	〃				
			5										
	25	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ				病理学各論	非常勤講師 竹下 武藤	追・再試験			
			2	総合教養科目／第2外国語B				〃	青木光				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ				腫瘍・血液学	田中				
			4	総合教養科目				〃	緒方				
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
11	28	月	1	解剖学Ⅰ	非常勤講師 福田			病理学各論	非常勤講師 林	臨床修練入門（診断学実習・スキルスラボ演習・病棟実習）			
			2		〃			〃	非常勤講師 林 上杉				
			3	医学生のための生命科学	白澤 石倉			腎・泌尿器・膠原病学	上杉				
			4	生化学Ⅰ	安永			〃	〃				
			5		〃								
	29	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ				法医学	久保				
			2	総合教養科目／第2外国語A				〃	〃				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ				〃	ウォーターズ				
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ				〃	〃				
			5	総合教養科目									
	30	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ				腫瘍・血液学	田中				
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ				〃	中島				
			3	行動科学Ⅰ	安元			腎・泌尿器・膠原病学	安野				
			4	行動科学Ⅰ（研究室配属）	各担当教員			〃	三宅				
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
12	1	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ				腎・泌尿器・膠原病学	三宅	臨床修練入門（診断学実習・スキルスラボ演習・病棟実習）		成績発表①（予定）	
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ				〃	〃				
			3	総合教養科目				皮膚・形成外科学	今福				
			4					〃	〃				
			5										
	2	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ				病理学各論	青木光				
			2	総合教養科目／第2外国語B				〃	〃				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ				腫瘍・血液学	田中				
			4	総合教養科目				〃	茂木				
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
12	5	月	1	解剖学 I	非常勤講師 福田			病理学各論	青木光	臨床修練入門 (診断学実習・スキルスラボ演習・病棟実習)		総合試験 II 再試験	
			2		〃			〃	坪井				
			3	医学生のための生命科学	白澤 石倉			腎・泌尿器・膠原病学	三宅				
			4	生化学 I	安永			〃	〃				
			5		〃								
	6	火	1	インターミディエイト・イングリッシュ I				法医学	松末				
			2	総合教養科目／第2外国語A				〃	〃				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習 I				〃	髙山				
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習 II				〃	久保				
			5	総合教養科目									
	7	水	1	インターミディエイト・イングリッシュ II		微生物学試験		腫瘍・血液学	磯部				
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習 II				〃	〃				
			3	行動科学 I	喜多村 西川			腎・泌尿器・膠原病学	松﨑				
			4	生化学 I	安永 白須			〃	松岡				
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	8	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ				腎・泌尿器・膠原病学	羽賀	臨床修練入門（診断学実習・スキルスラボ演習・病棟実習）			
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ				〃	石井				
			3	総合教養科目				皮膚・形成外科学	佐藤				
			4					〃	内藤				
			5										
	9	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		生理学Ⅱ試験		病理学各論	非常勤講師 林	CBT再試験			
			2	総合教養科目／第2外国語B				〃	非常勤講師 林 濵田				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ				腫瘍・血液学	非常勤講師 柴田				
			4	総合教養科目				〃	佐々木				
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
12	12	月	1	解剖学Ⅰ	非常勤講師 福田			病理学各論	青木光	臨床修練入門 (診断学実習・スキルスラボ演習・病棟実習)		第6回特別講義（予定）	
			2		〃			〃	青木光 古賀				
			3	医学生のための生命科学	白澤 石倉			腎・泌尿器・膠原病学	松岡				
			4	生化学Ⅰ	安永			〃	宮島				
			5		〃								
	13	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		薬理学Ⅰ試験		法医学	柏木				
			2	総合教養科目／第2外国語A				〃	〃				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ				〃	久保・柏木 松末 ウォーターズ 髙山				
			4	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ				〃					
			5	総合教養科目									
	14	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ				腫瘍・血液学	熊川				
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ				〃	〃				
			3	行動科学Ⅰ	安元			腎・泌尿器・膠原病学	中村				
			4	行動科学Ⅰ (研究室配属・研究室紹介)	安元 八尋・武岡			〃	松﨑				
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	15	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		OSCE体験		腎・泌尿器・膠原病学	羽賀	全国共用試験（OSCE）			
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ				〃	〃				
			3	総合教養科目				皮膚・形成外科学	古賀				
			4					〃	筒井				
			5										
	16	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ				病理学各論	古賀	冬季休業			
			2	総合教養科目／第2外国語B				〃	古賀 濵田				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ				腫瘍・血液学	佐々木				
			4	総合教養科目				〃	〃				
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
12	19	月	1	解剖学 I	非常勤講師 福田			病理学各論	(予備)	冬季休業			
			2		〃			〃	古賀				
			3	医学生のための 生命科学	白澤 角田			腎・泌尿器・膠原病学	松岡				
			4	生化学 I	安永			〃	岡部				
			5		〃								
	20	火	1	インターミディエイト・イングリッシュ I		組織細胞生物学各論試験		法医学	中村				
			2	総合教養科目／ 第2外国語 A				〃	久保				
			3	総合教養科目／ 生涯スポーツ演習 I				〃	久保・柏木 松末 ウォーターズ 髙山				
			4	総合教養科目／ 生涯スポーツ演習 II				〃					
			5	総合教養科目									
	21	水	1	インターミディエイト・イングリッシュ II				腫瘍・血液学	髙松				
			2	総合教養科目／ 生涯スポーツ演習 II				〃	〃				
			3	行動科学 I	武岡			腎・泌尿器・膠原病学	中村				
			4	生化学 I	安永 白須			〃	石井				
			5	総合教養科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	22	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ				腎・泌尿器・膠原病学	松岡	冬季休業		成績発表②（予定）	
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ				〃	羽賀				
			3	総合教養科目				皮膚・形成外科学	清水				
			4					〃	非常勤講師 鶴田				
			5										
	23	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ				病理学各論	（予備）			第7回特別講義（予定）	
			2	総合教養科目／第2外国語B				〃	〃				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ				腫瘍・血液学	髙松				
			4	総合教養科目				〃	佐々木				
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
12	26	月	1	解剖学 I	立花 非常勤講師 福田	冬季休業				冬季休業		冬季休業	
			2		〃			病理学各論	(予備)				
			3	医学生のための生命科学	白澤・角田・石倉			腎・泌尿器・膠原病学	松崎				
			4	生化学 I	安永			〃	平				
			5		〃								
	27	火	1	冬季休業				冬季休業					
			2										
			3										
			4										
			5										
	28	水	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	29	木	1	冬季休業		冬季休業		冬季休業		冬季休業		冬季休業	
			2										
			3										
			4										
			5										
	30	金	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
1	2	月	1	冬季休業		冬季休業		冬季休業		冬季休業		冬季休業	
			2										
			3										
			4										
			5										
	3	火	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
	4	水	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
1	5	木	1	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ				冬季休業				冬季休業	
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ									
			3	総合教養科目									
			4										
			5										
	6	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ						OSCE再試験			
			2	総合教養科目／第2外国語B									
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ									
			4	総合教養科目									
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
1	9	月	1	成人の日									
			2										
			3										
			4										
			5										
	10	火	1					腫瘍・血液学	緒方 小田				
			2					〃	髙松				
			3					臨床医学入門Ⅱ	武岡				
			4					〃	〃				
			5										
	11	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ				臨床医学入門Ⅱ	八尋			第4回模擬試験	
			2	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅱ				〃	〃				
			3	行動科学Ⅰ	安元 八尋・武岡			腎・泌尿器・膠原病学	中村				
			4	生化学Ⅰ	安永 白須			〃	宮﨑				
			5	総合教養科目									

※1月10日（火） M5 進級判定試験

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	12	木	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ				皮膚・形成外科学	髙木			第4回模擬試験	
			2	総合教養科目／第2外国語B				〃	森田				
			3	総合教養科目／生涯スポーツ演習Ⅰ				〃	鈴木				
			4	総合教養科目				〃	岡本				
			5										
	13	金	1			成績発表①（予定）		皮膚・形成外科学	鈴木	成績発表②（予定）			
			2					〃	大山				
			3					腫瘍・血液学	緒方・小田田中				
			4					〃	磯部				
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
1	16	月	1			追・再試験						第8回特別講義（予定）	
			2										
			3										
			4										
			5										
	17	火	1	試験				腫瘍・血液学	髙松				
			2					〃	茂木				
			3					臨床医学入門Ⅱ	安元				
			4					〃	非常勤講師 伊藤				
			5										
	18	水	1					臨床医学入門Ⅱ	八尋				
			2					〃	〃				
			3					腎・泌尿器・膠原病学	（予備）				
			4					〃	〃				
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	19	木	1	試験		追・再試験		皮膚・形成外科学	髙木				
			2					〃	大山				
			3					〃	髙木				
			4					〃	森田				
			5										
	20	金	1					皮膚・形成外科学	小柳				
			2					〃	非常勤講師 牧野				
			3					腫瘍・血液学	佐々木				
			4					〃	磯部				
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
1	23	月	1	試験		追・再試験		法医学試験					
			2										
			3										
			4										
			5										
	24	火	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
	25	水	1					病理学各論試験					
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	26	木	1	試験		追・再試験							
			2										
			3										
			4										
			5										
	27	金	1					腫瘍・血液学試験					
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
1	30	月	1			研究室配属	今泉	腎・泌尿器・膠原病学試験		行動科学Ⅲ	神村		
			2			〃	有馬			〃	〃		
			3			〃	安永・田中 立花(榮)			〃	緒方		
			4			〃	芝口			〃	安元		
			5										
	31	火	1			研究室配属				行動科学Ⅲ	今泉		
			2							〃	有馬		
			3							〃	安元		
			4							〃	川浪		
			5										
2	1	水	1					皮膚・形成外科学試験		行動科学Ⅲ	吉田		
			2							〃	非常勤講師 三ッ角		
			3							〃	和田		
			4							〃	髙田		
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
2	2	木	1			研究室配属				行動科学Ⅲ	川浪		
			2							〃	甲斐		
			3							〃	安元 八尋		
			4							〃	〃		
			5										
	3	金	1							行動科学Ⅲ	全員		
			2							〃	〃		
			3							〃	〃		
			4							〃	〃		
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
2	6	月	1			研究室配属				臨床修練入門 (クリニカルクラークシップ)			
			2										
			3										
			4										
			5										
	7	火	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
	8	水	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	9	木	1			研究室配属				臨床修練入門 (クリニカルクラークシップ)			
			2										
			3										
			4										
			5										
	10	金	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
2	13	月	1	後期成績発表①（予定）		研究室配属		成績発表①（予定）		臨床修練入門（クリニカルクラークシップ）			
			2										
			3										
			4										
			5										
	14	火	1	追・再試験				追・再試験					
			2										
			3										
			4										
			5										
	15	水	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
2	16	木	1	追・再試験		研究室配属		追・再試験		臨床修練入門 (クリニカルクラークシップ)			
			2										
			3										
			4										
			5										
	17	金	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
2	20	月	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
	21	火	1										
			2										
			3	追・再試験		研究室配属		追・再試験		臨床修練入門 (クリニカルクラークシップ)			
			4										
			5										
	22	水	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
2	23	木	1	天		皇		誕		生		日	
			2										
			3										
			4										
			5										
	24	金	1	追・再試験		研究室配属		追・再試験		臨床修練入門 (クリニカルクラークシップ)			
			2										
			3										
			4										
			5										
	25	土	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
2	27	月	1	追・再試験		研究室配属		追・再試験		臨床修練入門 (クリニカルクラークシップ)			
			2										
			3										
			4										
			5										
	28	火	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
3	1	水	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

※2月27日（月） M5 進級判定試験再試験

				M　1		M　2		M　3		M　4		M　6	
月	日	曜	限	科　目	担当者	科　目	担当者	科　目	担当者	科　目	担当者	科　目	担当者
3	2	木	1							臨　床　修　練　入　門 (クリニカルクラークシップ)			
			2										
			3										
			4										
			5										
	3	金	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

※2月6日（月）～　M4　臨床修練入門（クリニカルクラークシップ）

※3月14日（火）　M1　後期成績発表②（WEB）

M2、M3、M5　成績発表②（予定）

※3月29日（水）　次年度ガイダンス（予定）

福　岡　大　学

福岡大学(七隈校舎)・	〒814－0180	福岡市城南区七隈8－19－1	☎(092)871－6631(代)
福岡大学（医学部）・	〒814－0180	福岡市城南区七隈7－45－1	☎(092)801－1011(代)
福岡大学病院・	〒814－0180	福岡市城南区七隈7－45－1	☎(092)801－1011(代)
福岡大学筑紫病院・	〒818－8502	筑紫野市俗明院1－1－1	☎(092)921－1011(代)
福岡大学西新病院・	〒814－8522	福岡市早良区祖原15番7号	☎(092)831－1211(代)
福岡大学附属大濠中学校・	〒810－0044	福岡市中央区六本松1－12－1	☎(092)712－5828(代)
福岡大学附属大濠高等学校・	〒810－0044	福岡市中央区六本松1－12－1	☎(092)771－0731(代)
福岡大学附属若葉高等学校・	〒810－0062	福岡市中央区荒戸3－4－62	☎(092)771－1981(代)
福岡大学東京事務所	〒105－0001	東京都港区虎ノ門1－14－1 郵政福祉琴平ビル6階	☎(03)3501－6629